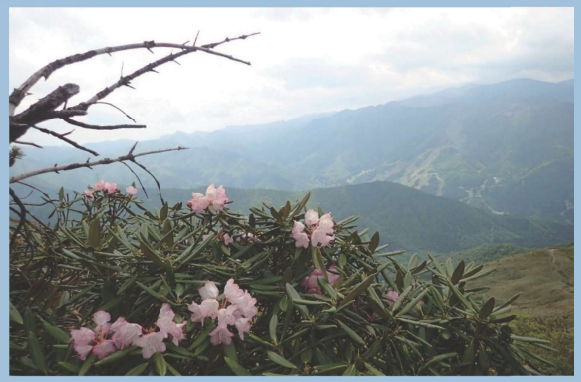


「北岳小太郎尾根から
富士山を望む」
森岡 正和さん



「花の百名山 平標山」
高橋 芳恵さん

やまなみ第19号

2021/3～2023/2

岳人あびこ

やまなみ

第19号

2021年度・2022年度



「朝焼けのご来光」（つくば山） 白崎 哲史さん

岳人あびこ

やまなみ第19号

2021(令和3)年度・2022(令和4)年度

岳人あびこ

GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN

GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN

やまなみ第 19 号 目次

「やまなみ第 19 号」発刊に寄せて　　岳人あびこ会長　村越　百々代

2021 年度(令和3年度) (2021 年 3 月～2022 年 2 月)					
No.	山　　名	山　　域	月　日	執筆者	ページ
1165	棚横手山～甲州高尾山	中央線沿線	3/27	郷田　進	1
1166	神峰山～羽黒山～鞍掛山	常陸	4/4	藤家　一仁	3
1167	筑波山(新リーダー研修)	筑波	4/4	やまたん	4
1168	愛宕山(岩間山)(新人卒業山行)	常陸(八溝山地・筑波山塊)	4/10	吉川　みよ子	5
1169	宝篋山～小町山～千代田アルプス	東筑波	4/11	深草　茂美	6
1170	筑波山	筑波	4/15	高橋　芳恵	7
1171	地蔵岳～切合小屋	飯豊連峰	5/7-9	土田　義二	9
1172	戦場ヶ原	日光	6/2	蟹江　和子	11
1173	白毛門	上信越	6/5	小島　徹	13
1174	平標山～仙ノ倉山	谷川岳周辺	6/22	秋山　稔	14
1175	トムラウシ山・後方羊蹄山(蝦夷富士)	北海道	7/8-12	小林　安代 北田　仁則	15
1176	焼石岳	焼石神室連峰	7/16-17	矢野　朝水	17
1177	苗場山	上信越	7/16-17	村越　百々代	19
1178	蝶ヶ岳～常念岳～槍ヶ岳	北アルプス	7/29-8/1	矢野　貞子	20
1179	燧ヶ岳	尾瀬	10/6-7	布能　英子	23
1185	横尾山・瑞牆山	奥秩父	10/29-31	矢野　朝水	24
1187	八十里越え	越後山脈	11/3-5	白崎　哲史	26
1197	岩茸石山～棒ノ折山	奥多摩・奥武蔵	12/18	細谷　秀次	30
1198	大仏ハイキングコース　源氏山	湘南、鎌倉	12/18	飯塚　秀子	31
個人山行					
	大遠見山	北アルプス	3/22-23	やまたん	33
	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	8/4-7	やまたん	34
	蝶ヶ岳	北アルプス南部	8/8-10	やまたん	35
	火打山～妙高山	頸城・海谷	9/20-22	やまたん	36
	奥穂高岳:パノラマ新道から	北アルプス南部	9/25-26	やまたん	37
	苗場山～赤湯温泉	北信越	9/28-30	やまたん	38
	八甲田山	東北北部	9/28-10/1	やまたん	39
	渋の湯～高見石小屋～白駒池	北八ヶ岳	2/6-7	やまたん	40

2022 年度(令和4年度) (2022 年 3 月～2023 年 2 月)					
No.	山　　名	山　　域	月　日	執筆者	ページ
1199	高麗山(新人卒業山行)	神奈川県南部	3/28	大賀　晶子	41
1200	桜山(新人歓迎山行)	西上州	4/3	やまたん	43
1201	高松山	丹沢	4/9	田嶋 まり	44
1202	高峯山	茨城西部	4/11	齊田　記代美	45
1203	碓氷峠	浅間　軽井沢	4/13	佐藤 清宏	46
1204	筑波山(新リーダー研修)	筑波山系	4/27	やまたん	48
1205	滝子山(新リーダー研修)	大菩薩山系	5/7	やまたん	49
1206	別子銅山東平・奥祖谷	四国	5/11-13	高橋 芳恵	50
1207	西沢渓谷	奥秩父	5/19	大賀　晶子	52
1208	雁ヶ腹摺山～楢ノ木尾根	大菩薩連嶺	5/22	田村　光子	53
1209	アポイ岳・伊達紋別岳	北海道南部	5/23-26	外崎　蓮 小野　泰子	54
1210	丹沢山	丹沢	5/24-25	本田　愛子	57
1211	三ツ峠山～清八山～本社ヶ丸	御坂山塊	5/28-29	郷田　進	59
1212	光徳～戦場ヶ原・日光男体山	日光	6/3-4	小野　泰子 森岡　正和	61
1213	三原山	伊豆大島	6/5	小島　洋子	63
1214	天狗角力取山	朝日連峰	6/15-17	武内　勇二	64
1215	下権現堂山・守門岳	越後山脈	6/23-24	土田　義二	67
1216	高麗山(ゆるゆる山行)	相模丘陵	6/26	齊田　記代美	69
1217	布沢川大滝沢・浅草岳	上越	7/2-3	小山　三恵	70
1218	飯豊山～大日岳	飯豊連峰	7/25-29	鈴木　忠浩	71
1219	白山(御前峰～大汝峰)	白山	7/25-27	小林　安代	74
1220	丸山～荒川三山～赤石岳	南アルプス南部	7/27-30	矢野　貞子 千葉　有子	76
1221	横尾山(ゆるゆる山行)	山梨・長野の県境	8/28	箕輪　完二	78
1222	坂田ヶ池総合公園～房総風土記の丘～房総のむら(ゆるゆる山行)	成田線沿線	9/17	富井　容	79
1223	栗駒山	東北(奥羽山脈)	9/25-26	吉川 みよ子	80
1224	雨飾山	頸城山塊	10/1-2	佐藤　明子	82
1225	縞枯山～茶臼山～丸山～高見石～白駒池	北八ヶ岳	10/1-2	中村　八重子	83

No.	山　　名	山　　域	月　日	執筆者	ページ
1226	越後駒ヶ岳・荒沢岳	越後	10/5-7	北角　順子 佐藤　清宏	85
1227	黒斑山～蛇骨岳	浅間山	10/8	福山　幸代	87
1228	大山	丹沢	10/10	飯塚　秀子	88
1229	足尾山～御嶽山～雨巻山～ 三登谷山	八溝山地	10/15	細谷　秀次	89
1230	信越トレイル （セクション 5,6 天水山）	信越	10/15-16	矢野　裕子 矢野　貞子	90
1231	鋸山・浅草岳	越後山脈	10/21-22	森岡　正和 北田　仁則	92
1232	赤城山（駒ヶ岳～黒檜山）	上毛三山	10/22	蟹江　和子	94
1233	妙法ヶ岳～霧藻ヶ峰	奥秩父	10/27	新谷　直恵	95
1234	立山(雄山～浄土山)	北アルプス北部	11/17-19	白崎　哲史	96
1235	笹尾根	奥多摩	11/26	本田　愛子	99
1236	古賀志山（忘年山行）	前日光	12/4	やまたん	101
1237	御岩山～高鈴山～助川山 （ゆるゆる山行）	阿武隈山地	12/10	箕輪　カオル	103
1238	明神ヶ岳	箱根	12/17	小島　徹	104
1239	木曽駒ヶ岳	中央アルプス	12/25-26	土田　義二	105
1240	クリーンハイク（自然保護活動）	柏市手賀の丘 周辺	1/8	渡邉　香奈子	108
1241	三浦海岸～城ヶ島（ゆるゆる山行）	三浦半島	1/22	矢野　朝水	109
1242	第 37 回房総ロングハイキング （県連主催房総ロングハイク）	東金	1/28	外崎　蓮	110
1243	麦草峠～縞枯山・北横岳	北八ヶ岳	2/5-6	田嶋　まり	111
1244	乳頭山～仙元山（新人卒業山行）	三浦半島	2/11	福山　智	113
1245	四阿山	菅平	2/11-12	千葉　有子	115
1246	長瀞アルプス　宝登山	秩父	2/18	飯塚　秀子	116
個人山行					
	沼津アルプス	伊豆	3/12	やまたん	118
	仏果山	丹沢	3/13	やまたん	119
	顔振峠～越上山	奥武蔵	3/20	やまたん	120
三つの試み					
ゆるゆる山行					121
どんぐり散歩				小野　泰子	122
山食研究会				小山　三恵	123

25 周年記念　山行記録／記念イベント

25 周年記念行事を終えて考えたこと				高橋　芳恵	125
創立 25 周年記念山行シリーズ「茨城の山を歩こう」をおえて				北田　仁則	126
岳人あびこ 25 周年記念山行（茨城の山）実績一覧					127
No.	山　　名	山　　域	月　日	執筆者	ページ
1180	神峰山～高鈴山～助川山	阿武隈山地（日立アルプス）	10/9	石塚　あさ子	128
1181	宝篋山	筑波	10/16	飯塚　秀子	129
1182	八溝山～池ノ平	阿武隈山地	10/16	小島　徹	130
1183	生瀬富士～月居山	茨城	10/23	矢野　裕子	131
1184	愛宕山～難台山～吾国山	茨城	10/24	大賀　晶子	133
1186	三鈷室山～前室山～妙見山	茨城県北部	10/30	大畠　清江	134
1188	筑波山	茨城県南部	11/6	郷田　進	136
1189	竪破山～土岳	阿武隈山地	11/6	大平　太計夫	137
1190	男体山～白木山～高崎山	茨城県	11/10	高橋　英雄 大山　冬臣	139
1191	花園山奥の院峰 ▪栄蔵室～花園山▪和尚山	北茨城	11/12-13	外崎　蓮	140
1192	加波山～足尾山～きのこ山	筑波	11/13	北角　順子	142
1193	上山湯沢峡～篭岩山～篭岩	茨城県	11/23	佐藤　健一	144
1194	仏頂山～高峯	茨城西部	11/27	佐藤　清宏	145
1195	御嶽山～雨引山～燕山～加波山	裏筑波連山	12/4	本田　愛子	147
1196	小町山～朝日展望公園 ～黒文字平	東筑波	12/11	富井　容	148
岳人あびこ 25 周年記念祝賀会					150
資料	山行一覧表（2021-2022 年度）				151
	活動の記録（2021-2022 年度）				154

25 周年応募写真より
「ヤマネ（国の天然記念物）」
佐藤 清宏さん



「やまなみ第19号」発刊に寄せて

岳人あびこ会長　村越　百々代



コロナの影響が残るこの 2 年間の山行をまとめた『やまなみ 19 号』が完成しました。

令和 3 年度、第 26 期は岳人あびこ 25 周年を記念する「茨城の山を歩こう」というテーマの山行を含む 34 回の山行が実施されました。

令和 4 年度、第 27 期は 48 回の山行が実施され、さらに新しく身近な里山の自然観察をテーマに 6 回にわたって行われた『どんぐり散歩』と、2 回にわたって行われた『山食研究会』も加わり、活動の範囲の広がりを感じるものとなっています。

『やまなみ 19 号』の中に収められている一つ一つの山行がリーダーの努力で開催され、参加者の協力で安全に実施されました。

自分一人だけでは行けない山にも、会員が計画した山行に参加することや、自分で計画した山行に参加してもらうことで、行く事が出来る山になります。

岳人あびこは私たち会員一人ひとりにとって、なくてはならない存在ではないでしょうか。

そしてこれまでの山行 1200 以上を網羅した『やまなみ』は私達の財産でもあります。

私が山行を計画する場合、『やまなみ』のバックナンバーから自分が計画する山行と同じ山の報告書を巻末の索引から全て探し、自分の手元にない場合にはアビスタに行ってコピーを取ってきて参考にしています。

コースによって同じ山でも難易度に違いが出てきますし、自分の体力やコースの状況によって登れそうか否かなどを判断するのにとても参考になります。

このやまなみは私にとって、山に登るための大切な道しるべになっています。

『やまなみ』が 19 巻まで発行されているというのは、執筆してくださった方々や編集に関わる方たちの努力のたまものであると思います。本当にありがとうございます。

これからも、私を含め会員一人一人が『やまなみ』を大切に守り、発行していく一翼を担う努力を続けていってほしいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

2021 年度

（令和 3 年度）



「スバリ岳、赤沢岳、鳴沢岳」 深草 茂美さん

2021(令和 3)年
3 月～
2022(令和 4)年
2 月

＜１１６５＞

棚横手山～甲州高尾山
（1306m）　（1106m）

郷田　進

4年前に「新人歓迎山行」として計画された甲州高尾山が時間の関係から山頂手前で引き返すこととなり、隣の棚横手山（山梨百名山）を加えての逆方向からのリベンジ山行である。コロナ禍緊急事態宣言が3ヶ月近くも続き、解除後直ぐの3月末春の陽気に誘われるかのように14名の参加者を得ての実施となった。

勝沼ぶどう郷駅からタクシー４台に分乗し日本一のブドウ畑を眺めながら登山口の大滝不動尊まで進む。大滝不動尊で安全祈願を行い、大滝を眺めながら登山を開始する。

前半の棚横手山までの行程を利用して、地図読み研修（3月実地研修山行）を全員で行う。A班（中村育SL）とB班（矢野貞SL）各7名に別れA点～G点までの目標点を交代しながら地形図の読み方、プレートコンパスの使用法などを復習する。途中の展望台で甲府盆地の先、雪をかぶった南アルプス全景（荒川三山～甲斐駒）の眺めを楽しむ。棚横手山までの道は、それほど急登箇所もなく1時間半ほどで山頂に着く。コロナ禍自粛生活が続く毎日ではあるが、このようなのどかな陽気の中多くのハイカー達が休日を楽しんでいた。

棚横手山でゆっくり昼食休憩をとる。周りの山並みを眺めながら、各人お弁当を広げると、まさに遠足そのものである。その後、甲州高尾山を目指す。この尾根道は、左右に甲州の山山を眺めながらの快適な散歩道である。途中の富士見台で一息いれ、1.5時間ほどで山頂に着く。今回は、甲州高尾山からスタート地点の大滝不動尊に引き返すこととした。時間があれば、そのまま尾根道をおり大善寺経由で勝沼ぶどう郷駅に向かう周回コースも楽しめるそうだが、長いコロナ自粛生活後の初山行ということもあり、本日はハイキングに徹することとした。

その後、直接柏・我孫子に向かう組（6名）と温泉入浴＆甲州ワインを楽しむ組（8名）に分かれた。

利用した「勝沼ぶどうの丘」は、4年前新人歓迎山行でBBQを楽しんだ思い出の場所でもある。温泉施設「天空の湯」は、高台にあり、甲府盆地に広がるぶどう棚や桃源郷を楽しめる。遠くには南アルプス手前の櫛形山などを眺められる。

また駅前では、甚六桜（約1000本）が丁度満開の頃であり、列車の待ち時間を利用してお花見を楽しむことができた。

駅から登山口までそれほどかからず、往復タクシーを利用すれば、甲州の山歩きとワイン＆温泉、そして桜・桃などの花々が楽しめる快適なハイキングコースであった。

参加者の一人である矢野朝水さんが俳句を寄せてくれたので一部紹介する。

「コロナ禍に負けぬ山行山笑ふ」

「アルプスの雪嶺遥か風光る」



甲州高尾山山頂にて

概　要

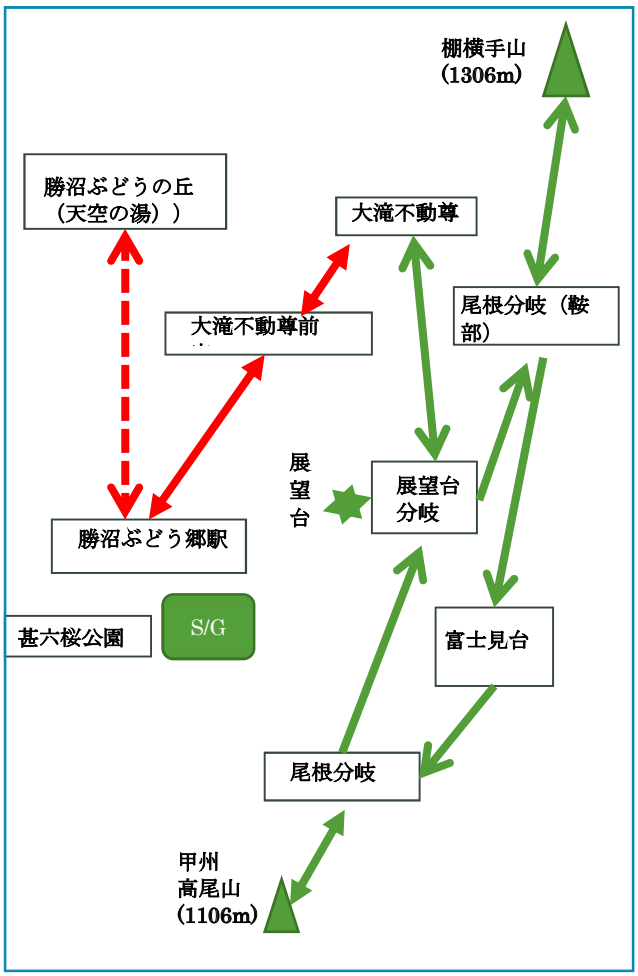
山　名	棚横手山～甲州高尾山		
月　日	2021年3月27日(土)		
山　域	中央線沿線		
形　式	日帰り	グレード	１Ａ
目　的	①桃源郷・桜を愛でる　②尾根道からの景観　③地図読み研修		
費　用	約4,500円	交通機関	JR タクシー
行　程	我孫子駅 5:42→(集合)勝沼ぶどう郷駅 8:55/9:05（タクシー）→大滝不動尊 9:18/10:06⇒展望台 10:18/26⇒尾根分岐 10:38/44 ⇒ 棚横手山 11:30/12:10⇒富士見台 12:37⇒甲州高尾山 13:26/32⇒尾根分岐 13:53⇒展望台分岐 14:14/23⇒大滝不動尊 14:40/53（タクシー）→勝沼ぶどう郷駅 15:15（解散）一部希望者入浴（天空の湯）後帰宅 〈歩行時間 3時間45分〉		

ルート 状　況	・よく整備されたハイキングコース。 ・下山路一部倒木箇所あり、急登箇所は少ない。 ・尾根道は快適な景観。
参加者	L 郷田　SL 中村育　SL 矢野貞　深草 新谷　蟹江　小林安　石塚　秋山 小島徹　土田　矢野朝　小野 佐藤清 （男７名　女７名　計14名）



展望台から

概　念　図



25 周年応募写真より



「日本のエーデルワイス
（早池峰ウスユキソウ）」
北田 仁則さん

＜１１６６＞

神峰山～羽黒山～鞍掛山
（598m）（490m）（247m）

藤家　一仁

大煙突と神峰山


神峰山頂

前日から雨が心配された天気でしたが、春の神峰山、大煙突とサクラを巡る山行を実施した。大煙突は、大正のはじめ、世界一高い煙突（155.7m）をたてることにより、銅山の精錬所から出る煙害をなくそうとして立ち上がった青年達の足跡を描いた長編小説「ある町の高い煙突」のモデルとなった地である。

今年も茨城方面の山行は茨城県内乗り降り自由な「ときわ路パス」利用。各駅停車片道２時間の電車でしたが、コロナ禍の中での久々の山行ともあり話に盛り上がり時間を感じないで日立に着いた。

日立は桜の街で、日立駅前から樹齢 30 年～60 年の約 120 本のソメイヨシノが植えられており満開の時期にはサクラのトンネルとなる。また丘の地形をいかした、かみね公園のサクラも見事でそれぞれが「日本さくら名所 100 選」にも選定されている。例年桜の開花が早まっていることもあり駅前のソメイヨシノは散りかけており、残念ながらサクラのトンネルは見られなかった。

神峰山・高鈴山周辺は色々とコース設定出来るが、今回は神峰山登山口までバスを利用し日立駅に向けて戻るコースとした。

神峰山は標高 598 メートル、山頂に神峰神社が鎮座し、大煙突や日立の市街地、雄大に広がる太平洋を見渡せる。ハイキングコースとなっており良く整備されている。

羽黒山を経由して念願の大煙突展望台へ。展望台？疑う場所でもあるが、歴史を感じる大煙突を近くに見ることが出来た。昼食休憩を取り、鞍掛山を経由して、かみね公園へ。健脚メンバーだったからか早めに着くことが出来た。かみね公園には、温泉施設（ホリゾンかみね）、吉田正音楽記念館（無料）がある。事前に大平さんから情報提供を受けていたが、今回は、コロナ禍と小雨が降ってきた事もあり急いでバスを利用して日立駅へと向かった。

今回の山行は、残念ながら日立駅前平和通り等のさくらは散っていたので、今度はさくらの綺麗な時期にもう一度山行を企画したいと思います。

概　要

山　名	神峰山～羽黒山～鞍掛山		
月　日	2021 年 4 月 4 日（日）		
山　域	常陸		
形　式	日帰り	グレード	1 A
目　的	新緑＆サクラを楽しむ		
費　用	3,000 円	交通機関	JR　バス
行　程	我孫子駅（始発）6:26→日立駅 8:31/40(バス)→日鉱記念館 9:05/15⇒神峰山登山口 9:30⇒神峰山 10:10/20⇒羽黒山 11:10/20⇒蛇塚、煙突展望台（昼食）11:50/12:15⇒鞍掛山 13:10/25⇒かみね公園⇒かみね公園バス停 14:10/24（バス）→日立駅 14:35/47→勝田駅 15:10/24→我孫子 17:02　〈歩行時間　約 4 時間〉		
ルート状況	・道標は整備されており、分岐も道迷いはない。 ・高鈴県立自然公園ハイキング MAP に対応した道標（ファイルダウンロード可）。		
参加者	L 藤家　SL 大平　外崎　桐生　村越　郷田　小林安　森岡　布能　吉川　（男 4 名　女 6 名　計 10 名）		

概　念　図



＜１１６７＞ 新リーダー研修

筑 波 山 (877m)			**リーダー**:矢野貞 **グレード**:１A
月 日	2021 年４月４日(日)　日帰り		
山 域	筑波	**目 的**	新リーダー研修
費 用	約 1,200 円	**交通機関**	自家用車
行 程	我孫子駅公園前 6:10→筑波高原キャンプ場 7:40/8:00⇒女体山本殿 9:05/10⇒御幸ヶ原 9:30/35⇒自然観察路東屋 9:45/55⇒男ノ川登山口 10:40/50⇒ユースホステル跡地⇒ 11:05（通過）⇒御幸ヶ原 12:05/10⇒自然観察路東屋 12:15/35(昼食)⇒男体山本殿 13:00/03⇒御幸ヶ原（通過）13:17⇒分岐（通過）13:37⇒筑波高原キャンプ場 14:18/40 ⇒我孫子駅 16:50（解散 17:00）　〈歩行時間 6 時間〉		
ルート状況	・筑波高原キャンプ場のトイレは閉鎖されている所有り。使用可能なトイレも掃除がされていない。 ・一部バリエーションルートを歩いたが危険な箇所はない。 ・男体山から自然研究路が一部崩落していて、迂回路を利用した。		
参加者	A 班　SL 高橋芳　石塚　千葉(新リーダー)　矢野朝(新リーダー) B 班　SL 大畠　北田　秋山(新リーダー)　田嶋(新リーダー)　蟹江(新リーダー) C 班　L 矢野貞　本田　土田(新リーダー)　小野(新リーダー)　小島徹(新リーダー) （男５名　女９名　計 14 名）		
メ モ	＊WG(ワーキンググループ)の中で急遽計画された企画であったが、場所が筑波山と近場で、季節も良く、研修の目的は果たせたと思う。 ＊カタクリやニリンソウ、キクザキイチゲ、ミヤマシキミ、スミレ、キブシなどが咲き乱れ、筑波山は花の山であることを、改めて認識し、研修でありながら楽しい山行だった。		



女体山にて　A 班



男ノ川登山口 B 班



男ノ川登山口 C 班

＜１１６８＞新人卒業山行

愛宕山（岩間山）
（306m）

吉川　みよ子

愛宕山へ卒業山行

コロナや天候の都合で延期に延期を重ね、結局年度内に実施できず留年したまま岳人あびこの新年度を迎えた、4 月 10 日(土)にようやく卒業山行に行く事が出来ました。
講師 2 人に新人 3 人。人数が少ない中、テントにコッフェル、ボンベ等の装備を男性陣 2 名に持っていただきました。(ありがとうございました。)
待ったおかげかその日は晴天、電車の窓から筑波山がくっきり見えました。岩間駅に近づくと二つの峰が近づいて猫耳の形になり、岩間の人たちにはこういう形に筑波山が見えているんだと思ったことでした。
岩間駅で降り、街中を抜けてほどなく見えた愛宕山を目指して歩きました。頂上にある愛宕神社の鳥居で荷物をデポし長い階段を登って愛宕神社へ。立派な社にお参りした後、休憩でいただいたチョコがおいしかったです。満開のピークは過ぎていましたが、八重や濃いピンクの桜がまだあちこちに咲いていて、春の山歩きを楽しめました。ちなみに愛宕山は桜の名所とのこと。
その後南山展望台へと向かい、そこでテント張り、食事(煮込みうどん)作りをして、応急手当を習いました。ストック 2 本でしっかりした松葉杖が作れることに感心しました。
昨年 3 月に入会して間もなくコロナで活動中止となり、次々送られてくるメールや慣れない zoom 会議に心細く思いながらのスタートでしたが、卒業山行が迎えられてよかったです。講師、新人の皆さんともようやく親睦を深められたかなと思います。
講師のお二人には、1 年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。
卒業したとはいえ、経験も知識も技術もまだまだ足りないので、これからもいろいろと学びつつ会の皆様と山行を楽しんでいければと思っています。

概　要

山 名	愛宕山（岩間山）		
月 日	2021 年 4 月 10 日(土)		
山 域	常陸（八溝山地・筑波山塊）		
形 式	日帰り	グレード	１Ａ
目 的	新人卒業山行		
費 用	3,000 円	交通機関	JR
行 程	我孫子駅 7:03→岩間駅 8:07/15⇒鳥居⇒愛宕山 9:35⇒南山展望台 10:50 (テント設営訓練・調理訓練・昼食・卒業試験・撤収作業) 南山展望台 14:00⇒巴川源流への分岐 14:30⇒岩間駅 15:45/51→ 我孫子駅 17:02 〈歩行時間　約４時間〉		
ルート状況	・愛宕山登山口～乗越峠～南山展望台：短い急登があるが、よく整備され問題はない。 ・乗越峠～笠間市泉地区登山口：道標はあるが、あまり利用されておらず、倒木があり、高巻が必要な箇所があった。		
参加者	L 細谷　千葉　吉川　外崎（講師） 大平（講師） （男２名　女３名　計５名）		



テント設営完了し、リーダーが変な踊りをしています



満開の八重桜をバックに

＜１１６９＞

宝篋山～小町山～千代田アルプス
（461m）　（361m）

深草　茂美

山桜と新緑、筑波山・霞ヶ浦も



朝日峠展望公園全員集合

はじめに

新型コロナ対策の緊急事態宣言が 3 月 21 日に解除され、4 月 12 日からまん延防止法が大阪府、兵庫県、加えて東京都、京都府、沖縄県に出され、4 月 20 日からは千葉県も対象地域になりました。本山行はその合間を縫った 4 月 11 日に行われました。実施に当たっては、現地集合現地解散、公共交通機関内会話抑制、4 グループによるグループ毎の分散行動、ソーシャルディスタンス確保、マスク着用、等々のコロナ感染対策を徹底して行いました。

宝篋山入り口の小田休憩所広場で身支度し、山桜のピンク、新芽の黄緑色、常緑樹の深いみどりが織りなす春の山肌を見、木々の間から聞こえる小鳥のさえずりを聴き、所々に咲く花をめでながら、登山道を気持ちよく歩きました。宝篋山山頂からは春霞の為か富士山を見る事は出来ませんでしたが、眼下に広がる霞ケ浦の絶景と筑波山の眺望を楽しめました。

宝篋山山頂から林道を 15 分程歩き小町山ハイキングコースに入りました。鬼越山 372M と貼り紙のされた木がある小ピークを上った後、小町山山頂脇のハングライダー離陸点に到着しました。そこからは関東平野が一望出来、その景色にめがけて飛び出すハングライダーの離陸が物珍しく暫く足をとめて眺めました。小町山山頂で休憩を取り、筑波スカイラインと並行に造られたハイキングコースを進み朝日峠展望公園に到着しました。一面みどりの芝生に覆われている公園の広場は、コロナ禍の影響か人影はまばらでした。広がる関東平野の眺望と、山桜と新緑の小町山の景色を楽しみながら、数名ずつ散らばって、公園のベンチで昼食を摂りました。

朝日峠展望公園から千代田アルプスハイキングコースに入りました。車が通れるぐらいの道幅の林道を暫く歩き、パラボナアンテナ設置場所を 2 か所通過すると、両側に樹木が茂るアップダウンの少ない歩きやすい登山道に入りました。登山道を進み剣が峰と雪入山の道標を通過すると、黒文字平と書かれた道標がある地点に到着しました。黒文字平からは、男体山と女体山の山頂が鋭くとがった、いつも見る印象とは異なる筑波山を眺望できました。黒文字平から両側が杉並木になっている少し急な勾配の登山道（参道？）を、石塔とその周りを囲む様に石の祠が 5 つ程おかれている浅間山山頂に向かって歩きました。浅間山山頂からは緩い下りの登山道を一気に歩き御野立所の碑に下り、御野立所の碑から果樹試験場の間の道を抜け 15 分程で志筑バス停に到着しました。

終わりに

今回の山行は三つのハイキングコースをつなぐ比較的長い距離を歩きました。それぞれのコースは、地元の人たちにより良く整備されていて、各所に案内の道標が立てられ、道も歩きやすく随所に見せ場も有り楽しく山行ができました。コロナ感染防止対策による、制約のある山行でしたが、同じ時間帯に同じ道を歩くことにより、参加者の連帯がはぐくまれたと感じる山行でした。

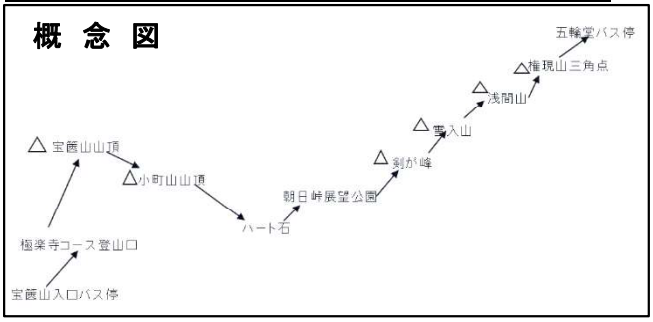


朝の宝篋山へ向かう

概　要

山 名	宝篋山～小町山～千代田アルプス		
月 日	2021 年 4 月 11 日(日)		
山 域	東筑波		
形 式	日帰り	グレード	２Ａ
目 的	身近な低山縦走		
費 用	約 1,890 円	交通機関	JR　バス
行 程	我孫子6:26→土浦駅6:59/7:10（下妻駅行バス）→宝篋山入口バス停7:40⇒小田休憩所8:00⇒宝篋山山頂9:40/50⇒鬼越山頂10:30⇒小町山10:50⇒ハート石11:15⇒朝日峠展望公園11:50/12:25（昼食）⇒剣が峰13:05/15⇒雪入山13:25⇒浅間山14:00⇒権現山三角点15:00⇒上志筑北バス停15:23/35→土浦16:15/30→我孫子17:02 〈歩行時間 6 時間 30 分〉		
ルート状況	・宝篋山山頂からハート石まで道標はない。まず山頂から東に向かって急坂を下って林道に出る。筑波スカイライン方面に 15 分位歩き、出会ったらスカイラインに沿った登山道(地元のボランティアが整備)を南に約 25 分位で小町山に到着。 ・小町山からハート石への下りは山頂を背にして女坂展望台の左手登山道を下る。 ・このコース危険個所は無いが朝日峠展望公園から剣が峰への取りつきにスカイラインを横断する。サーキット並みに飛ばしてくる車に注意を要する。		
参加者	**A 班** L 大畠　SL 矢野裕　新谷　深草　小島徹　吉川　箕輪カ(会友) **B 班** L 高橋芳　SL 中村育　北田　田嶋　矢野朝　大賀　飯合(会友) **C 班** L 本田　SL 田村　村越　郷田　土田　小野　秋山 **D 班** L 矢野貞　SL 齊田　小林安　箕輪完　森岡　蟹江　白崎 （男10名　女18名　計28名）		

概　念　図



＜１１７０＞

筑　波　山
(877m)

高橋　芳恵

川沿いの秘密の花園に感嘆！



女体山山頂

コロナ禍の緊急事態宣言が解除され、待っていましたとばかりに山に向かった 3 月・4 月。もう少し待って様子を見たらどうかとの意見もあるけれど、この先の山登りは 10 年未満と考えざるを得ない私にとって、もう後がないこの時期に、今回は近郊の茨城県の豊かな自然と文化にすっかり魅了された大切な機会の一座としての筑波山となった。コロナ感染予防のため集合はつつじが丘駐車場。ここで私はとんでもない大失敗。集合時間の 9 時になってもバス停には誰ひとり現れず、日にちを間違えて参加したのかとリーダーに連絡したところ、「もうすでに歩き始めています！」とのこと。前日の雨で日程変更になった際のメールの返信依頼を見逃したために不参加メンバーとなっていたとのこと。それでも何とか途中でグループに参加することができ、久しぶりにつつじが丘コースから女体山に向かった。

途中、今まで全く気付くこともなかったが、言われればしめ縄が張ってあるところがあり、これが護摩壇コース入り口とのこと、「先達はあらまほしきものなり」。今回は昨日の豪雨で水の心配があり女体山からキャンプ場に向かった。キャンプ場への道にはカタクリ、キクザキイチゲ、キジムシロなどの花が多く、筑波山は表と裏では趣が大きく異なる。秋山リーダーはこの山を通い尽くし、知り尽くした方でその情報には皆さんから感嘆の声が上がった。

全く気が付かない道を奥入ると川沿いに秘密の花園にふさわしいほどのニリンソウの群

落に圧倒された。先ほどの護摩壇コースからここに続いているとのこと。誠に筑波山は奥が深い。キャンプ場では見晴らしの良いベンチでの昼食、きちんと班分けされ、距離をとっての感染対策も怠りない。さらに静かに和やかに楽しく語らう。山仲間っていいなー！

キャンプ場から林道を女ノ川、男ノ川へ。こちらも川沿いにこれでもかというほどのニリンソウの咲く男ノ川を男体山に向けて登った。これは地図に表記されていないコースだが道はしっかり付いている。ここは最高のニリンソウの大群落地であり、花・花・花に圧倒された。

自然研究路を登り御幸ヶ原に到着。しばし休憩の後、女体山方向に抜け、リーダーしか気が付かないボッカ道を下り、16 時にはつつじが丘で解散となった。途中、T 会員は子連れの若い母親のボランティアとしてベビーカー持ち上げて手伝っていたが、あの母親はきちんと礼を言えたのかな？　T会員のやさしさにその人柄を知り、心を癒やされた。

今日一日の、素晴らしい山行での感激の余韻は久しく残り続けていくことと思う。素晴らしい一日を共有させていただいた秋山リーダー、中村育子サブリーダーの企画と私たちに最高の筑波山の姿をお教えいただいた両リーダーの誠心誠意に心から御礼を申し上げたい。ありがとうございました。



裏筑波はニリンソウ・カタクリの大群落

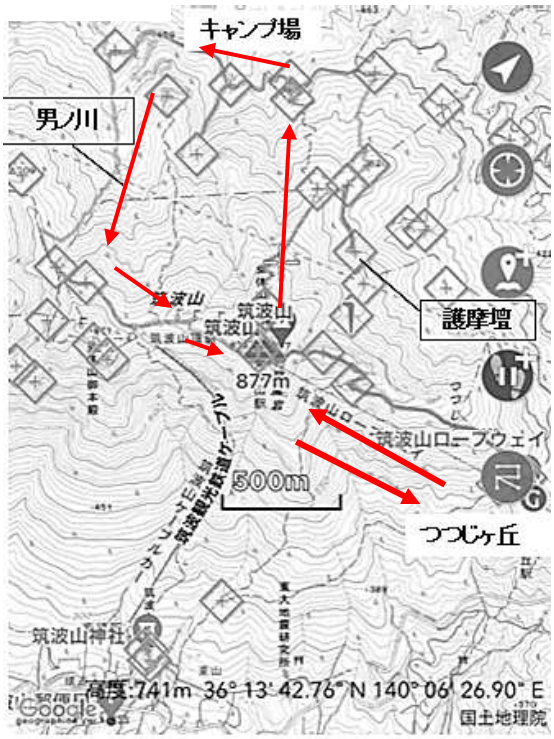
概　要

山　名	筑波山		
月　日	2021 年 4 月 15 日(木)		
山　域	筑波		
形　式	日帰り	グレード	1 A
目　的	裏筑波のバリエーションルートを巡り、ニリンソウ・カタクリを楽しむ		
費　用	約 1, 200 円	交通機関	自家用車
行　程	ツツジヶ丘9:10⇒弁慶茶屋9:50/10:00⇒女体山10:40/50⇒護摩壇コース花見学11:30/40⇒キャンプ場12:00/40(昼食) ⇒女ノ川コース		
	12:50/13:10男ノ川コース13:20⇒自然研究路14:10⇒御幸ヶ原14:30⇒ツツジヶ丘16:00解散 〈歩行時間　5 時間40分〉		
ルート状況	・裏筑波はニリンソウ、カタクリの群落地。 ・護摩壇コース、女ノ川コース、男ノ川コース共バリエーションルート。国土地理院の地図には登山道の記載が無いが良く歩かれている。 ・前日の雨でスリッピーであったが予想の範囲内であり、一般コースの変更は考えなかった。 ・15日にはカタクリの盛りは過ぎ、ニリンソウは満開であった。		
参加者	L 秋山　SL 大畠　大山　田村　高橋芳 大河原　SL 中村育　外崎　土田 石塚　桐生　一氏 （女９名　男３名　計12名）		



ニリンソウが咲き誇る中を行く

概　念　図



＜１１７１＞

地蔵岳～切合小屋
（1539m）（1740m）

土田　義二

荒天で短縮するも、充実した山行

飯豊山は私の故郷新潟県下越地方から見える一番高い山でした。まさか、自分がその山頂を目指すなど想像すらしなかった出来事です。

コロナの第４波に見舞われる中、中止となるのかどうかハラハラしましたが自家用車で３人という事でかろうじて会の山行と認定されました。

事前の天気予報は、晴れる日もあるものの、連日強風で「てんきとくらす」では予定日全てCランクの登山不適、安全を第一に考え、行けるところまで行くが引き返しも覚悟という了解で決行。





地蔵岳から主稜線への尾根を望む。（写真上）
切合小屋から望む日の出（5月9日午前5時8分）。太陽はものの30分で雲に包まれ、この後午前中いっぱい暴風雨に見舞われることになる（写真下）。

５月７日（金）朝８時に我孫子駅前を出発、柏インターから常磐道、磐越道を経由して会津若松市で高速道路を降りて喜多方で名物喜多方ラーメンに舌鼓をうち、食材を買い16時、前泊予定の白川湖畔のコテージに16時00到着。食事前に白川湖畔周辺を探索、湖越しに冠雪した飯豊連峰を眺め一同感嘆の声。湖の周りを散歩すると、雪解け水で増水した時だけの現象らしいのですが、水面から上半分を覗かせている樹々が、幽玄の世界を見せてくれています。更に湖の対岸まで回り込むと八重桜が満開というオマケまでついていました。

コテージに戻ると、買い出した高級牛肉料理で夕食。これも仲間で行く山行きの楽しみ。

翌朝５時30分にコテージを車で出発、大日杉小屋（標高600m）に６時30分到着、トイレ等を済ませ６時50分歩行開始。スタートして間もなくザンゲ坂手前で道を見失い、藪漕ぎをして彷徨う事に。

17～21kgのザックを背負って30分ほど、ザンゲ坂を越えたあたりでようやく登山道に行き着く事ができました。所々倒木と残雪のため、登山道がわかりづらい事が原因です。

登山道に戻ると周りは桜や白いこぶしその他の花が咲き誇っています。特に凄いのは「イワウチワ」という花です。私達を歓迎するように、行けども行けども咲き誇る様は感動するばかりです。イワカガミかと思っていたのですが、帰って花の専門家の小野さんに写真を見せてお聞きしたらイワウチワと言うそうです。とても可憐な花です。

２時間ほど歩くとリーダーの指示でアイゼンを装着。この辺りから登山道を外れ、歩き易さを優先して雪の上を黙々と歩き、最初の目標の地蔵岳を目指します。連休明けと、風が強い予報の為か、他に出会えた登山者は３人です。11時30分ようや

く地蔵岳に到着。ここまでは風の向きのせいなのでしょう、思いの外風が邪魔になりませんでした。

地蔵岳には標識がありません。それでもここからは飯豊山をはじめ、周辺の真っ白な山が一望できます。ゆっくり昼食を食べて、11 時 45 分今日の宿泊先、切合小屋目指して出発です。

雪が多い方が歩き易いのだとリーダーの白崎さんの弁が理解できます。雪庇があちこちに出来ていて、慎重に歩みを進めます。御坪を過ぎた辺りからリーダーの決断で雪上の近道をします。この辺りは相当雪が積もっています。かなり降りて更に急登を 2 度ほど繰り返したら、目の前に避難小屋の屋根が見えてくるではないですか。その瞬間、思わず疲れを忘れてしまいました。15 時 35 分切合小屋到着。

本来の小屋の入口は屋根から落下した雪が積みあがり塞がっています。あらかじめ用意されている木の梯子を使い 2 階の部屋にザックを担ぎ上げ、ようやく一息です。先約は先程我々を追い越して行った新潟市から来た男性 1 人。一休みして夕食の準備、そして待望の夕食。食事用の水は踏み跡のない場所の雪の表面を 5 センチほど取り除くと綺麗な雪が出てきます、これをビニール袋に取りこんで器に入れてガスバーナーで熱して溶かす作業をします。リーダーは慣れたもので、細かいゴミを取り除く濾過器を用意してこられていました。

体力的に限界近い荷物量のため、食事用の水の持運びが省略出来たのは大きいです。

夜はマイナス 1 度ほどまで冷え込んだようで、私の装備では寒くて夜中に目が覚めてしまいました。寝袋の下に敷くマットが短過ぎて、足が出る事も原因です。自分の身長を超える長さが必要な事を痛感しました。夜半には小屋を凄い音を立てて、強風が襲います。寒さと風の音で浅い眠りのうちに朝です。朝 5 時、明るくなったので外に出て見ると淡い朝焼けに包まれています。予報は午前中雨と強風。朝食を摂りながらどうするか話していると、小屋に泊まっていた新潟の人が、サブザックで行けるところまで行くと出て行きました。36 歳の元気な青年です。明日は晴れるが風は強い予報ということで、リーダーの提案に全員一致で下山を決断。8 時 50 分切合小屋を後にしました。

下山は、来た道をそのまま戻るようにして、地蔵岳を経由して雪の上を降ります。小屋を出てしばらくの尾根上では、強風に立ち止まり耐風姿勢をとる事も 2 度ほど。

登る時に道迷いでスルーした名物「懺悔坂」も、鎖場は事前の予測通り上からの鎖が途中から雪渓で途絶えています。リーダーの用意したロープで鎖のない雪渓部分は問題なくクリア。

ザンゲ坂を過ぎると直ぐに登山口です。ザンゲ坂からこんなに近かったんだと思わず口にしていました。14 時 35 分無事大日杉小屋に到着。

強風、雨、道迷いと色々ありましたし、登頂こそ逃しましたが、途中危ないと思える場面もなく行き帰り、雪に覆われた山々に見惚れ、登山道では咲き競う花に囲まれて充実した山行きが体験出来ました。

白崎リーダー、準備、運転、安全確認その他至れり尽くせりのお世話をおかけしてありがとうございました。いつか飯豊山の山頂に再挑戦出来たら嬉しいなと思える、心に残る山行きでした。



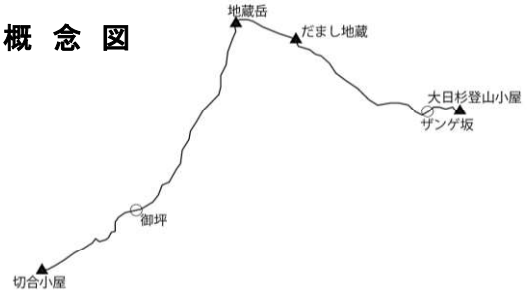
最後は切合小屋で同宿した男性と合流し、大日杉小屋に無事下山。この男性に撮影していただいた。

概　要

山　名		地蔵岳～切合小屋		
月　日		2021 年 5 月 7 日（金）～9 日（日）		
山　域		飯豊連峰		
形　式		避難小屋泊	**グレード**	5D
目　的		残雪の飯豊連峰を楽しむ		
費　用		約 21,400 円	**交通機関**	マイカー
日程	**一日目**	我孫子 8:00→白川湖畔のコテージ 16:00 (泊)		
	二日目	コテージ 5:30→大日杉小屋 6:30/50⇒地蔵岳 11:30/45⇒御坪 14:00/20⇒切合小屋 15:30 〈歩行時間 8 時間 30 分〉		
	三日目	切合小屋 8:35⇒地蔵岳 11:40⇒大日杉小屋 14:35→我孫子 21:35 〈歩行時間 5 時間 30 分〉		

ルート 状　況	・標高 700m 程度から谷筋に雪が現れ始める。 ・大日杉コースの唯一の鎖場である「ザンゲ坂」は、沢筋から尾根へと上がる岩混じりの急登であるが、手前に倒木が折り重なっていてルートが不明瞭。坂の下部の鎖は雪の下に埋まっていた。 ・標高 1000m 辺りから尾根も雪に覆われ始め、アイゼンを装着した。 ・気温が高い日が続いたためか、雪は腐ってきていて、蹴り込まないとアイゼンの効きが弱かった（初日）。強烈な風雨にさらされた翌日は、さらにアイゼンの効きが悪化したため、滑落のリスクがある斜面をトラバースするようなルートを避けた。 ・地蔵岳までは、時折雪割れが現れる程度あったが、地蔵岳から切合小屋にかけての尾根は、尾根の東側に発達した雪庇の崩壊がかなり進行していた。幾重にも割れ目ができている箇所があり、その深さは 3～4 メートルほど。とはいえ、同時期の朝日連峰よりも雪の量は少ない印象であった。 ・地蔵岳～切合小屋までのルートファインディングには慎重を期したが、我々と同じルートをたどる先行者がいたため、先行者の踏み跡を参考にさせていただいた（先行者は新潟在住の 30 代男性・大学では山岳部に所属・厳冬期の飯豊山も経験あり）。 ・御坪～切合小屋間は、直登ルートを辿った。雪の付きは比較的安定していて、随所で雪割れが始まっていたものの、落ちたりすぐに動き始めたりするようなリスクは感じられなかった。
参加者	L 白崎　SL 土田　布能 （男２名　女１名　計３名）

概　念　図



＜１１７２＞

戦 場 ヶ 原
（1500m～1300m）

蟹江　和子

ズミの花を楽しむ

蔓延防止延長で、山行が一時中止になったのですが、マイカー利用で急きょ実施されることになり、参加者７名が２台の車に分乗。日光戦場ヶ原に向かう。

日光湯元ビジターセンターの駐車場に車を置き、トイレ、身支度をして、スタートする。湯の湖を反時計回りのコースで湯滝まで歩く。湯の湖は、１周が約３㎞、木道で整備されている所が多くあり、とても歩きやすい散策路。

新緑の中に、ピンクのアカヤシオ、鮮やかな紫色のトウゴクミツバツツジ、アズマシャクナゲ、オレンジ色のレンゲツツジなど色とりどりの花に彩られ綺麗だった。湯の湖から滑りそうな長い急な階段を下り、湯滝に着く。

湯滝は、落差 70m の豪快に流れ落ちる滝で、その迫力に圧倒された。

今回は、湯滝から泉門池（いずみやどいけ）まで、戦場ヶ原の裏コースを歩いたので、ほとんど人に会わず、ゆっくり楽しんだ。森の中を進んで行くと見えるのが泉門池で、きれいな湧水と素晴らしい景色、広い場所に椅子やテーブルがあり、昼食に丁度良いので、昼食タイムとする。

昼食後、歩き始めて直ぐに、今回の目的の「ズミの花を楽しむ」の言葉通り、たくさんのズミを見ることが出来、青木橋を過ぎ、満開のズミのトンネルを湯川に沿って歩き、純白のズミの

満開のズミの花



美しさに皆、感嘆の声を上げていた。ズミの花は、白いが、つぼみは赤い色をしているので、白と赤のコントラストがとても美しい。ズミは、湿原、高原に自生するバラ科リンゴ属の樹木で、秋になると 5～6㎜ の真っ赤な実をつけるが、酸味が強くその為か漢字では酸実と書く。

湿原には一面のワタスゲが咲き、黄色い花のウマノアシガタやタチツボスミレ、実が線香花火のようなイワセントウソウ、あちこちに伸び始めたコバイケイソウ、水中のバイカモ、葉が開き始めたシダ、オシダも群生していた。楽しい名前の谷地坊主（やちぼうず・川沿いや湿地では、枯れた葉がそこら中で地面からこんもりもち上がりまるで坊主の集団のように見えるのが、名前の由来との事）も湿原や湯川のあちこちに見えた。人もあまりいなかったので何度も立ち止まり、小野さんの植物の説明を受けるその光景は、学校の先生と生徒の様だ。満開のズミと雄大な男体山（霧がかかり残念）の素晴らしい景色を堪能し、赤沼自然情報センターまで歩き、赤沼からマイカーで我孫子まで帰る。

中村（育）さん、石塚さん、長丁場の運転、大変お疲れ様、有り難う。小野さん、たくさんの植物の講義を有り難う。教えて頂いた植物を全部書ききれなくてすみません。コロナ禍の憂鬱な気分が吹き飛んだ、楽しい一日。参加者の皆さまに感謝。

概　要

山　名	戦場ヶ原
月　日	2021 年６月２日(水)
山　域	日光

形　式	日帰り	**グレード**	１Ａ
目　的	ズミの花を楽しむ		
費　用	4,200 円	**交通機関**	自家用車
行　程	我孫子駅前郵便局前5:40→湖畔前駐車場9:30/40⇒湯滝10:45/55⇒泉門池11:35/12:05(昼食)⇒青木橋12:35⇒赤沼茶屋前13:30（運転手２人は路線バスにて湖畔前まで戻る）14:25→我孫子駅18:10 〈歩行時間　３時間10分〉		
ルート状　況	・高低差はあまりなく、木道も整備されている。 ・熊よけの鐘が設置されている。		
参加者	L 小野　SL 中村育　SL 石塚　蟹江　川村　大河原　成島 （男１名　女６名　計７名）		



ズミの下で



湯滝のしぶきを背に

＜１１７３＞

白　毛　門
（1720m）

小島　徹



白毛門山頂

一ノ倉沢等谷川岳東壁を望む展望の山へ

梅雨の走りを感じさせる日が続いていましたが、天気予報通り山行当日は朝から快晴で最高のコンディションになりました。車で土合橋バス停奥の駐車場に到着した際には 8 割方埋まっていて、登山口から遠い場所になんとか駐車して登山の準備をしました。

駐車場から鉄橋を渡り、道標に従って新緑の中ブナ林の急坂を上り始めました。途中からシャクナゲを見かけるようになりましたが既に咲き終わっていました。

休憩広場付近より樹間越しに残雪の谷川岳が見えるようになり、小休止するたびに眺めました。松ノ木沢の頭からは谷川岳東壁まで見渡すことが出来、改めてその険しさを実感しました。

またこれから目指す白毛門もジジ岩、ババ岩を手前に確認出来ました。ここから山頂までは崩落個所やクサリ場が連続する箇所で三点確保に注意して登りました。

山頂からは一部に残雪のある笠ヶ岳、朝日岳を間近に眺めることが出来、同行者からいつかはこれらも登りたいとのコメントがありました。周りを見渡すと上州武尊山、尾瀬の至仏山、燧ヶ岳、平ヶ岳、谷川連峰で一部隠れていましたが苗場山などの山々を確認することが出来ました。

頂上で昼食をとって下山しましたが、午後からは谷川岳頂上より雲に覆われてしまい眺望は利かなくなりました。シャクナゲは山頂直下付近のみでまとまって開花していました。また山頂直下の一か所にシラネアオイが咲いていました。登りでは気付きませんでしたが下山時にはタニウツギが数ヶ所で開花していました。

駐車場に予定よりも早く到着出来たので、当初は予定していなかった温泉に入って汗を流して帰路に就きました。

私は５年前の９月に同じルートを登りました。当時はただ周りの人に付いていくだけの状態でしたが、今回は初リーダーとして同行者に注意してもらいながら登ることが出来ました。歩行距離は約 7km と短いですが標高差 1100ｍを超えることもあり、歩きごたえのあるルートでした。

概　要

山　名	白毛門		
月　日	2021 年６月５日(土)		
山　域	上信越		
形　式	日帰り	グレード	２A
目　的	一ノ倉沢等谷川岳東壁を望む展望の山へ		
費　用	5,000 円	交通機関	自家用車
行　程	初石駅前 5:30→流山 IC→大泉 JC→水上 IC→土合橋バス停 8:00/15⇒松ノ木沢の頭　10:13 ⇒ 白毛門 11:26/12:13（昼食休憩）⇒土合橋バス停　14:30 → 湯テルメ谷川 15:00/16:00（入浴休憩）→水上 IC→大泉 JC→流山 IC→初石駅 18:40 〈歩行時間　５時間 20 分〉		
ルート状況	土合橋バス停奥の駐車場からの登山道は分かりやすく迷うところはありませんが、急登の連続で山頂直下には岩場があり注意が必要です。コース番号の標記が所々にあり、山頂にのみ表記がありました。		
参加者	L 小島徹　秋山　土田 （男３名）		



谷川岳連峰

＜１１７４＞

平標山 ～ 仙ノ倉山

（1984m）　（2026m）

秋山　稔

花の百名山を愛でる

8 時 5 分越後湯沢駅に参加者 16 人集合。バスにて 30 分平標登山口に到着。

直ちにトレーニング組(1 時間当たり 400 メートルの高度)、花観察組(300 メートルの高度)、ゆったり組の 3 班に分かれ 9 時 20 分に出発しました。

登山口からシラビソ、ダケカンバの樹林帯で急な階段が続く。大鉄塔に到着。少し展望が開けた。衣服調整して松手山に向かう。山道にアカモモ、イワカガミが歓迎してくれる。

松手山に近づくとシャクナゲ、サラサドウダンも現れる。次第に木も低くなり、苗場山もどっしり。苗場スキー場も眼下に。松手山から平標山の稜線はワンダーの一言。花畑も現れ、登りも苦にならない。

平標山頂上手前からガスがかかり、風が強くなってきた。風に吹かれる頂上直下のお花畑(ハクサンイチゲ、コザクラ）を愛でながら平標山まで木の階段を下る。平標山でゆったり組に出会い、強い風のなか、一緒に松手山に向かう。

松手山からゆったり組と別れ、大鉄塔からの急な下りを下る。

登山口に 16 時 20 分到着。バス時刻まで 20 分。ゆったり組は無理かなーと、心配したが 3 分前に到着。拍手で迎え「やるべき時はやる」ベテランの意地に敬意を示しました。

越後湯沢駅に計画通り到着。コロナ対策上 2 組に別れ温泉に入り、名物「へきそば」を食し帰路に就いた。

本当に楽しい山行、花の百名山？その通りでした。山は大勢の人と行くと、それだけ沢山の楽しみがありました。

概　要

山 名	平標山～仙ノ倉山		
月 日	2021 年 6 月 22 日(火)		
山 域	谷川岳周辺		
形 式	日帰り	グレード	2B
目 的	高山植物の宝庫の山で初夏の花を楽しむ		
費 用	11,000 円	交通機関	JR　新幹線 路線バス
行 程	我孫子・柏 5：31 または 5：42→上野 6:42→越後湯沢 8：05/20（バス）→平標登山口 8：57 ①仙ノ倉コース　登山口 9:21⇒大鉄塔 10:13/18⇒松手山 10:47/52⇒平標山 12：00/05⇒仙ノ倉山 12：48/13：14⇒平標山 13:59/14:06⇒松手山 15:10/18⇒ 登山口 16：16 ②平標山コース　登山口 9：24⇒大鉄塔 11:15⇒松手山 11:40⇒平標山 13:40/14:05⇒松手山 15：05/18⇒ 大鉄塔 15：45⇒登山口 16：34　（往路は植物観察でゆっくり登山） 登山口バス停 16：40/17：05→越後湯沢（入浴）19：02（新幹線）→ 上野 20：17→柏・我孫子 20:52 〈歩行時間　7 時間〉		
ルート状況	・山頂まで急登が続くが、登山道は整備されている。 ・八合目付近の階段は歩きにくい。		
参加者	L 高橋芳　SL 北田　SL 佐藤清　外崎　深草　小林安　石塚　田村　土田　秋山　新谷　矢野貞　吉川　小島洋　本田　小野 （男５名　女 11 名　計 16 名）		

ハクサンイチゲの群落



平標山山頂（2班）



＜１１７５＞

トムラウシ山・後方羊蹄山（蝦夷富士）

（2141m）　　（1898m）

小林　安代
北田　仁則

トムラウシ山に登る

トムラウシ山は、表大雪と十勝連峰、東大雪の中間に位置する「大雪山の奥座敷」と呼ばれている山である。

遭難事故も発生している。『トムラウシ山遭難はなぜ起きたのか』を緊張して読み、気象状況の判断、体力、装備、低体温症など留意して山行に参加した。

7 月 9 日 3:30 東大雪荘に要らない荷物を置いてレンタカーで出発。4:10 短縮コース登山口。天気は曇り、周りはガスで真っ白の中、エゾマツ・トドマツ・ダケカンバなどの樹林帯を登り始めた。

カムイ天上を通過し、さらに標高を上げると、足元はぬかるみがち。

コマドリ沢分岐から右の沢に入った。急な雪渓のため軽アイゼンを付けて登り始めた。が、途中で登山道の印が分かりにくく見過ごしたため、スマホの地図アプリで位置を確認し、雪渓を少し戻って右に折れ軽アイゼンを外した。少し登り、露岩の斜面をガイドロープに沿って右にトラバース。

前トム平の稜線に登る頃からお花が見え始めた。エゾツツジ、マルバシモツケ、イワウメ、チシマキンレイカ、イワブクロ、キバナシャクナゲ、エゾノツガザクラ等、見つけるたびに歓声。これまでの疲れも吹き飛び、この花の名前は？と意識はお花に集中。リーダーは、何度聞いても答えて下さったり、逆に質問を出したり、景色が見えない長い行程を和ませてくれた。

前トム平からハイマツ帯を登り、尾根に上がると眼下に雪に覆われたトムラウシ公園が広がっていた。トムラウシ公園は、まるで自然が創った神々の遊ぶ庭。エゾコザクラのお花畑と池塘の雰囲気は充分。再び急斜面を登り返すと、雲の間から青空も見え始め、チングルマ、エゾノハクサンイチゲ、イワブクロ、ハクサンチドリ等々が咲き乱れるお花畑が鮮やか。コマクサも石のかげからたくさん顔を出し、ひな壇のように見えた。

さらに標高を上げるとトムラウシ分岐、南沼キャンプ指定地（簡易トイレブース有）。分岐から山頂へは、岩が積み重なった斜面を慎重に登った。11:30 最後にひときわ急な斜面を登り詰め、山頂に着いた！山頂には 5～6 人の登山者がいたが展望もないので、降りて行った。残った一人の人にお願いして、全員で記念写真を撮ることができた。

そしてお昼ご飯を食べていると、なんと、眼下の雲が切れ、青空と景色が見えて感動。

12:05 下山。たくさんの花たちを横目に、一心不乱に足元注意で緊張して降りた。朝、通過したカムイ天上がこんなに遠かったかと思うほど長く感じた。

17:30 短縮コース登山口（駐車場）に到着。なんと、過去最高 1 日 13 時間以上歩いた。

トムラウシ山は、まさに王冠の形にふさわしい素晴らしい山だった。　　（小林安代）



トムラウシ山頂上



羊蹄山

羊蹄山に登る



羊蹄山山頂にて

１３時間あまりかかったトムラウシ登山から、中１日おいて次は羊蹄山を目指した。トムラウシは大雪山系の奥深い山で、なかなか麓から見えにくいのに対し、羊蹄山は通称「蝦夷富士」といわれ、完全な独立峰。裾野の周囲を国道が走っていて、どこからでも見えて、同じようにきれいな円錐形をしている。私は過去に何度も観光バスでその周囲を通りその美しい姿を眺めては、いつか登ってみたいと思っていた。

登山当日は、朝からどんより曇って時折小雨の降るあいにくの天気で、登山口からずっとガスの中、我々は４コースある登山ルートの中で、南の「まっかりコース」を登る。

一昨日のトムラウシでは上り下りが続いたが、こちらは独立峰だけにひたすら登り続ける。登山口から頂上までの標高差は 1500 メートルある。

樹林帯を抜けても、天気が悪いので眺望はきかない。しかし、８合目あたりから高山植物が目を楽しませてくれる。イワブクロ、ウコンウツギ、キバナシャクナゲ、ハクサンチドリ、シラネアオイ、チシマフウロ、エゾノイワハタザオ、ヤマブキショウマ、イソツツジなど色とりどりの花が咲き乱れており、カメラマンは写真撮影に忙しい。

頂上のお釜の縁まできても、依然としてガスはかかった状態で、その底は全く見えない。お釜の縁を反時計まわりにピークを目指す。ピークまではゴツゴツした岩の連続で、ガスの中を塗られたペンキを頼りに進むが、アップダウンが多くてなかなか進まない。しかし、途中から徐々にガスが晴れ、まず、お釜の斜面の残雪、そしてお釜の底の池までが一気に見え、一同歓声をあげる。標識の建つ頂上も眼前に現れる。

ようやく山頂に到着し、しばらく休んでいるうちにお釜の周囲全体が完全に姿を現す。これから歩くルートもはっきりする。そのルートは、今まで歩いてきたルートとは対称的に平坦で歩きやすい砂地の道。ピークからお釜の残り半分をルンルン気分で歩く。

良くなりかけた天気は下山を始めると再び悪くなり、途中から完全な雨となる。合羽を着て、ぬかるんだ道で泥だらけになりながら黙々と歩く。しかし、メンバー全員はトムラウシに続き、この日の羊蹄山も無事やり遂げた満足感に満ちていた。トムラウシの 13 時間に続いて、この日の行動時間は 11 時間、健脚者の揃った今回の山行で、自分はヘロヘロになりながらもよくついて行けたものだ。　　（北田仁則）

概　要

山 名		トムラウシ山・後方羊蹄山（蝦夷富士）		
月 日		2021 年 7 月 8 日（木）～12 日（月）		
山 域		北海道		
形 式		旅館・YH4 泊 5 日	グレード	４B
目 的		北海道の雄大な自然を堪能する		
費 用		83,000 円	交通機関	電車 航空機 レンタカー
日程	一日目	羽田空港第１ターミナル（JAL）集合 羽田 AP 8:20＝(JAL505 便)＝新千歳 AP 9:55(レンタカー)→R337→千歳東 IC→(道東道)→十勝清水 IC→清水町で買い物→R274→道 718→トムラウシ温泉国民宿舎東大雪荘 15:10 ＊短縮コース登山口まで車で下見		
	二日目	東大雪荘 3:30→登山口 3:55/4:10⇒カムイ天上 5:15⇒コマドリ沢分岐 7:10⇒前トム平 8:48⇒トムラウシ公園 9:32⇒南沼キャンプ指定地 10:40⇒頂上 11:25/12:05⇒南沼キャンプ指定地 12:32⇒トムラウシ公園 13:23⇒前トム平 13:53⇒コマドリ沢分岐 14:43⇒カムイ天上 16:21⇒登山口 17:30→東大雪荘 18:00 〈歩行時間 12 時間〉		

	三日目	東大雪荘 8:00→十勝清水 IC→千歳恵庭 JCT→（道央道）→伊達 IC→昭和新山・三松正夫記念館→道の駅とうや湖→羊蹄山自然公園（＊登山口の下見）→羊蹄山湧水→まっかり YH 16:30
	四日目	YH 5:10→真狩登山口 5:45⇒六合目 8:47⇒九合目 10:18⇒頂上 12:00/30⇒九合目 13:35⇒六合目 14:38⇒登山口 16:58→YH→まっかり温泉 17:45 〈歩行時間 10 時間〉
	五日目	YH 8:00→京極羊蹄ふきだし湧水→道の駅 230 ルスツ→支笏湖ビジターセンター→道の駅サーモンパーク千歳→（レンタカー返却）→新千歳 AP 18:10＝(JAL522 便)＝羽田 AP19:45 羽田空港で解散
ルート状況		〔トムラウシ山〕 ・ロングルートで登山道は石がゴロゴロしていたり泥濘で歩きにくい。コマドリ沢分岐からは３００ｍ程の雪渓だった。前トム平付近は高山植物が多い。トムラウシ公園にも雪渓が残る。 ・お花畑を通過して山頂まで岩稜帯になる。頂上ではガスに覆われながらも青空が出て周囲を展望できた。登山道周りの笹が刈り払われた直後のようで、整備されていた。 〔後方羊蹄山〕 ・標高 600m 以上は雲に覆われていた。蝦夷富士と呼ぶだけあり、登るに従い急登になる。１～９合目の表示が登山のペースの目安になる。稜線直下は見事なお花畑であった。 ・父釜の縁から反時計回りで頂上を目指すが岩場続きで時間がかかる。頂上に立ちしばらくすると、一気にガスが切れて頂上全体や父釜の底が見渡せた。 ・下山途中から雨が降り出し、登山道がぬかるんで滑り、歩きにくくなったので慎重に下山した。
参加者		L 佐藤清　SL 小島洋　布能　土田 小林安　北田 （男３名　女３名　計６名）

＜１１７６＞

焼　石　岳
(1547m)

矢野　朝水

花の２００名山を楽しむ

2021 年 7 月 16 日東北新幹線上野発 13:42「やまびこ 63 号」に乗車。16：23 水沢江刺駅に到着すると今夜の宿、焼石温泉「ひめかゆ」の車が出迎えてくれる。

到着後早速温泉に浸かる。しっとりしたいい湯だ。夕食は量が多く、美味。席を広く空けるなどコロナ対策に気を使っている。

２日目、4:55 ジャンボタクシーで「中沼登山口」に向かう。登山口到着後、「ひめかゆ」の弁当を食べ、腹ごしらえした後、5:48 登山開始。

ブナ、コナラなどの林は清々しく、木洩れ日が輝き、雪解け水のせせらぎが響く。「涼しさや木漏れ日そそぐぶなの森」「谷間より響くせせらぎ青葉風」

6:30 「中沼」到着。群青の沼には「逆さ富士」のように対岸の山並みや森が逆さに映る。幻想的な風景に感嘆の声が上がる。山には雪渓が残る。「夏山を逆さに映し沼静か」

登るにつれ所々に湿原が広がる。アヤメ、リュウキンカ、ギンリョウソウ、ショーキランなどの草花を見る。アヤメの群生は盛りを過ぎて哀れ。花の命は短い。トンボやアゲハチョウが舞い、夏ウグイスの声はどこまでも続く。雪解けの清流がほとばしる。アブに付きまとわれるが、これも自然の一部と思えば赦すほかない。「岩走る雪解け水の速さかな」「知らぬ間に蜻蛉増えゆく尾根の道」「分け入れば夏鶯の啼きやまず」「湿原にしおれ枯れゆくあやめかな」「付きまとう虻をお供に山路行く」。

8:10「銀名水」に到着。雪解け水が湧き出しており、しびれるほどに冷たい！喉をうるおし、手や顔を洗うと元気回復。「石清水飲んで岳人頂上へ」。

雪渓を渡る。高い樹木は無くなり、太陽が照りつけ、暑くなる。「雪渓の溶けて流れのほとばしる」。

シャクナゲやチングルマ、ハクサンチドリ、イワカガミ、ハクサンフウロなどを見る。「登り来て風のそよふく花野かな」。

「姥石平」「泉水沼」を過ぎると頂上はもう少しだ。暑い！「日盛りや一歩一歩と頂上へ」。

頂上に近づくにつれ、幾重にも重なる青い山々を遠望する。入道雲が湧き始める。「みちのくの

うねる山並み雲の峰」。

10:49 焼石岳頂上到着。360 度、頂上を取り巻く青い山々を遠望する。絶景！「頂上やぐるり拡がる青き嶺」。食事、記念撮影の後、11:10 下山開始。来た道を戻る。

「銀名水」を過ぎたころからＫさんが疲れた様子。最終的には救急車を要請することになり、消防や警察の方々にお世話になったが、全員無事下山することができた。

帰りは二手に分かれ、最終組は 20:12 水沢江刺発「やまびこ 68 号」に乗車。上野を経て 11:35 柏着。

天候に恵まれ、花の端境期とはいえ多くの花に出会うことができた。

概　要

山　名	焼石岳			
月　日	2021 年 7 月 16 日(金)～17 日（土）			
山　域	焼石神室連峰			
形　式	旅館泊	**グレード**	2A	
目　的	日本二百名山に登り花の山を楽しむ			
費　用	30,000 円	**交通機関**	JR 東北新幹線 タクシー	
日程	**一日目**	上野駅 13:42（やまびこ 63 号）→ 水沢江刺駅 16:23/30（宿の車）→焼石温泉「ひめかゆ」17:05 （泊）		
	二日目	「ひめかゆ」4：55（タクシー）→中沼登山口 5:28/48⇒中沼 6:30⇒上沼 7:30⇒銀名水 8:10/20⇒姥石平 10:15⇒焼石岳山頂 10:50/11:10⇒姥石平 11:40⇒銀名水 13:10⇒15:25 ５名中沼登山口に到着 16：05（タクシー）→５名「ひめかゆ」16：35 （「ひめかゆ」からは３名と傷病者につき添った５名の２つに分かれて、それぞれ別の新幹線で帰った） 〈歩行時間　6 時間 30 分〉		

ルート状況	・この時期は、残雪はわずかに残っているだけでアイゼンは必要なし。 ・銀名水の水場は豊富な水量で、十分な補給ができる。ここからは携帯の電波がよく届くが、ここより下は、電波は届かないので注意。また、すぐ近くに避難小屋があり、トイレ使用も可。 ・全般的に登山道に沿って小川が流れており、その音に癒される。 ・天気に恵まれて、素晴らしい眺望を楽しむことができた。 ・一面のお花畑を期待していたが、７月と８月の端境期で期待したほど花畑はなかった。しかし、中沼から頂上にかけて水量が豊富で、様々な花が目を楽しませてくれた。 ・焼石岳は穏やかな山容で急な登りが少なく、ゆっくり花を楽しみながら歩くことができた。しかし、梅雨明け直後の急な暑さでメンバーの一人が体調不良をおこし、下山途中で歩行困難となり、ゴール直前で水沢消防署のヘリの救出を依頼することになったのは残念だった。 ・救出にあたってくれた地元奥州市の消防署、警察署、さらに宿泊した「ひめかゆ」のスタッフはいずれも親切な応対をしてくれ、感謝に堪えなかった。
参加者	Ｌ北田　SL 桐生　矢野朝　小島徹 石塚　吉川　大河原　北角 （男３名　女５名　計８名）

中沼に映る焼石岳



焼石岳頂上



＜１１７７＞

苗　場　山
（2145m）

村越　百々代



下山時の記念撮影

山頂の湿原と池塘廻りを満喫する

コロナ禍、東京都に緊急事態宣言が出された直後の山行となりました。千葉県は「まん延防止等重点措置対策」。とにかくコロナ感染対策として、できることはしようと思いました。

登山口までの行程を①成田線の始発電車で出発する、②都内を通らずに越後湯沢迄行くルート（我孫子～大宮周りで新幹線に乗る）で行くことにし、マスクや消毒液などももちろん持参しました。

事前に問い合わせていた越後湯沢からのタクシー会社からは、『オゾンが出る機器を準備しているから大丈夫ですよ。ぜひ、きてください。』と説明を受けていたし、宿泊予定の頂上ヒュッテ（自然体験交流センター）も『受け入れ人数を半分に、１スペースを５人までに区切って、床も畳からラグカーペットに変更されている。＆細かい感染対策のお願いという資料も受け取っていて』万全の準備体制で出かけることにしました。

越後湯沢駅からタクシーで神楽スキー場駐車場（祓川登山口）まで行き、そこから歩いて和田小屋を通り、山頂ヒュッテまで行きます。

はじめはゆっくりと歩く。６月の教育研修での外崎さんの話を思い出しながら歩きました。前日までの雨の影響が残っていて登山道にあるゴロゴロした石は濡れていて滑るし、ところどころ水を含んだ土はドロドロだし、和田小屋を過ぎるとすぐに急登できついし、とにかく慎重に歩きました。

この日は梅雨明け宣言が出された日だったので、お天気は良くて景色を見ながら歩くことができました。ひたすらの登りはすごくて、ダラダラと汗をかきながら歩きました。

途中でベンチのある休憩所がありました。下ノ芝、中ノ芝、上ノ芝と疲れが出るころに、ちょうどいいタイミングにベンチがあり、それぞれ座って休憩しました。

休憩所での山々を見ながら、涼しい風に吹かれながらのＡさんの入れてくれるコーヒーが格別においしかった。遥かに連なる山々を見ながら幸せなひと時を楽しみました。

神楽峰に出ると目の前に苗場山が見えてきます。そこからは下り坂、今までせっかく上って来たのに降りてしまって、そこからまたきつい登りが始まりました。これでもかと思うほどの急登でした。そしてあれっと思ったら目の前に広々とした湿原が広がっていました。

これが私の見たかった山頂の湿原と池塘です。ワタスゲが風に揺れ、湿原のあちこちにコバイケイソウが固まって咲いています。木道は遥か彼方までつながっています。

広々とした湿原を眺めながらベンチでゆっくりとコーヒーを楽しみました。山頂に行きました

▼湿原を歩く



が、誰もいません。三人しかいないので二人ずつ記念写真を撮りました。

宿に着いてからも時間があったので、山頂の湿原と池塘廻りをすることにしました。あらかじめ『ここまで行ければいいな』と地図で確かめておいた苗場神社までの往復、1時間半ほど歩きました。雪渓もほんの少し残っていて、滑りながら少し歩きました。

青空の下、近くは谷川連峰、はるかに北アルプスの峰々迄見渡すことができました。

宿泊は山頂ヒュッテ、1区画当たり4人に区切られていて隣の区画との間に仕切りがあって、ここに3人で泊まります。安心感があり、落ち着いて過ごせました。

概　要

山 名		苗場山		
月 日		2021年7月16日(金)～17日（土）		
山 域		上信越		
形 式		山小屋1泊2日	グレード	2A
目 的		山頂に広がる湿原と池塘を楽しむ		
費 用		23,000円(ジパング)	交通機関	JR タクシー
日程	一日目	我孫子駅5:34→新松戸5:48/51→南浦和6:19/25→大宮6:38/7:01 たにがわ401号→越後湯沢 8:05/15(タクシー)祓川登山口駐車場 8:30/40⇒ 和田小屋 9:20/30⇒下ノ芝 11:05⇒中ノ芝 11:50/12:17⇒小松原分岐 12:46⇒神楽ヶ峰 13:05⇒苗場山山頂 14:40⇒山頂ヒュッテ 15:30⇔(湿原散歩 16:00/17:30)泊 〈歩行時間 6時間30分〉		
	二日目	山頂ヒュッテ 6:30⇒雷清水 7:32⇒神楽ヶ峰8:00⇒中ノ芝8:43/9:05⇒下ノ芝 9:40⇒和田小屋 10:45/11:25(タクシー)→ 越後湯沢駅 11:55/14:09(とき 322号)→大宮 15:03/09→南浦和15:22/24→新松戸 15:53/56→我孫子16:09　〈歩行時間 3時間30分〉		
ルート状況		・登山ルートはわかりやすく、迷うことはなかった。 ・登山道はごろごろした石や木の根、木道など、前日までの雨の影響でぬれていて滑りやすかったので気を付けて歩いた。		
参加者		L村越　SL田嶋　秋山 （女２名　男１名　計３名）		

＜１１７８＞

蝶ヶ岳～常念岳～槍ヶ岳
（2677m）　（2857m）（3180m）

矢野　貞子

2年ぶりの北アルプス

背景に雄大な穂高岳が迫っている常念岳頂上で撮った50年程前の写真がある。当時、隣の課の女性が「母が登って素晴らしかったという、常念岳に行きたい」と頼まれ、行った時の物だ。後で知ったのだが失恋し、気持ちを断ち切るためだったらしい。彼女はその秋に退職し、四国に嫁いだが、すぐに東京に戻ったと聞いた。今回はその景色をもう一度見たいと思い計画した。

山小屋の予約が取れず中村新道から大滝山荘泊で、常念岳に向かう計画で出発したが、2日目の行程が長い為、当初から蝶ヶ岳ヒュッテ泊を希望して、出発日まで毎日、電話して空きを確認、諦めて出発した。前泊して入山する予定だったので、前日、島々谷駅で最後の確認をしたら、運よく蝶ヶ岳ヒュッテに空きがあり、変更できたので徳澤園から長塀尾根を登った。

30日　6：20に上高地を出発。徳澤園から長塀山までは樹林帯の急登だった。妖精の池付近はお花畑が広がりコバイケイソウなどが綺麗に咲いていた。樹林帯を抜けるとハクサンイチゲ、ツガザクラ、シャジン等などのお花の道を抜けると広い台地に出た。徳澤園で頂上を通り過ぎないようにとアドバイスを頂いたので、ガスが見えない頂上をスマホ地図で確認し、頂上を経由して山小屋に入った。3時頃には雨になったが、夕方、雨もやみガスも取れ穂高や槍が確認できた。消灯前、雷雨でバケツをひっくり返したような豪雨になった。しばらくすると、布団にポタリ、ポタリと雨漏りがあり、小屋の人に話し、部屋を変更してもらった。この日、行程は12km、登り1354m、下り204mだった。

31日朝　日の出を拝む。反対側の穂高連峰にかすかに掛かったモルゲンロートを見て、朝食を食べ5:40出発。蝶槍までは穂高連峰を眺めながら歩いた。常念岳は遥か彼方に見える。蝶槍から樹林帯まで一気に下り、何度かの登り下りを経て最低鞍部に着く。ここから常念岳へは400m余りの登りである。目印を探しながら大きな岩をよじ登る、この登りは思っていた以上に大変だった。途中雨でカッパを着るがすぐに止んだので、暑くて着ていられず、カッパを脱いだ。10時過ぎに頂

上下に到着。既に穂高連峰は雲に隠れていた。頂上は岩場で記念撮影をするため、移動に難儀した。若い人に撮ってもらう為お願いしたが、互いに消毒をしてカメラを渡すなどコロナ下だけに互いに気を遣う記念撮影となった。少し平らな所迄下りて 40 分程休憩して常念小屋へ向かう。400ｍの下りも大変だが、こちら側は歩きやすい。小屋でトイレを借り横通岳に向かおうとしたら、テント場が騒然となった。目の前に大きな熊がいる。横通岳から来た登山者もキャアキャアと戻っている。私達がこれから登る登山道だ。どうしたものかと熊を見ていると少しずつ、登山道から離れていった。小さくなったのを確認し、歩き始めた。傍にいた人が引き返した人達に大丈夫になった事を伝えてくれと言われた。7～8 分程登ると 10 人位の人が騒めいていた。熊は去ったことを伝えると、途中大きな熊の糞があったので十分気を付けるようにとの事だった。覆いかぶさる木々と、登りで鳴りの悪い鈴を手で揺らし鳴らしながら必死に歩いた。

樹林帯を越えると砂礫の緩やかな登り下りの平行道。コゴメグサの白い絨毯にピンクのコマクサが彩られ熊の恐怖が無ければ楽しい道だ。雲が下りてきていて、東大天井付近で微かな雷鳴を聞く。先を心配するが行けども、行けども大天荘は見えない。今回、大天井小屋は満室で私達は大天井ヒュッテまで行かなくてはならない。やっとの事でたどり着いた大天荘前のベンチは魅力的だ。だが、ここで休憩すると先へ行きたくなくなると思い、「先に行きます」と言うと二人は了解してくれた。二人も同じ思いだった。後で笑った。大天井ヒュッテまで 30 分とあるが疲れた体には、この下りのトラバース道は大変だった。谷底深く見える岩場は一歩足を踏み外せば大変なことになる。慎重に歩を進め 16:03 大天井ヒュッテに着いた。この日の行程は 11.2 キロ、登り 1242m、下り 1249m、疲れたわけだ。暫くすると雨が降ってきて雷も響いた。雨が降る前に小屋に着いて良かった。夕ご飯には分厚いとんかつ、肉がダメな人にはお魚が用意され山奥の山小屋なのにと大感激。ちなみに朝も工夫されていて、とても美味しかった。

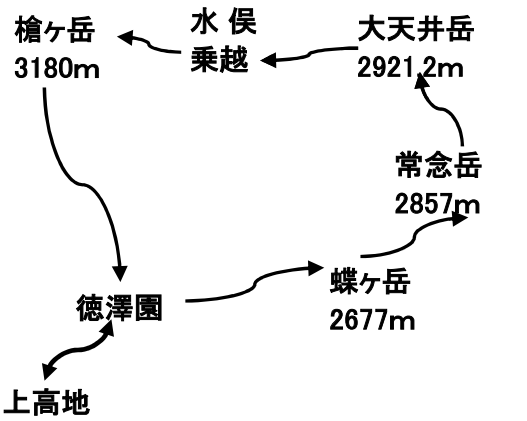
８月１日　遠くの雲が朝焼け。赤岩岳の先に穂高が見える。一時間半程歩くと視界が開け槍ヶ岳の裾まで綺麗に見えた。赤岩岳を越えると西岳ヒュッテまで下りである。ロープのあるザレ場や垂直なはしごが次々にあり、緊張の連続だった。西岳ヒュッテから水俣乗越までも急な下りで気が抜けなかった。水俣乗越からいよいよ槍ヶ岳を目指し登りである。ここでも左右切れ込んだ狭い尾根を歩く。階段状のはしごや岩を登ったり下りたりしながら、いくつかの頂を越えヒュッテ大槍に着いた。いつの間にか槍の穂は雲にかくれてしまっていた。ここまで 6.2ｋｍ、登り 803m、下り 603mだった。

宿泊の手続きをして昼食。頂上を目指すか協議した。３時頃から雨の予報と二人もすでに何回か頂上に立った事があり、何も見えないであろう頂上には行かない事にした。翌早朝弁当を持って、行く事も検討したが、徳澤園で美味しいランチをしたいと意見が纏まり、午後は稀に顔を出す槍の穂や、双六岳、雄大な鷲羽岳、遠くの剣岳、穂高連峰などの山山を眺めながら、ゆっくりお茶をした。とても素敵な時間だった。夕方雨上がりに浮かぶ北穂高小屋の明かりを眺めた。ヒュッテ大槍は食事が美味しいのと、気持ちの良い空間があるので常連さんが多い。私達も夕食に出されたワインで乾杯、鶏肉のパテやペペロンチーノを堪能した。

2 日朝、槍の穂は雲の中で時折しか見えない。行かなくて良かったと思う。下りは早く、登ってくる多くの登山者に道を譲りながら 11 時徳澤園を目指し下山。徳澤園で早目のランチをゆっくり頂く。毎回思うのだが、横尾から上高地までの 3 時間余りの道のりは、結構登り下りがある。3000ｍ付近から一気に下山してくるとこの小さな登りが辛い。小梨平手前までこの苦痛を味わいながら上高地バスセンターに到着。直ちにタクシーで沢渡へ。汗を流し、預けていた洋服に着替え帰路に就いた。行程は 18.7 ㎞、登り 320m、下り 1692ｍだった。今回歩いた総距離は 48.3 ㎞、登り 3755m、下り 3754mだった。

因みに、各山小屋は完全予約制だが、一人一畳は確保され、食事もボードで区切られ密を避ける工夫がされていた。料金は昨年より 3,000 円値上がりし 13,000 円だが押し込められず、快適だった。予約は大変だが山小屋のサービスが嬉しい。2 年ぶりの北アルプス、お花畑、景色を満喫しました。こんな大変な山行、一緒に歩いてくれた二人に感謝しています。

概　念　図



概　要

山　名	蝶ヶ岳～常念岳～槍ヶ岳		
月　日	2021 年 7 月 29 日(木)～8 月 1 日(月)		
山　域	北アルプス		
形　式	小屋泊	グレード	3C
目　的	北アルプス表銀座を縦走する		
費　用	65,000 円	交通機関	JR　タクシー　バス

日程	一日目	我孫子→立川→松本→新島々→沢渡（泊）
	二日目	上高地 6:20⇒明神 7:15/20⇒徳澤登山口 8:10⇒長塀山 11:50/12:00⇒蝶ヶ岳山頂 13:00⇒蝶ヶ岳ヒュッテ 13:10　〈歩行時間　6 時間〉
	三日目	蝶ヶ岳ヒュッテ 5:40⇒蝶槍 6:25/40⇒常念岳 10:10/11:00⇒常念乗越 11:50/12:00⇒東天井岳 14:10⇒大天荘 15:15⇒大天井ヒュッテ 16:05　〈歩行時間　9 時間 10 分〉
	四日目	大天井ヒュッテ 5:40⇒赤岩岳 7:30⇒ヒュッテ西岳 8:10/25⇒水俣乗越 9:35/45⇒ヒュッテ大槍 12:00　〈歩行時間　5 時間 40 分〉
	五日目	8/2　ヒュッテ大槍 5:50→槍沢ロッジ 8:25/40→横尾 9:50/10:10→徳澤 10:55/11:20→上高地バス停 12:50⇒タクシー⇒沢渡（入浴）/14:30⇒新島々 15:01/25⇒松本 15:55/16:30⇒立川⇒我孫子駅 20:15　〈歩行時間　6 時間〉

ルート状況	・長塀尾根から蝶ヶ岳は樹林帯のきつい登りが続く。 ・常念岳への登りは大きな岩が続きコースタイムで歩くのは厳しい。常念岳の下りはガレの下り、常念岳から横通岳へは樹林帯を抜けると緩やかな尾根歩きが続く。 ・大天荘から大天井ヒュッテへ抜けるルートは疲れた体にかなり堪える下りだった。 ・大天井ヒュッテから水俣乗越までの喜作新道は崩壊箇所が随所にあり、はしご（垂直で 20m 位）やロープ鎖を頼っての大下りだった。 ・水俣乗越から槍ヶ岳の間は嶮しい細い尾根の登り下りで、はしごあり、鎖、ロープ、岩登りと緊張の連続だった。
参加者	L 矢野貞　SL 田村　大畠　（女３名）

喜作新道



常念岳山頂→



▼槍ヶ岳をバックに



＜１１７９＞

燧　ヶ　岳
(2356m)

布能　英子

紅葉の季節に尾瀬の燧ケ岳を歩くのは夢のような山行でした！

10 月 6 日 9 時 30 分に会津高原尾瀬口に集合して 9 時 40 分の会津バスに乗り継ぎ御池登山口には 11 時 30 分でした。

草紅葉が黄金の絨毯のように下敷きになって、そこに延びて行く新しい木道、見渡すと赤、緑、黄色い色とりどりの樹木は歩くひとの幸福度を高めますね‼

天神田代、兎田代を経由してアップダウン激しい道を進み、三条の滝に着いた時には仙境のような滝の迫力に感動。マイナスイオンたくさん吸いました。温泉小屋へ行く途中で見た平滑の滝にも癒されました。

初日 4 時間程の歩行の疲れは温泉小屋のおいしいカレーと温泉で解消されました。小雨の中だけどまた違う景色を見られて良かったですね。

二日目は 5 時 35 分に温泉小屋を出発して柴安グラに 10 時、俎グラに 10 時半。熊沢田代、広沢田代を経由して御池登山口には 14 時に着きました。予定より 1 時間早まったことでリーダーは喜びました。曇りで山頂での眺めは残念でしたがまた行きたい気持ちになりました。

笑い声の絶えない山行になってリーダーと先輩のメンバーに感謝しかないです！有り難うございました‼

概　要

山　名	燧ヶ岳
月　日	2021 年 10 月 6 日(水)～7 日(木)
山　域	尾瀬

形　式	小屋泊		**グレード**	2B
目　的	尾瀬の紅葉と燧ヶ岳			
費　用	約 20,000 円	**交通機関**	東武鉄道 野岩鉄道　会津バス	
日程	**一日目**	会津高原尾瀬口 9:30 集合　会津バス 9:40→尾瀬御池 11:20　尾瀬御池登山口 11:30⇒天神田代 12:50/13:25⇒兎田代分岐 14:00⇒三条ノ滝展望台　14:40/15:05⇒温泉小屋 16:00　〈歩行時間 4 時間〉		
	二日目	温泉小屋 5:35⇒見晴 6:05/10⇒見晴新道 6:30⇒　紫安グラ 9:55/10:10⇒俎グラ　10:43/48⇒熊沢田代 11:55/12:25⇒広沢田代⇒御池登山口 14:05/15:10(会津バス)→会津高原尾瀬口 16:50　〈歩行時間 8 時間 30 分〉		
ルート状況	・登山口から兎田代分岐まで数々の湿原有り、草紅葉を楽しませてくれました。 ・山道は良く整備され、道路標識もしっかりしており道迷いの心配はありません。 ・霧雨が時々降り、濡れた落ち葉は滑り易く注意が必要です。 ・兎田代から三条ノ滝までは急な木製階段があり注意が必要です。また温泉小屋まで泥濘みが多く歩きづらい道が続きます。 ・見晴新道から燧ヶ岳頂上までは急登が続き 1,000m を超える高低差がありペースを守る必要がある。頂上から御池登山口まで険しい危険なところは無いが、急登のあとでは少しキツかった。			
参加者	L 秋山　SL 小林安　小島洋　土田　布能　北角 （男２名　女４名　計６名）			



←燧ケ岳山頂にて



＜１１８５＞

横尾山・瑞牆山
（1818m）（2230m）

矢野　朝水

黄葉・紅葉の絶景を堪能する

2021 年 10 月 29 日（金）5：30 我孫子駅北口ロータリー発。室崎車（室崎Ｌ、中村育、矢野朝）、郷田車（郷田、土田）に分乗。常磐高速に入り、中央高速へ。快晴。談合坂ＳＡに寄り、須玉ＩＣで高速を下りる。スーパー須玉「おぎの」でキャンプに必要な肉、野菜等買い物して瑞牆山キャンプ場に向かう。

渓谷の道を進むと山々は秋の装い。ブナ、クヌギ、ミズナラ、シラカバ、カラマツなどの木々が色づく。黄葉のトンネルをくぐる。木洩れ日がまぶしい。世界中コロナで混乱しているが、自然は変わらない。　「コロナ禍も時は巡りて山粧ふ」

10：35 瑞牆山キャンプ場着。眼前に瑞牆山の奇岩奇峰が聳える。周囲の山々は黄葉・紅葉に色づく。各自テントを張り、昼食。

「迫りくる奇岩奇峰や天高し」

12：00 横尾山に向け車で出発。信州峠（横尾山）登山口着。黄葉のブナやミズナラ、カラマツの森を登ると 13：15 カヤトの原。芒が波うち、瑞牆山、雪の富士、南アルプス、八ヶ岳など眺望が広がる。抜群の眺めだ。

「富士浮かび芒波打つ峠かな」

横尾山山頂に向け尾根の道を進む。いくつかの峰を登り下りして 14：00 横尾山山頂に到着。写真撮影の後、来た道を下り、信州峠を経て 15：35 キャンプ場帰着。

夕食に焼肉パーティの準備をする。ビールで乾杯。牛肉、鶏肉、野菜類、サラダ、しめはヤキソバ。食後、暗闇の中、焚火を焚き、ワインを飲む。



瑞牆山山頂

焚火の炎は日頃電気の白色光の下で生活している身には幻想的だ。

キャンプ場は 1300 メートルの高地にあるため夜は冷える。室崎Ｌが貸してくれた毛布が大いに役立つ

「テント泊じんじん迫る夜寒かな」

２日目　５：00 起床。今日も快晴だ。朝食後、室崎Ｌの車で瑞牆山登山口の林道終点へ。カラマツ林を抜け、左にせせらぎを聞きながら登ると不動滝。巨大な岩の上から岩を舐めるように滝が滴り落ちている。

「岩伝い舐めるがごとく滝落ちる」

「摩天岩」という巨大な岩の側を通る。大きな岩がゴロゴロしている急登を登る。くさり場や梯子の難所を越え、頂上近くの大岩を登るのが一苦労。10：20 日本 100 名山の一つ「瑞牆山」（2230m）頂上到着。

「秋天を衝いて聳ゆる岩嶺かな」

頂上は大きな岩がゴロゴロしている 50×20 メートルほどの長方形の広場。すでに数十の人が占拠して食事をしたり、写真を撮っている。頂上からの眺めは筆舌に尽くし難い。左に雄大な富士山が浮かび、南アルプスの雪嶺、八ヶ岳、北アルプスの峰々と 360 度山々が取り巻く。

「天空の富士の雪嶺仰ぎ見る」

頂上で食事、写真撮影などの後 11：30 下山開始。下山は登りと反対側の「富士見平小屋」へのコースをとる。岩がゴロゴロ転がり、くさり場やロープ場の難所を通り 14：02「富士見平小屋」到着。小休止する。黄葉が広がり、キャンプのテントが並ぶ。

富士見平小屋からキャンプ場へは、ミズナラ、ブナ、カラマツなどの色づく森の中、木洩れ日を浴びながら尾根道を下る。

「木漏れ日の黄葉の山を下りけり」

15：30 キャンプ場帰着。早速夕飯の準備に取り掛かる。今夜は煮込みうどん、サラダ、柿など。ビールで乾杯。2 日間好天に恵まれ、黄葉、紅葉の秋の山を堪能できたことを感謝する。今夜もワインを飲みながら焚火に当たる。

「夜焚火や山の男の無精髭」

3 日目　6：00 起床。2 日間晴れ渡っていた空はどんよりと曇り、瑞牆山の山頂は雲に隠れている。山は天候次第、2 日間快晴が続きラッキーだった。今日の天気なら瑞牆山は断念しただろう。昨晩の残りの煮込みウドンは味がしみ込んで一段と美味しい。食後、テントをたたみ、8:27 二日間お世話になったキャンプ場に別れを告げる。

帰路は黄葉・紅葉を楽しみ、温泉に浸かって帰ろうと、まず「みやま山荘」に寄る。黄葉・紅葉が美しい。渓流に沿った

道は黄葉・紅葉が素晴らしい。車に乗ったまま黄葉のトンネルを潜り抜け、時には車を停めて写真を撮る。

「ほとばしる白き流れや紅葉谷」

「増富の湯」に寄るが、温泉は 10 時からというので、「みたまの湯」(山梨県西八代郡市川三郷町)へ。10：54「みたまの湯」に浸かり、昼食。13：15「みたまの湯」を出発。中央高速に乗り、石川ＳＡで休息。常磐道を経て 18：00 我孫子着。

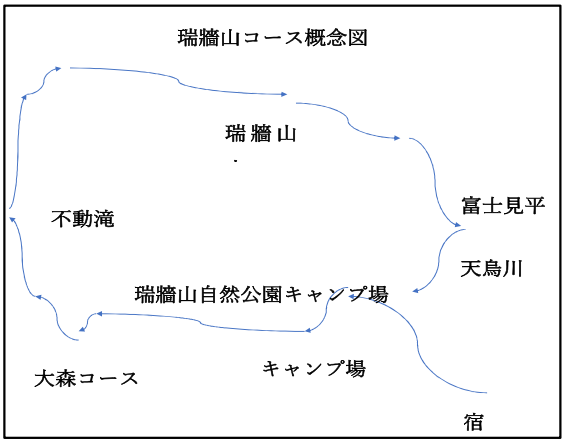
2 日間快晴に恵まれ、黄葉・紅葉の瑞牆山（百名山)、横尾山を堪能することができた。テント泊は初めての体験だったが、室崎Ｌにキャンプに必要な様々な道具を持参していただき、快適なキャンプを送ることができた。感謝です。

概　要

山 名	横尾山・瑞牆山			
月 日	2021 年 10 月 29 日(金)～31 日（日）			
山 域	奥秩父			
形 式	テント泊	グレード	2B	
目 的	岩峰と紅葉･温泉を楽しむ　　黒森コース富士見平コースを一周する			
費 用	15,000 円	交通機関	マイカー	
日程 一日目	我孫子駅(室崎車､郷田車に分乗)5:30→談合坂 SA8:15/30→須玉 IC9:29→「おぎの」で買物 9:35/55→瑞牆山キャンプ場 10:35(テントを張る 昼食)12:00→横尾山登山口 12:20⇒カヤトの原 13:15/30 ⇒ 横尾山頂上 14:00/10⇒カヤトの原 14:40⇒横尾山登山口 15:15→キャンプ場 15:35 〈歩行時間 約 3 時間〉			
日程 二日目	5:00 起床 キャンプ場 6:11→瑞牆山登山口 6:18⇒不動滝 8:46/55⇒瑞牆山山頂 10:25/11:30(昼食)⇒富士見平 14:02/25⇒キャンプ場 15:30 夕食　焚火　就寝 〈歩行時間 約 5 時間 30 分〉			
日程 三日目	6:00 起床 キャンプ場 8:27→みやま山荘 8:40/50→増富の湯 9:10→みたまの湯 10:54/13:15(入浴、昼食)→甲府南 IC13:31→石川 PA15:20/50→我孫子 17:45			
ルート状況	・〈横尾山〉カヤトの原までは、なだらかな道と後半少し急登の樹林帯の中を進む。カヤトの 原から前後左右に展望が広がる稜線を進む。 ・全体的に危険箇所等のない快適なハイキングコ ースである。登山口(信州峠)に 10 台程駐車可。 ・〈瑞牆山〉黒森コース登山口からは、種々の景色が観られる。その後山頂まで岩稜帯が続く。途中各種の石柱がある。山頂付近、鎖、階段等あり確実な 3 点確保等十分な注意が必要。 ・瑞牆山は絶好の行楽日和も重なりかなりの混雑であった。 ・変化に富んだ岩稜帯を中心とする登山路も楽しいが、山頂からの眺望がこの山の最大の魅力、山頂からの富士山、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父山系、上信高原などの 360 度大パノラマは圧巻、十二分に堪能することができた。 **全般総活** ・瑞牆自然公園キャンプ場は素晴しい景色。 ・富士山がきれいにみえた。改めて雄大さに感嘆した。 ・ルートは標識がはっきりしていてわかりやすい。 ・下りは急坂が多かった。 ・頂上はきれいで見晴らしが良かった。			
参加者	L 室崎　SL 郷田　SL 中村育　矢野朝　土田　（男４名　女１名　計５名）			

瑞牆山自然公園キャンプ場より見える瑞牆山





＜１１８７＞

八十里越え
（鞍掛峠／967m）

白崎 哲史

「峠」の気配を感じながら

「ウワーッ、マジですか!!」

時折り、後方から細谷さんの大きな声が響く。

八十里越え山行の２日目、鞍掛峠手前の崩落地は、急斜面のヘツリが連続していた。幸い、雨予報が外れて時折り陽の光が差し込む天候に恵まれたものの、足元は前夜の雨でぬかるんだ泥地であったり、ザレた砂地であったりした。

その斜度は 40～50 度。トラロープが設置されてはいるものの、あくまでもバランスを崩さないための補助的なものでしかない。転倒すれば 40～50m ほど滑落してしまうリスクが常に存在していた。

「声を出さないと、気合が入らないんですよね」（細谷さん）

ぼく自身、声には出さなかったが、気分は同じであった。

※

八十里越え――。

その存在を知ったのは、２年ほど前に実施された福島のブナの原生林を訊ねる山行（武内リーダー）であった。ブナに詳しい元会員の坪田さんが講師として招かれ、ブナについての蘊蓄だけでなく、歴史についても解説していただいた。

「長岡藩が戊辰戦争で負けて家老の河合継之助らが会津に逃げてくるとき、辿った道が八十里越えなんだ。でも、旧道はどこを通っていたのかはっきりしていないんだよね。で、そのとき、一行はガトリング砲を携えて逃げてきたんだけど、この先の沼に落とした。それで、その沼は『大砲沼』と呼ばれるようになった。でもいまでは、その大砲沼に行くことも難しいんだよね」

埋もれた街道か……。

それからしばらくして、沢登り関係の著書の多い高桑信一氏の著書を幾冊か読んでいくうちに、八十里越えのレポを目にした。

「えっ、歩けるんだ。だったら、定例山行としてもいいかも。時期はブナの黄葉に合わせるとして、高桑さんに倣ってテント泊しながらゆっくり歩くのがいいんだろうな……」

そんな思いから、八十里越え山行は始まったのだった。

その後、ヤマレコや YAMAP にアップされた八十里越えのレポをチェックすると、そのほとんどは 10～13 時間ほどかけて一日で歩ききっていた。八十里越えとは言え、そのルート距離は十分の一の八里、つまり 30km ほどはある。陽の長い新緑の頃ならまだしも、陽の短い紅葉の時期には、やはりテント泊して歩くのが正解だろうという思いを強くした。時期は、11 月の第一週。それがブナの黄葉にフォーカスした日程だった。

しかし、レポによく登場する崩落地のヘツリというのが、いまいちイメージできなかった。写真を見ても、高度感が伝わってこないから、そのリスクがよくわからないのだ。

そうこうしているうちに募集の時期が近づいた。有名な山をピークハントするわけではないから、３～４人の小さな山行をぼくは想定していた。しかし、山行計画がやまたんに掲載されると公募前からぽつりぽつりと「行きたい」というメールが届き始めた。そして、山行参加者は最終的に７名にまでふくらんだ。

となると、崩落地のヘツリが気になる。これは実際に行ってみなければ、と細谷さんを誘って 10 月半ば過ぎに下見に出かけた。

ガトリング砲を運んだ道なんだから……というイメージは 1 時間ほどで早くも崩れる。これがヘツリか……なるほどである。写真ではよくわからなかったが、ヘツル斜面や崖の高度は場所によって異なるものの、最低でも 30～40m ほどはある。さらに、番屋乗越を過ぎてブナ沢への下りに入ると、ヘツル崖の高度は 100m



番屋乗越にて。小雨がパラついていたが、全員一致で先に進むことにした。

ほどに達した。

危険個所にはトラロープが設置されているものの、ロープがかけられているのは木の幹だけではない。細い木の枝であることもあり、あくまでもバランスを崩さないための補助ロープだった。滑って転び、そのロープに全体重をかけてしまうとロープが外れ、滑落してしまうリスクが常に存在していた。

つまり、崩落地では気の抜けないヘツリが次から次へと現れるルート、それが八十里越えの実態であった。

山行関連の情報を参加者向けに発信する「山行通信」でそのことを参加メンバーに案内すると、今度は山行中の天候が気になってくる。

細谷さんに山行当日の予報のチェックを依頼したが、あまりよろしくない。確実性を期するため、北田・細谷・白崎の３名でそれぞれ異なる予報をチェックしながら様子をうかがうも、不安定な天候には変わりなかった。

雨が降るなかでのテント泊という状況もあり得た。テント撤収に時間がかかり、全ルートを歩き通せない可能性もある。エスケープルートはあるのか……地図を改めてチェックすると、田代平から沢沿いに下るルートがあり、そのレポを探すとそのルートはエスケープとして使える「五味沢林道」であることがわかった。

本来であれば、計画時にチェックしておくべきことだろう。とはいえ、山行には間に合った。

※

山行初日（11 月 3 日）、スタート地点の吉ヶ平には予定よりも早めに到着した。天候は曇りでときどき陽が差してくる。予報は曇り時々雨で、翌 4 日の日中はほぼ雨である。

前日、北田さんから雨が強そうなら巻機山の山荘に行ってはどうか、という提案をいただいていた。そこで、番屋乗越まで歩き、3 つの選択肢から行動を決めることにした。その選択肢とは、①山行継続が難しいと判断したら引き返して巻機山の山荘に向かう、②ブナ沢手前のキャンプ適地でテント泊して翌日は五味沢林道を下る、③予定通り殿様清水まで行ってテント泊し入叶津を目指す、というものである。

9 時 20 分に歩き始めると、ものの 5 分とたたないうちに強い雨が降ってきた。番屋乗越で引き返すことになるのか……そんな思いがよぎってくるころ、雨はあがってまた陽の光が差し込み始めた。

周囲の木々は色づき始めといった様相ではあったものの、山の頂付近を望むと秋らしい色合いに染まっている。それが陽の光を浴びて輝きだすと、なんとも清々しい。

下見のときよりもゆっくりしたペースで登る。やがて陽はまた雲に隠れてしまい、霧雨に包まれたりもした。とは言え、雨脚が強まることはなかった。ヘツリもここではまだ高度感がないため、緊張することはない。メンバーの足取りも揃っている。

いつの間にか周囲の木々の色合いが、黄色からオレンジにかけてのグラデーションに染まっていた。ブナ沢手前のブナ林の黄葉が、大いに期待できそうだった。

12 時半少し前、尾根を切り通した番屋乗越に到着し、昼食を摂った。薄い霧が出ていたものの、皆、不安よりも期待のほうが大きく、「引き返したい」という声はでなかった。

コースタイムより 2 割ほどゆっくり目のペースなので、行けたとしてもブナ沢までだろう。となると、必然的に明日はエスケープルートの五味沢林道を下ることなる……と、そんなことを思いながら尾根の反対側に出ると、少し明るい。山々が幾重にも連なり、その谷筋に雲が漂っていた。眼下には建設中の道路の大きな橋梁も見える。

建設中の道路は国道 289 号で、昭和 45 年に国道として認定されて以来、幾度か中断されながらも建設が進められている国道である。建設の困難さからルート自体も幾度か見直され、いま建設が進められているルートではトンネルで県境を越えていくことになる。しかし、ぼくらが歩く八十里越えルートの一部は、現在の国道 289 号の「通行不能区間」とされる道が含まれてもいる。

八十里越え古道がそのまま国道になる計画もあったのだ。しかし自然は、人の思惑などには忖度しない。

ブナ沢までのルートは、斜度が 60 度に達するような山の北東斜面をトラバースしていく形でつくられていた。沢筋ではほぼ古道が失われ、断続的に設置されたトラロープのお世話になる。そんなヘツリをどのくらい繰り返したであろうか。「火薬庫跡」の石碑を過ぎると、一面の穏やかなブナ林へと誘われた。

いつしか陽射しも戻ってきて、クライマックスを迎えたブナの黄葉がゴールデンイエローの輝きに満ちている。ぼくらを歓迎してくれているかのようだ。

Wow!!

誰もがカメラを取り出して、写真を撮り始める。「来て良かった」と心から思えた一時だった。

下見で目星を付けておいた平坦地にテントを張ったのは、それから約 1 時間後のこと。その間にも、にわか雨に降られたが、雨対策として持参したタープもなんとか設置でき、幕営地はとても気持ちのいい空間になってくれた。

夕食は、鶏肉のレモン鍋と海藻サラダ、それに炊いた白飯だ。ちなみに、レモン鍋は小林安代さん、海藻サラダは千葉さんの発案。皆が協力し合って、食事の準備が進む。

それにしても、辺り一帯はとても静かだ。沢音が微かに聞こえるものの、鳥や動物の鳴き声は聞こえない。休日だとはいえ、週の中日に八十里越えを泊まりで歩く人もいないようだ。もしかするとこのとき、ブナ沢を中心とした 10 キロ四方にいたのは、ぼくらだけかもしれない。

レモン鍋ができあがったところで、さっそくいただく。レモンの酸味が心地よい刺激となって体に染みこんでいく。塩味もほどよく、あっさりとした鶏肉との相性もバッチリ。ご飯も炊き上がったときには芯が残っていたが、蒸らしたらその芯もなくなっていた。

陽が傾くに従って、周囲は急速に暗くなっていく。こんな野営では焚き火を囲みたくなるが、残念ながらここは許可された幕営地でもなければ、火の始末が容易な沢筋でもなかった。食事が終わる頃には、皆がヘッドランプを付けていた。

「ごちそうさまでした。山のなかでこんな豪勢な食事が摂れるなんて」

北田さんから食担のお二人にねぎらいの言葉がかかる。そう、お二人にいろいろ下準備していただいたお陰で、満足のいく食事を口にすることができたのだ。感謝である。

後片付けをしながら、明日の予定を話し合うも、エスケープルートの五味沢林道を降りるなら、急ぐ必要はない。明るくなったら夕食の残りを朝食とし、7 時くらいからテントを撤収できれば上出来かと思われた。実は、今回がテントの初張りとなるメンバーが少なくなかったのだ。撤収にどのくらいの時間がかかるかは読みにくい。

問題は、翌 4 日の天候であった。ぼくがチェックしていた「浅草岳公園」は、五味沢林道を下った先のゲートに近い場所だが、朝の時点で 4 日の予報は日中ずっと「雨」だった。雨でぬかるむ道は滑りやすい。大きな「崩落地」は鞍掛峠の手前にあり、ヘツリから逃れられないことははっきりしていた。

6 時には辺りは真っ暗になった。食事の後片付けをして各自がテントに戻ると、朝が早かったせいもあって皆そのまま寝てしまった。

※

夜中に 2 度ほどテントを叩く雨音に起こされたが、3 時過ぎには止んだようだ。

少し明るくなり始めた 6 時過ぎに起床。すぐさま朝食の準備にかかり、6 時半には朝食を摂って、7 時 40 分には行動開始できた。

予報に反して雨が降る気配はなく、時折り差し込む陽光があたたかい。ブナ沢の水量も下見のときより少なく、難なく渡渉できた。その後は比較的快適な古道歩きが続く。右手に凛々しい烏帽子岳が姿を現し、陽の光を浴びて喜んでいるかのようだ。

当初テン泊地として予定していた殿様清水に到着。確かに休憩場所としては適地かもしれないが、テン泊地としては昨晩のブナ沢のほうが良さげではあった。

道は山の斜面をトラバースしていく形でこのルートの最高点である鞍掛峠に向かっていく。問題の崩落地は、殿様清水から 30 分ほど歩いたところで忽然と姿を現した。山の斜面の一部が崩れたと言うよりも、山そのものの一部が崩れたと言っていいほどの規模の崩落である。

通過の緊張感は冒頭でご紹介した通り。距離にしたら 500m 弱だろうか。次から次へと現れるトラロープに少々うんざりしかけた頃、道幅の広い古道が現れた。

鞍掛峠で少休止してから、高層湿原の田代平に向かう。宿にはまだ五味沢林道を降りることを伝えていなかった（状況によってはエスケープとして利用する旨は伝えてあった）。何としても宿と連絡をとらなければ、下山口に迎えに来てもらえない。八十里越えルートで唯一携帯が通じるエリアが田代平周辺なので、携帯のマナーモードを解除して歩く。

山腹に木々の生えていない湿原があることが確認できた頃、スマホが通信可能になったが、電話は通じなかった。田代平は思いのほか広そうだった。そのまま歩き続けると、ときどきメールを受信していたようで、宿の主人の携帯番号が記されたメールを受



ブナ沢を中心とした 10 キロ四方にいたのは、私たちだけ。各自ソロテントを設営。

信していた。ショートメールに望みをつないで、これから昼食をとってから五味沢林道を下る旨を記して宿の主人に送信した。

田代平の周辺はとても穏やかな景観で、昔も旅人の心を和ませてくれたに違いない。ブナやミズナラの林が通行人を出迎えてくれる。そして古道はところどころに石垣が積まれていて、小さな沢を横断していく。後で聞けば、それらの石垣は最近掘り出されたものらしい。それにしても、いったいどれだけの人手がかけられていたのか、と驚きを禁じ得ない。

それだけこの道は昔の人に大切にされてきたということでもあろう。だから、河合継之助らもこの峠道を利用し、田代平の先にある木の根峠で一泊していた（当時は茶屋があった）。

しかし、現在の八十里越えルートは、木の根峠からは明治新道となる。河合継之助らが歩いた江戸時代の古道は尾根沿いを辿っていたらしいが、いまではその痕跡さえも残ってはいないのだ。なぜなのか……。

河合継之助らが街道を通過した後、会津藩はこの道の関所を封鎖し、西軍の追っ手を絶っている。しかし、関所を封鎖するくらいで追っ手を絶つことは可能であろうか。これは憶測でしかないが、会津藩は関所を封鎖するとともに、木の根峠から先の道を破壊していったのではなかろうか（道を整備するために当時はすでに発破が使われていた）。

河井継之助は、戊辰戦争で中立を保とうとしていた。ところが、長岡まで攻めてきた西軍の若い司令官に「西軍に与するのか、会津に与するのか。どちらなのだ」と迫られ、西軍を敵にした。会津藩はその「義」に報いるとともに、西軍の進行ルートの一つを封鎖するために、八十里越えの道を破壊したとしても不思議ではない。

今回、ぼくらは八十里越えの全ルートを歩けなかった。

とは言え、その奥深さゆえに近代化から取り残された古道の匂いを嗅ぎ、その気配を感じとることはできた。それは、通行する人が減っていくなかで自然のままに朽ち、人が通れるだけの最小限の手しか入れられてこなかったからでもあろう。

河井継之助も、明るいブナ林の澄んだ空気を吸い、水を飲み、凛々しい烏帽子岳を仰ぎ見ながら、鞍掛峠を越していったのだ。

「八十里　こし抜け武士の　越す峠」
（河井継之助）

※後で知ったのだが、河井継之助とぼくは誕生日が同じであった。司馬遼太郎の『峠』は、河井継之助を主人公にした小説である。

概　要

山 名		八十里越え(鞍掛峠)		
月 日		2021 年 11 月 3 日（水）～5 日（金）		
山 域		越後山脈		
形 式		2 泊 3 日　テント・民宿泊	グレード	3C
目 的		古の裏街道、八十里越えを歩く		
費 用		約 21,000 円	交通機関	マイカー
日程	一日目	我孫子・柏 3:30～4:00 → 柏 IC 4:20 → 常磐道/外環道/関越道 小出 IC 7:15 →吉ヶ平 8:45/9:20⇒ 椿尾根 11:00/10 ⇒番屋乗越 12:25/40（昼食）⇒ ブナ沢 14:30（テント泊） 〈歩行時間　約 4 時間半〉		
	二日目	ブナ沢 7:40 ⇒ ブナ沢渡渉 8:00 ⇒ 高清水沢 8:50 ⇒空堀小屋跡 8:55 ⇒ 空堀 9:00 ⇒ 殿様清水 9:25 ⇒ 鞍掛峠 10:30⇒ 小松横手 11:05 ⇒ 田代平 11:55/12:20（昼食）⇒ 五味沢林道への分岐 12:25 ⇒橋 13:20⇒林道ゲート 14:40　宿の車にてピックアップ→大雲沢ヒュッテ 15:00（泊） 〈歩行時間　約 6 時間〉		
	三日目	宿 8:00 → 河井継之助記念館 10:00/11:00→ 貝掛温泉 13:15/15:00 → 昭和 IC → 関越道/外環道/常磐道 → 柏 IC20:30 → 我孫子 20:45		
ルート状況		・全体的に古道の面影が残っているのはルートの半分ほどで、全ルートの10%程度は崩落によって古道がまったく失われている。その崩落部分の多くは、斜面や崖をヘツって通過していくことになる。 ・吉ヶ平～番屋乗越／比較的崩落箇所は少なく、トラロープの設置は5箇所ほど。 ・番屋乗越～ブナ沢／緩い下りとなるが谷側は100m ほど切れ落ちていて、水が流れている沢はすべてヘツリを強いられる。トラロープの設置は15箇所ほど。 ・ブナ沢渡渉／沢が木によってせき止められる形になっていて、そのせき止め部分を渡渉する。雨が降って増水したあとの渡渉は、少々やっかいではあるが、今回は問題なかった。 ・ブナ沢～殿様清水／比較的歩きやすく、一般的な登山道の様相。		

	・殿様清水～鞍掛峠／鞍掛峠の手前500m ほどの区間はすべて崩落していて、斜度40～50度ほどの斜面のヘツリを強いられる。トラロープの設置は15箇所ほど。 ・鞍掛峠～田代平／比較的歩きやすいが、それでも崩落箇所は突然現れる。トラロープの設置は5箇所ほど。 ・田代平～五味沢林道／昭和40年代にはマイクロバスが五味沢林道を田代平まで上がってきたらしい。しかし、その林道上部にも崩落箇所がある。トラロープの設置も3箇所ほど。
参加者	L 白崎　SL 北田　小林安　土田 布能　細谷　千葉 （男４名　女３名　計７名）



殿様清水での休憩。烏帽子岳を眺めながら。



八十里越えは完成していない。田代平から五味沢林道を下る。

＜１１９７＞

岩茸石山～棒ノ折山
（793m）　（969m）

細谷　秀次



棒ノ折山山頂

奥多摩から奥武蔵への縦走路を楽しむ

前日の天候が予報より回復が遅れ、夜半まで雨。奥多摩付近では、みぞれ・雪の予報。前回の花園渓谷に続き、地下足袋での山行を考えていたが、積雪やぬかるみがあると地下足袋では辛いのであっさり登山靴に変更。念の為、チェーンアイゼンをザックに入れ集合場所へ向かう。

当初の計画から変更となり、軍畑～高水山はパスし、青梅駅からタクシーで上成木バス停の登山口へ。

登山口から暫く林道を歩き、登山道に入る。少し標高が上がると、雪がちらほら見えてくるが地面が所々白くなっている程度。滑りやすくなった道を慎重に登り、名坂峠へ。

ここから岩茸石山まではピストン。山頂直前は凍結急登で下りが少し心配になったが、慎重に進めばなんとかなりそうな状況。岩茸石山の山頂は強風が吹付け強烈に寒い。慌てて防寒着を羽織る。本当は行くはずだった高水山を拝む。

ここから棒ノ折山までの縦走路は気持ちいい尾根道とはいかず、低山の縦走路特有の名もなき小ピークの連続で地味に体力を消耗する。

岩茸石山から棒ノ折山の中間付近で富士山が見える場所があったのでそこで昼食。見えないと思っていた富士山と昼食でパワー回復。残りの縦走路を進む。

黒山を経由し権次入峠に到着。棒ノ折山までもう少しの所で木の根だらけの急登。木の根に乗ら

ないように慎重に進み棒ノ折山山頂到着。山頂からは都心のビル群、筑波山が見渡せた。残念ながら日光連山は霞んで確認することは出来なかった。

山頂で小休止し、さわらびの湯に向かって下山開始。下山後には温泉とビールが待っている！権次入峠から尾根コースで下山したが、思ったより距離があり、木の根だらけ。所々大きな段差が出来ていて迂回したり、手を使ったりしながら慎重に下る。登山者が多いので、山が削られ、そこが雨で流され段差ができる。段差を避けるため横に逃げそこがまた掘れていく悪循環となっている。所々に階段も設置されているが、その階段も崩れてしまっている状況。登山道の整備には多額の費用がかかるのは理解できるのだが、修復が行われる事を望みたい。木の根だらけの登山道に悪戦苦闘したが、計画通り 15 時にさわらびの湯に到着し解散となる。希望者のみさわらびの湯に立ち寄り帰路についた。

概　要

山 名	岩茸石山～棒ノ折山		
月 日	2021 年 12 月 18 日(土)		
山 域	奥多摩・奥武蔵		
形 式	日帰り	**グレード**	2A
目 的	奥多摩から奥武蔵への縦走路を楽しむ		
費 用	4,900 円	**交通機関**	JR タクシー バス　私鉄
行 程	我孫子 5:12→新松戸 5:26/50→西国分寺 6:47/55→立川 7:01/05→青梅 7:42/50→（タクシー）→上成木バス停 8:10/25⇒登山道入口 8:40⇒名坂峠 9:30⇒岩茸石山 9:40/55⇒雨沢山手前 11:20/40（昼食休憩）⇒権次入峠 12:27⇒棒ノ折山 12:45/13:00⇒岩茸石 13:20⇒さわらびの湯 14:55/16:06→飯能 16:51/17:00→池袋 17:55/18:01→上野 18:18/24→我孫子 18:59　〈歩行時間 7 時間〉		
ルート状 況	・主な分岐には標識がありましたが、滝ノ平尾根に分かりにくい箇所があり、ルートを間違えてしまい引き返しました。		
参加者	L 小島徹　SL 佐藤清　土田　細谷 布能　吉川　小山　北角　大賀 （男４名　女５名　計９名）		

＜１１９８＞

大仏ハイキングコース 源氏山
(93m)

飯塚　秀子

鎌倉大仏コース 源氏山（白旗山）93m

今回は久しぶり上り電車に乗っての山行です。電車の乗り換えはいつも人の後ろを付いて行くばかりでよく頭に入っていない。上野駅乗り換えで 1 本早い電車に乗ってしまったことでちょっと動揺しながらも長谷駅で下車。朝が早かったので人も少ない。

今日の最高気温は 9 度だと言っていたが、長谷寺の展望台からは由比ガ浜でサーフィンをする人の姿が見えた。次に鎌倉大仏で写真を一枚。大仏ハイキングコース入口から木道の急な階段を上がり所々海が見え近くの山が見える山道を小一時間歩き源氏山公園へ到着。軽く昼食をとり源頼朝像を通り抜け源氏山山頂へ到着。

次に寿福寺に向かい坂道を降りているとリスに遭遇。後で鎌倉市の HP を見てみると特定外来物に指定された「タイワンリス」のようです。寿福寺の入り口が閉まっていて奥まで入ることができませんでしたが、長く続くきれいな参道でした。

次に行く鎌倉歴史文化交流館への道に戸惑っていると地元の方らしき人が声を掛けて下さり道を教えてもらうと「途中にある古我邸は見た方がいいですよ」との事。これで二人の方に声掛けされました。鎌倉市民からのおもてなしを受けた気分になりました。古我邸（旧岩崎小弥太邸）はレストランになっていて 1500 坪の敷地をちょっと一周り。我孫子市だって北の鎌倉と言われているがこれが個人の別荘だったなんてケタが違う。

鎌倉歴史文化交流館、佐助稲荷神社、銭洗弁財天と住宅街を歩くがこちらは人が多い。踏切を越え小町通りを抜け、鶴岡八幡宮を参拝し若宮大路にあるお蕎麦屋さん「段葛こ寿々」に入る。手打ちの細麺で薬味がたっぷりで美味しい。締めにわらび餅を注文、モチモチしてねっとりと柔らかい。わらび餅の原料は何かと店員さんに尋ねてみるとあの蕨を粉にしたものだという。あっという間に完食。とても満足でした。

帰りの電車では事故があり戸塚駅で折り返し運転となり下車、京浜東北線に乗り換える。携帯電話ですぐに調べ品川駅で乗り換えを指していたが、車内アナウンスでは運休している。とっさの時にも落ち着いて状況を判断する同行者の皆

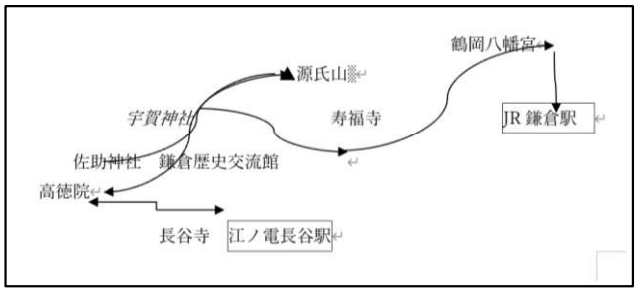
さんの行動がとても勉強になりました。今年は初詣もままならずにいましたが、これで１年を締めくくらせてもらう事とします。紅葉も少し残っており年の瀬にゆっくりと歩く事ができました。

概　要

山 名	大仏ハイキングコース 源氏山		
月 日	2021 年 12 月 18 日(土)		
山 域	湘南、鎌倉		
形 式	日帰り	グレード	１A
目 的	鎌倉の社寺で１年の納を行う 年の暮れをゆっくりと過ごし来年の健康と幸を祈る		
費 用	約 3,000 円（休日おでかけパス）（その他拝観料 1,000 円）	交通機関	JR 江ノ電
行程	我孫子 6:12→上野 6:45/54→戸塚 7:30/32→鎌倉 7:44→長谷駅 8:25⇒長谷寺 9:10⇒高徳院（鎌倉大仏）9:20/30⇒大仏ハイキングコース⇒10:20 源氏山公園（昼食）源氏山 11:15/35⇒寿福寺 11:50⇒鎌倉歴史文化交流館 12:15/50 ⇒佐助稲荷神社 13:05⇒銭洗い弁天 13:20/40⇒鶴岡八幡宮 14：40⇒鎌倉駅 15:10/26→我孫子 18:00 〈歩行時間 6 時間〉		
ルート状況	・年間山行計画では鎌倉アルプスで予定されていたが、通行止めの為、大仏ハイキングコースで実施した。ハイキングコースは緑豊かな自然林や海の眺望、あちこちにリスが現れ、寺社を結ぶ内容たっぷりの満載コースだった。		

参加者	L 高橋芳　SL 飯塚　箕輪完　蟹江 （男１名　女３名　計４名）

概 念 図





紅葉のハイキング



源氏山山頂



高徳院　鎌倉大仏

個人山行　会山行として計画、募集しながらコロナ蔓延による緊急事態発令中のため、個人山行に変更した山行の報告をしていただきました。

大遠見山報告　2021年3月22日（月）～23日（火）　　**白馬三山、五竜岳、鹿島槍ケ岳の眺め**



北アルプスの春の山　満喫

布能　英子

今回の山行は前泊で白馬五竜のコテージを利用しました。現地スーパーで買った食材で料理しながらのビール一杯は格別に美味しかったです！ 暖かくて新しい木の香りがする広い部屋で密を避けながら、手づくりの料理を食べながら山の話で盛り上がりました♪。

二日目、リフト終点から始まった登山。真っ白な白馬三山、黒い菱模様がはっきりした五竜岳、そして荘厳な鹿島槍ヶ岳を眺めながらの登山でした。天気は無風快晴で青空と白い雲、関東では考えられない北アルプスの春の姿を満喫しました。下りでは妙高山、火打山、雨飾山も一望できて、「これって大きなおまけですね」って‼

下山後に寄った白馬グランドホテルの露天風呂で今度は白馬三山が一望でき、最高の癒しになりました♪ 。

圧倒的！鹿島槍のスケール

細谷　秀次

２月実施予定の権現岳が緊急事態宣言で３月に延期され、そのうちに権現岳の雪解けが進み木曽駒ヶ岳に変更になった。直前に千畳敷カールの雪崩のリスクが高くなり、今度は遠見尾根にするという。ついに緊急事態宣言明けの３月22日に個人山行として出発。



小遠見山への稜線を歩くメンバー。右手に望む五竜岳にどこまで近づけるのか……。 降雪は予想よりは少なく、アイゼンのみで歩けた。

23日、ゴンドラ、リフトを乗り継ぎ標高1,600mから登山開始。標高2,007mの小遠見山までの上りで早くもヘロヘロになり、数歩進んでは息を整えて登る様な状態に。前を見ると、女性陣は何事も無いかの様に平然と登っている。岳人あびこ女子軍団の恐ろしさを痛感。

遠見尾根からは今まで写真やTV番組でしか見たことのない絶景が続く。残念ながら、中遠見と大遠見の中間付近でタイムアップとなり引き返す事となったが、そこで見た鹿島槍ヶ岳の絶景、スケールの大きさに感動。ヘロヘロになりながらも登ってきて良かったと思える瞬間だった。



小遠見山から望む鹿島槍ヶ岳。
息を呑む絶景に時を忘れた。

下りの小遠見山からゲレンデまではザラメ雪になり、アイゼンが効かず歩きにくかったが無事に下山。絶景の露天風呂に入った後、帰路についた。

度重なる延期、 計画変更もあったが、この絶景が見られて大満足の山行となった。

最後に、 山行を企画して頂いた小林隆リーダー、白崎さんの絶景写真、食事の段取りをして頂いた小林安代さん、場を明るくして頂いた布能さん、ありがとうございました。本当に良い山行を楽しめました。

個人山行報告			L：小島洋
爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳			G：３D
月　日	2021年8月4日(水) ～7日（土）3泊4日		
目　的	八峰キレットを越える		
費　用	54,100円（ジパング使用）	交通機関	JR ・バス・タクシー
日　程	8/４我孫子駅（5:31）→上野（6：04/34）→長野（8:05/15）（バス）→扇沢登山口（10:10/15）⇒柏原新道登山口（10:27）⇒ケルン（12:06）⇒種池山荘泊（15:00）〈歩行時間　５時間〉 8/5 種池山荘 5:10⇒爺ヶ岳南峰 5;53/6:10⇒爺ヶ岳北峰 6:55⇒冷乗越 7:50⇒布引山 9:30/40⇒鹿島槍ヶ岳南峰 10:40/11.:15⇒鹿島槍ヶ岳北峰 12:15/20⇒八峰キレット 13:37/14:06⇒八峰キレット小屋泊 14:15　〈歩行時間　９時間〉 8/6 八峰キレット小屋 5:50⇒北尾根の頭 8:30/36⇒五竜岳 12:10/25⇒五竜山荘泊 13:40〈歩行時間　８時間〉 8/7 五竜山荘 5:40⇒遠見尾根分岐 5:45⇒大遠見尾根 7:40⇒小遠見尾根 8:49⇒地蔵の頭 10:10⇒五竜テレキャビン駅 10:30→エスカルゴブラザ→入浴→(タクシー)→長野駅 15:21→(新幹線)→柏駅→我孫子駅 17:34　〈歩行時間　５時間30分〉		
ルート状況	・扇沢から爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳コースは迷うことはありません。		
参加者	L小島洋　SL村越　小林安　土田　布能　（男１名　女４名　計５名）		
メ　モ	・扇沢から種池山荘までずっと登りの為、きつく感じた。 ・２日目、種池山荘から間もなくライチョウに巡りあった。 ・八峰キレット、Ｇ５、Ｇ４と呼ばれる岩稜帯はとても緊張した。 ・最終日、唐松岳尾根下山予定を、午後に雨模様のため遠見尾根の方に変更。 ・高山植物が疲れを癒してくれました。 ・比較的に早く小屋に着きましたので、歓談が出来ました。		



←鹿島槍山頂にて

八峰キレット通過



▼五竜岳山頂にて



個人山行報告	蝶　ヶ　岳 (2677m)		L：白崎 G：２Ｂ
日　時	2021 年８月８（日）～10 日（火）　　２泊３日　テント・小屋泊		
目　的	ソロテントで穂高連峰の眺望を楽しむ	山　域	北アルプス南部
費　用	テント　約 25,000 円～小屋　約 47,400 円	交通機関	バス
１日目	8/8　徳澤キャンプ場集合（泊）　　〈歩行時間 約２時間〉		
２日目	8/9　徳澤 5:08⇒長塀尾根⇒妖精ノ池 8:30（猛烈な雨で山頂アタックを中止） 下山開始 8:35⇒長塀尾根⇒徳澤着 10:30　徳沢キャンプ場（泊）〈歩行時間 約５時間〉		
３日目	8/10 徳澤 8:30⇒上高地 BT 10:30 解散		
ルート 状　況	・上高地 BT から徳沢までは平坦路。快適に歩けた。 ・徳沢から長塀尾根を辿って蝶ヶ岳へと向かうルートは最初が急登。１時間程登ると、少しずつ傾斜が緩やかになる。登山道は整備されていて、登りやすい。 ・長塀尾根は妖精の池までのため、その後の蝶ヶ岳までのルート状況は不明。		
参加者	Ｌ白崎　SL 郷田　細谷　大賀　　（男３名　女１名　計４名）		
メ　モ	・当初の計画では、上高地 BT での集合であったが、３名が夜行バスの利用のため、徳沢での集合とした（男性３名テント泊で、女性１名が徳沢園で宿泊）。 ・天候に恵まれたのは初日の夕刻まで、それ以降はずっと雨に降られっぱなしであった。 ・２日目の天気予報は終日雨だが、１時間毎の降水量予測は数ミリ程度なため、朝５時過ぎに登山を開始。しかし、午前８時位までは小降りの雨であったが、妖精の池まで登ると、急に雨脚が強くなり、１時間に 10㎜以上かと思われる土砂降り状態になった（8:30）。 ・メンバーと協議し、先に進んでも樹林帯を抜ければ風が強いことが想定されるため（蝶ヶ岳ヒュッテからの下山者が「風がやばい」と言っていた）、ここで下山した。 ・徳沢では２日目の夕刻から風が強くなり、森の木々が揺さぶられる轟音が一晩中続き、テント泊組はなかなか寝付けなかった。 ・雨が降り止まないため、濡れたものを乾かすことができず、テント内の湿度はほぼ 100％状態。結露も発生して、テントの床面も濡れ始めた（２日目）。 ・３日目の朝も雨は降り止まなかったが、風が弱まった８時頃からテントを撤収し（濡れたまま）、８時半に徳沢を後にした。いろんなものが濡れて重量増は２キロ以上と思われる。 ・一人で徳沢園に宿泊すると、カプセルスタイルの部屋に泊まることになる。二人以上だと、通常の客室に案内される。食事は山小屋の域を超えている（大賀さん談）。 ・雨が降るなかでの調理はとてもやっかいであったが、徳沢園では炊事等を利用できた。		





個人山行報告		火打山 ～ 妙高山 (2462m) (2454m)			
月　日		2021 年 9 月 20 日(月)～22 日(水)　2 泊 3 日			
山　域		頸城・海谷	目　的	２つの百名山を縦走する	
費　用		約 40,000 円	交通機関	JR（新幹線）電車　バス	
日程	一日	9:51 上野(はくたか 559 号)→上越妙高 12:30/12:54（えちごときめき鉄道はねこまライン）→妙高高原 13:33/13:58（ケイナンバス）→笹ヶ峰 14:45　14:55～16:50 近辺散策			
	二日目	火打山登山口 6:20⇒黒沢橋 7:30⇒12 曲⇒富士見平⇒高谷池ヒュッテ 12:05/13:00(余分な荷物をデポして火打山に向け出発)⇒天狗の庭⇒雷鳥平 13:25⇒火打山山頂　14:04/14:30⇒高谷池ヒュッテ 16:00			
	三日目	高谷池ヒュッテ 6:00⇒黒沢池ヒュッテ 7:00/7:12⇒大倉乗越 7:45⇒長助池分岐 8:47/8:57　⇒妙高山北峰(昼食)　11:00/11:26⇒妙高山南峰 11:30⇒クサリ場⇒光善寺池⇒風穴 12:42⇒天狗堂 13:08⇒光明滝 14:35⇒燕温泉 15:30（入浴）/16:20（バス）→関山駅 16:50/17:15→上越妙高 17:48/17:58(新幹線 はくたか 572 号）→19:54 上野			
参加者		L 千葉　SL 北田　吉川　小野　小林安　矢野朝　(男２　女４　計６名)			
メ モ		・1 日目は「明星荘」に荷物を預け、近辺を散策。 ・2 日目は快晴。ブナの林を最初はなだらかに登る。 ・高谷池ヒュッテで昼食。荷物を軽くして火打山へ。天狗の庭で池塘に映る“逆さ火打”に感激。山頂では左手に近く日本海、苗場山、遠く北アルプスの雪嶺、雲に浮かぶ富士山が見える。 ・3 日目　火打山との分岐を過ぎると岩ゴロゴロの登山道。火打山と違い、妙高山は火山。 ・茶臼山に登ると眼前間近に妙高山。いったん黒沢池ヒュッテまで下る。 ・燕新道への分岐を過ぎると急登が始まる。やっとたどり着いた妙高山北峰で昼食。 ・燕温泉へ向けて下山開始。心配していた鎖場は思ったより短かったが、ちょっと足を滑らせば転げ落ちてしまいそうな岩場が続く。 ・天狗堂を過ぎると、九十九折の胸突き八丁が出てきて、これが長い。 ・15:30 にたどり着いた燕温泉のバス停すぐ横に日帰り入浴できる宿。「30 分で入るぞ！」とハヤブサのごとく素早く温泉で汗を流し、関山駅行きの最終バスに無事乗り込んだ。			



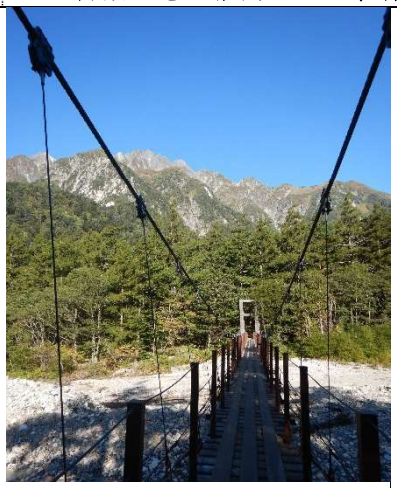
火打山山頂

逆さ火打



個人山行報告	奥穂高岳：パノラマ新道から（3190m）			
月　日	2021 年 9 月 25 日(土)～26 日(日)　1 泊 2 日　小屋泊			
山　域	北アルプス南部	目　的	紅葉の涸沢を望む	
費　用	約 30,000 円	交通機関	Ｊバス	
日程 1日目	上高地 5:40→明神 7:25→新村橋 7:45→中畑新道分岐 8:50⇒屏風のコル 11:40/12:00⇒屏風の耳 12:30⇒屏風のコル 13:00⇒涸沢ヒュッテ 14:15 〈行動時間　8 時間 40 分　距離 13.1km 登り 1254m 下り 465m〉			
日程 2日目	＊早朝から雨と 3000m 以上では初雪予報のため奥穂高岳を経て岳沢に抜けるのを中止。 涸沢ヒュッテ 5:45⇒横尾山荘 8:00⇒徳澤園 8:55⇒明神 9:50⇒上高地 10:40 〈行動時間　5 時間　距離 15.7km 登り 236m 下り 1024m〉			
参加者	L 小林隆　大畠　田村　矢野貞（男１名　女３名　計４名）			
コース概況	・登山口から奥又白沢沿いの緩やかな登山道は、前穂高岳北尾根が覆いかぶさるように見える中畠新道分岐から急傾斜になり、一気に高度を稼ぐ。屏風のコルまではきつい登山道だが特に危険個所はない。 ・コルから屏風の耳までは所どころ露岩があるがハイマツの中の緩やかな道。屏風の耳から戻る時は、屏風岩への踏み跡があるので注意する。 ・コルから涸沢ヒュッテまでは涸沢側へ急な片傾斜の登山道が続く。アップダウンがあり両手を使う箇所やフィックスロープがある区間も多い。特に下りの箇所は滑ると勢いでそのまま相当滑落すると思われるので細心の注意が必要である。また、落石の危険がある大きなガレ場が２か所あり、間隔を空けて通過するようにしたい。 ・恐怖感がなければスリリングな道で楽しめるが、長時間緊張感を持ってバランスを保ちながら行動できる能力のほか、確実な歩行技術と岩稜帯の歩行経験が必要だろう。			

新村橋を渡り、パノラマコースへ







個人山行報告		苗場山～赤湯温泉 （2145.3m）		リーダー：外崎 グレード：2B
月　日		2021年　9月28日（火）～30（木）　　2泊3日　　山小屋泊		
山　域		北信越	地形図	1/25000　苗場山
目　的		①　高層湿原の草紅葉を楽しむ　　②赤湯温泉に泊まる		
費　用		35,000円	交通機関	ＪＲ　ジャンボタクシー　バス
日程	28	我孫子5:31→上野駅6:42（たにがわ401号）→越後湯沢駅8:05/8:10（ジャンボタクシー）→和田小屋 8:45/9:00⇒下ノ芝⇒神楽ヶ峰⇒雷清水⇒苗場山山頂 15:05⇒苗場山自然体験交流センター15:15（泊）		
	29	苗場山自然体験交流センター6:45（湿原散策）/8:10⇒深穴岩 10:10⇒フクベ平 11:35/11:45⇒桂の沢6合目⇒サゴイ沢 13:25⇒沢歩き⇒赤湯温泉 14:15　（山口館泊）		
	30	赤湯温泉山口館 6:50⇒見返りの松 7:45⇒鷹ノ巣峠 8:15⇒棒沢橋・林道終点 9:00⇒ゲート 9:50⇒小日橋10:10⇒無線中継所12:25⇒元橋バス停12:30/13:01→越後湯沢駅13:45/16:01（MAX）→上野→我孫子		
参加者		L外崎　SL武内　石塚　藤家　小島洋　蟹江　大賀　北角　（男２名　女６名　計８名）		
メ　モ		**28日**・和田小屋から山頂までは過去に何度か歩いており、道も良く迷う心配はない。日光連山や谷川連峰を望みながら3時過ぎ、草紅葉の美しい広大な湿原に立つことができた。 ・山頂小屋の入り口で検温。宿泊者は15名？ほど。 **29日**・山頂付近の高台で日の出を拝む。高い山々の下には真っ白な雲海がいつまでも広がっていた。朝食後、池塘と草紅葉の中の木道を苗場山神社（伊米神社）まで足を延ばした。 ・本日は苗場山5合目の赤湯温泉（1060m）まで1100m近く下る。山頂への何本かのルートの中で一番難易度が高いコース。 ・谷底をめがけて急斜面を下る際、一歩足を踏み外せば、足下の谷底に真っ逆さま。緊張のあまり喉がカラッカラになった。 ・川のせせらぎを聞きながら、縁側に足を投げ出してくつろぐ。夕食の声がかかり、本館の居間へ下りて行くと、小鉢に盛られた数々の料理をランプの明かりが照らし出していた。 ・「戴きます」私はご飯を一口食べたところで思わず絶叫。「ご飯がおいしい」。ご主人曰く、田中陽希は丼で5杯もお代わりしたと。かまどで吟味して炊いていると話してくれた。食料調達の困難な宿で思わぬご馳走にありつけるとは。 ・寝る前に再度露天風呂へ。二度と来ることのない秘湯中の秘湯を存分に楽しめた。 **30日**・今日も簡単には下山できなかった。大抵の登山者は小日橋から車を利用するが、私たちは歩くことにしたからだ。この判断がどうだったのか。バス停に着くギリギリまで山と戦った。		



苗場山山頂

山頂からの雲海と日の出



個人山行報告	八 甲 田 山 (1584.5m)		
月　日	2021 年 9 月 28 日（火）～10 月 1 日（金）　旅館３泊４日		
山　域	東北北部	地形図	1/25000　八甲田・酸ヶ湯
目　的	錦秋の東北の山に登る		
費　用	61,000 円	交通機関	JR　新幹線　レンタカー
日　程	9/28　上野 7:14　→ はやぶさ３号 → 新青森 10:15（レンタカー借用）10:30 新青森→奥入瀬渓流→十和田湖・乙女の像→ 酸ヶ湯温泉（泊）		
	9/29　酸ヶ湯温泉 7:35⇒仙人岱 9:10/15　⇒小岳分岐 9:16⇒ 小岳 9:45/55 ⇒小岳分岐 10:20⇒八甲田大岳 11:15/40⇒上毛無岱 12:35⇒ 下毛無岱 13:15/20⇒城ヶ倉温泉分岐 13:53 ⇒ 酸ヶ湯温泉 14:15 〈歩行：５ｈ５５ｍ〉 酸ヶ湯温泉入浴後、15:00 発→嶽温泉着 16:40 嶽温泉小島旅館（泊）		
	9/30　宿 7:55→津軽岩木スカイライン→八合目 8:20/35→ 宿 9:00/30→ 岩木山観光りんご園→岩木山神社→西目屋村アクアグリーンビレッジ ANMON →道の駅津軽白神→宿 15:00(世界遺産の径　ブナ林散策道の入口)		
	10/1　宿 8:30→鶴の舞橋→三内丸山遺跡 11:15～13:20→レンタカー返却 13:30 新青森 15:52→(はやぶさ３４号)→上野 18:58		
参加者	L 佐藤清　SL 小林安　小野　布能　土田　（女３名　男２名　計５名）		
メ モ	・９月の“実技研修”山行だったので、参加者と八甲田・岩木山、青森県の「情報」を共有して、１日目に、希望の多かった奥入瀬渓流と十和田湖の観光を計画した。 ・前半２日間は好天に恵まれ、八甲田山小岳・大岳から３６０°の眺望と紅葉を満喫した。　特に、上毛無岱・下毛無岱の紅葉は見事だった。 ・後半２日間は寒冷前線の通過による荒天の予想となり、スマホのアプリ〔ウェザーニュース・NHK ニュース防災〕と山の天気〔てんきとくらす・tenki.jp〕で天気図・雨雲レーダー・高度 1500m 付近の風速などの情報をもとに天候を予測した。当日朝、車で八合目まで行ったが、濃霧と強風（１５ｍ以上）のため岩木山登山は断念した。 ・世界遺産の三内丸山遺跡は新型コロナで、閉館していたが、10/1 から開館した。 ・「見事な紅葉」「身も心も癒された温泉」「地のものを生かした食事と地酒」そして、「悠久の歴史」を感じる青森の旅だった。宿でだされた嶽きびがとても美味しかった。		



大岳山頂にて



個人山行	渋の湯～高見石小屋～白駒池		L：村越 G： ２C
月　日	2022 年 2 月 6 日(日)～7 日(月)　　山小屋 1 泊 2 日		
山　域	北八ヶ岳	目　的	雪の八ヶ岳を歩く
費　用	25,000 円(ジパング使用)	交通機関	ＪＲ　バス　ロープウエイ タクシー
日　程	一日目：我孫子 5:31→新松戸 5:47/50→国分寺 6:47/55→立川 7:01/21(あずさ 1 号) 茅野 9:07/20→(バス) 渋ノ湯バス停(1 キロ手前)10:20⇒渋御殿湯 10:49/55⇒ 渋ノ湯登山口 11 :01/09⇒高見石小屋 13 :26 泊　〈歩行時間　2 時間 30 分〉		
	二日目：高見石小屋 7 :20⇒白駒池登山口 8 :20/25⇒麦草峠 8 :52/55⇒大石峠 9 : 27/41⇒中小場 9 :56/10 :07⇒茶臼山 10 :37/56⇒展望台 11 :29/38⇒縞枯山 11 :55/12 :07⇒雨池峠 12 :53/57⇒縞枯山荘 13 :05/06⇒ロープウェイ山頂駅 13 :20/40→下山駅 13:50/14:30　(タクシー)→茅野 15:20/16:20(特急あずさ 44 号)→ 立川 18:19/25→西国分寺 18:30/38→我孫子 19:53〈歩行時間　4 時間 50 分〉		
参加者	L 村越　SL 本田　外崎　矢野貞　田村　藤家　土田　　(男 2 名　女 5 名　計 7 名)		

メ モ　・一日目 あずさ 1 号で茅野駅、バスで渋の湯まで行く。雪道なのでバスは登山口の 1KM 前までしか入れず、登山口まで 20 分くらい余計に歩いた。高見石小屋までは賽の河原を通るコース。賽の河原は風が強かった。宿に着いて時間があったのでストーブの周りや炬燵でゆっくりと過ごした。

・高見石からの夕日、日の出は素晴らしかった。360 度山が見渡せ中央アルプス～南アルプス～北アルプス～御岳山なども見ることができた。足元には真っ白に凍り付いている白駒池が見えた。

・高見石小屋は食事もおいしく、夕食後に宿のオーナーが星の解説をしてくれた。

・二日目、素晴らしい天気だったので、白駒池、麦草ヒュッテ入口を通り、茶臼山～縞枯山～雨池峠～北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅まで歩く。

・途中雪が深くて道を間違えて戻り、方向が違うと感じたので、また戻ったら実は間違っていなかった、というミスもあった。冬用の手袋を外してしっかりと地図での現在位置確認をおこたった為の失敗だった。スマホのアプリだけでなく、やはり地図で方向を確認する大切さを改めて感じた。

・今年は例年に比べて雪が多く、アイゼンでしっかり雪をとらえながら登り、そして下った。

・本格的な雪は初めてという参加者もいたが、上り下りのコツをアドバイスを受けながら、しっかりと歩くことができた。

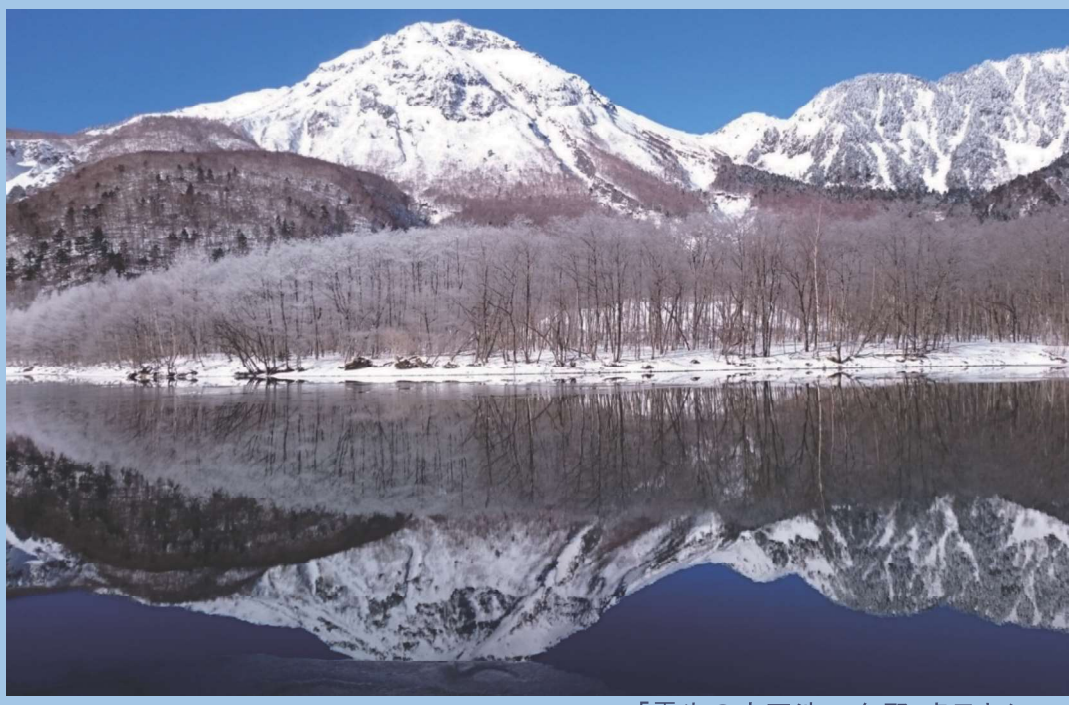
・時間があればプール平で温泉に入る予定だったがバスの時間に間に合わないのでタクシーでそのまま茅野駅まで帰った。





2022 年度

（令和 4 年度）



「霧氷の大正池」 矢野　貞子さん

2022(令和 4)年
3 月～
2023(令和 5)年
2 月

＜１１９９＞ 新人卒業山行

高　麗　山
（168m）

大賀　晶子

令和４年３月 28 日（月）新人卒業山行を、神奈川県大磯にある高麗山にて実施しました。メンバーは新人２名と一年間新人研修を指導してくださった講師の大平さん、外崎さんの合わせて４人です。

大磯駅から舗装道路を 30 分歩くと登山道に入り、高麗山を経由して浅間山に向かう。海に近い場所にある標高の低い山だが、中に入ってみると常緑樹林でうっそうとしている。「空気がおいしいな～」と森林浴を満喫し、小さなピークの上り下りとコルを越えての歩きも心地よい。途中にはスミレ、ニリンソウ、アオキの花などが咲いており、これからの登山に期待で胸が膨らむ。とりわけ大きな白い可愛い花が目にとまり「何の花??」「これはイチゴでしょ」と聞きうれしくなった。

浅間山に到着する。山と言ってもピーク感は感じられずちょっとした広場である。「ここでならテント設営ができるね」「テーブルと椅子もあって、調理しやすいんじゃない」当初の計画では、広くて平らで眺望が良い湘南平で今日の山行の目的である～山の中でテント設営と食事作り～を考えていたが、場所の変更もありということで話がまとまった。まずはテントを広げてみる。大平、外崎講師の指示であっという間に組み立て完了。思っていたより簡単でびっくりした。「今のテントは良くできているなぁ」。食事作りでは根菜類の下準備をしてきたので燃料節約と時間短縮を行い、具沢山の味噌煮込みうどんをおいしくいただいた。食後に簡単なテストがあり、「何だったかな??」と悩みながら、ヒントをもらって問題を解くことができた。学習してきたのに記憶が曖昧で、もっとしっかり学んでいこうと思った。

湘南に向かう途中、古墳時代後期の横穴（墓）を見つける。ここ大磯は全国屈指の横穴群の密集地域になっており、悠久の古墳時代にしばし思いをはせた。にぎやかな人の声が聞こえ、赤い大きなテレビ塔がドカンと現れる。湘南平に到着した印だ。頂上からは相模湾に浮かぶ江の島から三浦半島を遠望でき、北側には箱根連山に大きくてなだらかなシルエットで大山とわかった。桜もちょうど見ごろで満開。

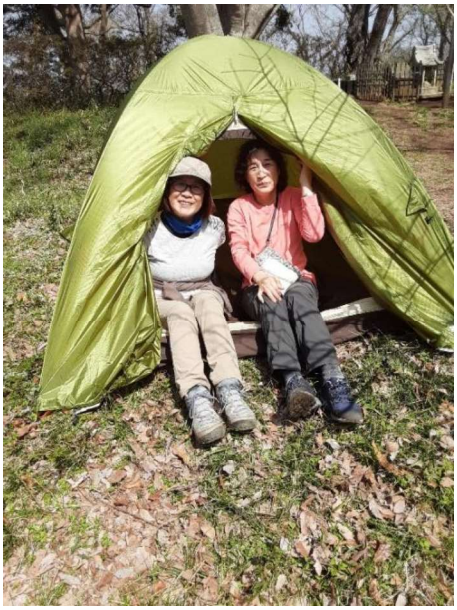
景色を堪能したあとは下山のみ。大磯駅に戻る途中寄り道をして、出発前に駅前の観光案内所で聞いたおすすめのお魚屋さんに向かう。今朝港で採れた新鮮なお魚が店内に並べられており、いくつか購入して持ち帰った。

コロナと向き合いながらも一年間を通して数々の研修を受けて学んだので、これからの山行に活用し、安全で楽しい登山を心がけたいと思います。岳人あびこに入る前は人任せで頼りきって

高麗山山頂　168m



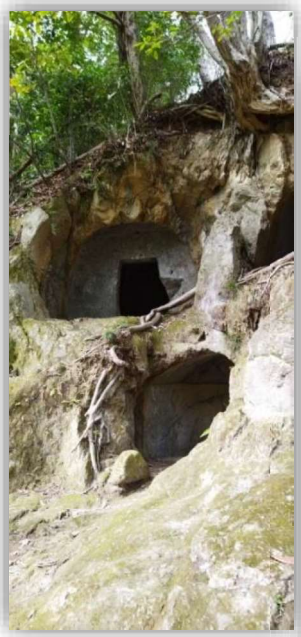
浅間山でテント設営



いたので、少しでも自立した山歩きができるよう努力しなければと感じました。今回リーダーになって進めてきましたが、大平、外崎講師のお二人にはおんぶに抱っこで舵をとっていただいたお陰で成立した高麗山でした。丁寧にやさしくご指導していただき、ありがとうございました。

概　要

山 名	高麗山		
月 日	2022 年 3 月 28 日(月)		
山 域	神奈川県南部		
形 式	日帰り	**グレード**	1 A
目 的	山の中でテントを張り、食事を作ってみる		
費 用	4,000 円	**交通機関**	JR
行 程	我孫子 6:51→上野 7:24/36→大磯 8:48/9:10⇒高来神社 9:40⇒高麗山 10:10⇒浅間山 10:50/13:15⇒湘南平 13:30⇒大磯 14:35/15:11→新橋 16:14/23→17:06 我孫子 〈歩行時間 2 時間 36 分〉		
ルート状 況	・登山道には標識がたくさん出ており、道迷いはない。 ・常緑樹林の山でツバキ、アオキの花、イチゴの花、スミレ、ニリンソウなど花も多い。 ・男坂は岩場があり、少し前に滑落事故があった。		
参加者	L 大賀　SL 北角　大平(講師) 外崎(講師) （男１名　女３名　計４名）		

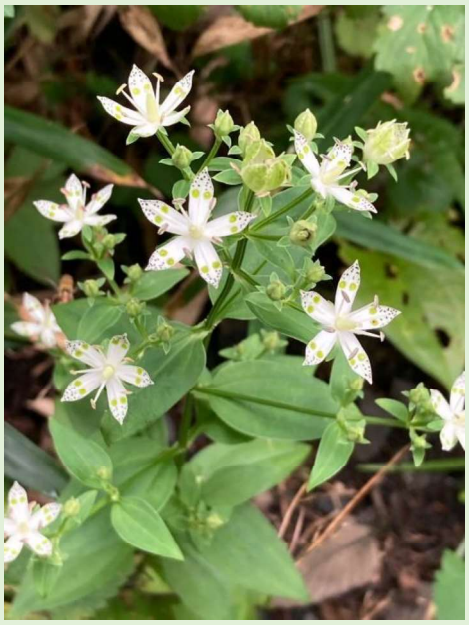


古墳時代後期の横穴群



湘南平山頂の TV 塔と満開の桜

25 周年応募写真より



「裏筑波に咲いていた曙草」
本田　愛子さん

＜１２００＞新人歓迎山行

定例山行報告（新人歓迎山行） 桜　　山　(591m)			リーダー:深草、小林安、蟹江、秋山 グレード:１Ａ
月　日	2022 年 4 月 3 日（日）（日帰り）		天候:曇り後小雨
山　域	西上州	地形図	1/25000　鬼石
目　的	新人歓迎山行と会員親睦		
費　用	7,500 円（会補助 1,000 円）	交通機関	貸切バス（大型、マイクロ）
行　程	6:00 我孫子北口ふれあい広場→寄居 PA（休憩）→本所児玉 IC→8:25/35 八塩ルート登山口⇒9:20/25 弁天山展望台⇒10:05/33 山の神手前休憩⇒桜山第一駐車場⇒11:30/12:05 日本庭園（昼食）⇒12:05/40 庭園管理事務所前（集合写真・歓迎式・ゲーム）⇒桜山山頂⇒日本庭園⇒13:30/40 第一駐車場→本所児玉 IC→高坂 SA（休憩）→17:25 我孫子北口ふれあい広場着 〈歩行時間 3 時間 45 分　休憩・イベント時間含む行程 4 時間 15 分〉		
ルート状況	トレイルランコースとして自治体の整備が行き届いている。標識も道も整備されている。標識に沿って歩けば、迷わず山頂につく。		
参加者	1 班　L 蟹江　高橋芳　桐生　北田　細谷　福山智 2 班　L 土田　高橋英　大平　本田　大賀 3 班　L 秋山　外崎　矢野裕　小島洋　白崎　佐藤健　小林健 4 班　L 富井　武内　中村育　田嶋　北角　佐藤明 5 班　L 小島徹　箕輪完　森岡　村越　福山幸 6 班　L 小林安　千葉　石塚　小野　矢野朝　中村弘 総合 L 深草　（男 18 名　女 18 名　計 36 名）		
メ　モ	・日本庭園到着後小雨が降りだした為、庭園管理事務所前広場の軒下を借り、時間を短縮し予定イベントを行った。その後雨具を着けて桜山山頂に登った。 ・桜は満開に至っていなかった。 ・日本庭園で地元観光課から雑炊と饅頭の振舞を受けた。 ・3 年越しの新人歓迎山行であったが、新型コロナ感染防止対策の制約や午後からの降雨によるイベント時間の短縮があり、従来レベルの新会員との交流が出来なかった。		



桜山日本庭園にて（雨がポツポツと……）

＜１２０１＞

高　松　山
（801m）

田嶋　まり

お天気と花に助けられた初リーダー山行

４月９日、待ちに待った山行の日が訪れた。天気予報は文句なしの晴れ。気温も高く、まさに春の陽気の中、山行の日を迎えた。実はこれは３回目の計画だった。元々は２年前の春に予定していたが新型コロナ感染の緊急事態宣言下で２年続けて中止。そしてやっと今回。３度目の正直である。

総勢 12 名で出発した。スタートして道路を 25 分程歩いた地点から、新東名高速道路工事の迂回路の仮設の階段の上り下りが続く。急に気温が高くなったのもあり体力を消耗するが、約 20 分間頑張って歩き、その後やっと山道に。山頂手前 30 分程の所には、馬頭観音があるビリ堂という変わった名前の場所がある。この名前の由来は、一番ビリ、最後にある観音堂、ということらしい。これは村の安全と五穀豊穣を願ってふもとから順に観音堂を立てた最後のものだとか。今は馬頭観音が２体あるだけである。馬頭観音とは、六観音の一つで観世音菩薩の化身。頭上に馬頭をいただいている姿から馬頭観音と呼ばれる。そしてほどなく山頂に到着。富士山がぼんやりではあるが、立派な姿を見せてくれていた。

広々とした山頂で気持ち良く昼食を取りいざ下山。バスの時刻に間に合うように時間を調節しながら歩いた。尺里（ひさり）峠まではなだらかな馬の背を歩く。途中ミツマタが群生していて時期が少し遅かったため花は下を向いていたが、花を裏返すと綺麗な黄色が鮮やかだった。最盛期はさぞ素晴らしかっただろうと想像出来る。そこからマユミの巨木のあるマユミ平や桜平などを通り、花の話題で益々テンションが上がる。ソメイヨシノは元々は１本の木から接ぎ木をして増やした、同じ遺伝子を持つ木なので花の色も形も同じだが、山桜は自然に交配して増えていったものなので、色も形も様々だということを小野さんに教えて頂いた。それで山では白やピンクの濃淡のある桜が楽しめるわけだ。尺里峠からはアスファルトの道路歩きとなるが、ここがまた左右に素晴らしい山桜がある車道で、九十九折りの道を曲がるたびに、わー綺麗～！ここも、あそこも！と歓声を上げながら下った。桜がなければ長い車道歩きにウンザリするところだが、ちょうど季節が良くて助かった。他にもマムシ草やヤマブキ、シャガ等たくさんの植物が眼を楽しませてくれた。細かい反省点はいくつもあるが、参加者の皆さんのご協力と季節の花々のお陰で何とか無事初リーダー山行を終えることができホッとしている。皆さま、本当に有り難うございました。



富士山をバックに山頂にて

概　要

山　名	高松山		
月　日	2022 年 4 月 9 日（土）		
山　域	丹沢		
形　式	日帰り	グレード	１A
目　的	春の丹沢の山を楽しむ		
費　用	約 3,000 円	交通機関	電車　バス
行　程	我孫子 5:42→代々木上原 6:52/55→新松田 8:16/25→高松山入口バス停 8:35⇒ビリ堂分岐 9:10⇒ビリ堂 10:48⇒高松山山頂 11:23（昼食）/12:04⇒尺里峠 12:45⇒ビリ堂分岐⇒高松山入口バス停 14:11 /30→山北駅 14:35/43→松田⇒新松田 14:54→相模大野→代々木上原→我孫子 17:21　〈歩行時間　4 時間 50 分〉		
ルート状況	・車道歩きが終わったところから、新東名高速道路の建設工事の仮設の階段の上り下りが20分程続いたが、道標が多く設置されていてルートは明確だった。 ・山頂手前の急斜面が荒れていて滑りやすかった。		
参加者	L 田嶋　SL 森岡　高橋芳　矢野裕 佐藤清　土田　飯塚　蟹江　小野 大賀　北田　郷田 （男５名　女７名　計 12 名）		

＜１２０２＞

高　峯　山
(520m)

齊田　記代美

膝の治療が終わって半年余り、ようやく簡単な山行ならば歩けるかなと思えるようになった。
「桜咲く山へ私の復活の山行」と決めて高峯山行に参加した。リーダーが、桜の開花状況を何度も調べてくださったおかげで、開花の時期にピッタリ当たった。
羽黒駅に集合し山桜を中心に植えられている磯部川桜公園を通り抜け桜川磯部稲村神社へ。
この境内の中を歩きながら「桜守りのボランティア」の方に山桜についてとても興味深い説明をしていただいた。平安時代の歌人紀貫之の和歌にも詠まれているように、千年の昔から桜の名所としてすでに桜川は評判になっていた所。そして、山に咲くから「山桜」と思っていたのですが、日本原産の野生の桜 10 種類の中のひとつが「山桜」でありその「山桜」の中にもさらに桜川には 10 種以上の桜があるという。しかし、私にはほとんど見分けがつかず全部「山桜」でしたが……。また、桜川では、桜と農事とが深くかかわっていて、種まきや、田植えなどを開始する合図としていた、などなど。
山桜の桜色と芽吹いたばかりの木々の淡い緑と、花が散ったあとの赤い若芽で、パッチワークのような山を眺めながら高峯を目指した。途中に、「山桜絶景」という地点は真新しい石造りの額縁があった。山全体を見渡せる素晴らしい眺めであった。ずーっと舗装道路を歩いてきたので、林道入り口に到着した時いよいよ山道かと思いきや残念なことに林道もしっかり舗装されていた。リーダーの日ごろの心掛けがよかったとみえて快晴。みんな、額に汗をかきながら第一展望台に着いた。すでに 11 時半。お腹も空いたので、ここで昼食をとると、桜咲く山桜の絶景も堪能したことで、山頂を目指さなくても良いかということになってしまった。展望台のわきには、林道と並行しここを歩きたいと思える山道があった。ここによく来るという方によると、この山道は有料のマウンテンバイク専用道で、土日祝日ともなるととても賑わうということでした。しかし平日はほとんど来ないからと、その方はこのマウンテンバイクの山道を登って行った。しばらくするとマウンテンバイクに乗った人が下りてきて、登山者が登ってきて危なかったと怒っていた。そしてそれからスイスイとさらに下って行った。物珍しそうにこのバイクを眺めていた T さんによると電動補助付きのマウンテンバイクという。しばらくするとさっき歩いて登って行った方が、今度は正規の登山道(舗装道路)を下ってきて、マウンテンバイクの人に怒鳴られて気分が悪いからもう帰ります、と下山して行った。もちろん歩く人用の舗装道路を。なんだか漫才のような話だが、石造りの額縁、登山者用の舗装された道、快適そうなマウンテンバイクの道、補助付きマウンテンバイクなどなど、何とも山にはそぐわないなと感じた。
さて、我々も下山しバスに乗って帰ることにした。途中「だいだら坊の背負い石」と書かれた標識があり、仲間の数人が林道を外れて見に行った。私はここぞとばかり休憩の時間にした。さて、どんな石だったのか聞きそびれてしまったが、巨人



「山桜絶景」にて

ヤマザクラ(高峯山)を目指して

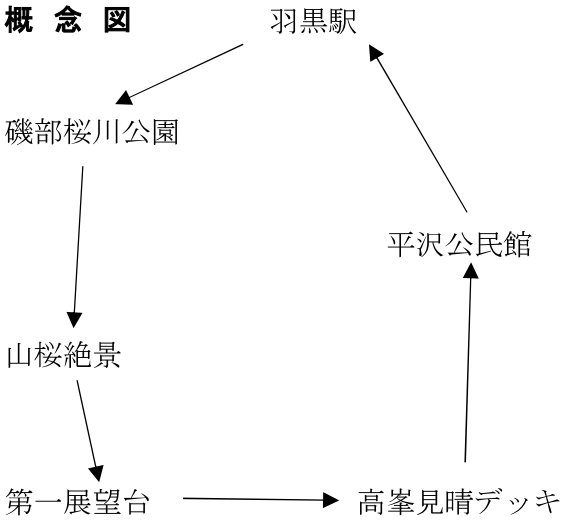


伝説が残るこの地方の歴史をまた感じさせてくれるひとコマでした。最近完成したという「高峯見晴デッキ」で、再び高峯の全貌を眺め、バス停「平沢公民館」からタクシー2 台に分乗して羽黒駅にもどった。
ピークハントを目指さず、のんびり山桜をめでる山行。こんな山行は私にはぴったりだったが、古（いにしえ）と現代が入り交ざる不思議な山行であった。

概　要

山 名	高峯山		
月 日	2022 年 4 月 11 日（月）		
山 域	茨城西部		
形 式	日帰り	**グレード**	1A
目 的	茨城の山桜を楽しむ		
費 用	約 3,800 円	**交通機関**	JR タクシー
行 程	羽黒駅 8:30⇒磯部桜川公園（桜川の桜）桜の説明 8:50/10:00⇒山桜絶景 10:45⇒第一展望台 11:30/12:30⇒高峯見晴デッキ 12:50/13:00⇒平沢公民館 13:30/14:00（タクシー）→羽黒駅 14:10/51　〈歩行時間　3時間〉		
ルート状況	・市道、林道とアスファルトが続いた。		
参加者	L 秋山　SL 矢野貞　本田　齊田 新谷　田嶋　土田　大賀　大山 渡辺清（会友） （男3名　女7名　計10名）		

概 念 図



＜１２０３＞

碓　氷　峠
(956m)

佐藤　清宏

歴史・文化に触れながら峠越え

『碓氷峠は群馬県安中市松井田町坂本と長野県北佐久郡軽井沢町との境にあり、信濃川水系と利根川水系とを分ける中央分水嶺である。江戸時代に五街道のひとつとして整備された。中山道の関東と信濃国や北陸とを結ぶ重要な場所で、関所が置かれ厳しい取り締まりが行われた。峠の前後に坂本宿と軽井沢宿が置かれ、その距離は２里 26 町（約 10km）、峠頂にある熊野神社の標高が約 1200m、坂本宿の標高 460m で、その標高差は 760mあるから、通行者にとってはかなりの難所であった。』と、Wikipedia にある。

横川駅に降り、まずは峠の釜めしを求めて店に行くが本日休業。気を取り直して街道を歩き始める。すぐに碓氷関所跡。「入鉄砲に出女」の取締りのため“改女(あらためおんな)”が置かれたとの L の解説に皆さん納得。おじぎ石の前では通行人になりきる T さんの姿があった。

霧積川を渡り坂本宿にはいる。両側の家並みには宿場町の風情を残した建物もあり、一茶や牧水が泊まった旅籠の跡との解説を聞く。八幡宮で休憩。狛犬の顔が面白い。

国道 18 号線を横断し峠越の道に入る。いきなりの急登だが足元のエイザンスミレが可愛い。杉木立の中に堂峰番所の跡。両方の谷がせまった場所をさらに掘り切って、道幅だけにして番所を置いた。やがて道は急でゴロゴロと石が多くなる。碓氷峠で一番の難所、刎石坂である。ゴロゴロ石は柱状節理が崩れたもの。坂を上り切り、覗で先ほど歩いてきた坂本宿を見下ろす。弘法の井戸の水を大きな柄杓ですくい、皆で手を浸した。気持ちがいい。堀切に到着。L の解説で、秀吉の小田原攻めの時に北陸・信州軍を迎え撃つ松井田城主が防戦しようと道を狭くするため尾根の両側を掘り切った所だという。確かに 10m 程極端に狭くなっている。だが、防戦は失敗したそうだ。座頭ころがしの急な坂道の上で昼食。高い樹木は芽吹いたばかりで周囲の見通しは良くヤマザクラやミツバツツジが見られた。

栗が原を通過。明治天皇巡幸の時「見回り方屯所」が置かれた。これが交番の始まりである。山中茶屋跡から陣馬が原に上がる山中坂は「飯喰い坂」と呼ばれたそうだ。坂本宿から登ってきた旅

人は空腹ではとても駄目なので手前の山中茶屋で飯を喰って登ったそうだ。

陣馬が原から道は二手に分かれる。右は和宮が通った緩やかな道。我々は左の急な長坂をとる。アブラチャンに励まされながら、ついに峠頂の熊野神社前に着く。随身門前で集合写真。ここの狛犬もユニークな姿だ。門の中央を群馬・長野の県境が通る。群馬県側が熊野神社、長野県側は熊野皇大神社、皇大神社にご神木・シナノキがある。県境線は神社の前の茶店の中を通り見晴台まで続いていた。見晴台からは水墨画のような妙義山と雪を頂く浅間山が近い。

ここから軽井沢まで一気に下る。別荘地を通過し、旧軽井沢銀座通り手前の矢ケ崎川に架かる橋を渡る。軽井沢宿の飯盛女が客を見送り別れた所、それで二手橋とか。旧軽銀座は閑散としていた。新型コロナの影響か？軽井沢駅までの長い舗装路歩きは足にこたえたが、SL が一足先に駅構内の店で峠の釜めしを全員分注文してくれていた。

ひたすら山の頂上をめざす登山とは異なる、歴史や文化の解説を聞きながらの今回の「山行」をおおいに楽しむことができた。L の学識の豊かさと SL の配慮に大感謝である。

概　要

山 名	碓氷峠		
月 日	2022 年 4 月 13 日(水)		
山 域	浅間　軽井沢		
形 式	日帰り	グレード	1A
目 的	中山道の坂本宿を訪ね、新緑の中山道の難所「碓氷峠」を越える		
費 用	8,000 円	交通機関	JR　新幹線

行　程	我孫子 6:01→上野 6:34/58(新幹線あさま 601 号)→高崎 7:44/8:02（信越本線）→横川 8:36/50⇒碓氷関所跡 8:50/9:00⇒坂本宿⇒碓氷峠入口 10:10⇒番所跡 10:15⇒柱状節理⇒弘法の井戸 11:10⇒刎石山⇒堀切跡 11:40⇒昼食 12:00/25⇒山中茶屋跡⇒陣馬が原 13:31⇒碓氷峠頂上・熊野神社 12:20/35⇒見晴台 14:35/50⇒軽井沢宿 15:50⇒軽井沢駅 16:20/47（新幹線はくたか 568 号）→上野 17:46/18:02→我孫子 18:36 〈歩行時間　5 時間 55 分〉
ルート状　況	・横川駅から碓氷峠入口までは通常の広い道路。 ・坂本宿には古い家が残り、中山道の宿場町の面影が蘇る。 ・碓氷峠はいわゆる片峠で群馬県（坂本宿）側からは峠の頂上まで登りが続く。トイレはない。 ・碓氷峠の頂上から軽井沢までは下りが続く。
参加者	L 矢野朝　SL 北田　佐藤清　中村育 村越　外崎　室崎　北角　石塚 桐生　蟹江　大賀　室崎育美（ゲスト）　（男 4 名　女 9 名　計13名）



坂本宿八幡宮
男女双体道祖神



熊野神社にて

＜１２０４＞ 新リーダー研修

定例山行報告（新リーダー研修１）	**筑　波　山**（875m）		**リーダー**:矢野貞 **グレード**:1A
月　日	2022 年 4 月 27 日　（水曜日）　日帰り		
山　域	筑波山系	**地形図**	1／25000　筑波
目　的	新リーダー研修１		
費　用	1,000 円	**交通機関**	自家用車
行　程	我孫子駅 9:15→男の川登山口 10:50/11:10⇒尾根出合 11:51⇒自然観察路⇒男体山頂上 12:20/25⇒御幸ヶ原 13:00/25⇒女体山 13:35/46⇒御幸ヶ原 14:05⇒自然観察路⇒坊主山 14:50⇒駐車場 15:40　〈歩行時間　3 時間 30 分〉		
ルート状況	・裏筑波山の男の川及び女の川は現在立ち入り禁止区域に指定されています。今回、この変更に気付かないで歩いていました。下山後ヤマップには注意情報が表示されました。 ・自然観察路の通行禁止区間が整備され全面通行可能になっています。 ・御幸ヶ原のトイレは女体山側が綺麗に改修済みでした。男体山側はまだ工事中です。		
参加者	Ｌ矢野貞　SL 桐生　SL 本田　田村　石塚　土田 新リーダー:松下　小山　一氏　（男２名　女７名　計９名）		
メ　モ	・低気圧が北上していて夜から朝まで雨が降っていた。11 時頃には小降りになると確信し、出発を２時間半余り遅らせた。登山口では雨がやんでいて雨具は必要なかった。 ・休暇を取って参加された方もあり、予定通り研修ができて良かった。 ・ニリンソウが満開でした。　ヤマブキソウも見ることが出来ました。 ・林道に近い所では山ツツジが満開でした。		



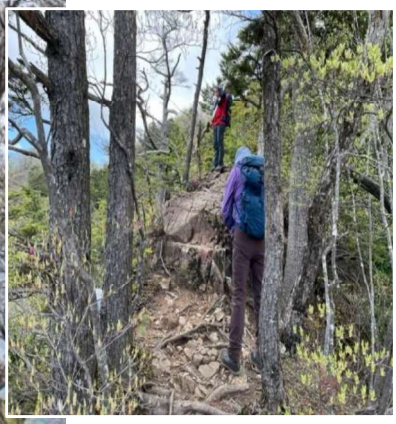


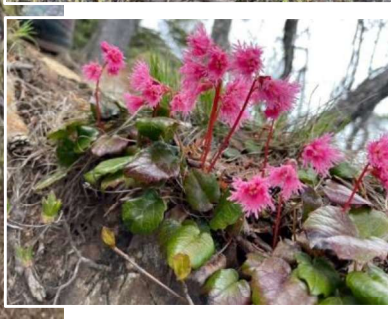


＜１２０５＞　新リーダー研修

定例山行報告（新リーダー研修２）　　滝　子　山（1620m）　　リーダー:矢野貞　グレード ： 2B			
月　日	2022 年 5 月 7 日　（土曜日）　　日帰り		
山　域	大菩薩山系	地形図	1／25000　　笹子
目　的	新リーダー研修 2（岩稜帯を標準時間で歩いてみる）		
費　用	4,000 円	交通機関	ＪＲ　　タクシー
行　程	我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→高尾→大月駅集合 8:10/8:20→(タクシー)→桜森林公園 8:50⇒浜立山 11:24⇒滝子山 11:40/12:10⇒男坂・女坂分岐 12:30⇒男坂・女坂上り口分岐 13:15⇒初狩駅 14:50/15:35→大月駅 15:41 〈歩行時間　5 時間 15 分〉		
ルート状況	・滝子山の南陵登山口には経験者向きの看板があったが、数年前登った時よりも矢印等がはっきり表示されていた。また、以前、下山口近くの渓谷沿いは流木などで荒れていたがそれも綺麗に整備されていた。 ・南陵の上部にイワカガミの群生が見られた。少し早かったが綺麗だった。 ・下山は頂上直下は急坂だが、それを過ぎると明るい広葉樹林帯でとても気持ち良い登山道である。		
参加者	Ｌ矢野貞　SL 小島徹　田村　土田 新リーダー:小山　細谷　　（男３名　女３名　計６名）		
メ　モ	・岩稜帯を登っている時他の登山者に「健脚ですね」と声をかけられた。会に入って初めての経験であった。 ・健脚の新リーダーを先頭に楽しくあるけた。 ・今回も低気圧が来ていて、2 日前から天気図を確認。登りはじめ位までは雨が残ることを覚悟して催行。 ・家を出る時はざあざあ降りだった。大月に着いたら、雨は止んでいたが曇天、富士山は見ることが出来なかった。		







＜１２０６＞

別子銅山東平・奥祖谷
（750m）

高橋　芳恵

昨年から山行募集にお願いしていた四国山行。世界に名だたるかつての別子銅山を越え、西赤石山まで至るロングコースとこれまた四国で一番美しいと言われている三嶺をめぐる山旅。昨年はコロナ禍での取りやめとなったが、今年は実現できることとなった。いずれも長い時間の歩行が必須となり、私もそれなりのトレーニングに努めて参加したが、あまり熱心にトレーニングに励み直前に体調悪化でリーダーを心配させてしまった。

１日目

初日は現地　伊予三島のホテルロビー集合とのことで参加者それぞれが飛行機、新幹線を選び現地でのレンタカーに分散することとなった。ところが私たち 4 名が乗った JAL は高松空港着陸を試みるも霧が深く着陸できないとのことで出発地羽田に引き返すこととなった。永年飛行機を利用しているが着陸を目指した飛行機が着陸できず上空で待機するのは初めてで ANA や JETSTAR 機も同様に上空で待機しているのが機内から見えた。羽田に戻った後、次の飛行機で着陸できない時にはまた引き返すのを条件に搭乗、今度は無事 13 時過ぎの高松空港到着となった。しかし JETSTAR を利用した S さんたちは引き返すことができず、残念ながら、参加を見合わせることになってしまった。

東平 3段の索道場。最上段が貯鉱庫、上段が選鉱された鉱石の貯鉱庫、下段が索道基地。



集合前に各グループそれぞれが石鎚山、琴弾公園、丸亀城等観光に分かれて楽しむことができた。伊予三島のホテルは連泊、シングルルームと心地よく、この街は特に大王製紙（エリエール）の存在感があり、24 時間煙突から煙を出して地域の経済の中心であることが分かった。

２日目

天気が悪いこともあり予定の西赤石岳までの行動は取りやめて元禄時代から続く当時世界有数の銅山、別子銅山を中心としたハイキングに切り替えることとなった。

お恥ずかしいことに、私はここに来るまで別子銅山の価値を知らなかったのだが、元禄以前、豊臣秀吉の頃から注目されていた銅山であり、住友財閥の元となった著名な銅山であることを知った。普段はバスの運行のある東平（とうなる）は県道崩落の為直接行くことができず、遠登志（おとし）登山口まで車で向かい駐車スペースにレンタカーを止め、そこから登山を開始した。入り口には鉱石の「おい」を背負って仲持として働く少女の姿があり、女性でも 30 キロを超える鉱石を背負って山道を運搬したと説明があった。銅山では坑内で度々火災や水が出て鉱夫たちは苦しめられた。明治に入り手で採掘していた鉱石をダイナマイトで掘削するようになると多量の鉱石を運ぶ鉄道が必要となり、新居浜まで鉱山鉄道が開通した。鉱山町は 5000 人もの人が暮らし、新居浜にも無いような 1000 人も入る劇場まで作られたとのこと。必要なものは全て揃った町となった。道すがら生活の後を感じさせる石垣が積まれた長屋跡、釜や茶わんの欠片が当時の町を彷彿とさせる。

東平（とうなる）には巨大なレンガ造りの 3 段からなる索道場（鉱石を運び出す施設）があり、周辺にもレンガ作りの建物が見られる。「東洋のマチュピチュ」と言われている。第三通洞のトンネルは鉄道が走っていた跡が見られた。この全体が産業遺跡として指定されている。リーダーの話から新居浜の人が嫁入り箪笥をこの山の中の地に買い求めに来たとは、どれほど栄えていたのか想像する。観光用のバスが止まっていることもあり、本当に私たちだけの遺跡見学となった。

３日目

天気予報は良くなかったが、登山できなければ観光を予定することにして三嶺を目指して名頃登山口に向かった。途中有名な祖谷街道を大歩危・小歩危を通って行く。名頃登山口では雨模様であり、本日の三嶺登山を協議の上、

断念した。ここは平家の落人で有名な奥祖谷。山の上まで民家があり、まさにマチュピチュである。それでは観光ということになり、まずは祖谷のかずら橋。昔はかずらの木だけで編んで作った橋であっただろうが、今はしっかりとワイヤーがかけられている。なかなかの風情がある。

町の一番高所にある鉾杉と武家屋敷旧喜多家に立ち寄り、武士の生活の一端を体験した。東祖谷歴史資料館には壇ノ浦で生き延びた安徳天皇の資料がある。安徳帝は平国盛と共にこの地に逃れたとのこと。つなぎを全く使わない郷土の祖谷そばの味覚もなかなかであった。

これから先は3つのグループに分かれ、剣山登山・石鎚山登山・高松市内観光とそれぞれが思い思いに有意義に楽しむ旅となった。

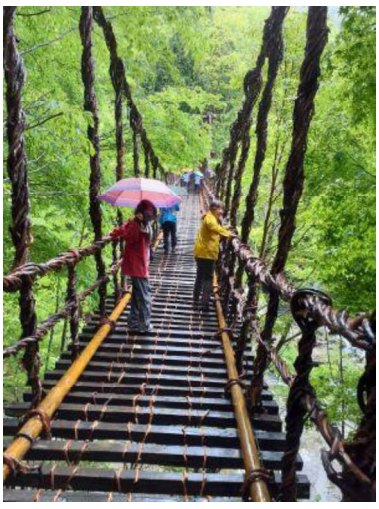
リーダーの故郷のおすすめの山を紹介いただき、四国を巡る山旅は雨の中とはいえ、良い経験ができた楽しい旅であった。リーダーから送られてくる資料に目を通しながら想像する時間は心地よかった。リーダーには大変な負担をおかけしたのではと案じられるが、おかげで四国をもっと知りたい、また来てみたいという参加者がほとんどであったと思う。私もできるだけ早い時期に、最も美しいと言われる三嶺に是非再訪したいと念じている。

千葉リーダー、本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

概　要

山　名	別子銅山東平・奥祖谷		
月　日	2022年5月11日(水)～13日(金)		
山　域	四国		
形　式	山麓泊	**グレード**	2B
目　的	産業遺産を巡る(銅山越～西赤石山)／四国一美しい尾根(三嶺)		
費　用	約25,000円（四国往復は各自）	**交通機関**	レンタカー

日程	**一日目**	千葉県→香川県　18:30　ホテルロビーに集合。 愛媛県四国中央市　ホテル グランフォーレ
	二日目	ホテル 7:00→高速利用→道の駅マイントピア別子→遠登志（おとし）登山口 8:30⇒東平登山口　10:50⇒別子銅山跡地(昼食) 11:00/12:20⇒遠登志登山口 13:38→マイントピア別子（入浴）→ホテルグランフォーレ 〈歩行時間　3時間20分〉
	三日目	ホテル 5:00→R192、32、祖谷街道（2:00）→三嶺名頃登山口 天候回復が望めないため、山行中止を決定。全員でかずら橋、歴史民俗資料館等見学、昼食後 解散
ルート状況		・普段は車で入れる東平（とうなる）。アクセスの県道が崩落による通行止めで遠登志登山口から歩いて向かった。 ・遠登志登山口は分かりにくく、駐車スペースは2台停めるのがやっと。 ・道は途中から沢沿いになり、登山道から崖状に落ちていて、水流も激しいため注意が必要。 ・特に第三通洞への分岐からの道は、いくつも腐りかけた木の小さな橋を渡らなければならない。 ・東平は開けていて、普段は資料館などが開いている。トイレもあり、休むことのできるあずま屋もある。
参加者		L千葉　SL北田　SL佐藤清 高橋芳　田村　矢野貞　中村育 本田　村越　小林安 （男２名　女８名　計10名）



武家屋敷「旧喜多家」（右）
奥祖谷二重かずら橋 男橋（左）



＜１２０７＞

西 沢 渓 谷
（1400m）

大賀　晶子

癒しの森で森呼吸（しんこきゅう）

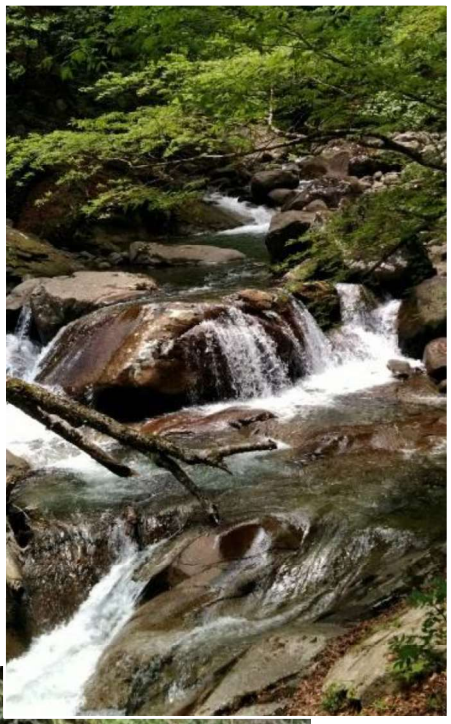
JR 中央線に乗り継いで 9:06 に山梨市駅、そして山梨市駅からバスに乗ること約 1 時間で西沢渓谷入り口に到着した。歩き始めてすぐにドライブイン不動小屋があり「よもぎ餅おいしいですよ～」と呼び声が聞こえる。一個 170 円とお値段は少々高めだが、自然のよもぎを使った添加物不使用の手作り、見た目にもよもぎの緑が鮮やかで美味しそう。「行動食でいただこう」と思い買い求めた。

深い森に入るとゴーゴーと水の流れる音が大きく聞こえ、川や滝つぼに体が引き込まれるような感覚になる。気持ちの良い風がさぁ～っと吹いてきて「なんて気持ちのいい渓流あるき!!」西沢渓谷は森林セラピー基地に認定されており、癒しの森でたっぷりと森呼吸し、リフレッシュ!!

歩き進んでいくと、線路らしきものがちらほらと現れる。線路は廃線になったトロッコ列車の名残りで、昭和 8 年～43 年迄三富村と塩山駅を結ぶ 36 kmの西沢森林軌道でした。塩山駅まで下る時には（せび）と呼ばれるブレーキだけで下り、登りは馬で引き上げていたそうです。昭和 20 年頃からは、ディーゼル機関車と馬で運んでいたらしい。険しい渓谷での作業は危険がつきもの、当時運材夫をしていた『彦一さん』が操作ミスで、トロッコと一緒に沢に転落して負傷したことから『ひこいっちゃんころばし』と呼ばれる場所がありました。傾斜が激しく足を滑らせたら、まずは上がって来られないでしょう。当時使われていたトロッコの見本が置いてあり、歴史に思いをはせることができました。

大久保沢を越えるとシャクナゲ大群落地に着く。雨で土が削られてしまい、根っこが崩れ、シャクナゲは元気がない。かろうじて咲いているピンクの花びらがひときわ目立って美しかった。周りにはカエデやモミジの木が覆っている。「秋の紅葉はきれいだろうなぁ～」。木々の間からは鶏冠山のゴツゴツした、ニワトリのトサカのような岩峰が存在感たっぷりとそびえていた。

14:40 に登山口に戻り、15:10 のバスに乗り、16:10 発の中央線で我孫子に向かった。



清流　西沢渓谷



西沢渓谷橋の集合写真

＜１２０８＞

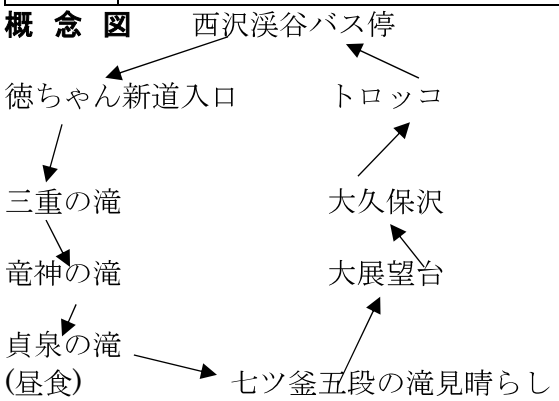
雁ヶ腹摺山～楢ノ木尾根
（1874m）

田村　光子

概　要

山 名	西沢渓谷		
月 日	2022 年 5 月 19 日（木）		
山 域	奥秩父		
形 式	日帰り	グレード	1B
目 的	新緑と滝つぼをめぐる		
費 用	約 5,500 円	交通機関	JR 山梨市民バス
行 程	我孫子→新松戸→西国分寺→高尾 7:41→山梨市駅 9:06/12→(バス)→西沢渓谷 10:15/25⇒徳ちゃん新道入口 11:00⇒三重の滝 11:20⇒竜神の滝 11:35 ⇒ 貞 泉 の 滝 11:45 ⇒ 昼 食 11:55/12:20⇒七ツ釜五段の滝見晴らし 12:50⇒大展望台 13:10 ⇒大久保沢 13:30⇒トロッコ 13:40⇒西沢渓谷 14:40/15:10→(バス)→山梨市駅 16:10/17:05→西国分寺→我孫子 20:40　〈歩行時間 3時間 35 分〉		
ルート状況	・交通機関注意:平日と土・日・祝日とでは運行会社が異なり下車駅も異なる。 ・登山道は概ね整備されているが、橋の崩落のため七ツ釜五段の滝へは行くことができない。 ・七ツ釜五段の滝壺を見ることのできる方杖橋を渡ると、迂回路としてトロッコ道への新しいルートが作られている。そこが15分程度の通過地点ではあるが急登に設置された梯子やトラロープに沿って登って行く。足場が安定しない場所でもあったので、今回はグレードを「A」から「B」に変えた。(実際のところは「A と B の中間」)。		
参加者	L 小山　SL 小島徹　田村　大賀 村越　吉川　田嶋　秋山　外崎 高橋芳　矢野貞 （男２名　女９名　計 11 名）		

概 念 図



山行行程が長いため、大月駅 7:25 集合なので、我孫子駅 4:52 の電車に乗る必要がある。成田線 1 番電車では間に合わないので送ってもらう。

大月駅からジャンボタクシーで大峠まで行く。大峠から 1 時間程で雁ヶ腹摺山に到着したが、あたり一面濃霧の為に五百円札で有名な富士山は残念ながら見ることはできなかった。雁ヶ腹摺山には何回か登っているがバリエーションルートの楢ノ木尾根は初めて下山するコースなので不安であったが、計画書のメモには雁ヶ腹摺山まで登れば後は下りが主と書いてあったので参加させていただいたが、地図上には出ないアップダウンがいくつもあり思っていたよりもハードな山行になった。

ミツバツツジ・終盤のシロヤシオや新緑に癒され、いくつかのピークを踏み最後の水無山にたどり着いた。途中日を受けた新緑の美しさに感激する。ここからが一時間強の激下りであったが、落ち葉で地面がふかふかで足には優しかったので何とか登山口にたどり着くことができました。

このコースはバリエーションルートで、入る登山者が少ないため所々不明瞭な所もあったが、トップを歩いてくださった Y さんが的確にルートを見つけてくださり余りロスすることなく歩くことができました。今日の累積標高は上り 804m、下り 1830m で圧倒的に下りが主で余り経験した事のない山行でしたが、バリエーションルートの楽しさや面白さを感じることができ、企画してくださったリーダーに感謝です。1 日気の合った仲間と歩くことができ有難うございました。



雁ヶ腹摺山山頂にて

＜１２０９＞

アポイ岳・伊達紋別岳
（817m）　（715m）

外崎　蓮
小野　泰子

概　要

山 名	雁ヶ腹摺山～楢ノ木尾根		
月 日	2022 年 5 月 22 日(日)		
山 域	大菩薩連嶺		
形 式	日帰り	グレード	2B
目 的	新緑の緩やかで長い尾根歩き		
費 用	5,000 円	交通機関	JR　タクシー　バス
行 程	大月駅 7:20　（タクシー）→大峠 8:05/15⇒雁ヶ腹摺山 9:10/20⇒ダイカノ頭 10:10⇒カラマツ立 10:20/30⇒29 号鉄塔（三ツ石タツマ先)11:20/11:50（昼食）⇒栂尾根の頭 12:50/13:00⇒大峰 13:15/25⇒水無山 14:20⇒上和田 15:30/14:04(バス）→大月駅 16:45 解散 〈歩行時間　6 時間 30 分〉		
ルート状況	・楢の木尾根は雁ヶ腹摺山 h1874m～上和田 h500m と次第に下っていく。しかし､急な下りや登り返しも多く楽なルートではない。 ・大峠～雁ヶ腹摺山は整備されたルート。 ・楢ノ木尾根に入ると所々不明瞭な部分あり。 ・道標はちゃんと立っていて､赤テープもつけられている。 ・三ツ石タツマを過ぎ､29号鉄塔があるピーク前に鉄塔巡視路が分岐している。 ・大峰から上和田へ下る道を探したが､廃道になっていて見つけられなかった。水無山まで進み､そこから上和田に尾根沿いに下りた。 ・最後の里に下りる道がわからず､急な斜面を下りなんとか登山口標識のある地点にたどり着いた。		
参加者	L 千葉　SL 矢野貞　田村　秋山 土田　小島徹　佐藤健 （男４名　女３名　計７名）		



ギンリョウソウ

花と蝶のアポイ岳

一行 9 名は羽田発 8:00 の ANA53 便で新千歳空港へ向かった。機体はほとんど揺れることなく、1 時間半後には北海道の大地に降りた。荷物を受け取ると、専用のバスで JR レンタカー店へ移動する。3 台借用し、これから 4 日間ドライバーの方々には大変お世話になる。

本日の行程は、北海道のダイナミックな自然に触れながら、太平洋沿岸を襟裳岬方面に向かう。日高町、新冠町にさしかかると、緑の牧草地がはるか山の端まで広がり、足の長いスマートな馬があちこちの柵の中でのんびりと草を食んでいる。いかにも競争馬の産地らしい。お昼時になり、道の駅「サラブレッドロード新冠」に車を停めてラーメン店に入った

食後、ここからほど近い判官館森林公園へ向かう。その昔、九郎判官義経が平泉を脱出してこの地に落ち延びたという伝説に由来しているとか。広い園内にはキャンプ場や遊歩道が整備されている。時折、海からの湿気を含んだ靄が植物園に立ち込め、白いオオバナノエンレイソウが霞んで見えた。

森林公園を後にひたすら海岸線を走り、今晩の宿・アポイ山荘のある様似町へ向かった。えりも町の手前の町である。

様似町は 2015 年、アポイのかんらん岩や高山植物などの貴重な自然が評価されて「アポイ岳ジオパーク」としてユネスコ世界ジオパークに認定された。明日はアポイ岳に登る。その事前学習？のためにビジターセンターに足を延ばした。地球深部のマントルのこと、アポイ岳の成り立ち、かんらん岩、固有の植物等について見学した。時間があったら下山後にもう一度ここに寄って、じっくりと復習してみたいと思った。

5/24(火)早朝、アポイ山荘のフロントで朝食を受け取り、各自が部屋で済ませた。今日はアポイ岳に登る。この山に貴重な高山植物が多い訳は、かんらん岩が大きく影響しているといわれる。かんらん岩から作られた土壌には、植物の生育を阻害する成分・ニッケルやマグネシウムが多く含まれていて、平地の植物の侵入を防ぐバリアになっているのだそうだ。アポイ岳には固有種だけでも

30 種近く生育しているという。

6:15 登山開始。緑に染まった森の中に入るや深呼吸する。道の脇には合目の書かれた大きな看板が立っていて、どこを歩いているのかとても分かりやすい。視界が一気に開けて 5 合目の山小屋に到着した。アポイ岳と太平洋が見えている。いよいよ花の山の核心部に突入する。私たちは小野泰子博士の指さす花々を見逃すまいと目を凝らし、解説を聞き逃すまいと耳をそば立てる。

7 合目付近で、アポイ岳周辺でしか見られないという茶褐色の高山蝶を研究しているグループに出会った。ヒメチャマダラセセリは国の天然記念物に指定されているという。花だけではないのだ。

博士の声は一段と高まってきた。崩壊した斜面を好むアポイクワガタ、アポイ岳で最もポピュラーなアポイアズマギク、岩の隙間から茎を伸ばし、ピンクの花を咲かせているヒダカイワザクラ、葉に生える白い綿毛のあるヤマハハコ、アポイタチツボスミレは葉の裏が紫色をしていて、それを確かめようと何度ひっくり返して見たろう。キタダケソウそっくりのヒダカソウに会えなかったのが残念である。

アポイ岳に登頂後、植物が多いとされる吉田岳方面に足を延ばしたが、直ぐに山頂に引き返し、ダケカンバの木陰の下で昼食を食べた。

通常、ハイマツ帯はダケカンバなどの林を抜けた上部にあるものだが、アポイ岳では様相が変わっていて、山頂一帯がダケカンバの林で覆われていた。幹こそごつごつと曲がっているが、風にもめげず、真っ直ぐに空に向いて立っているのはどういうことであろう。これもかんらん岩と関係があるのかも知れない。5 合目の山小屋に下りて来て森に入ると、ハルゼミが賑やかに鳴きだしていた。

アポイ岳頂上



14:10 ビジターセンターの駐車場に戻る。時間があき、近くの観音山公園に足を延ばした。園内には 33 体の観音様が祀られている。山ツツジが見事であった。

この後、昨日寄った道の駅に立ち寄り、明日のお弁当を仕入れて、今晩の宿・むかわ温泉ホテルに向かった。　　（外崎蓮）

シラネアオイの山　伊達紋別岳

5 月 25 日水曜日快晴。伊達紋別岳:714.5m に登る。リーダーから「シラネアオイの山」ともいうと説明があった。登山開始間もなくから見たこともないような見事な群落が次から次へと幾つもいくつも開花している。五合目までの樹林帯の林床でも、上部の丈の低い笹原でも登山道の両側に今を盛りと開花している。青紫色の四弁をたっぷり広げ花の大きさもとても大きい。薄い紫、濃い紫、桃色、濃い桃色、純白、底白で周辺は青紫と花色もさまざまで変異に富む。日光白根山などでは鹿に食され激減しているが、ここでは逞しく生育している。この状態が続いていくように願う。

少し前のシラネアオイの説明では「日本の被子植物中、唯一の固有科で「シラネアオイ科　シラネアオイ属　シラネアオイ　1 科 1 属 1 種」とされ注目を浴びる存在だった。現在では DNA に基づく分類が主流となりキンポウゲ科　シラネアオイ属シラネアオイとなり「シラネアオイ科」は消滅してしまった。残念！シラネアオイは変わっていないのに。

登山口から五合目までは樹林下をゆっくり登り、五合目からは笹原となる。七合目は一服広場と名付けられ、文字通り一服。元気をもらってさらに登る。ようやく前紋別岳（715m）に到着。ここから下り登り、やっと紋別岳山頂（714,5m）に到着。山頂標識の下に「おつかれ山」と書かれたプレートが置かれている。くすりとする。羊蹄山、洞爺湖、中島、有珠山、昭和新山が周囲に広がる。特に残雪の羊蹄山は蝦夷富士の別名通り素晴らしい山容を誇っている。暫し絶景を味わう。苦労して登った皆と集合写真をパチリ！

下山で目立ったのは土埃。伊達紋別岳の表層には有珠山等からの火山灰が堆積している。この火山灰はセメント粉末と同様に粒子は細かく色は白っぽいグレーである。前日も快晴だったこともあり、セメントの粉末を踏みながら下山の状態で土埃が凄い。（水分を含めばベトベトひっつく）宿でのお風呂が有り難かった。

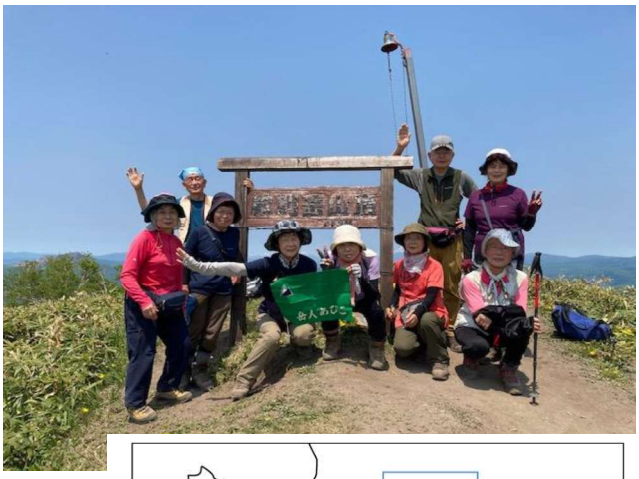
沢山の花々に出会いました。別格はシラネアオイでした。　　（小野泰子）

概　要

山　名	アポイ岳・伊達紋別岳		
月　日	2022 年５月 23 日(月)～26 日（木）		
山　域	北海道南部		
形　式	ホテル３泊４日	グレード	２B
目　的	高山植物の宝庫アポイ岳と早春の花が咲く伊達紋別岳を歩く		
費　用	41,400 円	交通機関	JR　航空機　レンタカー

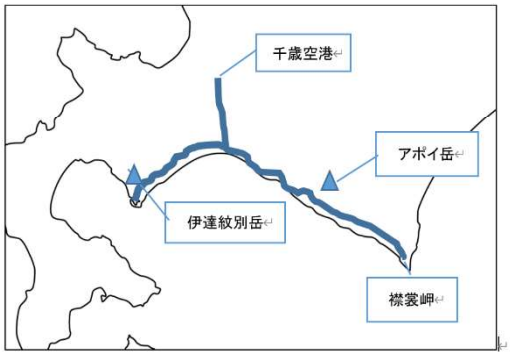
日程	一日目	我孫子駅 5:31→羽田空港 7:00/8:00ANA53 便→千歳空港 9:30 レンタカー借用 10:48→道の駅サラブレッドロード新冠 12:07（昼食）12:45→判官館森林公園 13:00/14:30→道の駅みついし 15:18/26→アポイ岳ジオパークビジターセンター 16:20/17:00→アポイ山荘 17:05（泊）
	二日目	アポイ山荘 6:00→登山口（80m）6:05⇒五合目 7:58/8:15⇒七合目 8:45/9:00⇒八合目 9:40/53⇒アポイ岳（817m）10:22⇒吉田岳方面の岩稜地帯に行き引き返す⇒アポイ岳 10:42（昼食）11:20⇒岩陰で花鑑賞休憩 11:53⇒五合目 12:41⇒登山口 14:12/30→観音山公園 14:55/15:20→道の駅サラブレッドロード新冠 16:40/17:09→むかわ温泉ホテル四季の風 18:00（泊）
	三日目	ホテル四季の風 5:58→有珠山 SA6:35/45→伊達 IC7:00→伊達紋別岳登山口（70m）7:46/8:00⇒草分け神社跡 9:00⇒五合目 9:30⇒七合目いっぷく広場 10:02⇒みはらし平 10:29⇒前紋別岳 10:44⇒紋別岳（715m）11:17/50（昼食）⇒みはらし平 12:29⇒いっぷく広場 12:57/13:10⇒登山口 14:26/39→伊達温泉 15:00（泊）
	四日目	伊達温泉 7:50→昭和新山・三松正夫記念館 8:10/9:15→道の駅そうべつ情報館 9:30/10:00→壮瞥公園洞爺湖展望台 10:05/20→ホロケナシ駐車公園 11:35/48→白老 IC→苫小牧西 IC12:03→支笏湖ビジターセンター 12:50(昼食・散策)15:00→千歳空港 16:00(ANA７８便)19:03→羽田空港 21:35→我孫子駅 23:13
		・千歳空港でレンタカーを３台借り、３名ずつ乗車し行動した。

ルート状況	・アポイ岳と洞爺湖有珠山２つのジオパーク（地質遺産公園）を巡る山行。 ・判官館森林公園は新冠町のキャンプ場もある広大な敷地の公園。源義経伝説がありオオバナノエンレイソウ群落や春の山野草が多く咲いていた。 ・アポイ岳は国指定特別天然記念物アポイ岳高山植物群落でかんらん岩の地層が露出しアポイやサマニを冠した高山植物の固有種が多く咲いていた。花の百名山でもあり多くの登山者で賑わっていた。 ・観音山公園は３３体の観音が祀られ山ツツジ等が咲いていた。 ・伊達紋別岳は火山灰を踏んでの歩行。シラネアオイが見頃で五合目以降の稜線歩きでは有珠山、昭和新山、洞爺湖を眼下に、白銀の羊蹄山も遠望できた。 ・天候に恵まれ山行が順調だったので４日目は観光とドライブを楽しんだ。
参加者	L 大平　SL 小野　外崎　桐生　石塚　小島洋　矢野朝　蟹江　田嶋 （男２名　女７名　計９名）



▲伊達紋別岳頂上

概念図



＜１２１０＞

丹　沢　山
（1567m）

本田　愛子

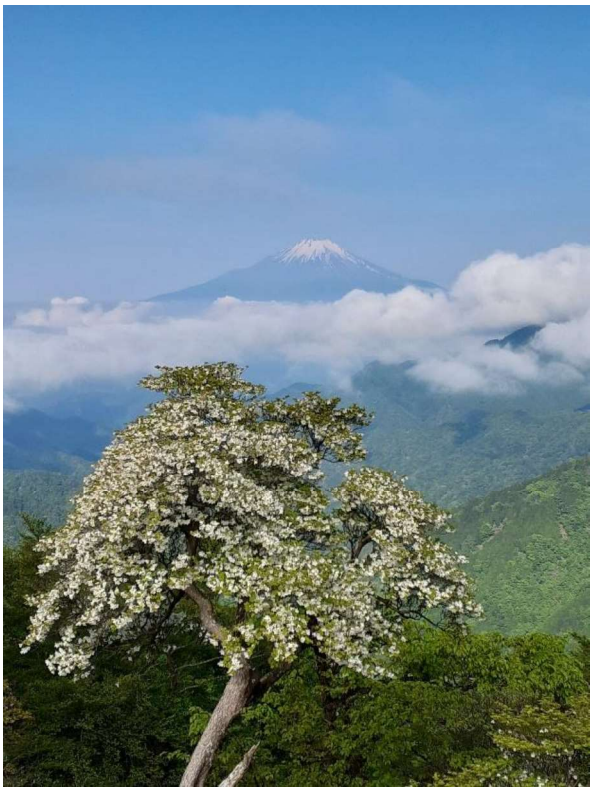
満開のシロヤシオ



やっと着いた丹沢山山頂

新緑とシロヤシオの丹沢を昨年からリーダーの新谷さんが計画して、コロナ禍で１年待っての山行計画でした。
数日前の天気予報で実行が決まり準備を始めていたところ、リーダーからお母様が急に入院されて山行ができなくなったとの連絡があった。
急遽　高橋芳恵さんがリーダーを引き受けてくれて参加者４名で決行することになった。
今年は５月に雨の日が多く、会の山行も何件か中止されたが、悪天候が続く合間の晴天に恵まれた。
久しぶりの丹沢大倉尾根に少し不安もあった。
渋沢駅からバスで大倉に下車。大倉尾根を登って塔ノ岳から丹沢山を目指すコースで階段が多く、ひたすら登るだけの通称バカ尾根と呼ばれている登山道。
大倉を８時 40 分出発、私が先頭でゆっくり歩き 6 時間の行程で歩けたら丹沢山に 15 時半には着ける予定だが……。
暫くは緩い登りが続き新緑を楽しみながら登って行くと駒止茶屋を過ぎた辺りから階段が始まり、一本松辺りから少し緩やかな登山道になり、また階段が続き堀山の家に着いた。
小屋は平日なのか閉まっていた。そろそろお腹も減った頃で昼食タイムになった。
これから先が急登の階段が始まるためエネルギー補給して花立山荘まで 1 時間余りの階段を頑張らないとならない。
焦らずゆっくりとひたすら足を運ぶ。周りを見渡すと山ツツジの赤い花が新緑の中に咲いて癒される。時々一息つきだんだんきつくなる階段を登っていくと花立山荘が見えた。
トイレ休憩して再び階段を登る。仲間のひとりが足を攣り、薬を飲んだり、カイロを貼って温めたりして休みながらゆっくり歩いた。金冷やしの分岐まで来ると後わずかで塔ノ岳山頂に着く。仲間の足つりも治ったようで安心した。
20 分ほど階段を登り詰めたら塔ノ岳山頂 14:20 に着いた。山頂は真っ白の靄で富士山は見えなかった。
20 分くらい休憩して丹沢山へ向かう。今回の目的であるシロヤシオが見られるかどうか？これからの登山道に期待して尊仏山荘の裏手から暫く下って行くと先方にシロヤシオが見えた。皆で歓声をあげた！
丹沢山までの稜線は右側に大山から表尾根の稜線を眺め、左側には富士山、西丹沢の山々、最高峰の蛭が岳稜線、ユーシン谷などを見ながらの素晴らしい登山道で、この時期にはシロヤシオにミツバツツジが満開で毎年訪れる者が多い人気の場所である。
満開のシロヤシオとミツバツツジに足を止め、撮影しながらアップダウンの稜線を 1 時間半で丹沢山のみやま山荘に 16:20 着いた。
みやま山荘の山小屋は比較的新しく評判がいい。コロナ禍でゆったり少人数だった。食事も家庭的でとても美味しかった。
真っ赤な夕陽が空を染めているのを小屋の中から眺めていた。
翌朝は良い天気で小屋のすぐ側にある展望から富士山がくっきりと大きく見えた。
昨日の稜線を戻りながら、富士山とシロヤシオを一緒に写真に収める。
みやま山荘を 6:30 に出発、竜が馬場あたりに来ると辺りが真っ白になり暫くすると霧が晴れてまた富士山を見ながら気持ちの良い稜線を歩いた。
塔ノ岳から金冷やしの分岐で昨日の大倉尾根を過ごし鍋割山へ向かった。
鍋割山までの稜線は植生が違ってシロヤシオやミツバツツジは無かった。
大丸、小丸のアップダウンはあるが、静かな稜線で新緑の中、景色を楽しみながら気持ち良く歩けた。
鍋割山に 10:20 に着いた。山荘に 10:45 から有名な鍋割うどんが食べられると書いてあったので休憩していると小屋の中から腰の曲がった草野

さん（オーナー）が現れた。私は 10 数年ぶりにお会いしてびっくりした。とてもお元気そうだったが年月が経ったのを感じた。
久々の鍋焼きうどんは美味しかった。
下山はかなり急降下で、この急登を草野さんは 30 年もボッカで荷を運んでいる。
ヤマツツジが新緑の木々の中に可愛く咲いていた。
沢沿いを下りてくると、2ℓのペットボトルが数本置いてあった。登山者にボッカで山頂まで運んでもらうためらしい。
やっと林道へきたが、これから 1 時間以上の林道歩きは疲れる。黙々とひたすら歩いた。大倉に 12:54 に戻ってきた。
今回の山行は天気に恵まれ、新緑の中、シロヤシオとヤマツツジ、ミツバツツジの満開にそして富士山に出会えて最高の山日和でした。
リーダーを代行してくれた高橋さんに感謝です。計画をたててくれた新谷さんと来年こそご一緒にシロヤシオの時期に訪れたいと思っています。



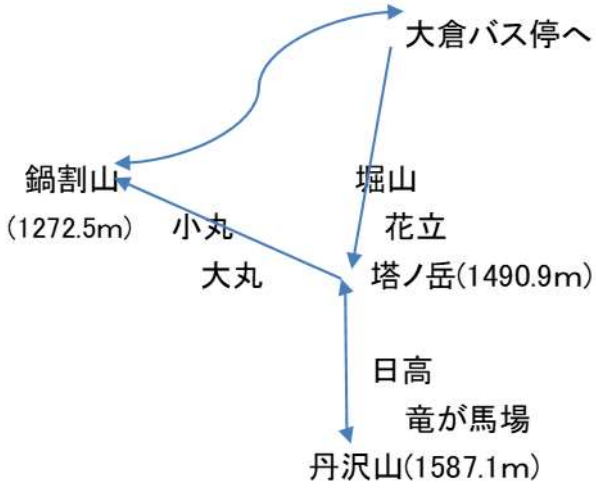
富士とシロヤシオの絶景

概　要

山 名	丹沢山		
月 日	2022 年 5 月 24 日(火)～25 日（水）		
山 域	丹沢		
形 式	山小屋泊	グレード	２Ｂ
目 的	新緑とシロヤシオを楽しむ		

費 用	12,000 円	交通機関	JR　小田急線 神奈川交通バス
日程 一日目	我孫子 5:34→代々木上原 6:44/47→渋沢駅北口 8:03/12→(バス)→大倉 8:27/43⇒雑事場の平 9:43 ⇒堀山の家 11:15/30⇒花立山荘 13:00/10⇒金冷し 13:58⇒塔ノ岳 14:25/40 ⇒日高 15:21⇒竜ヶ馬場 15:45⇒丹沢山（みやま山荘）16:17 〈歩行時間 約７時間〉		
日程 二日目	丹沢山（みやま山荘）6:15 ⇒竜ヶ馬場 6:50/55 ⇒日高 7:20⇒塔ノ岳 8:08/31 ⇒金冷し 8:55⇒大丸 9:11⇒小丸尾根分岐 9:30⇒小丸 9:46⇒鍋割山 10:20/11:10(昼食)⇒後沢乗越 12:18⇒四十八瀬川渡渉 12:51⇒二俣 13:32⇒大倉バス停 14:53→渋沢駅 15:50→代々木上原→我孫子 18:06 〈歩行時間 約 7 時間半〉		
ルート状況	・大倉尾根は階段を上るだけでなく平らな新緑の美しい登山道であることを再確認した。 ・塔ノ岳から丹沢山はミツバツツジ・シロヤシオの美しい登山道で木道も歩きやすい。 ・鍋割山から二俣までは丹沢らしい手ごわい下山道、最後の林道もきつい。		
参加者	L 高橋芳　SL 本田　佐藤清　一氏 （女３名　男１名　計４名）		

概　念　図



＜１２１１＞

三ツ峠山～清八山～本社ヶ丸
(1785m)～(1593m)～(1630m)

郷田　進

焚き火と富士に癒されて



三湖台からの富士

富士五湖の一つ西湖湖畔にテントを張り、紅葉台～三湖台（１日目）と三ツ峠～清八山～本社ヶ丸(2日目)を巡る2日間のキャンプ山行である。参加者は、男性 5 名女性３名合計 8 名のパーティである。焚き火をメインにしたキャンプのため多くの道具を運ぶ必要があり、管理用車両として中村さん（焚き火台他多くのキャンプ用資材を室崎さんから借用）に我孫子から現地までの運搬をお願いする（同乗者女性２名）。残りの参加者（男性 5 名）は、大月駅まで JR で前進し、そこでレンタカーを借りて現地集合とする。集合場所のマックスバリュー富士河口湖店（大勢のキャンパーで賑わう）で食材、飲み物等を調達し、紅葉台登山口に向かう。紅葉台～三湖台のルートは、東海自然歩道の一部であり良く整備され、新緑の中、周りの景色を眺めながらの絶好のハイキングコースである。広大な三湖台（西湖、精進湖、本栖湖の 3 個の湖が見えることから）でユックリ昼食をとる。富士山や周りの山々の景色に加え、青木ヶ原樹海の眺めが素晴らしい。樹海内にいくつか散策ルートがあるようなので次回の楽しみとする。時間もあり、隣の足和田山（山梨 100 名山）に向かう案もあるが、全員キャンプ準備（これも楽しみ）に取り掛かりたい意向なので、直接西湖のキャンプ場に向かう。西湖湖畔周辺には多くのキャンプ場があるが、設備面で優れる（ウォシュレット付き水洗トイレ、充実したレンタル品など）浜ノ家キャンプ場の最上段のグランド（通称）を貸切で利用した。資材等を搬入後、昼を少しすぎたばかりであるが、武内 SL の強い希望もあり、まずはよく冷えた生ビールで乾杯から宴が始まる。しばし懇談後、テント設営、夕食の準備、会食と進む。

夕食は、レモン鍋+焼きそば+野菜をビールとワインで大変美味しく頂く。食担係り（女性陣３名）の周到な準備の賜物である。食後焚き火を囲んでの山談義や K さんの装具解説、エピソードなどで大いに盛り上がる。締めに焼き芋を皆で味わい焚き火の優しさや楽しさを実感する至福の時間を過ごす。

翌日、朝 4 時半起床（この時期十分に明るい）、テントを撤収し、朝食をすませ 6 時すぎ三ツ峠登山口に向け出発する。本日のコースは、三ツ峠裏登山口（河口湖）～三ツ峠山～清八山～本社ヶ丸をめぐる周回コースである。特に、本社ヶ丸、清八山は、大月市秀麗富岳１２景の山であり富士山の絶景が楽しめる山である。今日も快晴、河口湖越しに富士山と湖面に映った逆さ富士がよく見える。登山口の駐車場（約２０台）は、朝７時前なのにほぼ満杯の状況であった。三ツ峠山の人気の高さが伺える。登山口から三ツ峠山荘までの道は、荷上げ用に使われる道であり、道幅は広く三ツ峠山頂まで最短（約２時間）で登れる。三ツ峠山頂では、満開のミツバツツジ越しの富士山を多くの写真家が撮影していた。三ツ峠から清八山に向かう途中にお花畑があり、カモメランやアツモリソウを見るのを楽しみにしていたが開花前であり、次回の楽しみとした。その後自然林の続く素晴らしい森の中を進み、清八山に達する。途中昼食をとり、今回山行の主目的地の本社ヶ丸に向かう。

名前のユニークさと展望の良さが評判であり以前から登って見たかった山である。今回の山行もこの本社ヶ丸山行を中心に計画・発展したものである。清八峠から少し行くと周囲が自然林になり本社ヶ丸手前の造り岩に到着する。まさに自然の展望台である。まず登ってきた隣の三ツ峠山の右に富士山、毛無山方面の山塊、御坂黒岳、そして 7 月再挑戦の予定の南アルプス連峰、八ヶ岳に奥秩父山塊、そして大菩薩嶺と続く、南側には丹沢、道志の山々と素晴らしい山梨の山深さを満喫できた。造り岩から山頂まではこれまでと異なり、数か所岩場があり確実に３点確保しながら注意

深く通過し、本社ヶ丸山頂に無事到着する。普段は静かな山歩きが楽しめるコースとのことであるが、絶好の登山日和と休日が重なり多くの登山者で賑わっていた。

駐車場に戻り、途中富士吉田の日帰り入浴施設「泉水」で２日間の汗を流し、車両２台は解散することとした。我孫子に向かう中村号は、中央道の事故渋滞が重なり、帰宅時間がだいぶ遅くなってしまった。男性陣は、大月駅でレンタカーを返し、仕上げの反省会を行う。

各参加者の積極的な協力のおかげで楽しい２日間をおくることができました。

様々な表情を見せてくれた富士山、樹海の輝き、キャンプ地西湖の賑わい、各ポイントでの周りの景色、そして何より焚き火を囲んでの仲間との団欒、通常では味わえない充実した思い出深いキャンプ山行でした。

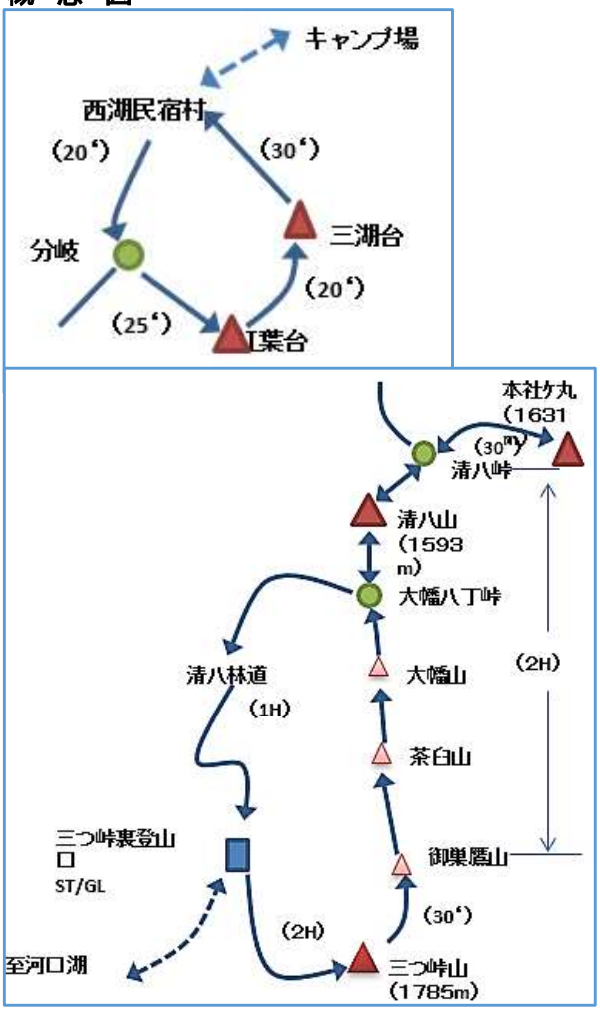


焚き火を囲んでの懇談

概　要

山　名	三ツ峠山～清八山～本社ヶ丸			
月　日	2022 年 5 月 28 日(土)～29 日（日）			
山　域	御坂山塊			
形　式	テント泊	グレード	２Ｂ	
目　的	①富士山展望と新緑を楽しむ ②焚き火を楽しむ			
費　用	11,000 円	交通機関	JR　レンタカー 自家用車	
日程 一日目	我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→高尾 7:18/26→大月駅 8:10/30(ﾚﾝﾀｶｰ)→大月 IC→河口湖 IC→買い物（管理車合流）→紅葉台登山口 9:50⇒紅葉台 10:10⇒三湖台 10:30/11:30（昼食）⇒三湖台登山口 12:00(東海自然歩道)→浜ノ家キャンプ場 12:10（テント設営、夕食、懇談） 〈歩行時間 約１時間 10 分〉			
日程 二日目	キャンプ場 6:00→三ツ峠裏登山口 6:50/7:10⇒三ツ峠山 8:30/40⇒清八山 11:40⇒清八峠⇒（昼食 30 分）⇒本社ヶ丸 12:40⇒清八峠⇒清八林道 13:30⇒三ツ峠裏登山口 14:00→入浴 14:50/16:00(解散)→河口湖 IC→大月 IC→17:00 大月駅（反省会）→我孫子駅 20:30 〈歩行時間 約６時間〉			
ルート状況	・(紅葉台～三湖台:東海自然歩道) よく整備されたハイキングコースである。 ・(登山口～三ツ峠～清八山) 危険箇所もないよく整備された登山道。 ・(清八山～本社ヶ丸) 岩場あり、3点確保必要箇所3箇所ほど。注意が必要。			
参加者	L 郷田　SL 武内　土田　中村育 小山　小林安　藤家　秋山 （男５名　女３名　計８名）			

概　念　図



＜１２１２＞

光徳～戦場ヶ原・日光男体山

（1406m）　　（2484m）

小野　泰子
森岡　正和

戦場ヶ原

朝は快晴の上天気、しかし日光に近づくにつれて雲が厚くなってくる。JR 日光駅前でバス待ち途中から雨が降り出す。晴れ時々曇り時々雨の一日となった。

アストリアホテル前で降車する。折よく雨が上がる。リーダー高橋会長から「ここで食事」と嬉しい一言。朝早くから動いているので美味しくいただく。食後スタートする。牧場を突っ切る。牛はいない。枯草に覆われた所々に草食動物の糞がある。シカ？　牧場はシカにとっては餌もあり見晴らしも良い場所なんだと思う。逆川に沿って歩き出す。10 人くらいの児童たちの様々なグループと行き会う。尋ねてみたら小６の修学旅行の班行動中とのこと。

ようやく修学旅行ができるようになったんだ。まだマスクは着用している……。あっちでもこっちでもズミが満開。それぞれ枝を広げ堂々と開花している。柏にもズミの自生はあるが、僅か数本しかない状況も厳しい。ここのズミの見事さは安心できる。素晴らしい！

ズミ:コリンゴ、コナシ、ミツバカイドウともいう。小さな実が赤く熟す。樹皮が染料に使われたことから「染ミ:ズミ」という説もある。いいとこ１週間のズミの開花。良い時期に来られたことに感謝です。

逆川橋から戦場ヶ原に入り泉門池で休憩、近くにヤマシャクヤクが生育しているので確認に動く。盛りを過ぎたばかりだったが１輪だけ見事な開花だった。戦場ヶ原の中でも最も多くの人が休む泉門池のすぐそばで今年も開花しているということは、マナーもよくなっていると思われる。湯滝を目指す。積乱雲直下と思うような降りになる。先に行くのは諦めバスに乗り込む。中禅寺湖で明日男体山登山組とさようならをする。

（小野泰子）

日光男体山

朝６時の二荒山の開門と同時に入山に向け早めに門前に集合するが、前日の雨模様から一転し快晴に恵まれ、土曜日という事もあり６時前には登山者数十人が受付に並び始めた。登拝料として千円を払い、御守護のお札を頂いてからの入山の仕組みになっている。

我々パーティーはリーダー始め総勢９名で、いよいよ本殿脇の登拝門をくぐり石段を登り始めたが、久し振りの山登りに緊張を感じながら、皆さんの後について行く。個人的には５月中旬にコロナ陽性となり、５月後半に予定していた山行を含めた全ての行動を中止し、自宅で隔離状態を続けていた。６月に入り、そろそろ活動再開を考えていた所に、今回の日光男体山山行に急遽リーダーよりお誘い頂き、多少の不安はあったものの参加させていただいた。前日の戦場ヶ原から望む雄大な姿、宿泊先の近くから目前に迫る迫力の日光男体山を見上げる度に、自らの体力の不安を嘆かざるを得なくなる。「大丈夫か？」５年程前に一度チャレンジし、パーティーの都合で６合目から下山した記憶が何度か蘇る。

石段を過ぎ更に階段状の道を行き、ブナやミズナラの森を急登し三合目の工事用の車道に出、四合目まではこの車道を歩き暫し急登から解放され足を休める事が出来た。その間、他の登山者が次々と追い越して行くが登山者は若い人が殆どで、中には２往復、３往復とする人もいると聞き、驚きを超えて呆れてしまう。ともあれ、我らは着実に安全を優先に四合目の石の鳥居をくぐり、再度本格的な登りに挑む。ゆっくりペースとはいえ厳しい登りが続く中、時折姿を見せる眼下の中禅寺湖が美しく気持ちを奮い立たせて呉れる。ようやく見覚えのある六合目を過ぎ、これ以降は初体験のゾーンとなるが、それまでと様相を変えて岩陵帯が多くなりスリルも消耗度も上がる。度々の適度な休憩とゆっ



光徳牧場にて

くりペースを指示して呉れるリーダーの指示が有難い。みんなも頑張っているし、この調子なら何とか行けそうだ。８合目に滝尾神社の祠と避難小屋があり、そこからしばらく厳しい急傾斜を登り、森林限界の九合目を超える。この辺りで急に視界が開け正面に男体山頂が見え始め登山道は赤茶けた砂礫の斜面となり足を取られる。しかしここまで来れば頂上は間近で皆の足取りも元気だ。

１０時４５分山頂に到着。360 度の展望が素晴らしい。全ての疲れを癒して呉れた。雪を冠した日光白根山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳等々……。宝剣の立つ岩上に立つと、更に爽快で、満足感に満たされる。ひとしきり皆で登頂を讃えあって、時間をとっての昼食に癒される。１１時２５分に下山を始め途中の岩稜での下りに手こずりながらも１５時２０分に登山口の二荒山神社に全員無事到着した。

途中、八合目の下りで骨折したと思われる若者が救助を待っていたが、我らのベテランメンバーが応急処置の手伝いをして上げていた。頼もしい！　暫くしてヘリコプターのホバリングの姿が見え、林道に救急車が待機していた。安全第一を再認識。

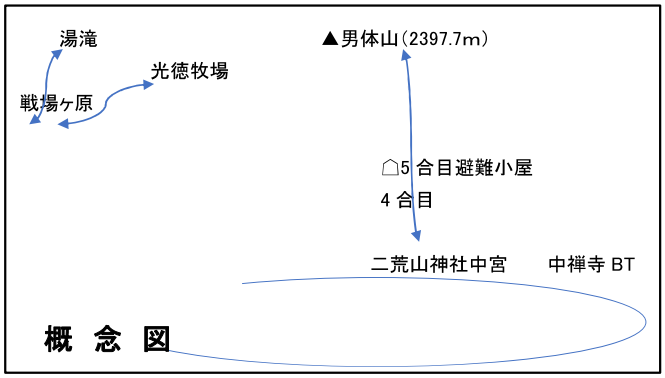
今回初めて日光男体山の頂上を極める事が出来、久し振りの登山で満足感と爽快感を堪能させて頂きました。以前の男体山の六合目までのイメージと違い、色んなバリエーションに富んだ山である事を実感すると共に安全な登下山の重要性を思い知らされる山行でした。　　（森岡正和）

概　要

山 名	光徳～戦場ヶ原・日光男体山			
月 日	2022 年 6 月 3 日(金)～4 日(土)			
山 域	日光			
形 式	日帰り/旅館 1 泊 2 日	グレード	1A/2B	
目 的	日光の花を楽しむ			
費 用	日帰り約 5,000 円 宿泊約 12,000 円	交通機関	東武電車 バス	
日程 一日目	我孫子 5:31→東武柏 5:47→春日部 6:34/44→東武日光 8:16⇒JR 日光駅 8:45（バス）→中禅寺温泉 9:25/35(バス)→アストリアホテル前 9:50/10:00⇒逆川入口 11:20⇒小田代橋 11:50⇒泉門池 12:00/15⇒湯滝（トイレ）⇒湯滝入口バス停 13:20/35→中禅寺温泉 14:05/15:40（日帰り組帰宅）⇒16:00　2 ヶ所に宿泊　　〈歩行時間　3 時間 20 分〉			
日程 二日目	二荒山神社境内 6:00⇒2 合目 6:30⇒4 合目 7:15⇒5 合目・避難小屋 7:45⇒6 合目 8:05⇒7 合目 9:00⇒鳥居 9:30⇒9 合目 10:15⇒男体山頂上 10:45(昼食と記念撮影)/11:25⇒8 合目 12:15⇒7 合目 13:00⇒4 合目 14:20⇒二荒山神社 15:20⇒(温泉入浴)15:50/17:02　(バス)→東武日光駅 17:42/18:10（特急）→春日部 19:40→東武柏 20:25→我孫子 20:35〈歩行時間　約 8 時間〉			
ルート状況	・1 日目予定していた社山入り口阿世潟⇔阿世潟峠は通行止めの為、戦場ヶ原ハイキングに変更した。光徳牧場→戦場ヶ原→湯滝 ・2日目男体山は6合目から岩稜帯となり9合目からはザレとなる。粘土質の登山道は滑りやすいため歩行に注意を要した。帰路骨折事故で救急要請をしている登山者に会い、岩稜歩きのリスクは大きい。 ・全域は二荒山神社所有の為　入山料1,000円。全域にトイレはない。（要携帯トイレ）			
参加者	L 高橋芳　SL 深草　SL 村越　外崎　北田　森岡　一氏　田嶋　吉川 （日帰り）大山　箕輪完　小野 （男５名　女７名　計12名）			



全員で登頂



概 念 図

＜１２１３＞

三　原　山
（758m）

小島　洋子

私は３年前に新聞で広告が出ていた、東海汽船ツアーで夜出港する「三原山お鉢回り＆樹海&絶景温泉コース」に参加をしました。

まず、１．伊豆大島は今までいったことがない 2．朝食とお昼及び温泉付き。に魅力を感じての参加です。また、お値段も 7,500 円（東海汽船２０周記念の為）が決め手でした。

さて、今回は高速ジェット船往復の日帰りコースを選択しました。フリーコースの為、バスの乗車券とお土産購入で使える 1,100 円分のサービス付きでした。行くまでに、天気の気がかりと船は出るのか等、気をもむ毎日でした。当日の天気は曇り。船も出港できました。

元町からバス（一般のバスでしたが、観光案内もしてくれて、与那国馬が飼われているとの案内がありました）に乗り三原山頂口に 11:20 到着。ここからがハイキングです。三原山頂口で三原山を一望できる所で先ず、全員で写真をパチリ。三原神社に向かい歩行開始。観光化されていまして、道路は舗装されていました。いたるところに 1986 年に噴火で火口から流れ出た溶岩が見られました。両サイドにはタニウツギの花が咲いておりました。三原神社に到着。噴火の際に溶岩が避けて通ったそうです。その先で昼食タイム。その後、火口西展望台で火口を見ることが出来るのですが、雲がかかり一望は出来ませんでした。しかし、三原山の雄大さに触れることが出きました。ここから、三原山頂口まで歩きました。帰りのバスの時間が 14:30 です。日帰りですと、お鉢回りが出来ないので残念です。やはりお鉢回りをするには、前日でいきませんと……。何十年ぶりかで行った人、初めての人、気楽に日帰りが可能でした。のんびり山行でしたら、一泊してサイクリング等も楽しめます。

概　要

山　名	三原山		
月　日	2022 年 6 月 5 日（日）		
山　域	伊豆大島		
形　式	日帰り	グレード	１A
目　的	新緑と海を眺める		
費　用	10,300 円	交通機関	JR　船
行程	我孫子 6:53→浜松町 7:49→竹芝桟橋 8:30→（高速ジェット船）大島港 10:35/50（バス）→三原山頂口 11:20 ⇒三原神社 12:08⇒火口展望台 12:15/45⇒火口西展望所 12:50⇒三原頂口 13:49/14:30（バス）→大島港 14:55/15:30（高速ジェット船）→竹芝桟橋→我孫子 18:40 〈歩行時間　２時間 30 分〉		
ルート状況	・東海汽船三原山フリーウォーキングに参加。 ・観光用に整備されておりました。		
参加者	L 小島洋　SL 石塚　飯塚　中村弘　飯合（会友）（男１名　女４名　計５名）		



タニウツギ



＜１２１４＞

天狗角力取山
（1379m）

武内　勇二

12 年前（2010）の 10 月、紅葉に染まる天狗角力取山～障子ヶ岳を周回したとき、途中で会った女性 2 名のパーティが「新緑、花のシーズンも素晴らしい」と言っていたのが心に残っていたので、今回は梅雨時の計画とした。当初の計画では、前回と同じく夜行バスで寒河江に入り、翌早朝にタクシーで天狗角力取山の南俣沢出合登山口に入る予定だった。しかし、夜行バスは季節運行に変わり、6 月は運行していないとわかったので、今回は登山口の「原バス停」近くの民宿（橋本荘）に前泊し、天狗角力取山を目指す計画に変更した。橋本荘までどう行くか、寒河江駅からタクシーを使えば簡単だが、どうせ時間はたっぷりあるので路線バスで行くこととした。

寒河江駅から西川町営バスに乗り、道の駅にしかわで乗り継いで橋本荘には 17 時 20 分頃についた。宿泊手続きを済ませて、民宿から 100m の大井沢温泉ゆったり館で温泉入浴の後夕食。女将さん手作りの山菜尽しの食事はとてもおいしかった。

翌朝、雨が降ったり止んだりの天気が予想されるため、民宿を出るときから全員雨具をつけた。手配済みのジャンボタクシー2 台に分乗して大井沢南俣沢出合へ。バカ平と呼ばれる平坦地を南俣沢沿いに進み、緩やかに登るうちにいつの間にか新緑がとても美しいブナ林の道となった。

小野さんが、道ばたに咲く花の名をあれこれと教えてくれた。殆どが聞き覚えのある名だが、名前と花が一致しない。「全部憶えようとしなくてもいいのよ。1 日一つ憶えればいいんだから。」優しい先生である。

焼峰（標高約 950m）は竜ヶ岳から派生する尾根の一地点に過ぎず、特に際立った地形でもない。道標がある筈だが気がつかなかった。焼峰を過ぎると谷間に雪渓が現れた。雪解け直後の湿地にはミズバショウが顔を出している。冬の間、雪の重みで潰されて進路を塞いでいる小枝を掻き分けながら雪渓に取り付く。雪面はでこぼこしているが、表面が固くしまっているので、靴を蹴り込みながら雪渓出口のテープを目標に前進する。中央部が水流で穿たれ、橋のように中央部が空洞になっている雪渓もあり、陥没に気をつけながら通過した。

猟師の水場に出た。この辺りが本日の行程のほぼ半分辺り。南俣沢出合を歩き出してから、3 時間 20 分たっていた。予想よりもやや遅いペースではあるが、時間はたっぷりあるので、焦ることは無い。竜が池の谷間は雪で埋まり池は見えなかった。登山道がやや緩くなったところで、てんでに場所を見つけて昼食を取った。

雨量観測所近くの小さな広場で、雨に濡れたヒメサユリが出迎えてくれた。期待はしていたが、季節的にまだ早いかもと懸念していただけに嬉しかった。障子ヶ岳の秀麗な三角錐が聳えていた。雨量観測所から石畳の道に変わった。暫く行くと、大きな雪渓が石畳の道を飲み込んでいた。余り勾配がないので、滑落の心配はしなくてもよい。雪渓の端をなぞるように緩やかに登り粟畑に出た。右に行けば障子ヶ岳、左は天狗角力取山、そして今登ってきた大井沢方面への T 字路を示す道標が立っている。

天狗角力取山の山頂直ぐ下に、木の生えていない空き地が見えた。天狗角力取伝説の土俵のある場所と思われる。その奥には、朝日連峰の雄大な山並みが聳えているが、頂上は雲に隠れていた。今日は天狗角力取山に登り、頂上下の小屋に泊まり、明日は粟畑に荷物をデポして障子ヶ岳を往復して、今日登ってきた道を大井沢に下る予定としている。

まずは、天狗角力取山。この面白い名は、「毎年正月、頂上直下の広場に山形県下の天狗たちが集まってきて相撲を取る行事がある」という伝説



天狗角力取山山頂にて

からつけられたようである。直径７～８ｍの円形の平らな砂地の縁を相撲場の土俵のように石が並び、石の仕切り線もある。この場所は、両方に高い峰が聳えていて、ここだけが落ちくぼんでいるので風の吹きぬける道になっている。複雑な地形により風が山にぶつかって渦を巻くために、渦の中心部の辺りが草木のあまり生えない砂地になり、小さな石が土俵のたわらのように円形に散らばるという。実際の土俵には低い草が生えていたので、少々わかりにくかったが、よく見れば円形のたわらと仕切り線が認められた。

天狗角力取山山頂にはケルンが積まれていたが、山頂を示すプレートは見落とした。小屋の管理人鈴木さんがポチ（柴犬）を連れて山頂まで上がってきた。何でも我々パーティが小屋に泊まると言うので、山開き前にもかかわらず登ってきてくれたとのこと。我がパーティが山頂付近から中々下りてこないので様子を見に来てくれたという。

小屋に入る前に水場で水をくむ。水場は小屋の左 10m ほど下の沢を利用している。玄関で雨具を脱ぎ 2 階に上がった。床はピカピカに磨かれ、とてもきれいに管理されている。管理人は、今夜は我々だけだろうと言っていたが、3 時過ぎに男女 2 人が到着、都合 14 人が今夜の泊り客だった。寝場所を確保して、早速くつろぎの時間。缶ビール（350mℓ）800 円は少々高い気がするが、朝日連峰の小屋共通の値段で、10 年ほど前から変わっていない。こんな所で、ビールにありつけるだけでうれしい。

突然、大粒の雨になった。行動中、この雨に当たらなくてよかった。夕食は食担からアルファ米とレトルトカレー持参を指示されて持ち上がっていたが、ビールとウイスキー水割りを飲んでいるうちに面倒となり、民宿で作って貰った昼食の残りのおにぎり 1 個で済ませて、寝袋に入っていたらいつの間にか眠ってしまった。9 時頃、目が覚めて外に出てみた。雲の流れは速いものの星も出ていた。明日は大丈夫かなと安心して再び眠りについた。

予想に反して、翌朝は雨が落ちていた。激しくはないが、見通しは昨日よりも良くない。天気予報では回復傾向にあるとなっていたが、山の天気はわからない。小屋で雨具をつけて出発。予定は 5 時 30 分だったが、15 分前には皆の準備が整っていた。小屋前で記念撮影。管理人の鈴木さんがシャッターを押してくれた。鈴木さんは残りの宿泊者 2 人が出発後、下山予定とのことだ。

小雨の中を栗畑まで戻る。雲が低く展望は全くない。予定ではここにザックをデポして、軽装で障子ヶ岳を往復することにしていたが、展望が全くない中を約 3 時間かけて往復する価値があるかどうか？　行くか断念するか民意を問うことにした。結果、行きたい人 2 人、断念したい人 9 人だった。障子ヶ岳は、秋の紅葉時も素晴らしいので再チャレンジしてほしいと伝え、大井沢方面へ下山を開始した。

夜来の雨でかなり雪解けが進んだようで、昨日通過したブリッジ状の雪渓もボコボコ穴が空いて通れなくなっていた。雨で滑りやすくなった赤土と落ち葉、木の根に足を取られながら、登りで教えて貰った花の名を復習しながら下る。やがて雨は完全に上がり、木漏れ日で美しいブナ林で、新鮮な空気を胸いっぱいに取り込んだ。やがてポチに抜かれ、次いで登山口近くで鈴木さんにも追いつかれた。

11 時に大井沢南俣沢出合に降り立った。もし、障子ヶ岳を往復していたら、計算上はここに下りるのは 14 時となる。ここからタクシーを呼んでいる大井沢温泉ゆったり館まで約 1 時間見て、ゆったり館到着は 15 時となる。ギリギリで左沢発の電車に間に合うだろうけど、入浴は諦めざるを得ず、結構せわしない行程となっただろう。障子ヶ岳断念は良い決断だったかと思う。

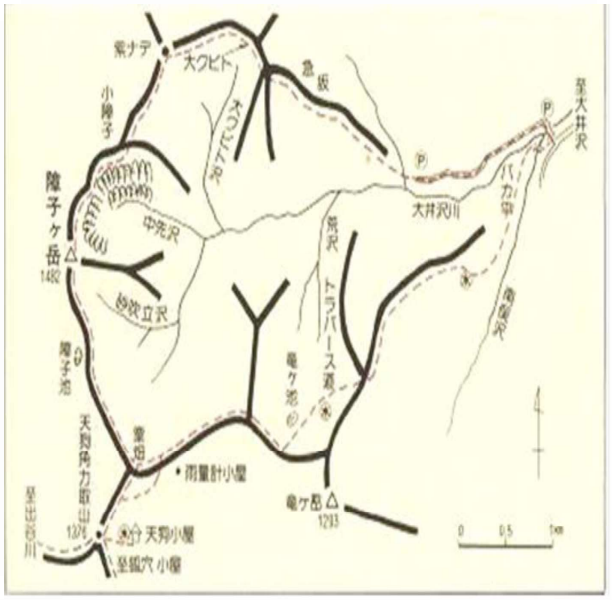
大井沢に架かる橋の上で大休止、雨具を取り思い思いに昼食を食べた。12 時半に、ゆったり館到着、橋本荘ご主人の好意で事前にここに運び込まれていた着替えを受取り、ゆっくりと風呂に入り山旅の疲れを癒やした。予定していた障子ヶ岳には登れなかったが、素朴な山形の人々とふれあい、ヒメサユリ、シラネアオイ、カタクリ、ツバメオモト等々沢山の花々とも出会い、しっとりとした静かな山が楽しめた山旅だった。

概　要

山 名		天狗角力取山		
月 日		2022 年 6 月 15 日(水)～17 日(金)		
山 域		朝日連峰		
形 式		民宿 1 泊 避難小屋 1 泊	**グレード**	２Ｂ
目 的		①朝日連峰の展望 ②新緑を楽しむ		
費 用		約 33,000 円	**交通機関**	ＪＲ 路線バス タクシー
日程	**一日目**	我孫子 10:15→上野 10:49/11:06(山形新幹線)→山形 13:44/14:19（JR 左沢線）→寒河江 14:48/53(西川町営バス)→道の駅にしかわ 15:29/16:39(西川町営バス大井沢線)→橋本荘（民宿）17:20		

	二日目	橋本荘（ジャンボタクシー２台） 6:50→南俣沢出合 7:05/20⇒焼峰 9:25/30⇒猟師の水場 10:40/50⇒(昼食)12:00/20⇒雨量観測所 12:45/55⇒粟畑⇒天狗角力取山 13:30/14:00⇒天狗小屋 14:10 〈歩行時間 約 5 時間 30 分〉
	三日目	天狗小屋 5:15⇒粟畑 5:45/55⇒雨量観測所 6:15/25⇒猟師の水場 8:00/15⇒南俣沢出合 11:00/40(昼食)⇒大井沢温泉 12:30/14:25(ジャンボタクシー２台）→左沢駅 15:20/16:15 （左沢線）→山形駅 16:56（解散）/17:05 又は 18:04（山形新幹線）→上野 20:42/54→我孫子 21:30 〈歩行時間 約 5 時間 10 分〉
ルート状況		・焼峰を過ぎ、標高 950m辺りから登山道上に雪渓が出だした。雪渓の入口･出口のテープに導かれて雪渓を渡る。斜度はそれほど無いので滑落の怖れは少ないが、雪渓の端の氷結と雪渓下の空洞に注意が必要。雪渓は粟畑まで 6～7 ヶ所あった。 ・登山道は整備されているが、下りの場合、粘土質や落ち葉で滑りやすいので注意。 ・ブナ林は見事。登山道横には高山の花々が多く楽しめる。 ・天狗小屋は快適（利用料1500円/人）。水場は小屋左の急坂を10m程下りた所の水流を利用する。
参加者		Ｌ武内　ＳＬ佐藤清　外崎　田村 矢野貞　本田　石塚　小島洋 小林安　小野　吉川　大賀 （男２名　女 10 名　計 12 名）

概　念　図





ヒメサユリ





シラネアオイ

天狗の仲間たち？

＜１２１５＞

下権現堂山・守門岳
（897m）　（1537m）

土田　義二

ヒメサユリを堪能

最終日の最後の最後に登山道に沿って今が見頃の「ヒメサユリ」が私達を迎えてくれた。
今年是非見たい山の花として「ヒメサユリ」と咲き誇る「ニッコウキスゲ」を密かに願っていたのですが、何とヒメサユリに混じってニッコウキスゲも咲いているではないですか！

2022 年 6 月 23 日（木）、24 日（金）の梅雨真っ只中に企画された新潟県の守門岳山行。天気予報はクルクル変わり不安定であったが、北田リーダーの英断で決行された。

初日の足慣らし登山のはずの下権現堂山は、雨は降らないが猛烈な蒸し暑さで大苦戦を強いられた。標高が 897ｍでＹＡＭＡＰのコースタイムが駐車場から 4 時間 25 分。これを 6 時間かかり全員クタクタで下山して来た。

暑さの中、上りで楽しみにしていた水場は涸れていて残念。それでも 5 合目付近にある新緑のブナ林での昼食は、後で写真を見ても和む風景です。新潟県内のブナ林は格別な趣があります。

下権現堂山山頂は周囲の山並みや魚沼市が良く見え、明日の守門岳への期待が膨らみます。この暑さと登山スピードで明日は計画通りコースを周ることが可能かどうか、みんな不安を漏らします。

2 日目の朝は 4 時起床。宿（大雲沢ヒュッテ）のご協力で 5 時に朝食、5 時 23 分車で宿を出て、二口駐車場登山口に車を置いて 6 時 05 分出発。

登山口付近で何人かのゼッケン姿のトレラン選手に会いましたが、聞くと 70 人の参加者を集めたトレランの大会の最中という。粟が岳、守門岳、浅草岳をめぐるトレランということで、その後も要所で選手や、関係者の姿を見かけた。訓練中のトレランの方々に会うことは結構あるが、大会にぶつかるとは嬉しい体験をさせていただきました。

空模様がおかしいのでザックカバーをしたが雨の心配はほとんどなく、昨日より気温が下がっているせいか、昨日とは打って変わってブナ林を順調に登ります。

登山道は荒れ気味だが、天気は上るほどに良くなり、大岳分岐付近では周囲の山が良く見えます。分岐を越えると袴岳からの斜面に所々残る残雪が素晴らしい眺めを提供してくれます。

10 時 20 分袴岳（守門岳）山頂直前にある青雲休憩所で 30 分の昼食休憩。ここには休憩用ベンチも有り、広々として今回は他の登山者の方もいないで、我々が貸し切り状態。

周囲の山々も見渡せ休憩するには最高の場所です。その後 15 分で目標の袴岳（守門岳）到着です。分岐から袴岳までは、シラネアオイ、ウラジロヨウラク、ニッコウキスゲその他の花がお出迎えしてくれ楽しませてくれます。

山頂からは昨日登った下権現山、越後三山を初め、浅草岳、平ヶ岳、尾瀬の燧ヶ岳、日光白根山、越後平野等 360 度素晴らしい景色が開けていました。ここでは 15 分ほど写真撮影や景色を堪能



下権現堂山頂



守門岳山頂



守門岳稜線の残雪



ヒメサユリ

して、いよいよ「ヒメサユリ」の待つ大岳へと向かいます。

分岐まで戻って大岳を仰ぎ見ると少し下ってかなりの登り。覚悟して歩いて少し行くと前方に「ヒメサユリ」らしいピンク色が見えます。勇んで登ると間もなく「ヒメサユリ」がこれでもかと両脇に咲き誇る姿に茫然とします。皆さん夢中で写真を撮ってどんどん登るが、更にヒメサユリと一緒にニッコウキスゲまで競演している箇所があります。ほんの少しお目にかかれればラッキーと思い込んでいた「ヒメサユリ」を存分に堪能させていただきました。「ヒメサユリ」を追いかけて登るうち大岳山頂にいつの間にか到着。美しい花の力は素晴らしい！

大岳を越えると後は下るだけです。この下りの道は上りほど荒れていませんが兎に角長くて、更に暑い。途中の水場を楽しみにしていたが、登山道から200m脇に降るとあり断念。

更に下りた先にある避難小屋近くの水場では、幸い冷たい水が豊富に流れていて水飲みの容器が用意されていたので、休憩して気持ちよく飲ませていただきました。

暑さと虫、一部登山道の荒れに苦しめられましたが、花と眺望に恵まれて今回の山行きは予定通りの行程を全て歩くことが出来、思い出に残る山行きとなりました。

概　要

山　名	下権現堂山・守門岳			
月　日	2022年6月23日(日)～24日（金）			
山　域	越後山脈			
形　式	山麓泊	**グレード**	２B	
目　的	残雪の越後の山（日本２百名山）に登り、ヒメサユリを見る			
費　用	23,000円	**交通機関**	新幹線 レンタカー	
日程	**一日目**	我孫子6:12→上野7:10（とき303号）→越後湯沢 8:13→（レンタカー）8:20/40→高速道（越後湯沢～小出）→(スーパー買物)9:20/40→戸隠神社駐車場 9:50/10:10⇒５合目付近（昼食）12:00/20⇒７合目弥三郎清水12:40⇒下権現堂山山頂 13:10/30⇒中腰14:20⇒戸隠神社15:50→(スーパー買物)16:30/50→民宿（大雲沢ヒュッテ）17:40　〈歩行時間　約５時間〉		
	二日目	大雲沢ヒュッテ 5:20→二口コース駐車場 6:00/10⇒谷内平 7:20⇒中間点8:20⇒大岳分岐9:50⇒青雲岳（昼食）10:20/50⇒守門岳山頂(袴岳) 11:10⇒大岳 13:10⇒キビタキ小屋 15:20⇒保久礼コース駐車場 16:10/30→高速道（小出～越後湯沢）→レンタカー返却17:50⇒越後湯沢駅前銭湯で入浴18:10/50⇒越後湯沢駅前蕎麦屋（中野屋）で打ち上げ後解散 〈歩行時間　約９時間〉		
ルート状況	・稜線斜面にところどころ雪渓が残っていたが、アイゼンは不要だった。 ・大岳から保久礼コースの下山道は、粘土質で滑りやすくきわめて歩きづらかった。 ・キビタキ避難小屋は閉まっていて使えない。ただし、すぐ下の水場は使える。 ・保久礼コース駐車場は２か所、保久礼コース登山口と小屋近くにある。登山口の駐車場に停めるほうが無難。			
参加者	L北田　SL森岡　SL佐藤清　郷田 土田　矢野朝　田嶋　秋山　大賀 （男７名　女２名　計９名）			

＜１２１６＞ゆるゆる山行

高　麗　山
（168m）

齊田　記代美

歩く喜び

昨年、右膝を手術し山行から遠のいていたところ、４月に高橋会長から個人山行「高尾山ゆるゆる山行」を計画していただきました。サポートの方を含め数名で、何度も休憩を入れながら高尾山薬王院に到着。「これからも皆さんと歩けますように」と祈願し、芽吹きが始まったばかりの中を予定のコースを歩くことができました。

下山後、おそばを食べながらの話し合いで、歩くことに不安を持っている方や、時には「のんびり歩きたい気分」と思われる方など、「だれでもが参加できるゆるゆる山行」として継続できるよう山行部会に提案することになりました。

５月は外崎さんをリーダーに個人山行「高水三山」へ。名付けられた通りの「ゆるゆる山行」でゆっくり歩いたので、下山後有名なお蕎麦屋さんに寄ることもかなわず帰ってきました。しかし改めて歩けることの楽しさを感じることができました。

そして 6 月、山行部会で了承されて本格的に「ゆるゆる山行」がスタートしました。第１回は「高麗山」。大磯駅から高久神社までの車道はじりじりとした日差しで、早くも梅雨が明けたかのような暑さの中 40 分ほど歩きました。到着した高久神社の境内は鬱蒼としていて涼しく感じられました。

神社の裏手から「21 世紀に残したい日本の自然 100 選」に選ばれた高麗山へのハイキングは 、広葉樹の自然林が残り、標高わずか 168m とは思えないさわやかな風が吹き抜け足取りも軽かったです。山頂は、木々に囲まれた広場になっており、その先の浅間山には、一等三角点があり、かつテーブルやいすもありここで休憩を取りました。

そこから少し下ったところには、町の方々が大切に育てているのだろうと思われる色とりどりの紫陽花の道があり、花も見ごろで心和む思いでした。

それから電波塔が立っている湘南平の展望台へ。ここでは湘南海岸、丹沢の山々、富士山も眺めることができました。いつもながら富士山が見えると、気持ちが高揚します。

ここからが私の膝にとって難題の下山。しかし途中には古墳時代後期のものと思われる横穴墓がいくつもあり、これらを見て、この山の歴史の古さを感じながらゆるゆると歩くことができました。

集落を過ぎ大磯の町に戻った後は駅のそばの古民家の喫茶店でお茶を飲みながら、大磯の町の雰囲気の良さや低山の楽しさを話した後帰路につきました。

概　要

山 名	高麗山		
月 日	2022 年 6 月 26 日（日）		
山 域	相模丘陵		
形 式	日帰り	グレード	１A
目 的	相模湾に面した常緑樹の森の中をゆっくり歩く		
費 用	お出かけパス	交通機関	JR
行 程	我孫子 5:31（快速）→上野 6:04/6:17（上野東京ライン小田原行き）→大磯駅 7:27/7:45⇒高久神社 8:20/9:05⇒（女坂）⇒高麗山 9:40⇒浅間山 10:30/11:00⇒湘南平・テレビ塔 11:10⇒揚谷寺谷戸横穴群 11:40⇒大 磯 駅　12:20/13:34 → 上 野 14:44/15:05⇒我孫子 15:40 〈歩行時間　2 時間 40 分〉		
ルート状況	・高久神社へは、大磯駅前から東海道線に沿って雰囲気のいい松並木を歩く。 ・下山路は浅間山と湘南平の鞍部から下った先に案内標識がある。どちらも大磯駅に下るが、揚谷寺谷戸横穴群コースの方が駅に近い。		
参加者	L 外崎　SL 高橋芳　中村八 箕輪完　齊田　石塚　蟹江　飯塚 （男１名　女７名　計８名）		

浅間山にて休憩



＜１２１７＞

布沢川大滝沢・浅草岳
（1585m）

小山　三恵

今年は異例の早さの梅雨明けで、東北南部も３日前に梅雨が明け猛暑のなかの山行でした。そして KDDI の電話回線が繋がらなかった日でもありました。

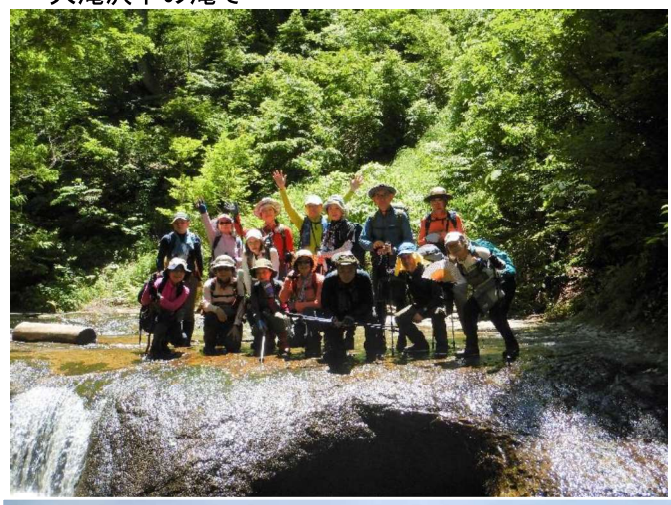
一日目は布沢恵みの森で沢歩きです。歩きだして少し迷いましたが布沢川大滝沢入渓点への道はすぐに見つかりました。そこからは沢のすぐそばにある登山道を歩いたり飛び石で渡渉したりして緩やかな滑河を登り、下の滝からナメの遡行を始めました。深いブナの森に続く滑床。流れる水が新緑のブナからの木漏れ日に光っています。私は今日のために底がフェルトで作られた沢シューズを持ってきましたが長靴で十分な滑床でした。しかし足を水に濡らしながらジャブジャブと歩ける爽快さはとても楽しかったです。滑床に深く空いた穴がいくつもありました。「甌穴（おうけつ）」と言うのだと藤家さんに教えていただきました。

二日目は浅草岳。田子倉只見沢登山口から田子倉眺めへは木道沿いの平坦な道をブナの巨木を見ながら歩き、パイプの橋を一人ずつ渡り、渡渉も問題なし。でもそこからは気温の上昇と山頂まで続く急登がジミに続き暑い！こまめに水を飲みます。外崎さんのご希望で先頭チェンジ。剣が峰は痩せていますが危険はなし。ときおり心地よい風の通り道があります。尾根に出ると、田子倉湖や鬼が面山を眺められました。出発した登山口も見えました。森林限界の稜線が見えてくるとヒメサユリが観られるようになりました。そして小さい赤トンボがたくさん飛んでいます。トンボの群れのおかげで虫が少ないのかな？

浅草岳山頂。山頂はやまなみの好展望でした。守門岳、彼方に尾瀬の燧ヶ岳、飯豊連峰。たくさんの山々。登山者も多かった。少し下がったところで昼食を取りました。そして下山を始めましたが、下山道はやや狭く、泥濘が乾いたようなもろい土で踏み外しの危険を感じました。あれ？雷の音が遠くに聞こえる。直ぐに着いた雪渓ではアイゼンは不要でした。皆さん雪で遊び雪で涼み、雪解け水で手を冷やします。そして小雨が降りだし滑りやすくなった木道を下ります。枯れた草も滑るけれど浅草岳の上部の石は濡れると滑り易かった。１３時ごろブナの森の中で雨が降り出しました。「タクシーに電話が繋がらない」と小林リーダーは一人駐車場へ急ぎます。山神の杉に到着。とても大きい。沼の平方面はロープが張ってありました。以前この場所に立ったことのある貞子さん、外崎さんたちは感慨深く眺めていました。そしてまもなく駐車場に到着。レンタカーの運転担当者と先行隊がタクシーに乗り込みました、

２日間でブナの森の滑川歩き、猛暑の登山→山頂からの眺め→雪渓→木道→草原→巨木のブナの森と変化に富んだ山行でした。

大滝沢下の滝で





浅草岳山頂にて

概　要

山　名	布沢川大滝沢・浅草岳			
月　日	2022 年 7 月 2 日(土)～3 日(日)			
山　域	上越			
形　式	山麓泊	グレード	２B	
目　的	ヒメサユリ鑑賞とぶなの森の沢歩き			
費　用	20,000 円	交通機関	レンタカー	
日程 一日目	柏 5:40→布沢恵みの森入口 10:30⇒布沢川大滝沢入渓 11:00⇒下の滝 11:50⇒中の滝 12:40⇒入渓点 13:50→森林の分校ふざわ 14:20→只見町（宿泊先旅館みなみ川） 15:20〈歩行時間 3 時間 40 分 歩行距離 5.6㎞ 累積標高差上り 65m 下り 30m〉			
日程 二日目	宿 5:45→田子倉只見沢登山口 6:25⇒田子倉眺め 8:05 ⇒浅草岳 10:55/11:40⇒天狗の庭 11:50⇒沼ノ平分岐 13:20⇒入叶津登山口 15:30→宿 16:30/17:20 → 柏 23:00〈歩行時間 8.5 時間 歩行距離 10.3 ㎞ 累積標高差上り 1.1㎞下り 1.2㎞〉			
ルート状況	・大滝沢は平板な滑滝で長靴でも問題なく遡行できるので、沢歩きに適している。また、森林の分校ふざわで長靴レンタルもあり、装備がなくても気軽に行くことができる。 ・浅草岳への田子倉、入叶津いずれのルートも登山道は明瞭で、標識やピンクテープもあり危険個所にはロープが張られている。 ・入叶津ルート上 Co1,250m 付近で岩が露出し足掛かりが小さく滑りやすい箇所が連続する。トラロープが設置されているが降雨時は注意が必要。 ・天狗の庭から避難小屋跡の雪渓はかなり後退していて登山道を歩き、雪上歩行は 30m ほどトラバースしたのみで、準備していた軽アイゼンやピッケルは使用しなかった。 ・入叶津ルートは本年まだ整備が行われていない様子で、歩行に支障はないが下草や木の枝が登山道を覆っている個所が多い。			
参加者	L 小林隆　班 L 小島徹　外崎　小山 吉川　班 L 土田　矢野貞　高橋芳 藤家　班 L 細谷　田村　村越 佐藤清　班 L 秋山　千葉　大賀 （男７名　女９名　計１６名）			

＜１２１８＞

飯豊山～大日岳

（2106m）（2128m）

鈴木　忠浩

小さく可愛いイイデリンドウ

私が初めて本格的な山行をしたのが東北朝日連峰の縦走でした。その時、遠くに魅せられたボリュームたっぷりの飯豊連峰はいつか登ってみたい山として 40 年間思い続けていました。その念願をかなえた今回の山行に感激しています。

1 日目　10 時の時点で我孫子の気温は 33℃を超える酷暑。上野駅 11:42 やまびこ 59 号の自由席に乗車。コロナ渦にも拘らず自由席はほぼ満席状態。運良く 3 名席と通路を挟んだ 1 席にメンバー 4 名が並んで座れた。今回は岳人あびこに入会して初めての山行で期待半分、不安半分の車中。郡山で在来線に乗り換え 14:58 予定通り山都駅着。予約していたタクシーに乗り込む。途中、飯豊山神社麓宮に参拝。山行の無事を祈願する。麓宮からほどなく川入民宿村杉荘に着く。物静かなご主人と話好きの奥さんが営む古民家の宿。私たちの他に父娘の 2 名が宿泊。翌日は娘だけが 3 時に出発して飯豊本山をピストンすると言っていた。

2 日目　4:00 起床。民宿で朝食をいただき、小白布沢登山口まで民宿のご主人に送ってもらう。途中、一般車の乗入を止めるゲートを開けて進み、登山口に到着。5:22 出発、一般車が止められているため、ＹＡＭＡＰや昭文社の山と高原地図でも登山ルートにはなっていない小道を進む。その割には整備のされた歩きやすいルートだ。樹林帯で蒸し暑くＴシャツが搾れる程の汗をかいた頃に地蔵山南側の峰秀水（地蔵水場）に着く。身体が欲していたこともあり、今まで飲んだ中でも最上級に美味しい水だ。地蔵山西分岐を西に折れて下降すると、いよいよ最難所の剣ヶ峰の岩稜帯に取りつく。2 か所の鎖場を慎重に登る。視界 50 メートル程のガスで谷底が見えないことで高所恐怖症の私も難なく通過できた。

9:33 三国岳避難小屋に着く。ここから種蒔山まではハシゴ一ヶ所を含むアップダウンを繰り返す。左手西側には雪渓を纏った飯豊連峰最高峰の大日岳が雲の合間から時折姿を見せる。この辺りからチングルマ、ニッコウキスゲの群生が見られる。11:45 種蒔山ピーク北側にヒメサユリとニッ



大日岳山頂にて

コウキスゲが仲良く咲いていた。ここで写真休憩。ここからなだらかな下りと登り、ルートの両側にはクルマユリ、ハクサンコザクラ、タカネマツムシソウ等々多くの花が咲いている。

12:24 切合小屋着。夕食はカレーライスだったのだが、私はウイスキーを飲みすぎて寝てしまい食べることができなかった。気が付いたときには特大おにぎりが枕元に用意されていた。メンバーの皆さん、管理人の方には大変ご迷惑をかけてすみません。

3 日目　4:00 起床。時折トタン屋根を叩きつける雨が降る。5:20 雨はやんだが、視界 30 メートル程度の濃霧。上下カッパとスパッツ着用で出発。まもなく幅 20 メートル程の雪渓を慎重に横断。初めの小休憩でカッパ上を脱ぐ。ガスは依然としてかかっているが、回復傾向にある。姥権現を過ぎて、御秘所の岩稜を慎重に進む。一ノ王子に水場 100 メートルの立看あり、尾根の東を下ると 3 本のパイプから大量の水が湧いている。飲むと喉、食道、胃に到る流れがわかる、冷たくておいしい水。ペットボトルいっぱいに詰めて尾根に戻る。本山小屋の手前にイイデリンドウが咲いていた。リーダーに教えてもらわなければ見逃してしまうほど小さくて可愛い花だ。本山小屋で休憩。飯豊山神社本宮を参拝して再度山行の無事を祈願する。広くなだらかな登りの尾根が続く。先程は半開きだったイイデリンドウが「飯豊の星」の異名のごとく全開で星形に咲いている。また、ニッコウキスゲの大群生越しに飯豊本山、御西岳、大日岳の絶景。メンバー全員が口を揃えて「来てよかったー」と声に出す。飯豊本山山頂に着くとガスで視界がなかったが、それでも憧れの山に登れたことで満足。ここから御西小屋まではニッコウキスゲ、チングルマ、コバイケイソウのお花畑。11:35 御西小屋着。11:42 必要なものをサブザックに詰めて大日岳までのピストン開始。軽い荷物になりお花畑を楽しみながら軽快に進む。13:05 大日岳山頂着。飯豊本山、北股岳、西大日岳、櫛ヶ峰の絶景を堪能。14:52 御西小屋に着くと草刈に出かけていた管理人が戻っていた。昨日の反省からビールをやめてコーラを購入。山行中にコーラを飲むのは初めてだったが、これも美味しい。

4 日目　5:51 出発。濃霧で時折、視界 30～50 メートルになる中、昨日来たルートを戻る。濃霧のお花畑も幻想的でいい。映画やテレビで描かれる天国のようだ。昨日同様、徐々に霧は晴れて青空が見えてくる。一ノ王子の水場ではメンバー4 名全員で水汲みに行き、冷たくて美味しい水を堪能する。13:33 三国小屋着。

5 日目　5:14 出発。出発早々に剣ヶ峰の岩稜を降る。鎖場を降る頃、ガスが晴れると谷底まで見えて恐怖感が増す。登り以上に慎重に降る。この



イイデリンドウ⇒

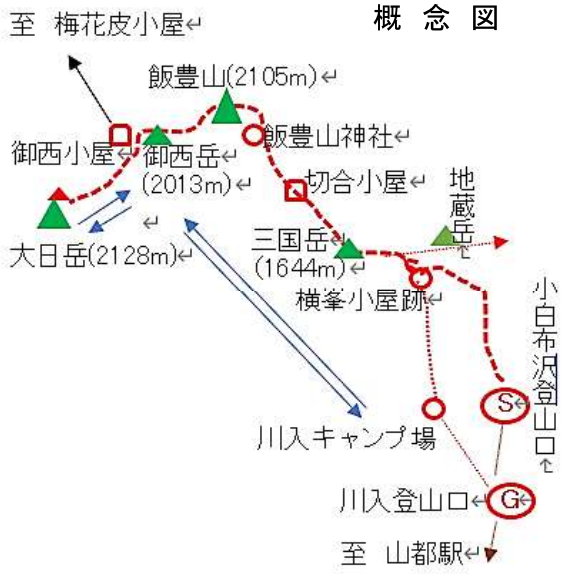


ニッコウキスゲと
大日岳

日は 7 月最終金曜日ということもあり 100 人を超す登山者とすれちがう。9:25 御沢野営場でトイレ休憩。約 70 台ある駐車場の 9 割が停められている。ここからはアスファルトで舗装された道路をバスの時間を気にしながら進む。9:54 川入バス停着。

前泊山中 3 泊 4 日、心配されていた雨にも降られず、霧と曇りの中で時折みせる飯豊連峰の雄大な山々は絶景だった。更にイイデリンドウ、ヒメサユリ、ニッコウキスゲ、コバイケイソウ等の多くの高山植物に癒された。岳人あびこに入会して初めての山行で高山植物観賞等、今まで経験したことのない楽しみを学びました。この山行を企画した佐藤 L をはじめ、山行を支えたメンバーに感謝した山行でした。

概 念 図



概 要

山 名	飯豊山～大日岳		
月 日	2022 年 7 月 25 日(月)～29 日(金)		
山 域	飯豊連峰		
形 式	民宿 1 泊/避難小屋 3 泊	グレード	3 B
目 的	イイデリンドウを愛でる		
費 用	41,400 円(ジパング利用)	交通機関	JR 新幹線 タクシー 宿の車

日程	一日目	上野 11:42→郡山 12:55/13:15→ 会津若松 14:30/33→山都 14:58 (タクシー)→飯豊山神社麓宮→川入・民宿村杉荘(泊) 民宿 5:00→(宿の車)→小白布沢登山口 5:10/20⇒横峰 7:25⇒地蔵水場 7:45/55⇒剣ヶ峰 9:08⇒三国小屋 9:35/10:00⇒切合小屋 12:25(泊) 〈歩行時間 6 時間 10 分〉
	二日目	切合小屋 5:35 ⇒草履塚 6:22⇒姥権現 6:42⇒御秘所⇒御前坂⇒本山小屋・飯豊山神社 8:15/35⇒飯豊本山 9:00⇒御西小屋 10:52/11:45⇒大日岳 13:10/30⇒御西小屋 14:50(泊) 〈歩行時間 8 時間 15 分〉
	三日目	御西小屋 5:50⇒飯豊本山 7:15⇒本山小屋 7:35/50⇒切合小屋 10:20/11:25⇒三国小屋 13:35(泊) 〈歩行時間 6 時間 25 分〉
	四日目	三国小屋 5:15⇒ 地蔵水場 6:30/40⇒上十五里 7:58/8:10⇒中十五里⇒下十五里 8:45⇒御沢キャンプ場 9:30⇒川入 9:55 〈歩行時間 4 時間 10 分〉 川入 10:30 →(アクセスバス)→いいでのゆ 10:50/12:55→(タクシー)→山都 13:20/13:34 →会津若松 14:03/20→郡山 15:36/16:06→上野 17:18/40→柏 18:09
ルート状況		・小白布沢コースは川入の民宿に宿泊しないと利用できない。(林道は通行止めで、民宿の方が鍵を開けて進入できる)御沢キャンプ場から登るよりも1時間短縮できる。 ・道標はしっかりしており、登山道は草刈りなどよく管理されている。水場もいくつかある。 ・避難小屋だが、シーズン中は管理人が常駐している。対応もとても親切だった。 ・トイレが水洗式に改修されており、たいへんきれいだった。(御西小屋はまだ未改修)
参加者		L 佐藤清 SL 土田 中村育 鈴木 (男 3 名 女 1 名 計 4 名)

＜１２１９＞

白山（御前峰～大汝峰）
（2702m）（2684m）

小林　安代

まるで天国の花園のよう

私は、以前から青空の下、花が咲き誇る白山に登りたいと思っていた。

それで、梅雨が明けクロユリの群生にも出会える時期に合わせて計画を立てた。

初日７月 25 日、いちばん気にかかる天気予報は午後から曇りのち雨だったが、別当出合登山センターを後に６人で吊り橋を渡り、登山を開始した。

ジメジメした樹林帯は、蒸し暑さで汗が滴り落ちゆっくり歩行になった。１時間半位登ると視界が広がり不動の滝が見えた。するとヨツバヒヨドリ・センジュガンピ・ナンバンハコベ・エンレイソウが出迎えてくれた。程なく別当覗あたりで、サンカヨウが青い実を付けていた。今年入った新人が「美味しい」と、食べてしまった。今まで食べた人の話を聞いたことがなかったのに。でも大丈夫そうなのを見て、みんなも熟した実をつまんで食べてみた。ブルーベリーのような味で美味しかった。

少し元気も出て歩くと、沼の奥の茂った枝に白い泡の塊が見えた。珍しいモリアオガエルの卵塊だそうだ。暫くして、南竜道分岐を右側に進むとオオバミゾホオズキ・キヌガサソウ・シロウマチドリ・タカネナデシコ・オタカラコウ・クロユリ・イワカガミ・ノビネチドリ等々のお花畑に歓声を上げた。大げさだが天国の花園に足を踏み入れたかのようだ。

間もなく斜面に溶け込んだホッとするような南竜山荘が見えた。宿泊しようと着いたとたんに雨がポツポツ、ザァーッとどしゃぶりになった。タッチの差でラッキーだった。



部屋にザックを置いて、生ビール『白山登拝』で乾杯！食後は、別棟で白山に咲く高山植物のレクチャーがあった。見てきたお花の説明がわかりやすかった。

26 日早朝は、歩いて行く高山植物のレクチャーに１人だけが参加した。朝食後 7:00 雲の間からのぞく青空を見上げ、ワクワクしながら展望歩道へと歩き始めた。視界広がる斜面にアオノツガザクラ・ミツバオウレン・チングルマの綿毛・シナノオトギリ・クロユリ・ミヤマアキノキリンソウ・オニシモツケ・ハクサンボウフウ・ハクサンフウロ・イブキトラノオ・ミヤマダイモンジソウ・イワギキョウ・コバイケイソウ……。開花時期が重なって、多くの種類のお花が見られた。来てよかった。

アルプス展望台に着いた時、周りはガスって眺望がなかったが、カライトソウ・マツムシソウ・ハクサンコザクラ等のお花たちが引き立って輝いて見えた。

さてこれから目指すは通過点の室堂山荘。今日の宿泊地なので要らない荷物をデポし、晴天の室堂平で休憩して御前峰山頂へ向かった。途中振り返ると眼下に小さくなっていく室堂山荘。次第に遠方がガスって室堂山荘の後ろにデンと控えていた別山が見えなくなった。雲が切れないかと振り返り見ながら登った。山頂は平日とあって数名しかいなかったので、のんびり昼食をとって翠ヶ池からお池めぐりコースに向かった。

剣ヶ峰と御前峰と池が視界に入った時、霊山の厳かな雰囲気が充分に感じられ、圧巻の景色だった。赤ペンキの矢印を頼りに大きな岩を登り大汝峰山頂へ。石垣に囲まれた大汝神社で手を合わせ、明日も雨に合わず無事に下山できるように祈った。そして平坦な大汝峰北の巻き道を通り、かなり遠回りの上暑かったが、斜面のお花畑を楽しみながら歩いた。

やっと室堂山荘が見え始めた辺りで、目を見張った。見たかったクロユリの群生！今日のお花の締めくくりに目に焼き付けて、室堂山荘に 16:10 到着した。よく歩いた。


クロユリ

ここでも夕食は密を避けて、きれいな食堂で美味しくいただいた。食後は、私達だけで広々した清潔な乾燥室で、翌日の下山コースを相談し楽しく話していた。そこへ 5～6 歳位の二人の子供さん家族が、濡れた雨具を干しに入ってきた。小さ

いほうの男の子に聞くと真っ暗な雨の中を登ってきたと言う。明日は御前峰に登るそうだ。感心してしまった。

27 日早朝、前日の雨予報で気持ちは暗かったが、外はもうすっかり雨が上がって晴れそうな兆しだ。これだから山の天気は解らない。6 人の下山の足取りも軽く、予定通り別当出合に着いた。レンタカーで温泉へ行き、その後レンタカーを返却し、金沢駅ビルで美味しい海鮮料理とビールで反省会。そして買い物をして新幹線で帰路に就いた。

天気予報と裏腹に 3 日間、行動中は雨に遭わず、花の百名山、日本三霊山の一つである白山を堪能した山行だった。



ハクサンシャクナゲ



ハクサンコザクラ



イワイチョウ



ミヤマキンポウゲ



概　要

山 名	白山（御前峰～大汝峰）		
月 日	2022 年 7 月 25 日(月)～27 日(水)		
山 域	白山		
形 式	小屋泊	グレード	２Ｂ
目 的	眺望と高山植物を楽しむ		
費 用	約 49,000 円		
交通機関	JR　北陸新幹線　レンタカー		
日程 一日目	我孫子 5:31→上野 6:05/22（北陸新幹線かがやき 501 号）→金沢 8:45/9:30（レンタカー）→別当出合 12:15/30⇒砂防新道⇒中飯場 13:15/35⇒甚之助小屋 15:40/50⇒南竜山荘 17:00（泊）　〈歩行時間 約 4 時間〉		
日程 二日目	南竜山荘 7:00⇒アルプス展望台 8:20/40⇒室堂 10:00/40（いらない荷物デポ）⇒御前峰 11:40/12:15（昼食）⇒翠ヶ池 12:55⇒お池めぐりコース分岐 13:15⇒お池めぐり⇒大汝峰 13:50⇒大汝峰北の巻き道分岐⇒お池めぐりコース分岐 15:10⇒室堂 16:10(泊)　〈歩行時間 6 時間 40 分〉		
日程 三日目	室堂 6:30⇒黒ボコ岩 7:10⇒甚之助小屋 8:10/20⇒中飯場 9:40/55⇒別当出合 10:30/50→(レンタカー)→温泉→レンタカー返却 14:30→(金沢駅ビル中で反省会・買物)→金沢駅 16:10（北陸新幹線はくたか 570 号自由席）→上野 19:06/14→我孫子 19:48　〈歩行時間　約 3 時間半〉		
ルート状況	・7 月 25 日（月）白山登山バス運行なし（下山のみ運行）、マイカー規制なし。 ・別当出合駐車場に近づくかなり手前から、土日入山者か日帰り登山の車が、道路わきにびっしりと並んでいた。広い駐車場も満車状態だったが、幸い我々の 2 台は駐車出来た。 ・水場は、何ヵ所かあるが、夏場は多めに持つことが必要。 ・お池めぐりコースには、少し残雪があったが、避けて通る事が出来た。 ・登山道はしっかり整備されていて、道迷い、危険個所はなかった。 ・南竜山荘・室堂山荘のトイレは水洗できれいだった。		
参加者	L 小林安　SL 小野　森岡　本田 田嶋　大賀 （男１名　女５名　計６名）		

＜１２２０＞

丸山～荒川三山
（東岳、中岳、前岳）～赤石岳
（3141m）　（3121m）

矢野　貞子
千葉　有子

悪沢岳に行きたいと思い最初に計画したのが2020 年でした。その年の春と 2021 年コロナ感染症の拡大で南アルプスは閉鎖されてしまった。3 年ぶりに山小屋を営業再開されたのだった。この領域はアクセスが悪い。登山口の椹島ロッジ迄は直接民間のバスや車の乗り入れは出来ない。畑薙第一ダムで東海フォレストの送迎バスに乗り換え、1 時間余り乗らなければならない。バスは東海フォレスト管理下の山小屋やテント場の予約者に限られている。故にしっかり計画を立てないと入山できない仕組みになっている。今回は私と千葉さんの二人になってしまったが同行者がいてくれてホッとしました。

7 月 27 日朝の新幹線で静岡に入り、静岡駅で畑薙第一ダムに行く 10 時のバスに乗った。3 時間 30 分途中 2 回休憩をとるが、休憩場所はトイレのみで、お水すら購入できない。途中バスを乗り換え椹島ロッジに着いたのは 3 時過ぎだった。これが、静岡市葵区内の移動のみだったとは、どれだけ広いのだ静岡市葵区は？

7 月 28 日早朝、昨日送迎バスで来た径を少し行き、緑の橋を渡り少し行き、左手に入り川沿いに進み吊り橋を渡る。いきなりの急登、さらに足の置き場も悪い。30 分程進むと鉄塔があり、そこからは緩やかな登りになった。林道を横切り、鉄のはしごを登るとまた急登が続き、最後の水場清水平に着いた。ここからはしらびその林を穏やかに登る道となった。断層か？と思うような窪地が真っ直ぐに上に続いている。明治 40 年～43 年パルプ用の木材を運ぶ木馬道（きんまみち）との事。2 時間余り、幼木のしらびそ林を登るとコマドリ池に着いた。登山道から外れ少し入ると小さな池が下に見えた。山小屋迄あと 15 分の看板を見たら、雨が降ってきた。傘を差した千葉さんはすいすいと登っていく。私はザックカバーをして後を追った。すぐお花畑が広がり目の前に千枚小屋があった。小屋は水が豊富で目の前には大きな富士山がそびえ、気持ち良い小屋だった。

7 月 29 日　快晴の中千枚岳、荒川三山を踏んだが、昨日と同じ時刻に雨が降り出してしまい雨の赤石岳となってしまったが、標高 3000ｍの尾根歩きを楽しみました。下山路の赤石小屋分岐から北沢源頭までの急こう配、富士見平への登り下りのトラバースはコースガイド説明通り大変でした。

最近の夏の気象状況が悪く、晴天が続くことが少なくなった。今夏も雨続きだが、その中での思い出に残る貴重な 3 日間でした。　（矢野貞子）



悪沢岳山頂

7 月 29 日　千枚小屋の周りはお花畑だが、マルバダケブキがすごい勢い。ちょうど黄色い花の盛り。「この花だけは鹿が食べないから、やたら増えている」と貞子さんに教えてもらう。

今日は休みなしでもコースタイム 10 時間を超える長丁場。小屋で温かいみそ汁をいただき、5:00 出発。天気は快晴。高度を上げていくと、美しい富士山が間近に見えてくる。マツムシソウ、タカネビランジ、フウロソウなど高山を彩る花々がたくさん咲いている。

5:44　千枚岳。写真を撮るのもそこそこに先を急ぎ、悪場を下る。登り返して 6:52 丸山。巨岩の間を縫うようにして登れば 7:26 東岳（悪沢岳）。荒川三山最高峰で、槍に続く日本 6 位の標高 3141m。山頂からの展望は息をのむほど見事で、自分たちが南アルプスの真っただ中にいることを思い知る。北真正面に塩見岳、南には赤石岳の重量感にあふれる姿。眼下にうっそうとして神秘的な原生林がどこまでも広がり、深く切れ込んだ渓谷が幾重にも連なる。南アルプスは広遠で重厚で、そして素朴だ。

東岳からの下りは岩礫帯の急坂。登り返して中岳に着いたのは 9:07。東岳（悪沢岳）、中岳、前岳を総称して荒川三山と呼んでいる。「東に中に前……？こんなにしっかり独立した峰を一絡げに三山なんて、あまりに大雑把じゃない？」と、

二人して誰とも知らぬ命名者に文句を言う。

前岳を往復して、コルに戻ると南面を下る。鹿よけのフェンス扉を入ると、道はお花畑の斜面に大きくジグザグを描きながら、約500mの標高差を下りていく。広〜く囲われたお花畑のフェンスを出て、さらに小沢をまたぎ、10:45 荒川小屋。これから赤石小屋まで行くという私たちを、「チャレンジャブルだ」と男性登山者が半ばあきれている。先はまだまだ長い。

長いトラバース路をたどり11:55大聖寺平。早朝から快晴下の稜線漫歩をほしいままにしてきたが、ここにきて空の様子があやしくなってくる。赤石岳の登りにかかる。砂礫の稜線は先が見えているようなのに、なかなかはかどらない。登りきると13:16小赤石岳。雨が降り始め、雨具上下、ザックカバーをつける。この早い判断が正解だった。すぐに雨脚は強くなり、赤石岳往復の3000mを超える稜線上で雷と雹に襲われた。雷はどこに落ちようかと地上をうかがっているそうな。こんな高い位置を歩く電気伝導体の私たちは絶好の標的だろう。雷鳴のたびにハイマツの横にかがみこみ、「私はここにいません」とつぶやく。無駄で滑稽だとわかってはいるけれど。

13:52 赤石岳。標高 3121mの一等三角点がある。しかもなんとここが「一等三角点の日本最高地点」なのだ。それだけでもテンションが上がるけれど、雷に追い立てられ、超貴重な三角点にタッチするだけで来た道を戻る。

赤石小屋分岐から縦走路に別れを告げ、東側に広がるカールへと入る。やっと人心地つけた。ここなら、雷は直撃しないだろう。それでもしばらく頭上で雷が鳴っていた。北沢源頭辺りで幾度か沢を渡る。

実際より長く感じられた下り道。富士見平を過ぎ、赤石小屋に着いたのは16:40。「遅いので別館です」と受付の女性はつれない。その別館に行ってみると、入口には別館ならぬ「倉庫棟」の看板。「倉庫かよ！」。それに、食堂のある本館からも、トイレからもすごく遠い!!　遅い到着を後悔するが、本館に行ってみて一時の後悔も氷解。本館は人であふれギュウギュウ。私たちの倉庫棟は5,6人のみでとても静か。もちろん、ちゃんと宿泊棟仕様に整備されていて、荷物の隙間で寝るようなことはない。着替えもゆっくりでき、夜はぐっすり眠れた。

7月30日　今日は椹島まで下りるのみ。出発前、朝日で赤く染まる赤石岳、その先の聖岳を眺めた。「いつか聖岳に行けますように」。

ずっと樹林帯の道をゆっくりと下る。この道を明治時代、「東海パルプ」の創業者、大倉喜八郎が赤石岳まで登ったという。今から200年近く前のことで、当時喜八郎氏は数えで90歳。200人の配下を従えた「大名登山」。自分は駕籠で担がれ、金に任せて風呂おけ、畳、布団からビール、シャンパンまで運んだと、破天荒な話だらけ。椹島から山頂までのこの山道を、1カ月前から延べ2000人以上が切り開いたという。

そんな歴史的逸話に満ちた道をたどり、最後は長く急な階段を林道まで下りて9:15椹島着。大倉喜八郎の説明看板と碑が立っていて、興味深く眺めた。私たちが3日をかけて延々と歩いた登山道は、国有林ではなく、全て喜八郎由縁の東海フォレストの土地（井川社有林）だった……。

南アルプス南部は私にとって未知数で敷居が高く、半ば諦めていた。それだけに、今夏荒川三山を歩けたことは何事にも代えがたい経験だった。出発前々夜「2人になった。私は行くつもりだけど、千葉さんどうする？」と貞子さんから電話があったとき、私はたとえ一人になっても行く覚悟でした。貞子さんと二人で歩けて心強く、とても楽しかったです。どうもありがとうございました。　（千葉有子）

概　要

山 名	丸山〜荒川三山（東岳、中岳、前岳）〜赤石岳		
月 日	2022年7月27日(水)〜30日(土)		
山 域	南アルプス南部		
形 式	3泊4日山小屋泊	グレード	4C
目 的	南アルプスを歩く		

悪沢岳からの南アルプスパノラマ



費　用		55,000 円（ジパング利用）	交通機関	ＪＲ　バス
日程	一日目	我孫子→東京→(新幹線)→静岡 9:30 集合　静岡駅 10:00→(バス)→畑薙臨時大駐車場 13:25/14:00→椹島ロッジ 15:00(泊)		
	二日目	椹島ロッジ 5:30⇒滝見橋⇒清水平 9:20⇒見晴岩⇒駒鳥池 12:20⇒千枚小屋 13:10　（泊） 〈歩行時間　６時間〉 （参考:登り 1650m　下り 157m）		
	三日目	千枚小屋 5:00⇒千枚岳 5:44/6:04⇒丸山 6:52/7:00⇒東岳（悪沢岳）7:26/52⇒荒川中岳 9:07/18⇒前岳 9:30⇒荒川小屋 10:45/11:11⇒小赤石岳 13:16/29⇒赤石小屋分岐⇒赤石岳 13:52⇒赤石小屋 16:40（泊） 〈歩行時間　10 時間 10 分〉		
	四日目	赤石小屋 5:40⇒椹島ロッジ 9:15/12:45→(バス)→畑薙第一ダム 13:50/14:25→(バス)→静岡駅 17:50（解散）→新幹線→品川→我孫子 20:40　〈歩行時間 3 時間 20 分〉		
ルート状況		・緑の滝見橋を渡り、左手のつり橋を渡るとすぐに急登。鉄塔迄登ると少し緩やかになり林道に出る。はしごを登り尾根道を登ると清水平となる。 ・しらびそ林の緩やかな登りが果てしなく続く。明治40年頃パルプ材として切り出していた、しらびそ林。今の林はその後成長したものらしい。 ・駒鳥池を過ぎ暫く登るとお花畑が現れ、千枚小屋に着いた。 ・千枚小屋からお花畑の急登を登ると開け稜線にでる。 ・千枚岳から前岳までは稜線上の登り下り。 ・荒川小屋までの下りはお花畑。 ・赤石小屋分岐から沢を何回か渡り北沢源頭までの下りは厳しい。さらに登り下りしながら横断していく富士見平までは注意が必要。 ・山小屋だが山行３日前からキャンセル料が発生する。		
参加者		Ｌ矢野貞　千葉 （女２名）		

＜１２２１＞ゆるゆる山行

横　尾　山
（1818m）

箕輪　完二



カヤトの原にて

ゆるゆる山行に感謝

ゆるゆる山行が始まって数か月が経つ。自分をふくめて年配の皆さんにとっては、なかなか良い計画が進行中だ。そんな中、今回は「横尾山」という長野と山梨の県境の山だ。

山の高さが 1818m と気になったが。しかし山頂への高低差が約 300m、歩行時間 3 時間ということで応募した。かなりの登りと、岩礫のなかを何とかクリアーして往復できた。

後日、「やまなみ」の原稿を書こうとして「やまなみ」を開いたところ何と１０年程前に「横尾山」に登っていたのだ。どこか懐かしい気がしたのはこのせいか。

当日の天気予報は千葉東葛、山梨北部とも小雨交じりの曇りとなっており、現に家を出たときは小雨であった。天気はなかなか好転せず曇りが続く。現地も雨ではなく曇りの状態であった。こうした中でリーダーが山行を決行したのは天気予報に明るい会員がいて意見を聞いたところ、「天気は良くないが雨では無い」との見解を示してくれたと言う。

現地は足元が少々ぬれていた。上に雨具を着て、カラマツとブナの林の中を 50 分ほど登ると広々とした原っぱ、カヤトの原に出た。周囲はまだ曇りの状態だ。そこで休憩をとりさらに進むと岩礫があらわれた。しばらくして男性 1 人が足の不調を訴え、進行が遅くなった。そこで暫く休憩の後、その人の歩調に合わせて歩くため、先頭になって歩いてもらった。そして無理をせずその場で休ん

でいてもらうことにした。結果的にそのことが良かったのだと思う。

そして岩礫の中をさらにすすんだが、迎えのタクシーの時間を考慮して引き返すことになり立ち止まる。10 分ほど休憩した。周囲を見回すと、雲の間から山の姿が見えてきた。西方向には蓼科山が、その南には雄大な八ヶ岳連峰が雲間から見えてきた。そしてすぐ消えてゆく。幻想的な景色だ。頂上には立てなかったが素晴らしい光景だ。北側は雲の下に川上村のレタス畑がきれいに見えてきた。

カヤトの原に引き返し昼食休憩とした。信州峠に戻り、帰り際、増富温泉に向かうタクシーの中から見た瑞牆山が素晴らしい景色で見送ってくれた。

概　要

山　名	横尾山		
月　日	2022 年 8 月 28 日(日)		
山　域	山梨・長野の県境		
形　式	日帰り	**グレード**	1 A
目　的	瑞牆山や八ヶ岳を眺めながらゆっくり歩く　増富温泉に入る		
費　用	約 10,000 円	**交通機関**	JR　ジャンボタクシー
行　程	我孫子 5:33→新松戸→立川 7:00/21（特急）→韮崎駅 8:36/50（ジャンボタクシー）→信州峠 9:35⇒カヤトの原 11:10⇒山頂手前のピーク 12:00（写真撮影）⇒カヤトの原 12:25/13:00(昼食)⇒信州峠 14:00/20（ジャンボタクシー)→増富温泉入浴 14:40/15:35 (ジャンボタクシー)→韮崎駅 16:10/35 (特急) →立川→新松戸→我孫子 19:40 〈歩行時間　約 3 時間〉		
ルート状　況	・登山口の信州峠には数台駐車できる空き地がある。石段の脇には、林道開通記念碑がひっそりと立っている。 ・カヤトの原直下はジグザグの急斜面で、コース中の一番の頑張りどころ。 ・カヤトの原から山頂までは、多少のアップダウンを繰り返しながら尾根歩きとなる。		
参加者	L 外崎　SL 石塚　高橋英　高橋芳 桐生　齊田　箕輪完　蟹江　矢野朝 （男 3 名　女 6 名　計 9 名）		

＜１２２２＞ゆるゆる山行

坂田ヶ池総合公園～房総風土記の丘～房総のむら

富井　容



学習院正堂前にて

残暑の秋晴れ日に坂田ヶ池総合公園・房総風土記の丘・龍角寺・房総のむらをゆっくり歩き、古墳時代から現代までの1300 年を想像する旅ができました。幸いにも地域にお住まいでこのエリアでトレーニングに励む小林健一さんのご協力をいただき、結構ハードで歩きでのあるコースとなった。

坂田ヶ池総合公園（成田市）にはアップダウンがある広いエリアで、キャンプ場の設備がある。鳥の種類が多く竜をかたどったつり橋、池の周辺ではつりを楽しむ子どもの姿も見られた。大小 113　基ある古墳群はその当時の繁栄ぶりを物語っている。一角に学習院初等科正堂があり、この地に保存されている。

龍角寺は千葉県最古の寺跡であり、紀元 700 年頃、メスの竜がかの地に舞い降り一夜にして巨大な寺を作ったとか。名前に竜がついているのはそれが基になっている。この寺を中心に白鳳道が延びている。寺のお坊さんが行きかった道とのこと。寺内に不増不減の不思議な柱の水がミステリアス。

千葉県立房総のむらは佐原の街並みを模した家並み、武家屋敷、農家（上総・下総）を集めた興味深い体験博物館となっている。

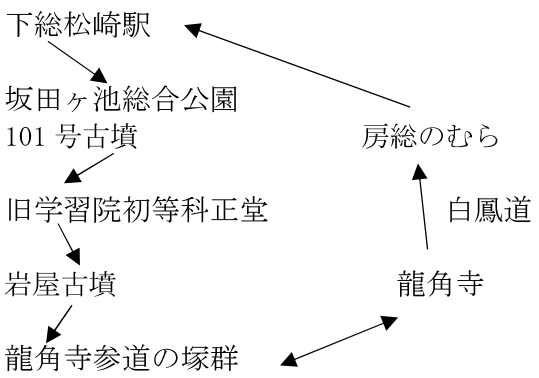
先人たちが、築き守ってきたものを子供から大人まで、世代を越えて楽しめて、何度も来ているのに、来るたびに新たな発見がある。あっという間の 4 時間でした。

健康であることの幸せを感じ満喫した、成田線沿線の小さな旅の山行となりました。

概　要

山 名	坂田ヶ池総合公園～房総風土記の丘～房総のむら		
月 日	2022 年 9 月 17 日(土)		
山 域	成田線沿線		
形 式	日帰り	グレード	1 A
目 的	丘陵に 113 基の古墳が点在する歴史フィールドを訪ねる		
費 用	約 1,000 円	交通機関	JR 成田線
行 程	我孫子 7:05→下総松崎 7:42/7:50⇒坂田ヶ池総合公園 8:08⇒旧学習院初等科正堂 9:23⇒房総風土記の丘（古墳巡り）10:00⇒龍角寺 10:19/30⇒白鳳道 10:57⇒房総のむら 11:06⇒体験博物館 11:30/12:05⇒下総松崎駅 12:46/51→我孫子駅 13:26 〈歩行時間 約 4 時間〉		
ルート状況	・下総松崎駅を往復する平地歩きで特別危険個所はなかった。 ・丘陵地帯を利用した公園や古墳群を見ながらの歴史フィールドとなっている。		
参加者	L 高橋芳　小林健　SL 外崎 中村八　箕輪完　本田　矢野裕 村越 小林安　小島洋　矢野朝　齊田 小島徹　富井　北田　森岡　田嶋 石塚　藤家　箕輪カ（会友） 飯合（会友）渡辺清（会友） （男 8 名　女 14 名　計 22 名）		

概 念 図



＜１２２３＞

栗　駒　山
（1625m）

吉川　みよ子

見渡す限りの紅葉、栗駒山

昨年の秋、SNS に投稿されている鮮やかな紅葉の写真に目が留まり、ここに行きたい！と思ったのが、栗駒山でした。山行希望で出したところ、リーダーを土田さんが快く引き受けてくださり翌年実現できる運びに。思ってもみなかったことですごくうれしかったです。

紅葉ピーク時は激混みで駐車場にたどり着けなかった車もいたとの SNS 情報を見て、日程はピーク少し前がいいかと土田リーダーと相談しました。

まず一日目は平泉観光。一ノ関駅からレンタカーで、中尊寺、毛越寺に行きました。中尊寺は昔行ったはずだがその時の記憶はほぼなく、広大な敷地に次々と現れる歴史的な建造物に感心しきりでした。先に立ち寄った平泉の文化センターで藤原三代の歴史をおさらいしていたため、より興味深く見ることができてよかったです。

義経最後の地の高館義経堂で義経も見たであろう北上川を見渡し、毛越寺では美しい庭園を眺めながら栄華を極めた藤原氏三代に思いを馳せ、その後宿の新湯温泉くりこま荘へ向かいました。

宿は、趣のある温泉もよかったし、岩魚づくしの夕食がとにかくおいしかったです。初めての岩魚の刺身、みそ漬けの岩魚の炉端焼き（頭からしっぽまでまるごといただいた）。他にも山菜や名物おもち料理などなど。すでにお腹は満足しかけていたところ最後に出てきた迫力の岩魚天丼。食べきれないのでは？との当初の心配もよそに、おいしくてぺろっと平らげてしまいました。

さて、二日目は登山本番。

宿からレンタカーとシャトルバスを乗り継いで 20 分ほどでいわかがみ平登山口へ。登りは東栗駒コースを歩きました。大きな岩がごろごろとあって梯子がかかっているところもあったり、ぬかるんだところもあったり、登り始めは歩きにくかったが、沢に出てからは視界が開けて一気に気分もアップ。水の流れを横に見ながら気持ちよく歩けました。

尾根に出ると今度は 360 度の展望にワーッと声が出てしまいました。周り一面の紅葉を見渡しながらの山歩き。素晴らしい景色の連続でした。

少し歩いては写真を撮り、また歩いては写真を撮り……と、その時は写真撮影会かのようにみなさん写真を撮っていました。

下りの中央コースは、頂上降りてすぐは階段、その後に石畳と整備されたコースでしたが、延々続く石畳に膝を傷めないか気になりながらの下山でした。

紅葉のピークには少し早かったが十分楽しめたし、渋滞に遭わずにゆっくり眺めたり写真を撮ったりできてよかったです。心配したお天気も早朝のどんより空から少しずつ雲が晴れてくれて、青空に映える紅葉をばっちりカメラに収めることができました。

願いが叶って大満足の山行でした。土田リーダー、大変お世話になりありがとうございました。

素晴らしい紅葉の栗駒山、また行きたい、次は別のコースを歩いてみたい、と思い始めています。

概　要

山　名	栗駒山			
月　日	2022 年 9 月 25 日(日)～26 日（月）			
山　域	東北（奥羽山脈）			
形　式	山麓泊	**グレード**	２A	
目　的	日本有数の紅葉を楽しむ			
費　用	38, 000 円	**交通機関**	JR レンタカー	
日程	**一日目**	我孫子 7:08→上野 7:41/8:02→一ノ関 10:07/30（レンタカー）→平泉文化遺産センター 11:12/30 → 11:45/12:45（昼食）→中尊寺・高館義経堂・毛越寺等観光 15:45→新湯温泉くりこま荘 16:35（泊）		
	二日目	くりこま荘 5:55→いこいの村栗駒跡地駐車場 6:05/12(ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ)→いわかがみ平駐車場 6:20/37（朝食）東栗駒コース⇒新湯沢渡渉 8:00⇒東栗駒山 8:45⇒栗駒山 10:00/35 中央コース⇒いわかがみ平駐車場 12:05 /30(ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ)→いこいの村栗駒跡地駐車場 12:35→くりこま荘 12:45/13:45（入浴）→道の駅厳美渓 14:25/37→一ノ関駅 15: 10　　〈歩行時間 5 時間〉		
ルート状況	・いわかがみ平駐車場からの東栗駒山コースは、泥道と段差の多い歩きづらい道が新湯沢の川に到着するまで続く。100m 程川を歩くが、前日晴れたこともあり水量が少なく楽しく歩けた。 ・川を渡り終えると東栗駒山直前の尾根に出る。ここから東駒山まで歩きながら栗駒山を眺めると素晴らしい眺めが広がっている。紅葉の最盛期であれば息をのむはずである。今回の紅葉は3分程度か？ ・下山に使った中央コースは最初200m程階段が続き、その後は石を敷き詰めた道が登山口まで整備されている。子供でも安心な道であるが味気ないし、硬いのでひざに悪い。			
参加者	L 土田　SL 外崎　大平　田嶋　村越 小林安　蟹江　矢野朝　吉川 飯合(会友)(男３名　女７名　計10名)			

毛越寺にて



栗駒山山頂



＜１２２４＞

雨　飾　山
（1963m）

佐藤　明子

女神



雨飾山頂



振り返るとお鼻の高い女神さま･･･

一日目の集合時間は糸魚川駅１５時で、早めの新幹線で着き、ヒスイ海岸で宝石を探すことにした。やみくもに砂浜を掻き回したが素人には見つかるはずがない。少しお節介風の地元のおじさんのレクチャーで薬石を少しだけ拾った。ヒスイを見つけられるのはただ運だけとのこと。

諦めて糸魚川市の散策をし、駅で他の参加者と合流してタクシーで雨飾山荘へ向かう。山荘ではお風呂にも入れたが、これがまた優しい湯肌の懐かしさを感じる良いお風呂で、次々と観光バスで来る他の団体客の前に急いでいそいそと入浴を楽しんだ。部屋はと言えば、コロナ禍の影響で一部屋に女性三名のゆったりでいつもの山小屋風を感じさせず嬉しかった。

翌朝、朝食を済ませてから山荘裏手から登山を開始したが、朝が早いのに加え、巨石に挟まれた登山道のため薄暗く、ゴロゴロした大きな石が濡れていて、急斜面に苦労しながら登る。新潟の山の厳しさは知っていたつもりだったがやっぱり甘くはないと痛感させられた。

急登のブナの林に囲まれて一汗も二汗も掻きつつひたすら登ると笹原の一端に飛び出した。一面の笹に覆われた山稜を進み、山頂への最後と思われる登りに差し掛かって、誰かが女神さまだと叫んだ。振り返ると笹原の登山道がツンとお鼻の高い女神さまの横顔をなぞっていた。計画書のタイトルの「女神に会いに行く」の意味がやっと理解できた。前日にヒスイ海岸で見た銅像の奴奈川姫を同時に思い浮かべたが、それよりもずっと可愛いお姫様のようで可笑しかった。

やっと辿りついた山頂は、北峰に石佛が並び南峰には三角点が有った。眼下の日本海の海岸線を楽しみながらの昼食は、お天気の良さもあって余計に美味しく感じられた。

下山は笹原の分岐を長野県側の白馬側へ下る。同じ様に急斜面が続いた。雨飾高原キャンプ場で

概　念　図



待つ白馬駅までのタクシーの予約時間が２時。焦りで心も足も大急ぎになるが、それでも遅いと露骨に避難がましい他のグループに追い越されもした。結果は、タクシーは待っていてくれて、無事帰途に就くことができた。

雨飾山の美しい山名に惹かれて参加させてもらったが、登りも下りも気の抜けない非常に厳しい山行だったが、心に残る大満足の山行となった。

概　要

山 名		雨飾山		
月 日		2022 年 10 月 1 日(土) ～2 日(日)		
山 域		頸城山塊		
形 式		山麓泊	グレード	２Ｂ
目 的		① 女神に会いに山に行く ② 実技研修		
費 用		約 30,000 円	交通機関	JR タクシー バス
日程	一日目	我孫子→上野(新幹線)→糸魚川 15:00(タクシー)→雨飾山荘 15:50		
	二日目	雨飾山荘 5:50⇒難所のぞき 6:15⇒中の池 8:24⇒笹平分岐 9:39⇒雨飾山 10:15/45⇒笹平分岐 11:25⇒荒菅沢 12:46⇒雨飾高原キャンプ場 14:12/20(タクシー)→白馬駅 15:05/16:00(バス) →長野 17:10/35 (新幹線) →上野 19:06/24→我孫子 20:00〈歩行時間 約 7 時間 40 分〉		
ルート状況		・雨飾山荘へは雨飾山・戸倉山登山タクシー利用 (夏～秋間の土日祝運行)。 ・山荘裏手から登山口となり岩が露出して滑りやすい急斜面を 30 分登ると薬師尾根の稜線にでる。 ・中の池からは石がゴロゴロした長い急斜面が続き分岐へ。 ・梶山分岐からは鞍部。笹の中の道を歩くが山頂直下最後の急登 150m 程ある。 ・笹平(1,894m)から荒菅沢(1,448m)は岩場、急傾斜地(落石、石車、転倒に注意)。 ・荒菅沢からブナ林を下り雨飾高原キャンプ場へ(特に下山時、根が滑るので注意)。		
参加者		L 藤家 SL 森岡 矢野貞 北田 佐藤清 秋山 土田 小島徹 吉川 佐藤健 佐藤明 (男８名 女３名 計 11 名)		

＜１２２５＞

縞枯山 ～茶臼山 ～丸山 (2403m)(2304m)(2320m) ～高見石～白駒池

中村　八重子

北八ヶ岳縦走

北八ヶ岳ロープウェイ 2237m の山頂駅に立つと山の空気は一変しました。なんと爽やかなこと。坪庭へと進む。

茅野駅に下りた多くのハイカーは 何処へ消えて行ったのかしら？

私は久しぶりのリハビリ山行のため高橋リーダーと何度も話し合い無理のない行程をお願いしました。紅葉の見頃は 一週間ぐらい後のようですが二日間とも晴天に恵まれ最高です。

今日は山小屋泊まり。麦草ヒュッテは赤い三角屋根が目印です。朝夕の気温はかなり下がり、こたつやお風呂、こだわりの夕飯、心遣いに感謝です。

巨石高見石から見下ろす深い森と白駒池。思わず叫びたくなりました。久しぶりに訪ねた北八ヶ岳。白駒池は大好きです。

神秘的な「もののけの森」。もう少し湿り気があるといいのだが、雨に濡れしっとり美しい苔を見たかった。又いつか出かけよう‼

ご一緒した仲間に助けられ、楽しく山行ができました。感謝です。

(反省として)

苔の観察を目的の一つに入れましたが 知識不足のため勉強会になりませんでした。ガイドをお願いする方法も視野に入れて？

【リーダーからひと言】

かねてからリハビリ中だった中村さん、齊田さんが宿泊の山行が可能となったことを参加者全員でお祝いしました。結果として１日目の縞枯山山頂を経由する縦走コースを全員一緒でよかったというのが反省点です。夜は素晴らしい星空を仰ぎ、翌朝は美しい朝日を迎え、目的に合った山行を終えることができました。紅葉には１週間早かったのが残念でしたが、楽しい２日間の北八ヶ岳の旅でした。　　(高橋芳恵)

概　要

山 名	縞枯山～茶臼山～丸山～高見石～白駒池
月 日	2022 年 10 月 1 日(土)～2 日(日)
山 域	北八ヶ岳

形　式		小屋泊 1 泊 2 日	グレード	1 A
目　的		苔むす癒しの森を歩く　　苔の観察 白駒池の真っ赤な紅葉を楽しむ		
費　用		約 26,000 円　（ジパング利用）		
交通機関		JR　バス　ロープウェイ		
日程	一日目	我孫子 5:33→立川 7:00/7:21（あずさ 1 号）→茅野 9:08/20（アルピコバス）→10:05 北八ヶ岳山麓ロープウェイ→山頂駅⇒坪庭 30 分周遊⇒縞枯山荘 11:30⇒ ①雨池峠⇒縞枯山 12:30⇒縞枯展望台 12:50/13:20 ⇒茶臼山展望台 14:05/40⇒中小場 15:20⇒大石峠⇒麦草ヒュッテ 15:45 ②ロープウェイ駅 11:50⇒森林浴展望台 12:15⇒五辻 12:45⇒出逢の辻 13:55⇒オトギリ平 14:20⇒大石峠⇒茶水池 15:10⇒麦草ヒュッテ 15:15 〈歩行時間 ①　3 時間 40 分　②3 時間 30 分〉		
	二日目	麦草ヒュッテ 7:30⇒丸山 8:50⇒高見石小屋 9:25⇒展望台 10:00/30（お茶タイム）⇒白駒池 11:15（周遊・苔観察）⇒白駒池バス停 12:15/53→茅野 14:02（反省会）15:18（あずさ 38 号特急）→新宿 17:23/31→日暮里 17:52/57→我孫子 18:30 〈歩行時間　4 時間〉		
ルート状況		・北八ヶ岳特有のゴロゴロ石の歩きにくさはあったが全て苔の森であり、1日目の両コースとも人気ではあるが、静かな山が楽しめるルートである。 ・山麓ルート②の出逢の辻からオトギリ平までは苔の森の中で不明瞭な道で迷いやすいがビニールテープを頼りにたどって行けば大石峠に至る。		
参加者		L 高橋芳　SL 外崎　中村八　新谷 齊田　大賀　中村弘 （男 1 名　女 6 名　計 7 名）		



麦草峠の朝日

坪庭にて



高見石にて



もののけの森



＜１２２６＞

越後駒ヶ岳・荒沢岳

（2003m）　（1969m）

北角　順子
佐藤　清宏



越後駒ヶ岳を目指して

私は、越後駒ケ岳を登る班で参加しました。5時30分枝折峠登山口を出発、天候は予想通りの曇り空、雨さえ降らなければいいと思いながら歩き始める。

歩き始めるとすぐに滝雲のビューポイントに着くが、残念ながら滝雲は見ることが出来ず、遠くに滝雲を見つけ、写真を撮り満足する。登山道は、整備されたアップダウンの多い尾根道だが歩きやすい。紅葉も今一つで赤漆、ナナカマドの赤い実だけが目立っていた。曇り空なのだが、360度山の稜線がすっきり見え、雲の隙間から朝日が顔を覗かせていたのも美しかった。道行山の展望台に休息を兼ね寄り道をする。樹林帯を抜けるたび、左側に荒沢岳の雄大な姿を見ながら歩く。小倉山を越えたころに、大きな越後駒ヶ岳が見えてくる、山肌は草紅葉で美しく優しい山に感じた。

百草ノ池まで来たが、笹で池は見えず、池からの急登の途中振り向くと、綺麗な紅葉の尾根の下に小さな百草ノ池を見ることができた。岩の足場の多い場所を登り切り、駒の小屋に着くが、休まず頂上を目指す。途中には燧ヶ岳が見え、頂上付近では八海山、南魚沼が見える。

10時30分登頂。雨も降り始め、集合写真、動画で見た猿田彦大神の写真を撮り、早々に駒の小屋に向かう。昼食をとり11時15分下山。気温も下がり、ポツポツと霙が降り出し、そのうち雪になり下山するうちに雨になった。

名残惜しく振り向きながら歩いていると駒ヶ岳、荒沢岳の頂上付近が雪をかぶっており、初冠雪に一同感動する。15時30分無事下山、初冠雪と登りきれたことに満足し、銀山平の温泉に入り、明日荒沢岳に行く班と別れ帰路に就いた。

（北角順子）

荒沢岳は、前夜の天気予報で午前中から雨模様。途中の前嵓の長い連続したクサリ場を降雨の中登下降するのは危険、と判断して登頂を断念し、前嵓下のクサリ場取付きまでの「偵察登山」に変更した。朝5時、宿の車で2往復してもらい登山口へ。ヘッドランプを頼りに急登を前山に登る。前嵓とその奥に頂上らしきものが見えていたが、7時前には小雨が降りだし、やがて本降りに。前嵓下まで登り、クサリの状態を確認して下山した。途中、見事なブナの大木にきのこがびっしりと付いていた。

9時15分下山。宿の車に迎えに来てもらったが、温泉は11時からとのことで、宿の食堂で1時間余り休憩させていただいた。さらに、温泉も

越後駒ヶ岳山頂



10 分程早めに開けてもらい、ゆったりと入浴できた。浴室からは昨日登った越後駒ヶ岳が微かに見えた。　　（佐藤清宏）

概　要

山 名	越後駒ヶ岳・荒沢岳			
月 日	2022 年 10 月 5 日(水)～7 日(金)			
山 域	越後			
形 式	民宿 2 泊 3 日	グレード	3B	
目 的	① 紅葉と温泉 ② 百名山と二百名山の 2 座に登る			
費 用	32,000 円（ジパング利用）	交通機関	JR 新幹線 バス 宿の車	
日程 一日目	上野駅新幹線ホーム　集合 上野 11:46→(とき 319 号)→浦佐 13:11/13:40→(南越後観光バス・奥只見線急行)→白光岩バス停 14:37 →(宿の車)14:50　銀山平温泉　民宿樹湖里（きこり）（泊） 銀山平温泉・白銀の湯に入浴			
日程 二日目	宿 5:00→(宿の車)→枝折峠 5:15/5:30⇒道行山 7:15⇒小倉山 8:00⇒百草の池 8:55⇒駒の小屋 10:05⇒越後駒ヶ岳 10:30⇒駒の小屋(昼食)10:55/11:20⇒小倉山 13:00⇒道行山 13:50⇒枝折峠 15:30→(宿の車)→宿 16:30〈歩行時間　9 時間〉 白銀の湯に入浴後、2 人は帰る。 白光岩 17:28→浦佐 18:30/49→上野 20:06			
日程 三日目	宿 5:00→(宿の車 2 往復)→荒沢岳登山口 5:15⇒前山 6:15⇒前嵓下 7:00⇒前山 8:30⇒登山口 9:15→(宿の車)→宿(休憩・軽食) 9:40/10:45 〈歩行時間　3 時間 20 分〉 →温泉入浴 10:50/11:30→(宿の車 2 往復)→白光岩バス停 11:53→浦佐 12:55/13:56→(とき 322 号)→上野 15:22/32→我孫子 16:06			
ルート状況	・越後駒ヶ岳は、登山道がよく整備されていてたいへん歩きやすい。 ・曇り空だったが、枝折峠から頂上まで非常に展望がよく、小さい滝雲が見られた。 ・宿でもらったイラストマップの時間通りに歩くことができた。（登り 5 時間　下り 4 時間） ・駒の小屋はシーズン中は管理人が常駐。急な天候悪化（雪交じりの強風）で休憩した。 ・紅葉は今一つだったが、頂上手前の草紅葉と初冠雪は見ごたえがあった。 ・荒沢岳は、午前中の早い時間から降雨となり、前嵓手前の長いクサリ場の登下降は危険と判断して、クサリ場手前までの“偵察登山”に変更した。前山から前嵓のブナ林はきれいだった。			
参加者	L 佐藤清　SL 矢野貞　土田　千葉 鈴木　小林安　北角　吉川　田村 越後駒ヶ岳 （女 6 名　男 3 名　計 9 名） 荒沢岳（女 4 名　男 3 名　計 7 名）			



荒沢岳を目指したが……



ナナカマドの赤い実

＜１２２７＞

黒斑山～蛇骨岳
（2404m）（2366m）

福山　幸代


浅間山の雄姿が見えた！


トーミの頭　真っ白…

10 月 8 日、5 名で黒斑山に行ってきました。当初は 7 日の予定でしたが、真冬を思わせるような冷たい雨のため翌日の変更となりました。当日は雨の予報は無いものの、車坂峠に到着した時から辺りはガスで真っ白。おまけに想定以上に寒い……。せっかくなのに浅間山は見えないなーと、少々がっかりしながらの出発となりました。しかし、もやのかかった山道は幻想的で、歩いていくうちに冷たい風も心地よくなり、澄んだ空気と色付き始めた景色に段々気持ちがウキウキしてきました。

実は私は新人歓迎山行以降、中々参加する事が出来ず今回が 2 回目。このままいったら準会員のまま終わってしまうかも……と不安に思っていたところにようやくの参加。楽しみもありましたが、会員の皆様と打ち解ける事が出きるのか心配でもありました。でもリーダーの矢野さんはじめ、高橋会長、蟹江さん、みなさんとても優しく話しかけてくださり、そんな心配はすぐに無くなりました。

トーミの頭、黒斑山の頂上、相変わらずのガスで「きょうは心の目で浅間山を見ましょう！」なんて言いながら少し足をのばして蛇骨岳まで。蛇骨岳の方が展望もよく、ふと見上げるとうっすら青空が！ちょっと嬉しくなって青空を入れて写真を撮り直し満足して帰路へ。そして黒斑山を過ぎた辺り雑木林を抜けた時、視界が開けてふと目をあげたらなんと浅間山がどどーんと見えるではありませんか！思わずみんなで歓声をあげてしまいました。初めて間近で見る浅間山は、とても雄々しくどーんと構えており、頂上からの筋模様、下は色付き始めた樹木。まるで絵画のようでずっと見ていたい景色でした。しばらく写真など撮った後、名残惜しく振り返り振り返り下山したのですが、すぐまた濃い霧に包まれ、まるで浅間山が私たちの為に一瞬だけ姿を見せてくれたかの様でした。私は昨年も黒斑山に来たのですが、その時もガスで何も見えないまま下山。今回は心秘かにリベンジと思っていたので本当に嬉しかったです。

帰り道は中コースで樹林帯の中ふかふかの道を抜け、また全然違う雰囲気を味わうことができ、最後まで楽しい山でした。これも入念な下見をし計画して下さった矢野リーダーのお陰と感謝しております。みなさま楽しい山行ありがとうございました。またよろしくお願いします。

概　要

山　名	黒斑山～蛇骨岳		
月　日	2022 年 10 月 8 日（土）		
山　域	浅間山		
形　式	日帰り	**グレード**	1 A
目　的	秋の浅間山を見に行く		
費　用	15,000 円 ジパング 12,000 円	**交通機関**	新幹線 バス
行　程	我孫子 6:01→上野→佐久平 8:15/35→高峰高原ホテル前（車坂峠）9:29/55⇒避難シェルター（昼食）11:25/45⇒トーミの頭 12:06⇒黒斑山 12:30⇒蛇骨岳 13:08/38⇒分岐 14:10（中コース）⇒車坂峠 15:06/16:18→佐久平駅 17:30/58→上野→我孫子 19:50 〈歩行時間　約 5 時間〉		
ルート状　況	・表コースは外輪山らしいゴロ石の道で要所に展望が開ける。 ・中コースは樹林帯で歩きやすい。		
参加者	L 矢野裕　SL 高橋芳　蟹江　福山智 福山幸　（男 1 名　女 4 名　計 5 名）		

＜１２２８＞

大　山
(1252m)

飯塚　秀子

山岳信仰の聖地　大山

一氏さん初リーダーの山行です。9月の計画が延期となり再度企画された山行ですが、数日前から天気予報は雨。前日の連絡で当日は弱雨、午後からは晴れ予報になっていたので雨具の用意をして決行とのメールが届きました。朝、家を出る時傘は必要ありませんでした。

伊勢原駅からバスに乗り大山ケーブル駅で降り長く続く階段を上がりこま参道を通り抜け始発のケーブルに乗る。登山らしき人はまばらでした。阿夫利神社の鳥居をくぐり参拝し登山口入口へ。いきなり狭い階段を上がりゴツゴツとした岩場の登りが始まる。雨も強くなってきた。

雨乞い信仰の地大山は別名「あめふりやま」転じて「あふりやま」というそうで今日も登るにつれ段々とモヤがかかり景色は見えない。小雨から本降りの雨に変わり何度も衣服調整をさせてもらいました。山頂は強い風と雨、物置小屋を見つけ雨宿り。リュックを下ろしリーダーがお湯を沸かし各々の器に大福餅を割りお湯を注ぐと外皮がとろりとしたお汁粉になった。冷えた体が温まる。軽く昼食をとりレインウェアのズボンを履いたりと完全な雨仕様へと身支度を整える。メンバーのひとりは大きなビニール風呂敷と大きな袋を体に巻き簡易な雨具を作成。下山途中にすれ違う人に絶賛されていた。行きに追い越していった若い男の人が登ってきたので「2周目ですか？」と聞いたら「3周目です」というのでびっくり。他にもひとりで登りに来たという中学生。地元の人たちに慣れ親しんだ山なのだと実感する。山道には看板の設置もあり道迷いの心配はない。

帰路はピストンに変更し慎重に下山。景観は望めなかったが、雨の山行は貴重な経験でした。

帰りはこま参道の食事処「塚本」にて反省会。お豆腐を勧められたけど皆温かいそばを注文。雨で来る人も少なく逆にゆっくりできた気がします。午後4時に大山バス停に到着。すでにバスが停まっていたのですぐに乗り込む。電車の乗り継ぎも順調でけがもなく無事帰路についた。ありがとうございました。

概　要

山　名	大山		
月　日	2022年10月10日(月)		
山　域	丹沢		
形　式	日帰り	グレード	1A
目　的	会員相互の親睦		
費　用	約5,000円		
交　通 機　関	JR　小田急　バス ケーブルカー		
行　程	我孫子5:42→代々木上原→伊勢原7:51（神奈中バス）8:05→大山ケーブル下8:25→ケーブル駅9:00→阿夫利神社下社9:06⇒登山口9:23⇒２５丁目11:05⇒大山頂上11:30/51⇒阿夫利神社下社14:00→ケーブル駅14:40→（バス）→伊勢原→我孫子 〈歩行時間　4時間20分〉		
ルート 状　況	・雨でぬれた登山道を慎重に下山した。		
参加者	L一氏　SL武内　藤家　石塚　飯塚 飯合(会友)（男２名　女４名　計６名）		





＜１２２９＞

足尾山～御嶽山～雨巻山～三登谷山
（411m）（433m）（533m）　（433m）

細谷　秀次

箱庭の山

雨巻山の存在を知ったのは、数年前に山好きな友人から、「茨城県と栃木県の県境に面白い山がある。その山は尾根が馬蹄形で登山口から尾根を１周して、同じ場所に戻ってくる。ルート上には、どれも短く簡単に通過できる渡渉、鎖場があり飽きることが無い」と教えられた。
数か月後、その友人と雨巻山へ行き、わずか７Ｋｍ弱で、累積標高差も７００ｍに至らないコンパクトな山だがその中に山の要素が詰め込まれた、まさに箱庭の山という感じで、是非岳人あびこの山行で訪れたいと考えていた。
この様な背景があり、リーダー初山行として、雨巻山を選ばせて頂いた。
ネックとなるのが、交通機関で当初レンタカーで我孫子から向かう計画を立てていたが、鉄道＋タクシーも可能と教えていただき調べたところ、関東鉄道常総線～真岡鉄道を乗り継ぎ、益子駅からタクシーで登山口へ向かうこととした。さらに登山口には、ピザの名店茶屋雨巻がある。コースタイム的にはラストオーダーの時刻までに下山するのは困難と判断し、途中下山してピザを食べるグルメチームと尾根周回チームに分ける事とし、募集を行った。
山行当日は、前日までの雨の影響で渡渉区間の通過を懸念していたが、大きな影響はなく、無事に通過できた。足尾山で尾根に上がりここからは短い鎖場を通過し、快適な尾根歩きとなる。
ここで、後ろから二人組のトレランランナーに抜かれる。この二人には山頂から下山中にすれ違った。聞くと２周目との事。トレイルランナーの体力の凄さに脱帽した。
我々は、無理のないゆっくり目のペースで雨巻山山頂に予定通りの登頂。曇り空で、眺望はよくないが、普段見ることが無い方向からつくば連山を見ることができた。
ここで、グルメチームと相談し、途中下山せずに、一緒に登山口へ下山する事とした。
下山後茶屋雨巻に行き食べられるか確認するとの事。下山後に確認したところ、ピザの生地がなくなってしまい、終了していた。茶屋雨巻に行くには、山頂から電話で予約することが必要だった。
山頂には大勢の登山者、小さい子供連れもおり、地元に親しまれた山と思った。登山道も、地元の山の会が定期的に補修を行っており、崩れた場所もなく、綺麗に整備され安心して進むことが出来た。
ピザにありつけなかったが、益子駅にある小さなカフェで軽食を取りながら反省会を行い、再び真岡鉄道、関東鉄道を乗り継ぎ帰路についた。



気持ち良い尾根歩き



足尾山山頂

＜１２３０＞

信越トレイル
（セクション５，６天水山）

（最高標高 1151m、天水山 1088m）

矢野　裕子
矢野　貞子

概　要

山 名	足尾山～御嶽山～雨巻山～三登谷山		
月 日	2022 年 10 月 15 日(土)		
山 域	八溝山地		
形 式	日帰り	グレード	２Ａ
目 的	涼しくなったので、関東の低山に登る		
費 用	約 3,100 円	交通機関	JR 関東鉄道 真岡鉄道 タクシー
行 程	我孫子駅 5:36→取手 5:43/55→下館 7:25/31→益子 8:11(タクシー)→大川戸駐車場 8:40⇒足尾山 9:35/41⇒御嶽山 9:52⇒峠 10:30⇒雨巻山 11:30/12:10⇒三登谷山 13:10/18⇒大川戸駐車場 14:00/30（タクシー）→益子駅 15:10/54→下館 16:34/37→取手 18:03/11→我孫子 18:18 〈歩行時間　約５時間〉		
ルート状況	・全般的に手入れが行き届いた登山道で、危険箇所は特になかった。（地元の山の会「益子いくべ会」が定期的に整備活動を行っている） ・足尾山手前の渡渉箇所は滑りやすい為注意が必要。 ・御嶽山手前の鎖場は落石への注意が必要。		
参加者	L 細谷　SL 白崎　外崎　高橋芳 大平　蟹江　中村育　郷田　小林安 田嶋　小林健 （男5名　女6名　計11名）		





▲低山とは思えない眺望

初参加、天水山の朝

信越トレイルを初めて知ったのは、2013 年の新聞記事、らんぼうさんの一歩二歩山歩。
以来ずっと、その切り抜きはお気に入り箱の中でした。１回目・２回目の計画も都合がつかなかった。今回は週末、しかも宿が出してくれる送迎車のお陰で、最初から泊まりの荷物を預かってもらえる。このところ山に行けていない私には、大変貴重な有難い計画でした。頂を目指す登山と、自然に親しみ楽しむ登山、二種類あるとらんぼうさんも書いている。
一日目の関田峠は、うろこ雲の空に日が差して明るいスタート。背が低く、幹が大きく曲がったブナが多い自然林。豪雪地帯の森はこんなことになるんだと新鮮な驚き。小さな池のほとりで昼食。水際の草が紅色に染まって、静かでとても心が落ち着く。地図では上り下りが同じくらいに見えるのに、歩いてみると断然急な下りが多く感じた。滑りそうで気を使う。午後はガスの中だった。白い靄の中のブナ林はとても幻想的だった。頭注意の声掛けリレーはしていても、あ痛っ！と低く曲がった幹にぶつかり、何度も悲鳴があがった。ちゃんと約束の時刻に迎えに来てもらってメイプルハイムへ。談話室にいつでも飲める珈琲マシーンがあり、ゆっくり温泉につかり、食べきれない程の地元食材のおかずが出た。
　二日目、朝の送迎バスの車窓は日の出で赤く染まっていた。リーダーはこの日、車移動の効率を上げるために、東から西へと逆ルートに変えてくれた。天水山松之山口。ブナの樹に沿って登る。こんなに美しい登山道を私は初めて見た。白くて華奢なブナがずっと奥深くまで生えそろい、見上げると青空に輝く黄葉、黄緑葉。とてもすがすがしい。朝の太陽がずっと暖かく背中を押してくれた。天水山山頂を過ぎると時々右手が開けて、遠く雲の向こうに浮かぶのは妙高・火打だと言う。今コースは南を向いているのかな？守り神のように太く高くそびえる樹、くねくね恥じらうようにしなった樹、幹の中に小窓みたいな穴があり、のぞき込むとぴったりサイズの小さなキノコが５～６本生えていた。地中深く水を貯え、静かな

美しい森を飽きることなく歩くことができ、本当に幸せな２日間でした。　　（矢野裕子）

ブナの紅葉を満喫

15～16 年前市民登山で行った「かやの平」で坪田和人の説明を聞き歩いた時にブナの事を知った。その後、坪田さんの本や雑誌などでブナの生態をより詳しく知るようになったら、どこの山へ行ってもブナ林は気になった。

特に雪国のブナの美しさは格別で「信越トレイル」を歩くことが私の念願だった。今回３回目でセクション５と６の関田峠から天水山までの 25 ㎞余りを２日間で歩いた。コロナなどで４年がかりになってしまったが、斑尾山から天水山迄の 80 ㎞を歩き終えたのだ。

2020 年に歩いたセクション４と今回の５と６のブナ林はひときわ美しかった。道は良く整備されているが豪雪で曲がった幹が道を塞ぎ、頭上や足元を常に注意しないと、ぶつけたり、躓いたりしてしまいますが、尾根道には大木のブナ林が続いています。また、地図では然程登り下りは見られないが、短い急な登り下りが繰り返しあり、頂を目指さないものの、累積高度差は結構あります。頂を目指さない山行で楽しんでもらえるか心配でしたが、参加者の皆さんには好評だったのでホッとしています。飯山駅から登山口、下山口から民宿と各 1 時間余りを要する送迎が民宿のサービスなので、効率的でリーズナブルに歩くことが出来ました。帰り A 氏お勧めの鰻屋のお弁当を頂き満足な山旅でした。

信越トレイルは全長 80Km だったが、2020 年９月に苗場山まで延長されて全長 120Km 余になったそうですが、この先延長部分を歩く機会はあるだろうか？　　（矢野貞子）

概　要

山　名	信越トレイル(セクション 5，6 天水山)			
月　日	2022 年 10 月 15 日(土)～16 日(日)			
山　域	信越			
形　式	民宿泊	グレード	２B	
目　的	ブナの紅葉を楽しむ			
費　用	18,500 円（ジパング及び全国旅行割利用）	交通機関	ＪＲ 送迎バス	
日程 一日目	我孫子→上野→(北陸新幹線)→飯山 8:20（集合）飯山駅 8:30 →(宿送迎バス)→関田峠 9:10/15⇒梨平峠 10:10⇒昼食 10:40/55⇒牧峠 11:50⇒花立山 12:35⇒宇津ノ俣峠 13:18⇒幻の池 14:08⇒伏野峠 15:48/50→宿 16:30（section5　*EB） 〈歩行時間　5 時間 40 分〉			
日程 二日目	宿 5:45→松野山口 6:40⇒天水山 7:53⇒見方額 9:08/20⇒昼 10:10/25⇒野々海峠 10:50⇒須川峠 13:30⇒伏野峠 14:08/10 → 宿 14:50/ 入浴/16:00(送迎バス)→飯山駅 16:20→(新幹線)→上野→柏→我孫子 20:40 （section6　12.8 ㎞　*WB） 〈歩行時間 6 時間 45 分〉			

EB:east bound（東に向かう）信越トレイルにおいては斑尾山から苗場山方面へ向かう。

WB:west bound（西に向かう）苗場山から斑尾山方面へ向かう。

梨平峠にて



ルート 状　況	・宿はお願いすれば登山口まで送迎してくれる。送迎込みの宿泊費です。 ・関田峠、伏野峠へは車で 45 分、天水山登山口まで宿から 1 時間程かかります。 ・section５は EB で、登山口まで時間がかかる section6 は WB で歩き、両日とも伏野峠に下山した。結果、天水山からは陽を背中から受けたので木々が輝いて見えた。 ・section４，５，６は特に豪雪なため登山道に根や曲がりくねった枝などが張り出し、頭上や足元を避けながらの歩行の為注意が必要。 ・section6 は、登り下りはあるが比較的歩きやすく、ブナの大木が多い。 ・天水山のブナ林は幹が太くて白く美しい。鍋倉山のブナ林と同等だった。
参加者	L 矢野貞　SL 秋山　田村　本田 矢野裕　小島洋　土田　一氏　吉川 佐藤健　佐藤明 （男３名　女８名　計11名）



天水山登り



ブナ林の紅葉

＜１２３１＞

鋸山 ・ 浅草岳
（765m） （1585m）

森岡　正和
北田　仁則

なだらかな山に一面の草紅葉

第１日目　鋸山（765m）

秋の穏やかな快晴に恵まれ長岡駅に総勢１５名が集合する。明日の浅草岳登山に向けた脚慣らし登山として今日は地元の鋸山を目指す。駅前でレンタカーを借り３台に分乗し花立峠登山口の駐車場まで３０分弱で到着。平日（金曜日）のせいか３０台程度の駐車場には未だ充分な駐車スペースが残っていた。

駐車場奥の登山口より３班に分かれてスタートし、当班は１０時前に登り始める。細い登山道の後、水が流れる側を滑りやすい濡れた石に注意しながら登っていく。途中、「烏滝」の表示があったので横道にそれて、滝のせせらぎを眺める。特段、格別とは思えないが名前の由来は何なのか聞き漏らした。

その後、樹林帯を歩くが紅葉は未だの様だ。登るに従って所々で遠くの景色が見渡せる箇所が出始め癒される。多くはないが頂上近くなるとすれ違う人や、追い越して行く人、途中で休憩している登山者は殆どが地元の人らしい。中には地元の美味しいそば屋さんを詳しく教えて下さる方も居たが、残念ながら今日も明日もスケジュール的に行けそうもなく残念。登り下りを経て２時間強で鋸山山頂に到着。山頂からの長岡市街方面の眺めが良い。

頂上で昼食休憩となるが、余り広いスペースは無い。後で解ったがもう少し先に下ると良いスペースが有るようであった。頂上で昼食と眺望を充分に楽しんだ後、同じルートを下るが、登る時に閉じていたリンドウの花が、下る時には日光を浴びて花が開いて楽しませてくれた。

１４時過ぎには駐車場に到着し、適度に急登もあり時間的にも脚慣らしには程良い行程であった。後は駐車場から宿泊先の大雲沢ヒュッテの途中のスーパーで明日の食料品を仕入れるが、山で行き合った地元の登山者が近くのスーパーまで先導して案内して頂き感謝。

個人としては食料品を必要以上に仕入れ、ヒュッテでの入浴、充分な夕食を楽しんだ後、明日の浅草岳への期待を胸に眠りについた。（森岡正和）



鋸山山頂集合

第２日目　浅草岳（1585m）

宿泊場所の大雲沢ヒュッテは今回で３度目の利用、初めて来たのは去年１１月、八十里越えして泊まった。この時は宿の主人が下山場所に迎えに来てくれただけでなく、初日に登山口にデポした場所まで往復 100ｋｍの距離を運転して、車の回収に協力してくれた。また、盛りだくさんのおいしい夕食が出て、１泊２食付きで 6,700 円という安さ。すっかり気に入ってしまい、今年６月の守門岳、そして今回の浅草岳登山に利用させてもらった。今回は 15 名と大勢、小さなこの民宿では貸し切り。夫婦二人だけでやっているだけに、料理の準備はてんてこ舞い。それでもてんぷらや山菜など 10 品前後だしてもらい、おまけに越後の銘酒「緑川」の一升瓶の差し入れまであり、夕食は全員の話が弾んで、コロナの自粛をすっかり忘れてしまうほどだった。

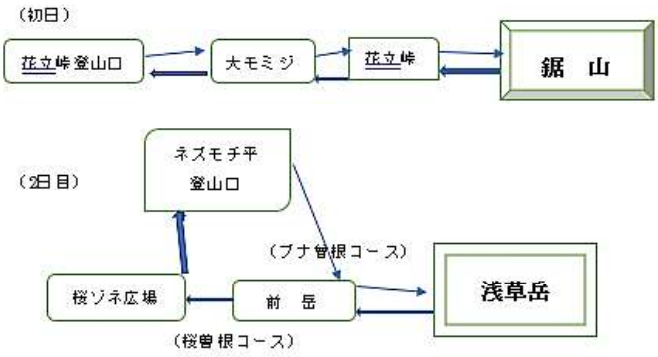
浅草岳は越後と会津にまたがる名峰で、７月には小林リーダーが１５名を連れて訪れている。そのうち５名が今回も参加してくれた。この時は会津側の六十里越登山口から入り、入叶津へ下るというハードなルートだった。今回は新潟側のネズモチ平からの周遊コースで、前回よりもはるかに楽なルートを選んだ。前日快晴だった天気はやや下り坂、それでもときおり青空がのぞいて、紅葉の盛りを迎えた山肌は黄色に色づいて輝いていた。週末の土曜日とあって、紅葉に染まったこの山にも多くの登山者が登ってきていた。我々は１５名と大勢だったので、５名ずつ３班に分かれて、他の登山者の迷惑にならないよう間隔をあけて歩いた。登るごとに紅葉の色が鮮やかになり、感嘆の声があがった。頂上付近はなだらかな山容に一面の草もみじが実に美しかった。頂上に到着すると急に雨が降り出し、強い風も吹いてきたので、集合写真を撮りすぐに下山してしまった。しかし、後には雨がやみ、風も収まって悔しい思いをした。ただ、頂上付近からの３６０度の大展望は目に焼き付いた。越後三山、尾瀬、日光の山々、飯豊山などくっきりと見え、足元には只見湖の湖面が光ってみえ、まさに絶景だった。

下山は紅葉をめでながら、ゆっくり景色を堪能した。正面には破間川（あぶるまがわ）を隔てて６月に登った守門岳がどっしりと構えていてなつかしかった。そのときは、残雪があり、ヒメサユリが満開だった。今回は紅葉がまっさかり、季節をかえて同じ山域を歩く醍醐味を味わうことができた。

下山後レンタカーで麓の寿和温泉に向かう途中、今年の１０月１日に再開通したばかりで、１日数本しか運転していない只見線の（臨時）列車に遭遇して、しばらく並走できたことはラッキーで楽しかった山旅をしめくくれた。

（北田仁則）

概　念　図





浅草岳山頂付近の草もみじ

概　要

山　名	鋸山・浅草岳		
月　日	2022 年 10 月 21 日(金)～22 日(土)		
山　域	越後山脈		
形　式	山麓泊	グレード	２Ｂ
目　的	紅葉の越後の山に登る		
費　用	約 30,000 円	交通機関	新幹線 レンタカー

日程	一日目	我孫子 6:12→上野 7:10（とき 303 号）→8:38 長岡 9:30→（レンタカー）→花立峠登山口 10:00⇒花立峠 11:35⇒鋸山山頂 12:10⇒花立峠 13:10⇒花立峠登山口 14:20→ 民宿（大雲沢ヒュッテ）16:30 〈歩行時間　約 3 時間〉
	二日目	大雲沢ヒュッテ 6:00→ネズモチ平駐車場 6:40⇒登山口 6:50⇒（ブナゾネコース経由）⇒前岳 9:30⇒浅草岳頂上 9:50/10:10⇒前岳（昼食）10:15/11:00⇒（桜ゾネコース経由）⇒桜ゾネ広場 12:50⇒ネズモチ平駐車場 13:20/40→寿和（すわ）温泉 14:15/15:15→長岡（レンタカー返却）16:20　　長岡駅にて解散 〈歩行時間　約 6 時間〉
ルート状況		（１日目　鋸山） ・長岡駅から車で 15 分程度と近くにあり、ハイキングコースとしてよく整備された、気持ちの良いコース。 ・頂上からは長岡市内、信濃川の眺めがよい。道ばたのりんどうの花がみごろだった。 （２日目　浅草岳） ・浅草岳にアプローチするのに最も手軽なルートで、登山道はよく整備されていて歩きやすい。 ・登りに使ったブナゾネコースはやや急登、下りの桜ゾネコースは比較的なだらかで、当初は反対のコースで歩くことを計画していたが、変更して正解だった。 ・時期的に紅葉が見ごろで、特に頂上付近の草もみじが美しかった。 ・頂上からは360度の大展望で、越後三山、燧ヶ岳、飯豊山などがよく見えた、また、足下には田子倉湖の湖面が美しかった。
参加者		L 北田　A 班 SL 秋山　石塚　田嶋 大賀　B 班 L 森岡　SL 土田　小島洋 吉川　佐藤明　C 班 L 藤家 SL 佐藤健　本田　小林安　北角 （男６名　女９名　計 15 名）

＜１２３２＞

赤城山（駒ヶ岳～黒檜山）

（1685m）（1823m）

蟹江　和子

今回は、高崎駅（新幹線組と在来線組）で集合、両毛線で前橋駅に行き、レンタカーで登山口まで移動した。車窓からの美しい紅葉に感激（今日の紅葉登山の期待が膨らんだ）。紅葉のピークのせいか、人、車がとても多く、駐車場探しにとても難儀をしたが、赤城神社の駐車場に停める事が出来た。

駒ヶ岳登山口から、いきなりの急斜面と鉄の階段で厳しかった。それと人の多さにびっくり！で、交互交通で時間もかかった。尾根に出ると気持ちの良い稜線歩きになり、大沼が一望に見下ろせた。狭い駒ヶ岳の頂上に着くと、やっと黒檜山の姿が目に入り、ホッとする。少し下ると大ダルミ草原で、美しい草紅葉の草原でひと息、深呼吸！とても気持ちが良かった。いよいよ黒檜山の急な登りだ！ダケカンバの林の傾斜のきつい登りを越え、稜線に鳥居のある「御黒檜大神」のピークに出て、少しアップダウンで黒檜山山頂に到着した。

あまりの人の多さにビックリ！する。その先の「天空の広場」の展望台に移動して、昼食タイム。ここからの展望は素晴らしかった。赤城周辺の山、上信越国境の山、奥日光の山々などがうっすらと見え、富士山が見えたときは、感動で声を上げてしまった。

下山は、笹と木々の狭い道で、巨岩と石がゴロゴロした急坂を、注意を払いながらゆっくり下山したが、とても緊張した。紅葉と大沼・赤城神社の美しい景色に後押しされ、無事下山する事が出来た。

帰りの車では、車窓からの綺麗な紅葉の余韻が続いた。

概　要

山 名	赤城山（駒ヶ岳～黒檜山）		
月 日	2022 年 10 月 22 日(土)		
山 域	上毛三山		
形 式	日帰り	グレード	１Ａ
目 的	初のリーダー		
費 用	約 13,200 円	交通機関	JR レンタカー

＜１２３３＞

妙法ヶ岳　～　霧藻ヶ峰
（1320m）　（1523m）

新谷　直恵

行　程	前橋駅南口駅前 8:40→（レンタカー）→9:40 おのこ駐車場⇒駒ヶ岳登山入り口 10:10⇒駒ヶ岳 11:20⇒駒ヶ岳分岐 12;20⇒黒檜山 12:25（昼食）12:45⇒黒檜山登山口 14:00⇒14:10赤城神社 15:00→（レンタカー）→前橋駅南口前 16:00 〈歩行時間　約３時間半〉
ルート状　況	・駒ヶ岳登山入り口から駒ヶ岳、更には黒檜山までの登山道はよく整備されていて歩きやすかった。 ・黒檜山から黒檜山登山口までの帰り道は結構な急な下り坂。さらにごつごつとした岩が多く、かなり気を付けて下った。 ・駒ヶ岳から黒檜山の間の登山道からは遠くの山々が望める絶好のルートが存在。幸運にも天気が良く富士山、南アルプス等が望めた。
参加者	L 松下　SL 矢野貞　高橋芳　渡邉一氏　飯塚　小山　蟹江　村越 （男１名 女８名 計９名）



妙法ヶ岳山頂は三峰神社奥の院



駒ヶ岳山頂での全員写真



駒ヶ岳から見た大沼

妙法ヶ岳から霧藻ヶ峰へ

三峰山という山はなく妙法ヶ岳と白岩山、雲取山の３山を総称してそう呼ばれている。今回は日帰りとあってその途中、霧藻ヶ峰までとする。妙法ヶ岳は三峯神社の奥の院であり、そこに至る道はよく手入れされた檜の森が続き、「千年の森」と案内板が出ている。続く登山道は奥の院への参道でもある。またそこは雲取山へと続く登山道の分岐点でもある。雲取山までは８．３キロの表示があり、いつかこの道を辿って雲取山まで足を伸ばしたいと思う。

深い森を歩くと呼吸は次第に深くなりなんとも心地良い。この季節は樹林帯の中、色鮮やかなもみじをはじめとした紅葉が目に鮮やかでみんなの歓声が上がる。妙法ヶ岳頂上と、霧藻ヶ峰頂上からは奥武蔵の山並みが一望でき、その中にも紅葉は点在。来た道を戻るのではなく斜め左に下って山を越えると、先ほどの雲取山への道に出る。

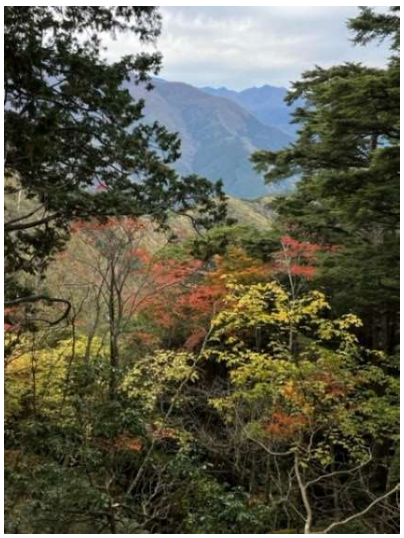
さらになだらかな登山道を行くと、途中、炭焼き平、地蔵峠を通り、霧藻ヶ峰に到着。ここは秩父宮様が名付けたピークであり、ご夫妻のレリーフが燕岩に彫られている。この休憩スポットからは目前に両神山が望めて眺望がまた素晴らしい。

平日にもかかわらず西武秩父駅から出る三峰へのバスは超満員。幸い、私たちは座れたが１時間 20 分の揺れる行程を立っている姿を見るのは辛い。今回は漫遊クーポンという格安チケットが売り出されていたこともあり、西武秩父は贅沢を

して特急を利用したのも快適だった。
　秩父は日本のチベットと言われるのは昔ながらの自然、そして生活が残っているからだろうが、奥深い山の峰に入るといつもホッとする。

概　要

山 名	妙法ヶ岳～霧藻ヶ峰		
月 日	2022 年 10 月 27 日(木)		
山 域	奥秩父		
形 式	日帰り	グレード	1 A
目 的	秋の樹林帯を歩く		
費 用	4,500 円	交通機関	電車、バス
行 程	我孫子駅 5:42→ 日暮里→6:12→池袋 6:31/6:50（特急）→西武秩父 8:14/9:10（バス）→三峰神社 10:30/10:45⇒ 妙法ヶ岳 11:20/11:40 昼食⇒妙法ヶ岳と霧藻ヶ峰の分岐点 13:10⇒炭窯跡⇒13:45 霧藻ヶ峰 13:55/14:05 ⇒三峰神社バス停 15:20/15:30（バス）→ 西武秩父 16:50 /17:24（特急）→池袋 18:47 日暮里を経て我孫子着 19:44 〈歩行時間　4 時間 30 分〉		
ルート状況	・登山口から始まる千年の森は良く手入れされた檜の森が続くが、途中ブナの森もあり紅葉が美しかった。妙法ヶ岳山頂と霧藻ヶ峰山頂からは奥武蔵の山並みが一望できる。ここからの眺望では山々が錦の紅葉。 ・妙法ヶ岳から霧藻ヶ峰までの道が地図で見るより登坂だったため予定のバスに乗れるか途中心配したがなんとか間に合った。		
参加者	L 新谷　SL 千葉　高橋芳　外崎 矢野朝　（男１名　女４名　計５名）		



着物の柄のような紅葉

＜１２３４＞

立山（雄山～浄土山）
（3003m）（2831m）

白崎　哲史

碧と純白のアナザー・ワールド

■雪が安定しておらず、周回を断念

　その朝、室堂一帯は一気に冷え込んだ。予報通りならば気温はマイナス 16 度。放射冷却によるものだ。

　7 時過ぎ、身支度を調えて室堂山荘を出ると、周囲は青白い光に包まれていた。空は吸い込まれていきそうなほど碧く、陽の光を浴びた浄土山の上部だけが強烈なまでの白い輝きを放っている。

　しかし、風は弱く、寒さは感じない。

　前々日に降った 35cm ほどの雪はさらさらのままで、新雪に足を突っ込むと何の抵抗もなく沈んでいく。つまり、雪は安定しておらず、踏み跡のない場所ではアイゼンがあまり効かないことを意味していた。

　目指すのは、とりあえず雄山だ。計画では雄山から岩稜部をトラバースして大汝山・真砂岳・別山へと向かうことにしていたものの、どうするかは、細谷さんと雄山で決めることにする。

　一ノ越へと向かう登山道は、しっかりとした踏み跡があった。昨日登った人たちのものだろう。今日、ぼくらよりも先に登り始めた人はそう多くはない。

　写真を撮りながらゆっくり登るぼくらを、同宿の女性が追い越していった。ハーネスを装着していたため、「どこまで行くの?」と怪訝そうに見ているのがわかる。

　浄土山の輝きが一際増してきた頃、一ノ越に着いた。陽の光がまぶしい。雄山の稜線もその陽光を浴びて喜んでいるかのようだ。とはいえ、風が強くなった。予報では午後までずっと風速 15～16m/s ほどもあるらしい。

　ヘルメットとアイゼンを装着しているうちに、少しずつ登山者が増え始めた。ほとんどは単独で、しかも女性が多い。富山県警は登山者にビーコンの携行を求めていたが、どれだけの登山者が携行しているのだろうか。もちろん、ぼくらは 3 点セットを携行していたのだが。

　雄山への登りは、最初の 3 分の 1 ほどが急登である。それでも最大斜度は 40 度ほど。強い風のため、岩陰の吹きだまりを除いて雪はほぼ吹き飛ばされている。

　とはいえ、今日の風は体が持っていかれるほど

ではない。アイゼンでガレた岩を踏みしめながら一歩一歩登る。それでも途中１箇所、吹きだまりを３メートルほどトラバースする箇所があり、膝上まで埋まりながら慎重に足を繰り出すことを強いられた。ピッケルを山側の雪面に突き刺しても抵抗がなく、ストッパーとはなってくれなかったからだ。

トラバースを終えて、ポッコリと突き出た岩稜部を回り込むと、雄山の山頂が見えてきた。ここから先は傾斜が緩やかになる。振り返ると、浄土山の平らな頂が広がっていて、その先に白い山塊が浮かんでいた。白山だろうか。

先頭を細谷さんに譲って、写真を撮りながら雄山の山頂を目指した。

空は相変わらず吸い込まれそうなほど碧く澄んでいる。そして、新雪を纏った眼下の山々は、純白の清らかさに満ちている。

雄山の山頂からは、立山連峰だけではなく、北には剱岳が望め、その先には日本海が広がっている。南に目を向ければ、北アルプスの山々の稜線はもとより、富士山までもが朧げに望めた。

さて、大汝山へ向かうかどうか。

ぼくらを追い越していった男性のものだろうか。大汝山への踏み跡はあった。しかし前日、室堂の登山センターで「雄山のトラバース道を使うならロープを出した方がいいよ」とアドバイスを受けていた。

トラバース道でロープを出すと言っても支点がとれるわけではなく、肩絡みの確保にならざるを得ない。しかも、その足下は抵抗のほとんどないふわふわの新雪である。もしもの際に、きちんと相方である細谷さんを確保できるかどうかは疑問だった。

祠の先の岩場を下るという手もあったが、新雪を纏って見えなくなった岩の隙間にはまり込むリスクがあることが見て取れた。

周回を断念し、ぼくらは一の越まで降り、浄土山を登り返してから下山することにした。

■脳が「快」の信号を発し始める空間

浄土山への登り返しは、きつくはないものの、強風の洗礼を受けるものとなった。

雲一つない空に風で舞い上がった雪片が、西に傾き始めた陽光を浴びてダイヤモンドダストとなり、ときにそれが頬に突き刺さってくるのだ。

「いて〜っ」と、思わず叫んでしまうほど。そして、その強風は数分で先行者の踏み跡を消し去る。

それでも、陽の光を正面から浴びながらの浄土山への登りは気持ち良かった。順光での雪面は純白の清らかさが際立つが、逆光での雪面は雪で光が乱反射するせいか、雪面全体がキラキラと輝き、凍てついた空間を極上のアナザー・ワールドに仕立て上げてくれるのだ。

こうした空間のなかで、ぼくの脳は「快」の信号を発し始める。この感覚はなかなか言葉では言い表し難い。目の前の光景が永遠に続くことを願いつつ、脳は五感を通じていまのこの瞬間を感じとることだけに集中し始める。

言語脳である左脳が沈黙し、イメージを扱う右脳が主導権を握っているのかもしれない。時間の感覚が薄れ、ただただ貪欲にこの時空を貪っている自分がいる。

と、急にお腹が減ってきたので、少し平坦になった中腹で昼食タイムとした。ハードシェルを着



雄山の山頂を神社のしめ縄越しに。エビの尻尾がうろこ状になってしめ縄を覆っている。



←雄山への岩稜帯を登る。この辺りが最も急峻なところだが、緊張するほどのことはない。



←雄山の山頂から北西方面を望む。雲一つない快晴下で劔岳も顔を覗かせている。大汝山方面への踏み跡が確認できるが、これも強風ですぐに消えてしまったに違いない。

浄土山を降りてきて、展望台方面への分岐を少し進むと、なんとも長閑な雪景色が広がっている。



込み（それまではソフトシェルで行動）、行動食をかき込むも風は相変わらずで、テルモスから注いだお湯が急速に熱を奪われていく。

そこから気象観測用の小屋のある頂までは10分ほどだった。雄山方面を振り返ると、穏やかな立山連峰が雷鳥沢を優しく包み込んでいる様が見てとれる。

その光景は美しいものの、何かが足りない。ダイナミックさだろうか、光だろうか、構図の妙だろうか……カメラを持ってあちこち移動してみるが、納得がいかない。

龍王岳を望むと、誰かが登っている。雪が少ないために、取り付き部がいやらしそうだ。登れたら登るつもりでいたが、今回は見送り、浄土山の山頂を通って北斜面を室堂山荘へと下山することにした。

ハイマツの間につけられた夏道を辿る踏み跡を追うと、ときどき新雪の下に隠れた岩にアイゼンが引っかかって足をとられる。北斜面の急登で転ぶわけにはいかない。150mほどを慎重に降りると、傾斜が緩やかになった。

目の前には、立山のまた別の顔があった。穏やかで悠然とした丘陵地帯の顔である。

こんなところでのんびりしていたい……そんな空間だ。緊張が解かれたことで、副交感神経が優位に働き始めたのかもしれない。西に傾いた陽光は、雪原を澄んだ輝きで満たし、脳をじわりじわりと浄化していく。ぼくらはその満ち足りた時間を満喫し、室堂山荘に戻ったのだった。

概　要

山　名	立山（雄山～浄土山）		
月　日	2022年11月17日(木)～19日(土)		
山　域	北アルプス北部		
形　式	山小屋泊	グレード	2C
目　的	新雪の立山を満喫する		
費　用	約40,000円	交通機関	マイカー

日程	一日目	我孫子 5:00→柏IC 5:20→常磐道/首都高/中央高速/長野道→安曇野IC9:00→扇沢 10:30→室堂 12:00(昼食) 12:30⇒みくりが池 13:00⇒ 室堂山荘 13:30 〈歩行時間　1時間〉
	二日目	室堂山荘 7:30⇒一ノ越 8:35(装備確認)/8:56⇒雄山 10:00/10:30⇒一ノ越 11:30⇒浄土山（南峰）13:00/13:15⇒浄土山（北峰）13:20⇒浄土山登山口 13:50⇒室堂山荘 14:40　〈歩行時間　6時間半〉
	三日目	室堂山荘 8:00⇒ みくりが池 8:20⇒雷鳥沢野営場 9:10/9:20⇒雷鳥沢付近 9:35 ⇒雷鳥沢野営場 9:45(雪上ロープワーク訓練)/10:50⇒みくりが池 12:00⇒室堂山荘 12:10（昼食・パッキング） 13:10⇒室堂駅 13:20/13:45→扇沢 15:20/15:40→大町温泉(入浴) 16:00/16:40→安曇野IC 17:35 →長野道/上信越道/上越道/北関東道　桐生太田IC 20:15→我孫子 22:20 〈歩行時間　2時間半〉
ルート状況		・前日に新雪が35cmほど降ったあとで、現地に着いた17日午後の時点で天

ルート 状　況	候は曇りであった。 ・室堂ターミナルで登山届を提出する際に留意事項を聞くと、雄山のトラバース道を通過するならロープを出した方がいいと告げられた。とはいえ、支点は構築できないので、確保方法は「肩絡みで」と言われる。 ・山スキー客向けには、雪崩の危険があるので滑走しないようにと案内されていた。 ・雪はさらさらの粉雪でほとんど抵抗がなく、その雪質は翌18日も同様であった。 ・快晴に恵まれた18日、一ノ越まではノーアイゼンでいけるかと思ったが、一ノ越山荘手前の石畳状の登山道の一部（10m ほど）が凍結していた。 ・一ノ越から雄山に向かう稜線上は風速15m 程度の風が吹いていた。そのルートは、雪と岩稜とときに氷の入り交じった稜線歩きとなり、吹きだまりの急斜面では5m ほどトラバースする場面もあった。 ・三ノ越付近から上部は風で雪がかなり飛ばされていて、アイトレを思わせる岩稜帯歩きとなった。 ・雄山山頂付近は、風下側に吹きだまりができていたが、風が強かったため、その踏み跡は数分もすると消えてしまう状況であった。 ・雄山のトラバース道は、そうした吹きだまりの斜面を通過していくことになるが、雪質はさらさらのままで、アイゼンがあまり効きそうもなかった。そのため、大汝山に向かうのを断念した。 ・雄山山頂から一ノ越に戻り、そこから浄土山に向かうも稜線上の風は一向に収まらず、ときにアラレ状の雪片に頬を叩かれた。 ・浄土山山頂までは、先行者の踏み跡ができてもすぐに消えてしまう状況であったものの、視界はよかったので、ルートを見失っても復帰することは容易であった。 ・浄土山からの下り上部は、ゴロゴロとした岩稜にふわふわの雪が乗っている状態。何気に雪を踏むとアイゼンが岩に引っかかって足を持っていかれることがあった。
参加者	L 白崎　SL 細谷　　（男２名）

＜１２３５＞

笹　尾　根

（数馬峠 1105m～笛吹峠 999m～丸山 1098m～土俵岳 1005m～浅間峠 861m）

本田　愛子

多摩川水系と相模川水系を隔てる長大な笹尾根は奥多摩の三頭山～八王子の高尾山へ続く長大な尾根(33K)で概ね標高 1,000m前後の小ピークが連なる。広義は三頭山～槇寄山～丸山～浅間峠までだが、今回は日没と足並みの関係で、数馬峠～浅間峠までを歩いた。研修課題を時間配分と休憩のとり方にしたのは、１１月下旬は日没が１６時３０分、歩行時間が標準で６時間に休憩時間プラスで７時間になるため休憩のとり方や歩行時間などの配分が必要になる。笹尾根はたくさんのルートがあるので途中下山もできる。

天気予報が数日前から気になっていたが、確実に実行日は雨模様になっていた。前日の午後には東京都の降水率が 70%だった。奥多摩の三頭山地区では昼頃からの降水率 20%になった。判断に迷って、サブリーダーの北田さんと貞子さんに相談した処、危険個所もないし雨具を付けて歩く山行になるが決行することにした。

曇天の朝、武蔵五日市から都民の森行のバスに乗り込むと、私達１３名と数名の登山者だけだった。

数馬のバス停に下りた時は、もう雨が降りだしていた。雨具を着て、トイレを済ませて１つ手前の仲の平バス停へ５分くらい歩いて戻った。すぐ傍に登山口がある。狭い登山口から２班に分かれて歩き始めた。小川の丸太の橋を渡っていきなりの急で狭い山道を登る。３０分くらい急登をがんばると民家が見降ろせる場所で、雨も止み始めたので衣服調整をした。樹林帯を登って行くと、傾斜が緩くなった辺りが温泉センターへ行く分岐点があり、そこからは今までのような急登はないが、尾根までは１時間ほど登って、水分補給に５分休んだ。周りを見ると木立の間から晩秋の紅葉が見られた。

笹尾根の数馬峠に着いた頃、すっかり雨も上がっていた。曇天の空、遠くの山並みが見えた。笹タワノ峰へは登って行くのと回り道とあって２班は回り道を行ったが、木の根が多く、歩きにくく時間もかかって、１班はだいぶ先に笛吹峠の方へ歩いていた。笛吹峠の手前に広場があって落ち葉がじゅうたんの様にふかふかで気持ち良い。日差しも出てきた。ここで昼食タイムと写真を全員



←枯葉の広場で



→笛吹峠の広場で

で撮った。２０分の短い時間で先を急ぎ、笛吹峠から短い急登を上がっていくと、丸山の頂に着いた。５分休憩して、次の小ゆずり峠まで下って行くが、落ち葉のふかふかで道が分からなく少し回り道をした。小ゆずり峠まで予定通りの時間できているので下山しないで先へ行くことにして次の土俵岳へ向かった。落ち葉で道が消えているが、所々に標識や木に赤いテープが付いているので迷わずに進めた。展望の良い場所に来ると、雪化粧した富士山が微かに見えた。丹沢の山並みや北側に浅間尾根が見える。

足にやさしい落ち葉を踏みながら土俵岳の頂に着いたが、小さな木の標識に土俵岳とかいてあるだけで目立たない展望のない処を休まず通り過ぎた。少し下ると日原峠の人里へ下る分岐を通り過ぎて、今回最終の浅間峠まで６０分、小さいピークのアップダウンを繰り返してやっと、東屋のある浅間峠に着いて休憩をとった。後は１時間の下山を疲れた足に注意して、ゆっくりジグザグと樹林帯の中を下りて行った。徐々にうす暗くなり始めたが、上川乗のバス停に１６時２３分のバスの１０分前に到着した。バスに乗車して、間もなく陽が落ちて暗くなった。

今回、天気予報が雨模様だったので、登山者に殆ど会わずに歩けたのと、アクシデントがなく予定通りの時間配分が出来たのは、先頭を歩いて指揮を執ってくれたサブリーダーの矢野貞子さんと、皆さんの協力で全員が完歩できました。晩秋の落ち葉を踏みながらの尾根歩きを満喫できた山行でした。

概　要

山 名	笹尾根		
月 日	2022 年 11 月 26 日(土)		
山 域	奥多摩		
形 式	日帰り	グレード	2A

目 的	晩秋の奥多摩を歩く		
費 用	5,000 円	交通機関	ＪＲ バス
行 程	我孫子 5:31→日暮里→新宿 6:33/46→(ホリデー快速あきかわ１号) →武蔵五日市 7:55/8:10(バス都民の森行)→数馬バス停 9:00⇒登山口 9:25⇒数馬峠 11:05⇒笹タワノ峰⇒（昼食・写真) 11:40/12:00⇒笛吹峠⇒丸山 12:30⇒土俵岳 13:40⇒日原峠 13:55⇒浅間峠 15:05⇒下山 16:05⇒上川乗バス停 16:15/22→(バス)→武蔵五日市駅 16:50/17:21→(ホリデー快速東京行)→神田→上野→我孫子 19:27 〈歩行時間　6 時間 7 分〉		
ルート状況	・数馬バス停下車、1つ前の仲の平バス停脇に登山口がある(狭い通路から入って行く)。 ・快速が停車するバス停にトイレが設置してあり、便座も暖かくて綺麗で気持ち良い。 ・登山道はサクサクと落ち葉を踏みしめて歩けたので足の衝撃がなく快適だった。 ・紅葉は終わりかけていたが、1,000m 以下からモミジなどの紅葉が見られた。 ・尾根道は小さなアップダウンを10回繰り返した。 ・バスの便が少ないため(1時間に1本位)、時間配分が必要になる。		
参加者	CL 本田　L 矢野貞　L 北田　SL 齊田 SL 森岡　外崎　矢野裕　石塚　佐藤健一氏　小山　大賀　小林健 （男４名　女９名　計13名）		

＜１２３６＞　忘年山行

行事山行報告	古 賀 志 山（583m）		リーダー:蟹江・佐藤清 グレード:１Ａ / １Ｂ
月　日	2022 年 12 月 4 日（日）　日帰り		
山　域	前日光	目　的	忘年山行
費　用	5,000 円～8,600 円（全国旅行支援利用）	交通機関	大型貸切バス　２台
行　程	我孫子駅北口公園 5:47→柏 IC→羽生Ｐ6:55→鹿沼 IC→宇都宮市森林公園駐車場 8:15 **① 北コース（A・B班）** 駐車場 8:30⇒北登山道入口 8:45⇒水場 8:55⇒富士見峠 9:45⇒東稜見晴 10:05⇒古賀志山 10:05/25⇒分岐 10:30⇒南登山道入口 11:00⇒管理センター12:00⇒駐車場 12:05 **② 南コース（C・D班）** 駐車場 8:25⇒赤川ダム展望台 8:37⇒南登山道入口 9:23⇒南陵下 9:30⇒古賀志山 10:10/25⇒東稜展望台 10:35⇒富士見峠 10:55⇒水場 11:30⇒北登山道入口 11:45⇒駐車場 12:00 **③ 東稜コース** 駐車場 8:24⇒北コース入口 8:35⇒東陵コース分岐 8:45⇒東陵 8:51⇒東南稜分岐 9:00⇒東南稜 9:10⇒東陵見晴台 9:55⇒古賀志山 10:00/15⇒御岳 10:20⇒35⇒南コース分岐 10:50⇒林道合流 11:20⇒赤川ダム 12:00⇒駐車場 12:10 駐車場 12:20→ニューサンピア栃木 12:30/14:20（入浴・会食・買い物） →鹿沼 IC→羽生Ｐ15:17/32→柏 IC→我孫子駅北口 16:45		
ルート 状　況	・踏み跡はたくさんあるが、道標がきちんと整備されており、迷うことはない。 ・NPO 法人古賀志山を守ろう会による、古賀志山緊急連絡時現在地番号が設置されている。		
参加者	Ａ班　Ｌ小林安　SL 本田　外崎　矢野朝　富井　高橋芳　飯塚　大平 Ｂ班　Ｌ蟹江　SL 郷田　小野　新谷　齊田　小山　石塚　高橋英　林（会友） Ｃ班　Ｌ田嶋　SL 北田　秋山　大畠　一氏　吉川　藤家　福山智 Ｄ班　Ｌ佐藤清　SL 村越　森岡　中村育　大賀　小林健　武内　飯合（会友） 東陵　Ｌ細谷　SL 千葉　土田　田村　矢野貞　白崎　小島洋 （男 17 名　女 23 名　計 40 名）　うち会友 2 名		
メ　モ	・前回(2020 年)は新型コロナウイルスの感染拡大によって中止したが、今回は感染予防を徹底して、実施することができた。忘年山行は 2018 年以来である。 ・３コース５つの班が、古賀志山頂上で合流することができて、登頂を喜び合った。 ・天候にも恵まれて、“北関東屈指の名低山”の晩秋を楽しむことができた。 ・下山後、ニューサンピア栃木で入浴した後、広い会場で久しぶりの会友の方々も含めて、皆さんと会食を共にしながら懇親した。 ・初めての旅行社だったが、行程表通りで対応は良かった。 		



北陵コース A 班

北陵コース B 班



南陵コース C 班



南陵コース D 班





東陵コース

＜１２３７＞ゆるゆる山行

御岩山～高鈴山～助川山
（530m）（623m）（327m）

箕輪　カオル(会友)

冬晴れの日の女性９名の山行でした。日立駅でタクシー３台に分乗して御岩神社へ向かいました。ガイドブックによれば、御岩神社は常陸の国最古の霊山と言われているようでした。また、日本屈指のパワースポットと言われているそうです。さらに神仏を祀る社としても有名とあります。深閑とした森林の大木は風格があり、なるほどと納得しました。境内の一角にストーブ２台が焚かれていました。ここで身支度をして御岩山へ出発です。御岩神社を隅々まで参拝しようとすれば御岩山登頂に至るらしいです。大木の中を注意しながら行くと秘境感のある賀毗礼神社（奥宮）です。御岩山は山に囲まれた開けた景色がとても気持ちよかったです。

高鈴山は花の百名山のようですが、今の冬場は花の季節ではないので残念でした。しかし、馬酔木の多い山であり、たくさんの蕾をつけていました。開花の時期が楽しみです。レーダー雨量観測の巨大なコンクリート製の塔が立っていました。他に、展望台、一等三角点、電波中継塔が林立しています。展望が素晴らしく、ほっとしたところで遅い朝食をとる人もいました。

落葉を踏みしめ、馬酔木を横目にしながら金山百観音に到着です。雑木林の中、忽然と姿を見せる観音群。百観音の百は西国三十三、坂東三十三、秩父三十四の合計百を意味しているそうです。信心深い日本人にとっては心安らぐ魅力ある場所かもしれないと思いました。おむすび池の水際の広い木台で昼食時間をたっぷりとりました。雲一つない冬青空の下での食事は美味しさもひとしおです。

助川山は市民の森として整備されている遊歩道でした。その歩道が山頂まで渦巻状になっているため、かたつむり山とも言われているようです。山頂は日立市内と太平洋が広がる眺望のよい場所でした。助川山の立札の前で記念撮影でしたが、楽しい撮影アクションを起こしてくれた女性二人組に出会いました。五つのポーズを要求され、本職のカメラマンさながらでした。

下山途中、一人の若者に出いました。腰にピッケルを提げています。どうやらこの辺り化石が出るらしく、その発掘に来たのだというのです。果てしない夢が眠っている山でもあるのだと思いました。枯山のようでいて所々に紅葉が残っていました。無事に下山して街に出てバス停に到着です。駅までは歩いても２０分とのことで最後の元気を振り絞って歩きました。



御岩神社

助川山頂にて



用事があって、一足早く帰った人がいました。他の８名はシーバーズカフェで反省会です。硝子張りの明るいカフェで、駅続きともあって人気らしく、入りたくても混み合っていて中々入れないところだそうです。天気に恵まれ、歴史あるパワースポットの社を拝し、整備された歩き易い歩道をゆっくり歩きました。太平洋の眺望やまだ残っている紅葉も見れて感動した山行でした。みなさんとご一緒させて頂き、とても楽しい一日で

した。

概　要

山 名	御岩山～高鈴山～助川山		
月 日	2022 年 12 月 10 日(土)		
山 域	阿武隈山地		
形 式	日帰り	**グレード**	1A
目 的	ゆっくり紅葉を楽しむ		
費 用	約 3,800 円	**交通機関**	JR タクシー
行 程	我孫子 5:43→6:58 水戸駅 7:03/33→日立駅 7:45(タクシー)→御岩神社駐車場 8:10⇒御岩神社 8:30⇒御岩山 9:30⇒高鈴山 10:10/30⇒金山百観音 11:40⇒おむすび池 12:00/30⇒助川山 12:50/13:10⇒日立駅 14:30/15:47→我孫子駅 18:00 〈歩行時間　4 時間〉		
ルート状 況	・登山道はよく整備されていて道標もたくさん出ていた。 ・2本ある分岐の標識も＜この先で合流＞等丁寧な表示が目立った。 ・御岩神社から御岩山への表参道の奥の院先の直登コースは今も閉鎖されている。 ・御岩山まで登れば後は多少のアップダウンがあるが主に下りで、落ち葉を踏みしめ歩きやすかった。		
参加者	L 石塚　SL 外崎　高橋芳　小島洋 蟹江　飯塚　吉川　大賀 箕輪カ（会友）　　（女９名）		

＜１２３８＞

明 神 ヶ 岳
(1169m)

小島　徹

みぞれ　明神ヶ岳から下山

朝方は晴れ間があったものの、宮城野案内所前バス停を降りた時点では一面の曇り空になっており、予報では午後からは雨とのことでした。出発前にリーダーより天候や明神ヶ岳への到着時間を考え、金時山には登らずに下山することもあるとの説明がありました。身支度をして明神ヶ岳登山口へと進み、別荘地の横を通り、次第にハコネダケが増えてきて登山道を覆うようになりました。鞍部での休憩を含め、衣服調整、水分補給を適宜取り、また参加者のペースもよく、明神ヶ岳には 11 時過ぎには到着でき、昼食休憩後記念撮影を行いました。明神ヶ岳まで途中では眼下に宮城野、強羅の家々が見え、また噴煙を上げる大涌谷を眺めることが出来ました。明神ヶ岳からの下りは予報よりも早くみぞれが降りだし、稜線では強風にも見舞われ足元もぬかるんでいてペースがやや遅くなりました。少しずつみぞれが強くなり周囲の見通しも悪化していき、稜線からの遠くの箱根外輪山はゆっくりとは眺めることが難しくなっていきました。正面に見える金時山を目指して進んでいき、矢倉沢峠手前で金時山に登らずに下山することになりました。今回の参加者に１名金時山未登頂の方がいましたが、残念ながらお預けになりました。

金時山登山口バス停にはトイレと水道があり、登山靴を洗うことができました。集合して仙石バス停まで向かい、小田原行きバスに乗りこみ、途中からは全員座ることが出来ました。湯本までは



明神ヶ岳山頂にて

やや渋滞していましたが、湯本を過ぎるとスムーズに流れるようになりました。小田原駅で解散になりましたが、１名を除いて反省会に参加し交流を温めることが出来ました。

概　要

山 名	明神ヶ岳		
月 日	2022 年 12 月 17 日(土)		
山 域	箱根		
形 式	日帰り	グレード	２Ａ
目 的	明神ヶ岳から金時山越しの富士山を眺める		
費 用	約 5,000 円	交通機関	電車 バス
行 程	我孫子 5:31→上野 6:04/17(上野東京ライン小田原行)→小田原 7:47/8:10(箱根登山バス桃源台行)→宮城野案内所前 8:44/55⇒明神ヶ岳登山口 9:08⇒鞍部 10:18⇒明神ヶ岳 11:08/33(昼食)⇒火打石山 12:30⇒矢倉沢峠 13:40⇒仙石原 14:00/22 箱根登山バス→小田原駅 15:10 解散 反省会　〈歩行時間　４時間 40 分〉		
ルート状況	・小田原駅からのバスは時間通り宮城野案内所前に到着した。 ・バス停から明神ヶ岳迄の登山道は整備されているが登りが続く。 ・明神ヶ岳から火打石山までは霜が解けて道がぬかるんでいた。 ・火打石山から矢倉沢峠手前までの間で金時山を見上げると、笹原に登山道がきれいな模様を描いている。		
参加者	L 土田　SL 佐藤清　高橋芳 小林安　小島徹　吉川　小山 佐藤健　佐藤明 （男4名　女5名　計9名）		



＜１２３９＞

木曽駒ヶ岳
(2956m)

土田　義二

勢いに任せて申し込んだ厳冬期の2,000m超えの山行きは、冬の澄み切った眺望は見られず、天候にも恵まれず苦戦しましたが、個人的には得るものの多い山行きになりました。参加申し込みを見て、多分リーダーは戸惑っておられたと思います。私は参加者確定後送られてきた 25 日に行う予定の雪山訓練メニューを拝見してワクワクしてきました♪。参加者はリーダーと 50 代で若いワンゲル出身の男性と、2 年前同じリーダー企画の厳冬期北アルプス遠見尾根を体験された女性、そして私の 4 人。

朝 5 時柏を車 1 台で出発。関東地方は連日晴天。天気予報では日本海側は雪が降り、木曽駒ヶ岳は風が強め。私はこの秋に雪のない木曽駒ヶ岳、宝剣岳を体験している事もあり、登頂できなくともリーダーからの雪山訓練を体験できれば大収穫と勝手に胸に刻んでおりました。菅の台バスセンターに車を駐車してバス、ロープウェイに乗り換えて千畳敷ホテルに 10 時 12 分に到着。950 mを 8 分弱で登ると標高 2,600m の千畳敷の世界は雪が舞っていました。しばし休憩の後、ホテル近くで雪崩遭難訓練をすることになりました。ホテル宿泊予定者は受付裏の片隅で服装の準備ができ、荷物を預けることができます。

11 時 10 分、ザック等をホテルに預け、雪山 3 点セット（ビーコン・ゾンデ棒・スコップ）を持ってホテル裏の極楽平に向かう斜面を 10 分ほどアイゼンはつけず、キックステップで登る。そこで雪崩事故防止訓練を指導して頂きます。先ずビーコンをセットアップ。リーダーのビーコンに全員のビーコンがきちんと反応する事を確認。次にリーダーが少し離れたところまで進み、これを私達のビーコンで捜索する。その際のビーコンの持ち方、捜索時の姿勢等基本を理解します。ビーコンで場所を特定したら、ゾンデ（雪に埋れた人を確認する為の折り畳める 280 ㎝位の棒）で雪を上から下に突き刺します。これで埋まっている場所が確認出来たら、直ぐにスコップで雪を取り除く事になります。雪に埋もれてから 15 分以内で救出しないと助かる可能性がほとんど無くなる等の説明は、今月受けたばかりの関東労山雪崩予防机上講習の手順通りです。リーダーの雪山知識の奥深さに改めて感銘します。

13 時、ホテルに戻りチェックイン。13 時 30 分～14 時 30 分まで部屋でロープワーク。いつもの事ですが、少人数の泊り登山での食後懇談の場は、いろいろ勉強になります。

第 2 日目

晴れを期待したのですが、今日も風に舞う雪でどんよりしています。午前 9 時がホテルのチェックアウトなので直前まで部屋に留まり、午前 10 時アイゼン等フル装備をして千畳敷ホテルを出る。登頂は諦め、八丁坂を行けるところまで行こうという事。新雪の中を行くのは数組だけ、しかも少し間隔が開くと風雪で足跡が不明となる状態を慎重に進む。途中から戻る人もチラホラ。前を歩いて道を開いている他のパ―テイーが、1 人、また 1 人と疲れてバトンタッチ。いつしか我々が先頭になり、リーダーが先頭でラッセル（足跡を付ける）します。

私たちは急坂が一息ついた 2,750ｍ付近でこれ以上登ってもその先は困難として立ち止まり、ザックを雪の上に置いてビーコンの反応を確認した後、ピッケルでの歩行訓練を行いました。ここで私がヒヤリハットです。帰り支度をしている時、厚い手袋でザックの首の留め金が中々上手く留められなくて、腰高になり、意識が集中したその時、風に煽られ後ろ向きで転げ落ちていました。ザックが適度なクッションとなりゴロン、ゴロンと 3，4 度回転したところでようやく止まりました。幸い岩等もなく怪我はしていないようです。同行の皆様を心配させてしまいました。本当に申し訳ありませんでした。

その後来た道を降りるだけなのですが、来た道は既に風で跡が分からない状態、リーダーが道なき道をラッセルしながら先頭を切り、途中から鈴木さんが声をかけて先頭に出ます。私はお恥ずかしい限り、前を歩くと言えず皆さんの後を歩かせて頂きました。結局、少し迂回しましたが、無事千畳敷ホテルにたどり着くことが出来ました。ホテル前まで来ると一瞬の晴れ間があり、すかさず記念写真をパチリ。直ぐに小雪がパラパラ。一瞬見えた雪の宝剣岳は神々しいばかりでした。

帰りのロープウェイで高度が下がると、何と下は晴天です。南アルプスの山々がスッキリ見えます。地元の人の話では、この付近の高い山は日本海側の天気がストレートに反映されるそうです。その後駐車場の近くの早太郎温泉に入り、身も心も温まって帰路につきました。

リーダーを初め、同行の皆様に大変お世話にな





雪上訓練（写真上）

八丁坂の登りでラッセルの先頭に（写真下）



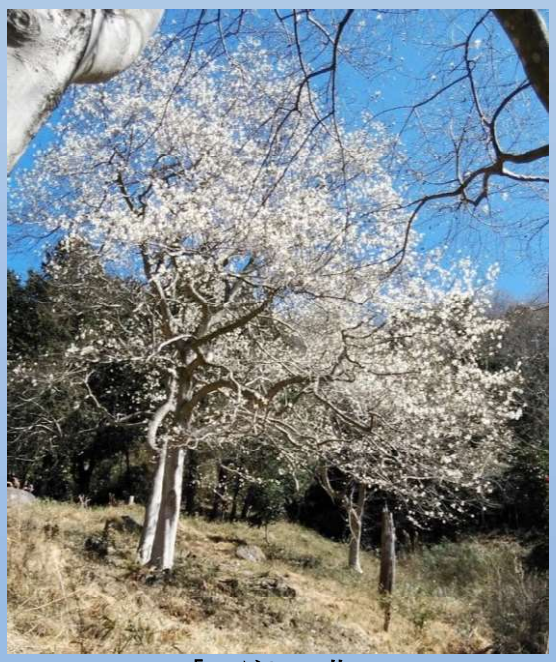
雪山遊び？楽しみました

りました。これに懲りずに、またご一緒させてください。この経験を必ず活かします。

概　要

山　名	木曽駒ヶ岳			
月　日	2022 年 12 月 25 日(日)～26 日（月）			
山　域	中央アルプス			
形　式	ホテル泊	**グレード**	２C	
目　的	雪山登山			
費　用	19,000 円	**交通機関**	マイカー	
日程	**一日目**	柏　5:00→菅の台バスセンター 8:40/9:15→駒ヶ岳ロープウェイしらび平駅　9:50/10:05→千畳敷駅 10:12⇒ホテル千畳敷　10:40/11:00 ⇒極楽平下部雪上訓練　11:10/13:00 ⇒ホテル 13:10 ＊14:30/15:30 室内でロープワーク講習　　〈行動時間　2 時間〉		
	二日目	ホテル千畳敷　10:00⇒八丁坂 Co.2,750m 付近＊11:00/40⇒ホテル千畳敷 12:50⇒千畳敷駅 13:55→しらび平駅　14:02/20→菅の台バスセンター14:52→早太郎温泉　15:10 →柏 20:30 ＊アイゼン、ピッケルワーク実施 〈行動時間 2.5 時間、歩行距離 1.4 ㎞、累積標高差登り　130m　下り 130m〉		
ルート状　況	・気温は-14℃程度で行動には支障がなかったが、視界が効かないうえ風も強くトレースがすぐ掻き消された。 ・予想以上の降雪で往路、帰路とも膝上までのラッセルが続いた。			
参加者	L 小林隆　土田　小林安　鈴木 （男３名　女１名　計４名）			

25 周年応募写真より



「こぶしの花」
外崎　蓮さん



一瞬の晴れ間に宝剣岳が見えた

＜１２４０＞　自然保護活動

クリーンハイク

渡邉　香奈子

冬晴れの朝、駐車場から久しぶりの参加であり、その上クリーンハイクは初めてでしたので緊張しながらどんぐりの家へ向かうと、随分大勢集まっていて驚くが、すぐにバードウォッチングの方々とわかり、一安心。2 班に分かれてスタート。早速ドングリの家の前の舗装道路の両脇に吸い殻、マスク等。人影が少ない通りに出ると、続々と缶や瓶、中身のある重いペットボトルなど『あった』と空だとホッとするが中身があるとキャップを外してひっくり返して流す作業や匂いも中々厳しい。

畑道からは烏瓜の種『打ち出の小槌』の形や竜のひげの青い実の種の中身がスーパーボールの様に跳ねる事など小野さんより植物の秘密を教えていただきグッと楽しくなる。弘誓院では『銀杏の木が 2 本ともに女の子なんです。』という小野さんの銀杏の木の性別の呼び方で、小野さんが植物に愛情を注いでおられることに感激。山行ではうんざりとする石階段もクリーンハイクでは足取りも軽く登り、立派な鐘楼を見学。

公園内に戻るとゴミは一挙に少なくなる。『裏白の大株』と出発前からみんなが再会を楽しみにしている様子で少々気になっていたが、ついに現場へ。小野さんが大切な旧友に会ったように大切な種である事を教えてくださいました。こんもりと流れるようなつやつやの葉。真ん中に新芽が丸く巻いて生き生きとそこに在りました。

金魚の形の珍しい葉のツバキも何度か歩いた場所でしたが教わって初めて気が付きました。そんな植物たちがまだまだ永く育つために、土壌の安全のために本日のクリーン活動は本当に意味がある、参加して良かったと、数か所にできたゴミ袋を後に清々しい思いになりました。

概　要

山 名	クリーンハイク		
月 日	2023 年 1 月 8 日(日)		
山 域	柏市手賀の丘周辺		
形 式	日帰り	グレード	1 A
目 的	手賀の丘周辺に親しみ、美化に協力し、環境に関心を持つ		
費 用	0 円	交通機関	車　自転車 徒歩
行 程	どんぐりの家集合 9:00⇒柳戸方面散策ゴミ拾い⇒弘誓院⇒鐘楼⇒里山歩きゴミ拾い⇒手賀の丘公園キャンプ場(昼食)⇒里山歩き⇒どんぐりの家前　解散 14:00		
ルート状 況	公道では、車に注意。		
参加者	L 小野 A 班 L 高橋芳　SL 外崎 蟹江 石塚 佐藤明 小山 渡邉香 大平 深草 B 班 L 矢野貞　SL 矢野裕 小林安 千葉 田嶋 郷田 村越 佐藤清 吉川 (男 4 名　女 15 名　計 19 名)		

清掃した 58kg の内訳
①カン 12kg ②ビン 2kg
③ゴミ 37kg ④ペットボトル 5kg



▲トキリマメの鞘と豆



ゴミを拾うトングを掲げて

＜１２４１＞ゆるゆる山行

三浦海岸～城ヶ島

矢野　朝水

再発見；岩礁の三浦海岸＆水仙の城ヶ島

2023 年 1 月 22 日（日）我孫子発 6:01（成田線）又は 5:53（上野東京ライン）で品川に集合。参加者は 24 名、4 班に分かれる。みさきまぐろ切符 3760 円を購入する。みさきまぐろ切符は京急の電車とバスが乗り放題の 1day 切符+2,000 円程度の食事券＋700 円程度のお土産付きのお値打ちのもの。

6:57 発三崎口行き特急に乗車。三浦海岸駅から 8:57 のバスに乗り、毘沙門天入口で降りる。一面に三浦大根の畑が広がり、三浦半島に来たとの思いがする。冬というのに風はなく空は晴れわたり、絶好のハイキング日和だ。坂を下りてゆくと左手に毘沙門天堂。毘沙門天は知恵と勇武の守り神としてあがめられている。三浦七福神の一つ。

毘沙門湾に出る。海はきらきらと輝き、前方には霞む房総半島が横たわる。引き潮で岩礁が累々と続く。「関東ふれあいの道、三浦・岩礁のみち」を辿る。右手には切り立った断崖が続く。地層は褶曲し、所々に波に浸食された洞窟が見える。ブラタモリの世界だ。空にはトビが舞う。

「盗人（ぬすっと）狩」という断崖は「盗賊が追われてこの山の端まで来て下を見ると断崖と怒涛の逆巻きに身震いして足がすくんで動けなくなりたやすく捕まった」とある。さもありなんと思う。宮川湾の漁港には水鳥が憩い、路傍に大根の花やカタバミの花を見て春の訪れを感じる。

海を離れて町中に入り、12:00 城ヶ島大橋を渡る。城ヶ島は道路や広場など至る所に水仙の花が咲く。水仙の広場には松本たかしの句碑が建つ。「松虫にささで寝る戸や城ヶ島」。漁師は戸締りもせず、松虫の声を聞きながら眠りについた古き良き時代の作だ。

島の東側に行くと安房埼灯台。左手に房総半島の突端、館山。右手には伊豆大島が霞み、船がゆく。島の南側の断崖にはウミウが群れ、一面の白い崖はウミウの糞だという。島の西側には「馬の背洞門」が見え、磯が続く。伊豆大島が霞み、絶景だ。北原白秋の「城ヶ島の雨」を思い出す。

水仙の道を下りて行くと右手に「城ヶ島灯台」。お昼時を過ぎたので中村屋というレストランで昼食を摂る。かなり待たされたが、「まぐろてんこ盛り丼」に舌鼓を打つ。三浦大根の煮物は味が染みておいしい。



▲城ヶ島の水仙と句碑　『松虫にささで寝(ぬ)る戸や城ヶ島』城ヶ島公園にある俳人・松本たかし句碑



食後 15:00 バスで三崎港に行き、「うらり」という海鮮市場で買い物をする。バスで三崎口に行き、16:08 の特急に乗車。品川を経て 18:35 我孫子着。

快晴に恵まれ、奇岩や絶壁の続く三浦海岸や水仙の城ヶ島を満喫することができた。

高橋芳恵 L や SL の皆さんに感謝する次第です。

概　要

山 名	三浦海岸～城ヶ島		
月 日	2023 年 1 月 22 日(日)		
山 域	三浦半島		
形 式	日帰り	**グレード**	1 A
目 的	関東大震災で隆起した海岸を訪ね、水仙の香りを楽しむ		
費 用	3,500 円	**交通機関**	JR　京急 バス
行 程	我孫子・柏（5:53・6:01）→品川 7:07 →三浦海岸 8:19/51→（バス）毘沙門 天入り口 9:16⇒毘沙門湾 9:30⇒千畳 敷⇒宮川湾 11:00/15⇒城ヶ島大橋 12:00⇒城ヶ島公園・安房灯台 12:25/50⇒ウミウ展望台⇒馬の背洞 門展望台 13:20⇒城ヶ島灯台 13:35 （昼食休憩）14:30⇒バス停 14:35/56 →三崎港（買い物）15:05/42→三崎口 16:11→品川 11:28→柏・我孫子 18:32 〈歩行時間　4 時間〉		
ルート 状 況	・関東ふれあいの道ではめずらしい岩礁帯歩きのハイキング道。 ・満汐時、波浪時は注意が必要だが、標識が明確であり問題はない。		
参加者	L 高橋芳　SL 外崎　SL 齊田 SL 田嶋 小山　大畠　石塚　小野　新谷 矢野裕　矢野貞　大平　大賀　松下 吉川　飯塚　矢野朝　蟹江　本田 北田 森岡 箕輪カ（会友）飯合（会友） （男 5 名 女18名 計23名）		

＜１２４２＞県連主催房総ロングハイク

第 37 回房総ロングハイキング

外崎　蓮

4 年ぶりの房総ロングハイキング

猛威を振るったコロナウイルスの感染がようやく収まりつつある 1 月末、県連の房総ロングハイキングが 4 年ぶりに開催された。ハイキング委員会では、日帰りで大勢の参加者が一緒に歩ける場所を条件として、千葉県の「首都圏自然歩道」の中から今回のコースを選び出したという。

ところが千葉県の南部が前夜から雪に見舞われ、線路が凍結してダイヤが大幅に乱れた。そのため東金駅集合時間に遅れる人が続出した。先に辿り着いた人たちは駅前広場で長時間待つ羽目になったが、時間の都合上、後続組のことは役員の方々に委ねて 30 分遅れでスタートする。後続組とは日吉神社で落ち合うことにした。当会の 7 人も八鶴湖付近で無事に合流し、うっすらと雪の残る家々の前を抜けて苔むした石段の切り通しを登る。日吉神社の鳥居をくぐると、参道の両側に居並ぶ巨木に圧倒された。杉やスダジイのトンネルの奥には小さな本殿が見えた。この神社は、最澄が近江の国の日吉神社の分霊を祀ったことから総鎮守として崇められているのだとか。参拝後は 10 団体、62 名が道端を連なって歩く。その後も幾つか神社を巡ったあと、雄蛇ヶ池のほとりで昼食時間になった。雪はとうに消え、日当たりのいい草むらでお弁当を食べた。このあとは雄蛇ヶ池の湖畔を歩く。入口の案内板には、この地の代官が灌漑用として作ったと書いてあった。だが、湖とでも呼びたいほどの広大な池を一体どうやって作ったというのだろう。岸辺を半周して何となく分かったことは、一帯が湿地帯で、そこに山からの水が流れ出て溜まって出来たのではない



雄蛇ヶ池をバックに

かと。勿論、そればかりではないと思うが。約半周して堰堤に到着し、休憩後、全員で記念写真に納まった。また、田んぼの中の道をぞろぞろと歩き出し、三つ葉葵の御紋が物語っている徳川家ゆかりのお寺・正法寺を訪ねた。ここで全行程が終了。あとは大網駅まで１時間半ほど車道をテクテク歩く。参加者はここで解散となった。

今回のように里山や神社を巡るコースでは、その土地の歴史や神社仏閣などを予め下調べしていくことによって、ハイキングがより楽しいものになるのではないかと改めて反省した。

概　要

山 名	第 37 回房総ロングハイキング		
月 日	2022 年 1 月 28 日(土)		
山 域	東金		
形 式	日帰り	グレード	１A
目 的	陽だまり山行		
費 用	2,700 円	交通機関	JR
行 程	我孫子 6:17→新松戸 6:31/41→西船橋→船橋→千葉→東金 8:55/9:00（千葉でダイヤの乱れのため大幅に遅延）⇒八鶴湖・西福寺 9:10⇒日吉神社 9:20/40⇒八雲神社 10:00⇒コンビニ 10:10⇒佐藤信淵記念碑 10:30⇒雄蛇ヶ池 10:55/12:40（昼食・集合写真・散策）⇒小西正法寺 13:05⇒大網駅 14:30 〈歩行時間　5 時間 30 分〉		
ルート状況	・首都圏自然道コース　千葉県8(東金駅～土気)を大網駅まで歩きました。 ・里山歩きで案内がありませんとまごつくかも？		
参加者	L 小島洋　SL 石塚　田嶋　外崎 高橋英　深草　蟹江 （男２名　女５名　計７名）		



日吉神社の杉並木

＜１２４３＞

麦草峠～縞枯山・北横岳
（2127m）(2403m）（2480m）

田嶋　まり

八ヶ岳ブルーin 2023

私にとっては 5 年ぶりの待ちに待った雪山山行。前回の装備はほとんど他の方からお借りしたが、今回は大枚をはたいて準備をし、ドキドキとわくわくの両方の気分で家を出た。ところがいきなりハプニングが。行きの常磐線が人身事故の影響で南千住で止まってしまったのだ。かなり焦ったが、ベテランの方のお陰でメトロに乗り換えるなど工夫して無事茅野駅で全員合流。ロープウェイ山麓駅は、快晴の日曜日だったこともあり、駐車場はほぼ満杯状態。乗り場にはスキー客や登山客で長い列ができていた。

ロープウェイで 7 分間の空中散歩を楽しんだ後、山頂駅でテキパキと身支度を整えて、いざ出発！風もなく、空は雲一つない青空、まさに八ヶ岳ブルー！真っ白な雪にアイゼンをキュッキュときかせながら麦草ヒュッテへ向かう。雪に埋もれて見えないけれど、道がついているところは実は木道の上で、そこから少しでも外れると、グサッとひざまで埋もれてしまう。2 時間程で麦草ヒュッテに到着。予定より早かったのでザックを置いて片道約 40 分の白駒池まで往復することに。

途中の樹林帯は夏は苔に覆われた神秘的な原生林の森。ぜひ苔の森も見てみたいものだ。白駒池は標高 2,000 メートル以上の高地にある湖としては日本一の大きさの天然湖で、毎年 11 月下旬には全面結氷するらしい。その氷上に雪が積もり、まるで広大な雪原のように見える湖の上には真っ青な広大な空。なんとすがすがしく気持ちのいいことか。厚く積もっている雪を掘ると下には氷が。厚さはどのくらいなのだろう。湖の真ん中まで歩いて行けるよ、と言われたが、大丈夫と思ってはいても、怖くてあまり先には進めなかった。

麦草ヒュッテでは時間が十分あったので、夕食の前後に炬燵を囲んで歓談をした。これも宿泊山行の楽しみの一つだ。この宿は各部屋に炬燵と石油ストーブがありとても暖かい。夕食もとても美味しくスタッフの対応も温かでとても良い宿だった。

翌日は茶臼山、縞枯山に登るカメさんチーム 7 名と北横岳にも登るウサギさんチーム 5 名に分かれ時間をずらして出発。この日も朝から申し分

のないお天気。私はカメさんチームの一員として出発した。茶臼山への登りは結構傾斜があり、みな黙々と登った。茶臼山の頂上は展望はなく一息ついてから縞枯山へと向かう。途中の岩場の展望台からは北アルプス、中央アルプス、南アルプス一帯の山々が眺められ、雲に邪魔されることなく、360 度どの山も稜線がくっきり見えて、全部を写真に撮ってカレンダーにしたいくらい見事な眺望で本当に感動した。私はアルプスの山はほとんど未経験だが、あれが何山、こちらが何山と教えてもらいながら、いつかその山に行ける日を思い描いていた。





十分展望を楽しみ、いざ下山という時に 2 つ目のハプニングが起きた。みんなの写真を撮ろうと下山の急坂の上にいたＹさんの「わ～～っ！！！」という叫び声。彼女の手からスマホが落ちて滑っていったのだ。驚いた私たちは雪道のわきに引っかかっていないかと、周辺を丹念に捜索しながら急坂を下ったが、スマホは一気に滑り降りたとみえて見つからず。もう諦めかけていたところ、先頭の人が無事発見、事なきを得た。数十メートルもの雪道を、オリンピックで見るボブスレーの競技のようにスマホがくねくねと曲がりながら上手く滑り下りたと思うと感心さえする。これからはスマホにもアイゼンをつけないとね、などと冗談を言い合ったが、ひとつ間違えれば事故にもつながる事象で、雪山の山行中はスマホは首から下げる等、使い方には注意が必要であると皆で確認した。

無事山頂駅に戻りアイゼンを外したりしているとちょうどそこへウサギさんチームが笑顔で到着。北横岳の山頂は風があったが、素晴らしい展望を満喫してきたとのこと。２チームとも満足のいく山行になって良かった良かった！出発前は、制限時間内でのアイゼンの装着練習などで非常に緊張したが、本番は最高の青空の下、メンバー全員で和気藹々と楽しく、そして何よりも無事に歩けたことにとても感謝している。同行の皆様、本当に有難うございました。



北横岳山頂より北アルプス

概　要

山 名	麦草峠～縞枯山・北横岳			
月 日	2023 年 2 月 5(日)～6 日(月)			
山 域	北八ヶ岳			
形 式	山小屋泊	グレード	３C	
目 的	①雪の北八ヶ岳を歩く　②実技研修			
費 用	27,000 円	交通機関	JR　タクシー　ロープウェイ	
日程 一日目	我孫子 5:31→新宿→茅野駅 10:00(タクシー)→北八ヶ岳ロープウェイ山麓駅 11:10→山頂駅 11:17/38⇒五辻 12:15⇒五辻あずまや(昼食)12:20/30⇒出逢ノ辻 12:50⇒オトギリ平 13:00⇒大石峠 13:25⇒麦草ヒュッテ 13:40/55⇒白駒池 14:35⇒麦草ヒュッテ 15:20　〈歩行時間 約３時間〉			
日程 二日目	A 班:麦草ヒュッテ 6:55⇒茶臼山 7:50⇒縞枯山 8:30⇒坪庭 9:00⇒北横岳ヒュッテ 9:45⇒北横岳（北峰）10:05⇒北横岳ヒュッテ 10:22⇒ロープウェイ山頂駅 11:05　〈歩行時間　3 時間 57 分〉 B 班:麦草ヒュッテ 7:24⇒大石峠 7:41⇒中小場 8:02/15⇒茶臼山 9:02⇒展望台 9:39⇒縞枯山 9:57⇒雨池峠分岐 10:42⇒ロープウェイ山頂駅 11:00　〈歩行時間　2 時間 52 分〉 ロープウェイ山頂駅 11:20→山麓駅 11:27/12:35→（タクシー）小斉の湯 12:50/13:30→(タクシー) 茅野駅(昼食)15:18→我孫子駅 18:29			
ルート状況	・ルートも無雪期の道通りに目印の旗竿が立てられている。 ・登山者も多く、トレースも付いている可能性も高く、安心感がある。			
参加者	L 藤家 SL 矢野貞 SL 北田 外崎 本田 石塚 田嶋 秋山 吉川 田村 佐藤清 土田 （男５名　女７名　計12名）			

＜１２４４＞新人卒業山行

乳頭山～仙元山
（202m）（118m）

福山　智

三浦アルプス南尾根縦走

山行の前々日、「明日、関東平野部でも積雪。不要不急の外出は避けるように」との気象庁メッセージ。厳冬期の山行を考慮し選定した三浦半島仙元山であったが、このメッセージには、計画延期も覚悟した。前日 9:00 現在、逗子・葉山の天気は小雨、明日の予報は晴れ、降水確率０％、リーダーからの「決行」メールが配信された。若干の不安を抱きつつ迎えた当日は雪による交通機関への影響もなく、天候も終日快晴。比較的強い北風も吹いたが木々で遮られる山行ルートでは春の陽気が感じられた。

山行メンバーは、学生時代ワンダーフォーゲル部出身の頼もしきリーダー、さらに経験豊富な面々に加え、ほぼ新人の数名、そして、もちろん経験豊富な引率・新人教育担当のお二方、合計８名の「本当に新人山行？」という構成であった。山行ルートは、JR 田浦駅－田浦梅の里－乳頭山－観音塚－仙元山－葉山教会登山口の三浦アルプス南尾根縦走ルート。田浦梅の里は梅林祭り開催中で例年に比べて開花が早いとの情報もあったが、残念ながら数本程度の開花であり山全体はつぼみの状況であった。ここは約 2000 本の紅梅・白梅とスイセンが咲く山里、是非その時期に再度訪れたい。

この山里から乳頭山までは急登、ロープ場、岩場ありのなかなかのトレーニングルート。山頂直前では雪化粧した雄大な富士山を、山頂には横須賀・横浜方面、東京湾、筑波山までが展望できる絶景スポットがあった。記念撮影の後、仙元山へ向かう。ここからは稜線コースで良く整備され危険個所もなかったが、頻繁にアップダウンが続き、かつ、木の根っ子の多い道、前日の雨で滑りやすく、メンバーも何度か尻もち・転倒シーンも。

正午過ぎ、観音塚に到着し昼食の準備を開始する。リーダーを筆頭に手慣れた作業と食担さんの周到な食材準備のおかげで、短時間のうちに格別な「すいとん鍋」とお新香にありつくことができた。さらに、食後にはカステラ、コーヒーと、これまで経験したことのない充実した山の昼食会となった。その後、小一時間で仙元山に到着。山頂からは相模湾の先に屹立する圧倒的な富士山を展望できる……はずであった。それでも眼下に

葉山の街、相模湾、江ノ島を一望する絶景を堪能することができた。ここ仙元山ではテント設営訓練、リーダーと教育担当指導の下トラブルなく終了し、テントの前で最後の記念撮影。

今回の卒業山行は低山ハイクであったが、起伏に富んだ縦走ルートであり、距離約９ｋｍ、歩行時間約５時間、累積標高差約 730m、侮れぬ山行であった。山行後、逗子駅前のお好み焼き屋にて生ビールと焼き鳥で反省会。卒業試験もメンバーの結束力を活かしてクリアし、すべてのミッションを終了することができた。

卒業するに当たり、最後にこの紙面を借りて、１年間に渡り我々新人を教育・指導し卒業に導いていただいた新人教育担当の大平さん、大畠さん、そして新人メンバー各位に、心から感謝を申し上げたい。

概　要

山　名	乳頭山～仙元山		
月　日	2022 年 2 月 11 日（土）		
山　域	三浦半島		
形　式	日帰り	**グレード**	1A
目　的	令和 4 年度新人卒業山行　山中でテント設営と炊飯研修		
費　用	4,000 円	**交通機関**	JR　京浜急行バス
行　程	我孫子 5:31→上野 6:04/17→大船 7:06/25→田浦駅 7:47/8:05⇒梅の丘公園 8:40⇒乳頭山 9:26/48⇒観音塚（昼食 12:30/13:38）⇒仙元山（休憩＆テント張実習）14:38/15:16⇒風見橋バス停 15:38→逗子駅 〈歩行時間 4 時間 51 分〉 （距離 9.2 ㎞上り 730m下り 730m）		
ルート状況	・ルートは良く手入れがされている。ルートを邪魔する笹や木の枝は伐採されている。 ・危険な岩場や急登にロープが設置されている。 ・前日の雨でぬかるみ、滑りやすい場所が多くあった。		
参加者	L 鈴木　SL 小林健　福山智　福山幸 佐藤明　中村弘　大平（講師） 大畠（講師） （男５名 女３名 計８名）		



仙元山から見る相模湾に浮かぶ江ノ島



仙元山でテント設営研修



田浦梅林は咲き始め

＜１２４５＞

四　阿　山
（2354m）

千葉　有子

四阿山（あずまやさん）は、群馬・長野県境に位置する百名山。標高は 2,354m。山容が寄木創りの４つの屋根の様に見えることから、この名がつけられたという。

１日目、12:00 あずまや高原ホテル駐車場に駐車。冬季は、ここからが最もメジャーな四阿山へのルートで駐車場はこの時刻、すでにほぼ満車状態。あずまや高原ホテルは 2020 年 5 月にコロナの影響で閉鎖されている。

12:40　アイゼン、ワカンはつけずに出発。ホテル横から登山道が始まる。鉄製のゲートを横からすり抜け、なだらかな雪道を登って有刺鉄線をまたぐと牧草地に入る。見渡す限りの広大な雪原だ。牧草地の雪は少なめで、牧場内はところどころ雪面から下草が見えている。リーダーの目論見では、牧場上部まで登ってテント地とするはずだった。しかし、今夜の水確保のことを考え、雪が比較的多い場所を選んでザックを下ろす。



テントを設営し夕食

整地をしてテントを張っていると、日帰りで山頂まで登ってきた登山者が私たちの横を次々と下山していった。

テントを張り終え、西方に目をやると北アルプスの乗鞍から穂高、槍、剱、鹿島槍、白馬三山へと続く真っ白な峰々が連なる。登山口からわずかな時間でこんな絶景に出会えるとは……。

この日は季節外れに暖かく、調理も食事も外でのびのびと済ませることができた。

２日目　朝はゆっくり起床。

8:17　シュラフやマットをテントにデポし、日帰り装備だけ持って出発。せっかく現地で泊まったのに、すでに多くの早起き日帰り登山者に先を越されている。スキー跡、スノーシュー跡、アイゼンの跡が交錯するトレースを追い、牧草地を抜けるとシラカバの林に入る。

9:11　里宮分岐。ここからはかなりの急登となる。今日は白崎さんがスノーシュー、他の 3 人はアイゼンを装着。途中のんびり休んでいると、後から来た人に「20 人くらいのツアーがすぐ後ろから来てるぞ！」と脅かされ、先を急ぐ。



四阿山山頂にて



雪の上に岩の頭が出ているような場所に出て、しばらくすると 8 合目。大きな岩に赤いペンキで「8 合目」の文字。振り返ると南東方面に浅間山が見える。少し先の長池分岐で菅平牧場からのルートに合流。

やがて右奥に四阿山山頂が見えてきた。「ん？この景色どこかで見たような？」。そうだ、25 周年記念カレンダーで桐生さんが四阿山の写真を応募していた、その景色だ!!　写真で見ていただけのその場所に立てていることに感激する。

山頂へのビクトリーロードを登る

氷雪をまとうシラビソの隙間を縫うようにビクトリーロードを進んでいき、根子岳分岐の広い場所に到着。樹氷群に囲まれ小休止。根子岳に向かうトレースはなかった。

ここから一旦わずかに下り、いよいよラストの登り。急で狭い雪面をスキーの跡に惑わされたりしながらたどり、遂に 11:40 山頂に到着。山頂の標識には、しっかりと「群馬県嬬恋村」の文字が記されていた。山頂は狭く、北側が切れ落ちている。私たちがのんびり山頂の向こう側に志賀高原や嬬恋村を眺めていると、件の 20 名ツアーが追いつき登ってきてしまった。慌てて写真を撮り、山頂を後にする。

下りは進行方向に浅間山や北アルプスを見ながらテント場まで戻り、テント撤収して下山。

14:50 あずまや高原ホテル駐車場。

途中真田の湯に立ち寄り、汗を流した。

概　要

山 名		四阿山		
月 日		2023 年 2 月 11 日(土)～12 日(日)		
山 域		菅平		
形 式		テント泊	グレード	３C
目 的		雪山に泊まる		
費 用		15,000 円	交通機関	レンタカー
日程	一日目	我孫子 6:00→北関東道→関越道→上信越道→あずまや高原登山口 12:00/40⇒幕営地（菅平牧場）14:20 〈歩行時間　約２時間〉		
	二日目	幕営地（菅平牧場）08:17⇒里宮分岐 09:11⇒中宮 09:22⇒長池分岐 10:50⇒四阿山・根子岳分岐 11:18⇒四阿山 11:43/46⇒四阿山・根子岳分岐 12:05⇒長池分岐 12:13⇒中宮 13:00⇒あずまや高原登山口 14:53 ⇒あずまや高原登山口駐車場 14:59/15:30→真田温泉（入浴）16:00/50→上信越道→関越道→北関東道→我孫子 22:20 〈歩行時間　約６時間〉		
ルート状況		・一部積雪の少ない箇所があり地面・岩が露出している箇所があった。 ・ルート上にはリボンがあり、道迷いの可能性は低いが、スキー・スノーシューのトレースが多数あり、トレースを誤って進むと、道迷いの可能性がある。		
参加者		L 細谷 SL 白崎　千葉　土田 （男３名　女１名　計４名）		

＜１２４６＞

長瀞アルプス　宝登山
（497m）

飯塚　秀子

蝋梅の咲く山で春を感じる

桜よりもひと足早く咲く蝋梅を見に「行きたい山」としてリクエストしました。今が満開とのこともあり到着した野上駅は登山装備をした人がたくさん降車。会の参加数も２１名４班に分かれての行動になりました。登山口に向かうまでにも民家の庭には蝋梅や梅が咲いているのが見え期待が膨らみます。登山口からゆるやかに登りが始まり整備された道をゆっくりと歩いて行く。看板も所々あり道迷いの心配もない。長瀞アルプスと呼ばれる尾根道は左右共に見晴らしがよかった。大きな池が見えたと思ったらぎっしりと隙間なく並べられた太陽光パネル。他の山でもよく見る光景だったりして少し笑ってしまった。８日前に降った雪により凍結が心配されたがぬかるんだ箇所があったものの装備をつけるほどではなかった。

宝登山口から急な階段が現れここが一番苦しかった所ですが、登り切ったらすぐに視界が開けたくさんの人がみえました。集合写真場所も渋滞が起きていて皆素早く配置についてパチリ。ほぼ計画時間通りに到着し蝋梅を見ながらゆっくりと昼食をいただきます。

奥宮に向かうとここにも参拝のための行列ができていた。宝の山といわれるパワースポットらしい。脇のほうで手を合わせ狛犬ならぬ狼狛犬がみえました。ロープウェイが近くにあり頂上とはいえたくさんの観光客が蝋梅、根元には福寿草咲いていて春を楽しんでいました。今では３０００本もの蝋梅がありますが４０年前は１本もなかったそうで、地元企業と市民が協力して杉やひのきを伐採し代わりに蝋梅を植えたそうです。

下りは車道の間を抜けるショートカットした道を一気に下り宝登山神社で参拝しトイレを済ませ午後１時に長瀞駅に到着。２時２４分の電車までに自由時間が設けられ石畳を見学。途中土産店で試食品を味見。杓子の形をした杓子菜の漬物がおいしく４袋購入。行きよりもリュックは１．５倍位重たくなってしまった。時間通り皆さん集まり長瀞駅をあとにする。

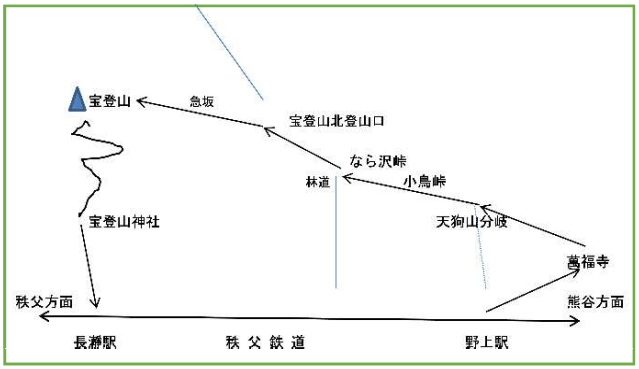
行くまでに色々と計画を練りリーダーは大変だったことと思います。ＳＬの方々も班をまとめて頂き快適に行動することができました。春が近

くまできているのを肌で感じることが出来た一日でした。ありがとうございました。

概　要

山　名	長瀞アルプス　宝登山		
月　日	2023 年 2 月 18 日(土)		
山　域	秩父		
形　式	日帰り	グレード	1 A
目　的	蠟梅の山で早春を味わう		
費　用	4, 300 円	交通機関	JR 秩父鉄道
行　程	我孫子 5:42→上野 6:15/26（高崎線）→熊谷 7:32/45→（秩父鉄道）→野上駅 8:29/9:00⇒野上峠 10:11/14⇒なら沢峠 10:25/35⇒宝登山 11:15/12:00⇒宝登山神社　12:45/13:00⇒長瀞駅 13:18/14:24→（秩父鉄道）熊谷→我孫子 17:26〈歩行時間　約３時間〉		
ルート状況	・野上駅から登山口までは標識もあり、登山者が大勢歩いていたので迷わなかった。 ・当日は暖かい陽気だったので、登山道は凍っていなかったが所々、凍った所が解けてぬかるんでいた。 ・北口登山道からの急な長い階段がこの時期、凍っていることもあり、軽アイゼンが必要になる。 ・宝登山は神社の領域になっているため、火気厳禁になっている。		
参加者	L 本田　SL 齊田　SL 大畠　SL 中村育 外崎　田村　高橋芳　矢野裕　新谷　石塚 小林安　蟹江　田嶋　小野　一氏　飯塚 秋山　松下　小山　吉川　北角		
	（男２名　女19名　計21名）		

概　念　図





満開の蝋梅



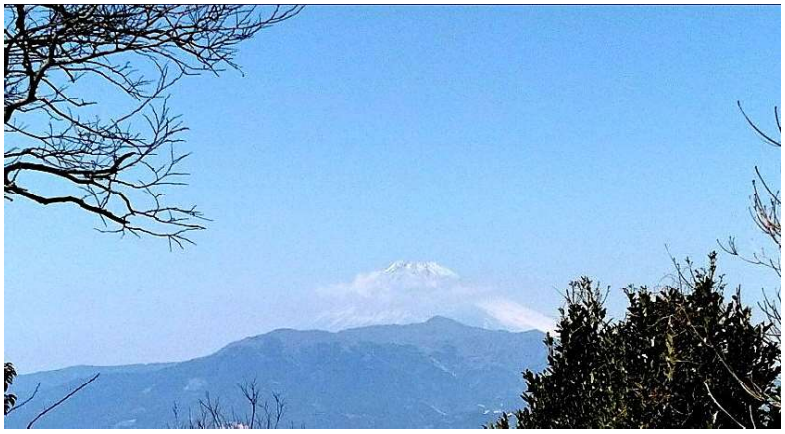
宝登山神社
大鳥居



宝登山山頂にて

個人山行　会山行として計画、募集しながら新型コロナまん延防止等重点措置発令中のため、個人山行に変更した山行の報告をしていただきました。

個人山行報告	沼津アルプス (鷲津山 392m)		リーダー:小島徹 グレード: 2A
月　日	2022 年 3 月 12 日(土)　日帰り		
山　域	伊豆	地形図	1/25000　韮山、三島
目　的	沼津市街の南に連なる小山を越える		
費　用	4,650 円	交通機関	JR　バス
行　程	我孫子 5:45→上野 6:15/20→熱海 8:19/23→沼津 8:41/9:00→多比バス停 9:24/32⇒大平山 10:19⇒鷲津山 11:10/40（昼食休憩）⇒徳倉山 13:02/27⇒八重坂バス停 14:42⇒沼津 15:35/45→熱海 16:09/21→新橋 18:00/06→我孫子 18:52 〈歩行時間　6 時間〉		
ルート状況	ルートは明確で要所に手作りの道標がありました。ただ、最後の横山からの舗装路脇の道標では目的のバス停が分かりにくかった。		
参加者	L 小島徹　秋山　土田　吉川　（女１名 男３名　計４名）		
メ モ	・当初の計画はコースタイムの 1.2 倍で作成しましたが、山行参加者の足並みが揃っていた事もあり計画よりも約 1 時間早く下山目的地に到着出来ました。ただ八重坂バス停では僅かの差でバスを逃したため、沼津駅まで徒歩で向かいました。 ・400m に満たない山の連続ですがロープや鎖が設置された急な箇所もあり、また今回のルートは累積標高差が 1000m 近くありますので、十分なトレーニングが必要なルートだと思います。 ・快晴に恵まれ、また最高気温が 20℃近くあり、登りや山頂付近では暑く、樹林帯に入るとホッとする状況でした。富士山や駿河湾を眺めながらの山行を満喫出来たと思います。 ・徳倉山山頂で秋山さんがコーヒーを振舞ってくれました。その後、隣で食事していた女性が手に持っていたパンをトビに持っていかれました。我々はトビの飛び去る音で気づきましたが、幸い女性にはケガがなかったとのことでした。 ・帰宅時の列車の乗換検索では品川乗り換えとなっていましたが、階段の登り降りが必要なために新橋乗り換えとして同じホームでの乗り換えをしました。		



富士山の眺望



鷲津山山頂で

個人山行報告	仏　果　山 （747m）		リーダー:矢野貞 グレード:1Ｂ
月　日	2022 年 3 月 13 日(日)　日帰り	山　域	丹沢
目　的	縦走気分を味わう低山	交通機関	ＪＲ 小田急 バス
行　程	我孫子 5:33(5:42)→代々木上原 6:43/55→本厚木 7:44/8:20（バス停 1 番）→ (バス)→野外センター前 8:55/9:00⇒仏果山 10:50/11:20⇒革篭石山 12:00/10⇒半原越 12:37/44⇒経ヶ岳 13:20/35⇒半蔵坊前 15:00/11→(バス)→本厚木駅 15:45→代々木上原 →柏→我孫子 18:00　〈歩行時間　4 時間 50 分〉		
ルート 状　況	・7:52 分発撚糸組合経由半原行には間に合わなかった。（登山道には途中トイレがない為 駅で済ませる必要があり、時間がかかったので 8:20 発野外センター経由に乗った。 ・仏果山から革篭岩山迄は両側が切れた細い尾根道アップダウンであるが、ロープが張っ てあり、ゆっくり慎重に歩けば問題なし。		
参加者	L 矢野貞　SL 佐藤清　佐藤健　佐藤明　田村　小島洋　田嶋　飯塚　秋山　土田　大賀 (男 4 名　女 7 名　計 11 名)		
メ　モ	あぶらちゃんの小さな花芽を見ることが出来た。 春霞ではあるが遠くに大山や丹沢山、駿河湾の海が望めた。 足並みがそろっていてほゞ標準コースタイムで歩くことが出来た。		



仏果山頂上にて

弘法大師が経文を納めたと言われる経石の穴





ヨゴレネコノメ

個人山行報告	顔振峠～越上山 （566m）		リーダー:矢野貞 グレード:1A
月　日	2022 年 3 月 20 日(日)　日帰り		
山　域	奥武蔵	目　的	春を見つけに
費　用	2,500 円	交通機関	ＪＲ　西武線
行　程	各自吾野駅 8:30 集合⇒顔振峠 9:50/10:07⇒（15 分）⇒諏訪神社 10:35/40⇒越上山 11:00/25⇒十二曲り⇒⇒ユガテ 13:45/55⇒福徳寺 14:25/31⇒東吾野駅 14:45/15:14→池袋→柏→我孫子 17:35　〈歩行時間　4 時間 45 分〉		
ルート状況	・顔振峠まで舗装路を 40 分程歩き山道へ入る。 ・越上山は岩場があるが、慎重に歩けば問題なし。 ・ユガテから福徳寺まで地図に記載されてない道がある。地元の方が復活した飛脚道（ユガテまで 50 分）尾根を通る道で景色が楽しめる。		
参加者	L 矢野貞　SL 田嶋　北田　森岡　田村　本田　佐藤健　一氏　秋山　土田 （男５名　女５名　計 10 名）		
メ　モ	・顔振峠では梅や河津桜が満開だった。桜に見とれ反対方向に進んでしまったが、桜の花に戯れるたくさんのメジロを見ることができた。 ・風は冷たかったが、前日、雨で空気が澄みスカイツリーや高層ビル群が微かに見えた。 ・遠く見える蕎麦粒山はまだ雪をかぶり白かった。 ・東吾野駅少し手前で、仲間の一人が福徳寺に忘れ物をしたと引き返していった。心配しながら駅広場に到着すると「岳人あびこの方ですか？」と駅の方から近寄り尋ねられた。サコッシュを顔振峠と諏訪神社の間で拾ったという。中を確認し山行計画書を見て、私達の駅到着予定時間に合わせ、先回りして待っていてくれたようだ。また、計画書に記載されていた、L,SL の携帯電話に何度も電話してくれたようだが、機内モードにしていた私達は出ることが出来なかった。落とし物を渡すと彼は名前も告げず、車ですぐに帰ってしまった。福徳寺から戻った仲間は、拾い主には会えなかったが、すぐに電話でお礼をした。 ・この一件で、この山行がとても清々しいものになり、思い出に残る山行になりました。改めて、山行計画書は大切だなと実感した。		



顔振峠から見える奥多摩の山々

越上山にて



2022(令和 4)年度、たいへん興味深い試みが 3 件計画、実施されました。
①ゆるゆる山行、②どんぐり散歩、③山食研究会。山行番号はつかなかったものの、多くの参加者を集めて実施されたこれらの試みを紹介します。(ゆるゆる山行は 2 回目から山行番号がついています)

ゆるゆる山行

「ゆるゆる山行」の立ち上げについて

外崎蓮　・　大山冬臣

この度、山行グレード１Ａに満たない１ａ程度の「ゆるゆる山行」を承認して頂きましてありがとうございます。縁あって岳人あびこに入会された山好きの仲間たちが、年齢と共に足腰が弱り、体調に問題を抱えていても、それなりの工夫をすればいつまでも山を楽しめるのではないかとの思いから立ち上げたものです。ゆっくり歩けば色々なものに出会え、心身ともに元気になれることを願っています。

≪対象者≫
- 足腰に故障を抱えていて、リハビリ中の方
- 体調不良等でしばらく山から遠ざかっている方
- 通常の山行に歩調が遅れがちの方
- ゆるゆる山行に参加したい方、2～3 名ぐらいまで

≪基準≫
- 難易度…基本的には１ａ
- 実施曜日…土・日・休日（車内の混雑を避けるために）
- 歩行速度…標準タイムの 3～5 割増し
- 行動時間…休憩・昼食も含め、最大 5 時間を目途とする
- 参加者と山によっては一般会員に協力を求める

概　要　（ゆるゆる山行第 1 回）

山 名	高尾山		
月 日	2022 年 4 月 19 日(火)		
形 式	日帰り	グレード	１Ａ
目 的	ゆるゆる山行でリハビリ登山の試行 高尾山の王道を歩きその自然を楽しむ		
費 用	2,900 円	交通機関	JR　京王線
行 程	我孫子 5:33→西国分寺 6:47/55→高尾 7:22→高尾山口 7:35⇒清滝駅 7:45⇒　金毘羅台⇒ケーブル高尾山駅（霞台）⇒11 丁目茶屋⇒蛸杉⇒浄心門⇒薬王院 10:00⇒高尾山山頂(599m)10:30/50 ⇒稲荷山コース分岐 ⇒ 稲荷山 11:20/30 ⇒ 清滝 12:25/13:00⇒高尾口 13:28→新宿→日暮里→柏・我孫子 15:30 （歩行時間　3 時間 30 分）		
参加者	外崎　大山　箕輪完　齊田　高橋芳 （男２名　女３名　計５名）		

薬王院





高尾山山頂にて

どんぐり散歩

小野 泰子

2021 年度初夏、初リーダーとしての山行を実施した。奥日光戦場ヶ原で「ズミの花」が目的だった。湯元からゆっくり歩きながら自然観察を取り入れた。

会員同士での何気ない会話の折に「小野さんがいつも話してる手賀の丘も案内して！」とリクエストがあった。師走の手賀の丘。すっかり落葉して裸になった落葉樹、緑の葉をしっかりつけている常緑樹、成熟した多種多様の果実、種子等を散策しながら説明しながら、半日５人で歩いた。「楽しかった。面白かった。またやって！」との言葉をいただいた。

リーダーとして次年度の山行予定を提出する頃になった。色々考えた。思った。いわゆる登山としての山は大勢のベテランがいらっしゃる。私でなければのものとして「どんぐり散歩」が閃いた。普段の山行では予定時間がある。のんびり自然観察をしている余裕はない。しかし、登山途中で面白い興味深いものは沢山ある。それなら、初めから「自然観察」を目的とすれば良い。同じ箇所を時間をおいて何回も観察を重ねること、つまり定点観察をすることで植物、動物がどのように変化していくのか？移り行く種類のこともある。１種類でも芽生え→生長→開花→結実と移り変わっていく様子を継続して観察を続けることで理解していく。

花から実になる。花の時期、受粉するための様々な工夫、風媒花なら落葉樹の葉が広がらないうちに花粉を飛ばし、虫媒花なら虫が沢山いる時期に開花し運んでもらうためのご馳走を準備となる。実になったらなったで、空気を利用するか、生物を利用するか、水を利用するかと工夫している。本当に強かに賢く生き抜いている。路傍の草にもドラマがある。みえてくると面白くなる。愛おしくなる。大袈裟な言い方だが「生物多様性」の大切さに気付いていただければ幸いです。参加希望者がいらっしゃるか不安でしたが、回数を重ねられました。ありがとうございます。



どんぐり散歩第１回 満開の桜の下で

	日程	*参加数
1	3 月 31 日(木)	18 名
2	4 月 28 日(木)	17 名
3	5 月 19 日(木)	13 名
4	6 月 20 日(月)	14 名
5	雨のため中止	
6	10 月 6 日(木)	7 名
7	11 月 10 日(木)	14 名
＊会友、ゲスト含む		



第７回見事なウラジロの前で。
これで一株という。

準定例実技研修

山食研究会

小山 三恵

五本松公園にて２日にわたり「山での食事作り」を実践してみました。参加者はのべ 17 名。予め、各人が持ち寄った食材と器具の重さを計り、調理時間を計り、作った料理を食べてみた。「バーナーの点け方」や「ジェットボイルの使い方」などを始めから教えてもらうチャレンジャーの傍で、手際よく調理するベテランがいます。チャレンジャーは使ってみたかったレトルト食品・フリーズドライ食品を試したり、家で作ってきた乾燥野菜を加えたり。ベテランは重さも考えながら野菜などを工夫したメニュー。ガスの使用量を抑え軽さを重視したメニュー。とバラエティに富んだ食事が並んだ。
新コロナ渦のため皆での試食はできませんでしたが始終和やかで楽しい雰囲気でした。食後は、ロープワークの練習や、持ち寄りのイスに座り山でのご飯話をした。
武内さんによるエイトノットの結び方。「ロープの太さによる安定感の違い」では実際に太さの違うロープでチェストハーネスを作って実感することができた。
今回の調理は実践に備える感じよりもおままごとの楽しさがありました。リラックスして作れて楽しかった。今日作った食事をいつか山でも一緒に食べようね。

月　日	2022 年 5 月 31 日（火）・ 6 月 1 日（水）　　両日とも日帰り		
目　的	山で作る食事を考え工夫を話し合う　　同時開設「山のよろず相談室」		
お　題	「真夏の山行２日目の夕食と翌日の朝食」を想定し、料理を考えて作る。		
費　用	約 200 円	集　合	我孫子市ふれあいキャンプ場（五本松公園）
参加者	5 月 31 日（女５名 男４名 計９名） L 小山　齊田　中村育　郷田　武内 矢野朝 小林安　吉川　秋山		6 月１日　（女７名　男１名　計８名） L 小山　北角　髙橋芳　外崎　大賀　田嶋 北田　川村

各人、持ち寄った食材と器具で調理して食べてみた。　新コロナ渦のため皆での試食はできなかったが、慣れている人とチャレンジする人が一緒に作り楽しい雰囲気でした。
5 月 31 日（火）は食後に美味しかった山小屋の話やヒドかった山小屋の話。ロープワークについて話し合った。武内さんとロープでチェストハーネスを作り太さによる安定感の違いを学び、ロープとロープを結ぶエイトノット等を実践的に勉強した。
6 月 1 日（水）は食後に各人の料理の説明、食事担当時の失敗談などを話し合った。



ロープワークの練習中

食後の団欒



どんぐり散歩　春の花と秋の実

		
キンラン（4月）	ジュウニヒトエ（4月）	ササバギンラン（4月）
		
サワフタギ（4月）	エビネラン（4月）	カラスウリ（11 月）
		
ガマズミ（11 月）	アオツヅラフジ（11 月）	マユミ（11 月）

山食研究会　メニュー（一部　敬称略）

			
おでん　小山	親子丼とサラダ 齊田	カレーライス　わかめの サラダ　北角	パスタ　ソーセージ炒め 郷田
			
夏野菜のカレー わかめご飯のおにぎり 高橋芳	ビーフ炒めご飯　水餃子 風スープ　キュウリの塩 昆布もみ　中村育	えびピラフ　きゅうり のシーチキンサラダ 外崎	混ぜご飯　大豆のお肉の コンソメ煮　スープ　海藻 サラダ　小林安
			
パスタ　トマトとキュウリ のサラダ　矢野朝	鮭のちゃんちゃん焼き 川村	豆ご飯　キュウリの酢の 物　武内	シチュー　パン 大賀

25 周年記念

（2021 年）



「きらめく登山道(苗場山)」 田嶋 まりさん

山行記録

「茨城の山を歩こう」

記念イベント

25 周年記念行事を終えて考えたこと

高橋 芳恵



岳人あびこは令和３年 10 月で創立 25 周年を迎えました。お祝いをどのようにするかで会員全員が大いに盛り上がりました。①記念品②山行　③イベント④写真コンテストとカレンダー作成の各セクションに分かれ全員が参加して討議し、記念品は T シャツ（ロゴマーク入り）に決定。山行は検討した結果、茨城の山を選定し 15 回にわたって歩き、茨城の素晴らしさを知りました。

イベントは令和４年 1 月 10 日コロナワクチン接種で会場が取れない中、我孫子市民プラザと最適な場所を確保しました。祝賀会には県連会長・理事長の参加をいただき温かいご祝辞をいただきました。巫女さんや獅子舞が登場し、大いに会場が湧きました。

「日本の山から南極へ」の講演では南極越冬隊の生活の詳細や自然について傾聴し、会員が出展した写真のコンテストと講評、そして優秀作品をカレンダーにして会員や OB の皆様にも配布することができました。

今思い返しても盛りだくさんで「なんてすごい 25 周年！仲間たちでしょう！」と絶賛するばかりです。しかしこうした結果は偶然の大成功だったのではありません。これまでのワーキンググループに象徴されるように会員は常に話し合い、実行していく体制が私たちの中にしっかりと根付いている成果だったと確信しています。まさに 25 周年記念はこれからの岳人あびこがどのように活動していくかを示してくれた大きな指針となりました。全体をまとめていただいた室崎実行委員長をはじめ、会員各位の多大なるご尽力に改めて感謝申し上げ、今後の 30 年に向けての会の発展を心から祈念いたします。

2021.12.17

創立 25 周年記念山行シリーズ「茨城の山を歩こう」をおえて

25 周年記念山行部会長　北田仁則

岳人あびこ創立 25 周年記念山行シリーズ「茨城の山を歩こう」が、盛況裏に幕を閉じた。2021 年 4 月、記念山行準備委員会で検討を開始した時は、新型コロナ感染第 4 波のただ中で、秋の創立記念日（10 月 10 日）頃の山行が出来るだろうかとの不安があり、感染が下火になっていなければ中止、もしくは来年以降に延期との意見も出ていた。しかし、高橋会長の「難しい状況でもなんとか工夫を凝らしてやろう」との決意に押されて、大勢が山行に参加し山行後打上げ会をやる従来型の計画ではなく、山行回数を多くして 1 山行当たり少人数で実施できるように近場でやろうとの考えから、今回の「茨城の山を歩こう」が決まった。

山の選定に当たっては、①標高順 25 座を中心にアクセス、登り安さ、面白み勘案、②前記の基準だけでは県北地域に偏るので、県央、県西、県南地域の山を加えて 16 山行が決定された。準備委員がリーダーとなり、具体的な山行計画を立案、8 月の定例集会で参加者募集したところ、約 180 名が参加を申し込んだ。

夏の新型コロナ感染第 5 波に発令されていた緊急事態宣言が 9 月末に解除され、創立記念山行が本格化する 10 月以降は世間の目を気にしないで山行が出来る雰囲気となった。10 月中の山行は、1 山行当たり 10 人程度の山行だったが、11 月から 12 月には 1 山行当たり 20 人の山行が 3 つもでて、尻上がりに賑やかになってきた。

荒天のため 1 山行が中止となり 15 山行が実行された。会員・会友 61 名中、山行に参加した人は 52 名、15 山行の延べ参加者数は 184 人の多きを数えた。8 山行に参加された方が 2 名おられたのを始めとして 5 山行以上の方は 15 名を数え、記念山行を盛り上げた。

参加者の声は、近場でこんなにいい山があったのかと新しい発見に驚き、季節を変えてまた来たいなどと総じて好評だった。

落石のヒヤリハット、ハチ刺され 2 名のトラブルが報告されたが、いずれも大事に至らず何よりだった。コロナ禍で危ぶまれた 25 周年記念山行シリーズを無事に終えられたのも、各山行のリーダーや参加者皆様の努力と協力があってのことで、感謝申し上げる。

山行（15 山行）の男女別内訳

	会員・会友人数（A）	1 回以上参加人数	延べ参加回数＊（B）	平均参加回数（B）/（A）	1 山行当たり参加人数（B）/15 山行
男性	26（43%）	23（88%）	57（31.0%）	2.19	3.80（31.7%）
女性	35（57%）	29（83%）	127(69.0%)	3.63	8.47（68.3%）
計	61（100%）	52（85%）	184（100%）	3.02	12.27（100%）

＊ゲスト参加　1 名（1 回）を除く

岳人あびこ　25周年記念山行(茨城の山) 実績一覧

日	山名	参 加 者　(*)は会友	G	特記事項
10／9	神峰山～高鈴山～助川山	L 北田 SL 藤家 石塚 新谷 深草 高橋芳 小林隆 秋山 蟹江 吉川 飯合(*)　**男性5　女性6　計 11名**	2A	
10/16	宝篋山	L 高橋芳 SL 川村 本田 室崎 蟹江 田嶋 小山 飯塚 箕輪カ(*) 渡辺清(*) 高橋富(*) **男性1　女性10　計11名**	1A	リーダー変更　箕輪完→高橋芳
10/16	八溝山～池ノ平	L 小島徹 SL 北田 新谷 中村育 一氏 土田 秋山 吉川 大賀 **男性4　女性5　計9名**	2A	高笹山は中止
10/23	生瀬富士～月居山	CL 森岡 SL 深草 高橋芳 石塚 小島徹 細谷 L 郷田 SL 小林安 矢野裕 秋山 土田 吉川 **男性7　女性5　計12名**	2B	
10/24	愛宕山～難台山～吾国山	L 藤家 SL 小野 外崎 佐藤清 蟹江 北角 大賀 成島 一氏 **男性3　女性6　計9名**	2A	
10/30	三鈷室山～妙見山～前室山	L 大畠 SL 田村 高橋芳 千葉 矢野貞 本田 村越 北田 小林安 小島徹　**男性2　女性8　計10名**	2B	G 変更 2A→２B
11/6	筑波山	L 郷田 小山 室崎 室崎育美(ゲスト) **男性2　女性2　計4名**	1A	
11/6	堅破山・土岳	L 大平 SL 森岡 SL 本田 SL 外崎 SL 矢野貞 秋山 佐藤清 小島徹 大賀 石塚 中村育 高橋芳 飯塚 吉川 田嶋 川村 新谷 桐生 高橋富(*) 渡辺清(*) **男性5　女性15　計20名**	1A	
11/10	奥久慈男体山～白木山～高崎山	L 矢野貞 SL 大畠 千葉 高橋英 田村 大山 本田 中村育 佐藤健 石塚 秋山 大賀　**男性4　女性8　計12名**	1A	G 変更 １A→２B
11/12～13	花園山奥の院・栄蔵室～花園山・和尚山	L 武内 SL 白崎 大平 北田 郷田 細谷 矢野朝 外崎 新谷 小林安 布能　**男性7　女性4　計11名**	1B	G 変更 2A→１B
11/13	加波山～丸山～足尾山～きのこ山	CL 大畠 SL 田村 L 矢野貞 L 本田 SL 中村育 村越 石塚 田嶋 蟹江 松下 深草 一氏 吉川 小島徹 北角 大賀 **男性3　女性13　計16名**	1A	リーダー変更　齊田→大畠
11/22	上山湯沢峡～篭岩	L 矢野貞　SL 千葉 小林安 田村 佐藤健 **男性1　女性4　計5名**	1C	
奥久慈男体山～袋田の滝		L 村越　**<11/22を予定したが荒天のため中止>**		
11/27	仏頂山～高峯	L 佐藤清 SL 新谷 SL 大平 SL 高橋芳 小野 小林安 矢野朝 矢野貞 大賀 北田 石塚 田嶋 秋山 蟹江 飯合(*) **男性5　女性10　計15名**	1A	
12/4	御嶽山～雨引山～燕山～加波山	L 本田 SL 高橋芳 SL 大畠 SL 矢野貞 箕輪完 外崎 桐生 村越 石塚 千葉 小野 小林安 田嶋 一氏 小島徹 蟹江 深草 飯塚 箕輪カ(*) 高橋富(*) **男性3　女性17　計20名**	2A	
12/11	小町山～朝日峠展望公園～雪入山～黒文字平	CL 土田 SL 本田 大畠 田嶋 秋山 飯塚 大賀 L 新谷 SL 石塚 桐生 箕輪完 川村 富井 L 高橋芳 蟹江 小島徹 小山 布能 北角 田村　**男性5　女性15　計20名**	2A	

＜１１８０＞25 周年記念山行

神峰山～高鈴山～助川山
（598m）（623m）（327m）

石塚　あさ子

今日はコロナの緊急事態宣言が明けた 10 月 9 日（土）、そして岳人あびこ 25 周年記念山行の最初の山行です。

曇り空ではありましたが、日立駅よりタクシー3 台に乗り日鉱記念会館前の登山口に着き、少し先の階段より登り始めました。広い舗装道路にとりつきそこで挨拶を交わし神峰山へ。途中高鈴山の分岐を過ぎ頂上に着きました。薄曇りながら日立の海の方まで眺望があり記念撮影しました。当然みんな記念のＴシャツを着てです。引き返して神峰神社の前で参拝し高鈴山に向かいました。途中向陽台分岐の林道の所にとってもきれいな新しいトイレがあり、休憩。下りてきた人にこれからの情報を聞いて、高鈴山へ向かう途中の分岐より御岩神社に下りました。奥の院まで下りると結構軽装の登山者？が登ってきており、さらに杉木立の中、本殿まで下りました。日立最古の霊山と言われるだけあってとっても荘厳な雰囲気の神社でその参道の入口にある、巨木の 3 本杉は天然記念物に指定されています。神社の前にいると、神主さんが外まで出ていらしてお祓いをして下さいました。奥の院まで戻り、天気もあやしくなったので昼食となりました。

それから登り返し御岩山分岐のところまで来ると雨が本降りになり雨具を着て御岩山へ。御岩山の頂上は晴れていれば展望のいい所ですが残念ながら霧の中でした。

多少のアップダウンを繰り返しながら歩きやすい樹林帯の中 1 時間程で高鈴山山頂手前の東屋に着きました。雨の中なのでここで小休憩を取り、高鈴山山頂へ。山頂は国土交通省の雨量観測塔や電波中継塔が立っています。トイレもあります。晴れていれば、太平洋、筑波山、遠くは那須連山まで見える展望のいい所ですが残念です。舗装道路が続いている所を下り途中 598 四辻から再び登山道に入ると、所々にアザミが鮮やかに咲いています。

そして、沢山の石仏が並んでいる金山百体観音へ下り、さらにおむすび形をした池につきます。ここから助川山一帯は助川山市民の森として整備されている所です。

助川山に着くと、雨の中ではあったが、３６０度の展望が見事でした。秋山さんの美味しいコーヒーを分け合い頂き、ホット一息つき、助

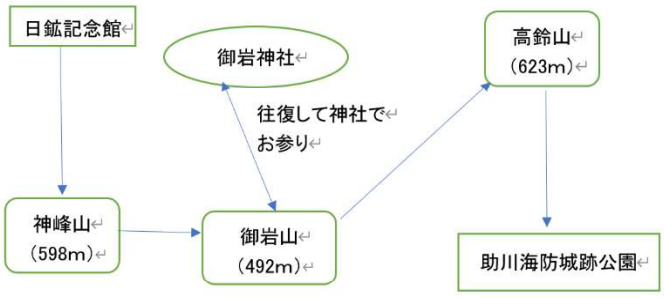


神峰山山頂にて



日立最古の霊山御岩神社

概 念 図



川海防城跡公園に向かい、その先よりタクシーで日立駅に向かいました。
　花の百名山でもあり、桜、馬酔木のトンネル等の時期に又ぜひ来たいと思った山行でした。

概　要

山 名	神峰山～高鈴山～助川山		
月 日	2021 年 10 月 9 日（土）		
山 域	阿武隈山地（日立アルプス）		
形 式	日帰り	グレード	２Ａ
目 的	会創立２５周年を祝う		
費 用	約 3,000 円（ときわ路パス利用）	交通機関	JR タクシー
行 程	我孫子 5:43→水戸 6:58/7:03→日立 7:33/8:00→（タクシー20 分）→（日鉱記念館前）神峰山登山口 8:20/30 ⇒神峰山山頂 9:20/35⇒御岩神社分岐 10:35⇒（御岩神社往復、昼食）⇒御岩神社分岐 12:00⇒高鈴山 13:15 ⇒金山百観音 14:30⇒おむすび池⇒助川山 15:45⇒助川海防城跡公園 16:40→（タクシー）→日立 17:35→我孫子 19:47 〈歩行時間 6 時間 30 分〉		
ルート状況	・神峰山登山口は本山トンネルすぐ右手前の鉄製の階段を登り、右からのアスファルト道路に合流する（このアスファルト道路の入り口は封鎖されていて入れない） ・ハイキングコースになっていて道標が完備しているので、分岐に注意していれば迷うことはない。また、トイレもコース途中に数か所ある（高鈴県立自然公園のハイキングマップを参照） ・神峰山、助川山からは太平洋が見えて、気持ちが良い。特に助川山は標高は低いが、360 度の大展望が開けていて素晴らしい。 ・御岩神社は常陸最古の霊山として格式が高い、また、宇宙飛行士が日本上空を通過した際に、御岩神社あたりで光の柱が見えたというのでパワースポットとして人気が高く、参拝者が多かった。		
参加者	L 北田　SL 藤家　石塚　新谷 深草　高橋芳　小林隆　秋山 蟹江　吉川　飯合（会友） （男５名　女６名　計11名）		

＜1181＞25 周年記念山行

宝　篋　山
（461m）

飯塚　秀子

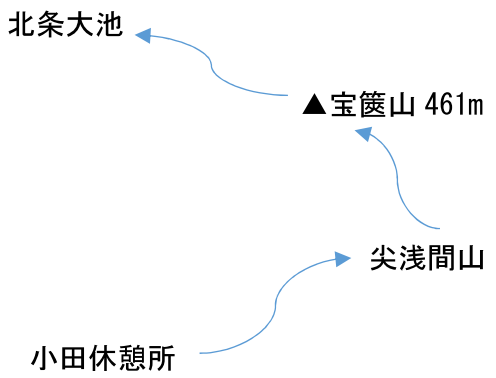
　4 回目の緊急事態宣言解除から 2 週間余り、常磐線で乗り換えもなく混雑もなく土浦駅に到着。駅から小田入口バス停まで乗り継ぎもよく、小田休憩所にて室崎さんと合流し「25 周年記念山行」と書かれた直筆の書を持ち皆で記念撮影。この時点で駐車場はほぼ満車でした。
　今日の予報は曇り、常願寺コースに向かいます。「登り始めはゆっくりと行きましょう」との言葉にリラックスし歩きはじめて 30 分、時間を測っていたのでしょう、ＳＬが休憩を入れてくれました。水の流れる音を聞きながら濡れた地面を慎重に進み小雨が降りながらも尖浅間山に到着。雨具を装着し今度は急坂を歩きます。視界も開けましたが少し霧がかかっていました。途中にトリカブトが数か所に咲いていて間近で見ることが初めてでした。なだらかな道を進みバイオトイレが見えてきました。山頂近くで早めの昼食をとり記念撮影したあとすぐに山口コース(1)にて下山、途中で何組かの子供連れ家族とすれ違い人気のある山であることを実感し宝篋山を後にしました。
　帰りのバスには少し時間があり、平沢官衙（かんが）遺跡歴史ひろば案内所で休憩中匂いに誘われ皆で焼き芋を食べました。甘くてしっとりした味でした。その後バスに乗り土浦駅に向かう途中「ちょっとお茶でも」ということになり駅ビルの店に入りコーヒーとケーキを頂きました。外での飲食も久しぶりでマスクはまだまだ必需ですが徐々に以前の生活に戻りつつある様な気分になりました。
　今回は男性の方が不参加となり（室崎さんは麓まで）女性 10 名の女子山行となり、「次の山行もまたよろしくね」とこれから続く茨城の山行を話していました。今、山行を終えたばかりなのに疲れを感じさせずもう次の山行を楽しみにした笑顔に私もがんばらなくては……という気持ちにさせてもらいました。
　何度も下見をして下さった箕輪さん、川村さんに感謝するとともに 25 周年記念Ｔシャツを着て行動したことがとても嬉しかったです。

概　要

山 名	宝篋山
月 日	2021 年 10 月 16 日（土）
山 域	筑波

形　式	日帰り	グレード	1A
目　的	25周年記念山行　　新会員・会友の皆さんと楽しく過ごす		
費　用	約2,000円	交通機関	JR バス マイカー
行　程	我孫子6:26・天王台→土浦6:59/7:10(下妻行バス) →宝篋山登山口バス停7：40⇒小田休憩所8:05⇒常願寺コース くずしろの滝9:05⇒尖浅間山頂9:30/40⇒宝篋山山頂10:30/11:00⇒(山口コース1) ⇒平沢大池⇒平沢遺跡12:55/13:15⇒北条入り口バス停13:46→土浦駅→天王台・我孫子・柏 〈歩行時間　約4時間〉		
ルート状　況	よく整備されており問題なかった。		
参加者	L高橋芳　SL川村　SL本田　SL室崎　蟹江　田嶋　小山　飯塚　渡辺清(会友) 箕輪カ(会友) 高橋富(会友) (男1名　女10名　計11名)		

概　念　図



小田休憩所にて集合写真



＜１１８２＞　25周年記念山行

八溝山～池ノ平
(1022m)

小島　徹

茨城県最高峰と第2峰の散策

我孫子駅北口で集合した時点で既に曇っていました。自家用車2台に分乗して出発し、途中トイレ休憩をはさんで八溝山直下の駐車場に向かいました。山頂へは県道248号で行く計画でしたが日輪寺より山頂までの区間が道路工事で通行止めでしたので、八溝林道より駐車場に着きました。

駐車場に着いた時点で周囲は薄い霧でしたので、レインウエアを着用し八溝山山頂に向かいました。山頂までは約10分で八溝山頂上に着き展望台に上がってみましたが霧のため全く眺望はありませんでした。山頂標識前で集合写真を撮影後山頂トイレ脇から登山道に入りました。途中笹が覆う箇所が出てきてかき分けながら注意して進みました。茗荷分岐からの下りでは一部腰の高さ位まで笹が茂っている箇所もありストック等で兄元を確認しながら進みました。この後やや雨足が強くなってきたので、ザックカバーも装着しました。

池ノ平に到着し昼食休憩後、携帯で天気予報を確認すると更に降水確率が高くなる予報のため、高笹山へは向かわずに引き返すことにしました。八溝山頂上展望台の中二階で小休止後、秋山さんがコーヒーを提供してくれ一同ゆったりと過ごすことが出来ました。駐車場でレインウエアを脱いで帰路に就きました。途中で道の駅常陸大宮に



八溝山山頂で

立ち寄り、食事をしてお土産を購入したりして当地で解散しました。

雨の中笹をかき分けて進むこともあまりないので、別な意味で印象に残った山行になりました。約一か月前に行程確認した時はコロナ対策のために展望台は閉鎖されていました。登山道の笹は変わりありませんでしたが、天気が良かったので高笹山を越えて大神宮山までを往復しました。今回は頂上駐車場まで車で行きましたが、次に八溝山を登る時には蛇穴バス停の登山口より頂上を目指したいと思いました。



山頂手前の八溝嶺神社

概　要

山　名	八溝山～池ノ平		
月　日	2021 年 10 月 16 日(土)		
山　域	阿武隈山地		
形　式	日帰り	グレード	2A
目　的	茨城県最高峰と第 2 峰の散策		
費　用	5,700 円	交通機関	自家用車
行　程	我孫子駅 6:00→柏 IC→友部 SA→那珂 IC→富士見が丘駐車場 9:25/40⇒八溝山 9:50⇒茗荷分岐 10:35⇒池ノ平 11:20/40⇒茗荷分岐 12:20⇒八溝山 12:55/13:30⇒富士見が丘駐車場 13:40/14:00→道の駅常陸大宮 16:00/17:00（解散）〈歩行時間 3 時間〉		
ルート状況	登山道が笹で覆われている箇所がありましたが、ふみ跡がありかき分けながら進みました。池ノ平手前の分岐に道標がなく、念のため携帯マップで確認してピークに向かいました。		
参加者	L 小島徹　SL 北田　新谷　中村育一氏　土田　秋山　吉川　大賀（女５名　男４名　計９名）		

＜１１８３＞ 25 周年記念山行

生瀬富士～月居山

（406m）　（404m）

矢野　裕子

小さな山で大冒険

急登、岩場、ロープ、クサリ場があります……チャレンジしたくなって申し込み。何と茨城のジャンダルム！と言われているそうです。

爽やかな晴天の山日和。袋田の駅から滝方面へ歩き始めて２０分、今日のコースは途中からは地理院地図にはない。私は、会山行が半年ぶり。緩やかに登り始め、次第に急登岩場が出てくる。足を置く岩を見定めてよじ登っていく感じが懐かしく、わくわくして緊張する。岩の壁の前に立った時、前のグループの人からの落石が頭に当たる事故があった。突然ゴロゴロッと落ちてくる石は避けようもなかった。ほんの軽症で幸いだったが、山とは常に危険と隣り合わせ。身が引きしまる。

木々の間に眺望が開けている場所もあり、割に短い時間で生瀬富士山頂に着いた。そして驚いた。３～４人分程の狭いスペースのその北側の方にジャンダルムへと続く道が繋がっている。先行の若者グループがとても楽しそうに次々と戻って来る。展望は 360 度で気分爽快。遠く薄く筑波山の形は私にもわかった。あとは那須連峰、日光方面、ぐるりと見渡せる。ジャンダルムへも仲間がチャレンジ。岩稜帯を一度下り登ると横長くそそり立つ岩峰渡り。そこに立つみんなが空中に浮かんでいるように見えた。戻って揃い和やかにおやつ休憩後、一気に下ってまた急登、立神山 420m で昼食。この後が大変だった。根っこと落ち葉の急斜面を激下り。細いロープはあるけれど、一歩一歩に全く気が抜けない。この道なき道の急降下が、今日の中で一番疲れた。とてもとても長く感じた。やっとの思いで降り立ったのは袋田の滝の茶屋の裏。こんな所から登ろうとする人は先ずいない気がした。雨の翌日のため、渡渉を避けたコースをとった今日は仕方ない。

鮎の塩焼き、串団子、蕎麦屋さん、賑やかな茶屋の脇から始まる二つ目の月居山は、大きな段差の階段からスタート。どうなることかと思ったけれど、じきに歩きやすい登山道になり、上にある観音堂から大きな鐘の音が心地よく

響いてきた。一定の間隔で心が澄み渡る感じがする。大イチョウをはじめ古木に圧倒されて何度も見上げる。四差路から城跡のある山頂へ往復した後、駅方面へ戻る西へのルートを下った。生瀬富士で苦労した分、緩やかな下山の道は有難い。

山行前日に「ときわ路パス」を求めて取手駅まで行く……という面倒さを、今日のお楽しみ満載のコースは十分に帳消しにしてくれる、そんな秋の茨城の山。皆様ありがとうございました。

概　要

山　名	生瀬富士～月居山		
月　日	2021 年 10 月 23 日(土)		
山　域	茨城		
形　式	日帰り	**グレード**	２B
目　的	日本三名瀑の袋田の滝を挟む生瀬富士と月居山の秋を楽しむ		
費　用	約 2,000 円　ときわ路パス利用（大人の休日倶楽部）		
交通機関	JR		
行　程	柏 5:38→我孫子 5:43→水戸 6:58/7:28（水郡線）→袋田駅 8:44 /55⇒登山口 9:30⇒生瀬富士頂上 10:35⇒茨城ジャンダルム 11:10⇒立神山 11:50⇒四差路 12:50⇒滝美館横 13:35⇒瀧見茶屋横登山口 13:44⇒月居山 14:30⇒分岐 14:55⇒七曲分岐 15:10⇒見返橋 15:20⇒袋田駅 15:55/59→水戸 17:14/34→我孫子 18:59 〈歩行時間　7 時間〉		
ルート状　況	・生瀬富士山頂直前より急な岩場となりロープ、鎖を補助に登るが登山道は明確になっている。 ・四差路から滝美館までのトラバースの下りは、略ロープが張ってあるが前日の雨の影響もあり所々滑り易い箇所あり。		
参加者	L 森岡　SL 深草　高橋芳　石塚 小島徹　細谷 L 郷田　SL 小林安 矢野裕　秋山　土田　吉川 （男 7 名　女 5 名　計 12 名）		





月居城跡にて

＜１１８４＞ 25 周年記念山行

愛宕山～難台山～吾国山
（306m）（553m）（518m）

大賀　晶子



吾国山山頂

前日に取手駅でときわ路パスを購入し、6：26 我孫子始発の常磐線 2 号車に乗り込む。電車に乗ること 1 時間で岩間駅に到着。「今日はお天気で、登山日和だね～」これからの山歩きに期待いっぱいです。岩間の町をしばらく歩くと愛宕神社に到着。愛宕神社は火災の神様だそうで、手を合わせてこれからの登山の無事をお願いした。

昔、愛宕山は天狗の修験道場で 13 人の天狗が住み厳しい修行で身につけた術で重い病人を救ったり、作物の豊凶を占って人々を幸せにしたりしていたそうです。そして愛宕神社は日本三大火防神社で火難除けの神様になっています。

愛宕山を出発して団子のような塊の団子石、団子山、大福山に向かいます。団子、大福と聞いてなんだかおなかの虫が動き始めてぐーぐーと鳴りながらも、獅子ケ鼻、天狗の奥庭を過ぎる。何でこんな所に??と思うほど、屏風のごとくすっきり立っている屏風岩が目の前に現れ、小さなピークが次々と続く。広葉樹の落ち葉の絨毯をカサカサ音をたてて歩く時間はなんとも幸せでしたが、後半傾斜がきつくなり、所々地面が濡れている場所があるのでヌルッと滑りそう……。緊張して一歩一歩歩いたつもりですが、滑ってしまい「あらあら、おしりが真っ黒になっちゃった～」とうとうやっちまいました!! それに反して「あら、ここにあったわ。みなさんこの花知ってる??」と前方から元気な声は小野さんです。なにが起こったかと近くに行ってのぞくと、登山道の脇に白い地味な野草が……。「これは、こうやぼうきよ」こうやは高野山のこうやです。高野山でこの花の茎を束ねて箒にしたとか……。なるほどです。その後もお花のレクチャーは続きました。佐藤さんも物知りで「これは、億両って言うんですよ」と。億両??…千両、万両、億両か……よくできているなぁ。赤い実の大きさが確かに大きいです。おいしくて食べたくなるけど、実は毒があって鳥も食べないそうです。

洗心館跡まできました。ここからゴールの吾国山まではもうすぐですが、最後の急坂が待ち受けているので、一休みです。行動食をおなかに入れ、水分補給します。頑張って上りきると吾国山に到着。

山頂には田上神社が祀られており、大眺望は素晴らしいの一語。２５周年山行でこれから登る加波山、きのこ山、仏頂山、高峯がくっきりと見えました。景色にうっとりしてしばらく休憩。「さあ、最後の下り、がんばるぞ」と皆の足取りも軽く出発、これから福原駅に向かいます。福原への下山はカタクリの群生地、ブナの原生林、山桜の巨木も多い。足元に「何々丁目」と彫られた石柱を確認しながら下っていくのが楽しい。地元のボランティア団体が整備しているからか、人が踏み入らないようにロープを張っていました。

登山終了、無事下山……。集落の畑にでました。「キャベツって、こんなに大きかった??」畑一面にキャベツの海が広がっていて、感動です。福原の駅までは、結構遠く感じられましたが、良い山行だったなと余韻をかみしめて、のどかなひと時に感謝しました。

概　要

山　名	愛宕山～難台山～吾国山		
月　日	2021 年 10 月 24 日（日）		
山　域	茨城		
形　式	日帰り	グレード	2A
目　的	25 周年を祝う		
費　用	約 2,500 円	交通機関	JR
行　程	我孫子 6：26→岩間駅 7：24/40⇒天狗の森駐車場 8:50/9:00⇒南山展望台 9：30/40⇒団子石峠 10：05⇒難台山（昼食）11：30/50⇒旧洗心館		

	12：55/13：05⇒吾国山 13：25/40⇒ 福原駅 15：00/54→友部→ 我孫子 17：35 〈歩行時間 約 6 時間 30 分〉
ルート 状 況	・道標は整備されており道迷いはない。 ・登山道の一部は粘土質で滑りやすい。 ・岩間駅を起点として、福原駅までの縦走コース。低山ではあるがアップダウンが多い。 ・コースは初心者～健脚者向けと、数本のコース設定可。 ・春には「すずらんの群生」、「カタクリの群生」が見られる。
参加者	L 藤家　SL 小野　外崎　佐藤清 蟹江　北角　大賀　成島　一氏 （男３名　女６名　計９名）

概 念 図



難台山山頂



＜１１８６＞25 周年記念山行

三鈷室山～前室山～妙見山
（870m）　（880m）　（879m）

大畠　清江

三鈷室山！ 25 周年記念山行がなければ、知ることも足を踏み入れる事も無かったであろう山。生まれも育ちも茨城県の私も読み方すら知らなかった山だ。

自家用車 2 台に分乗して出発。登山口近くの里川コミュニティセンター前の路肩に駐車。素晴らしい青空だ。風も無く絶好の登山日和。気持ち良く歩きだす。

ここ里川宿にはその昔、行基が民衆に災いを及ぼす狼の害を除く為に三鈷(仏具の一種)を納めて三鈷室山を開いたという言い伝えがあり、茨城県の民話にもなっている。登山口脇にその碑があるが風化して読めない。その碑は常陸太田市の指定文化財になっている。

下見の時は藪で思うように進めなかった登山道は、ザッパに刈り込まれていて難なく県境尾根に乗ることが出来た。右側が茨城県で杉の植林帯、左側が福島県で明るい広葉樹林帯。

その福島県側には昔の藩を分けたと言う、土塁が築かれている。この状態の登山道が延々と山頂まで続いていた。その昔、どんな人がどんな格好でこの道を歩いたんだろうかと思いを馳せながらふかふかの道をゆっくり登った。山頂は今まであった NTT の鉄塔が取り払われて広々した更地になっていた。雲一つない青空の下、誰もいない私たちだけの山頂でのんびりランチタイム。三つ並んだ祠の前で集合写真。三脚にスマホを立ててタイマーを何度もやり直す写真係の大奮闘あり。その度のいいお顔に疲れたり、記念 T シャツをそれぞれ脱いだり着たりの撮影風景は多いに盛り上がった。

これからが問題だった。前室山、妙見山への標識は全く無かった。標識どころか登山道すらなかった。地図と GPS が頼りだった。これまでに登った茨城県の山の多くが山中を林道が縦横に走り、登山道を寸断していた。この三山も例に漏れず、何度も林道を横切った。前室山、妙見山には倒木を乗り越え道なき道を、急登の杉の植林帯の中を山頂を目がけて登った。前室

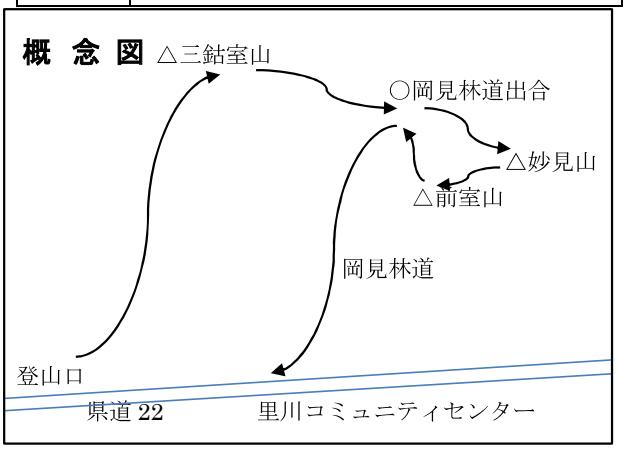
山には真新しい立派な石碑が設置されているのに登山道がないというのはどういう事だろうか。下山は舗装された岡見林道を下った。約1時間、所々の紅葉に歓声をあげたり、ひっそり咲くツルリンドウやキバナアオギリ、遠くの山肌に秋を感じたりしつつ、いつの間にか下山。三山とも展望がなく少し物足りなさも感じたが、誰一人出会う事もなく、静かな静かな山旅を同行のお仲間と共に充分に楽しむことが出来た。

概　要

山　名	三鈷室山～前室山～妙見山		
月　日	2021 年 10 月 30 日(土)		
山　域	茨城県北部		
形　式	日帰り	**グレード**	2B
目　的	25 周年を祝い記念山行を楽しむ		
費　用	3,000 円	**交通機関**	マイカー
行　程	我孫子駅（北口公園前）5:40→谷田部 IC→那珂 IC→道の駅さとみ 7:30/40→里川コミュニティセンター8:00/10⇒登山口 8:20/25⇒熊穴林道出合 8:45⇒尾根道分岐 9:00⇒三鈷室山山頂 10:10/50（昼食）⇒林道岡見線出合⇒前室山 11:55/12:05⇒妙見山 12:30/40⇒林道岡見線出合 13:00⇒里川コミュニティセンター14:00/10→プラトーさとみ(見学)→那珂 IC→谷田部 IC→我孫子　〈歩行時間 4 時間 30 分〉		

ルート状況	・車は里川コミュニティセンター前路肩に数台、登山口路肩にも数台置くことが出来る。 ・三鈷室山山頂までは道標完備で迷うことは無い。 ・熊穴林道から尾根道(福島県との県境尾根)に入ると山頂まで土塁が築かれている。 ・三鈷室山山頂からは道標は無い。林道を 10 分ほど下り熊穴林道の終点を右に見てその対面の登山道に入る。それから 3 度林道を横切るが次の取りつきは大体対面近くに在る。 ・妙見山へは植林の中の急登を山頂めがけて登る。 ・下山の岡見林道は時折車も通る舗装路。
参加者	L 大畠　SL 田村　高橋芳　千葉 矢野貞　本田　村越　北田　小林安 小島徹（男２名　女８名　計10名）

概　念　図



三鈷室山にて



ツルリンドウ



＜１１８８＞ 25 周年記念山行

筑　波　山
(877m)

郷田　進

25 周年に感謝しつつ
つくば古道から筑波山を目指す

岳人あびこ創立 25 周年記念山行として茨城の山に登るシリーズ 15 回の一つである。筑波山は、会員のほとんどが日頃からトレーニングや仲間とのハイキングなど馴染みの山である。日本百名山の一つとして日本中から多くの登山者が訪れる山でもあり、25 周年記念山行（茨城の山を登る）に、はずせない山でもある。

今回は、記念山行を踏まえて、つくば古道（筑波山神社への参道）から神社でのお参り、そして一般周回ハイキングコース（白雲橋～御幸ヶ原コース）の経路とし、山頂でお汁粉サービスを準備した。参加者は、郷田、小山、室崎夫婦の 4 名である。

朝 7 時我孫子駅に集合し、マイカーで通いなれた道でつくばに向かう。紅葉シーズンの週末、道路や駐車場混雑をかわし、つくば古道途中のパーキングに IN、お揃いの記念 T シャツで記念撮影後、つくば古道を歩き始める。途中古い郵便局や宿場などあり昔をしのばせる参拝道である。筑波山神社で 25 周年の安全登山に感謝するとともに今後の安全登山をお祈りする。登りの白雲橋コース（約 2 時間）は、つくば市の眺めの他各種の名石や巨木が楽しめる観光ルートでもある。途中の弁慶茶屋跡の広場でつくば市の街並みや紅葉を愛でる。

ここから、つつじヶ丘からのルートと合流することもあり、多くの観光客で大混雑の状況であった。女体山山頂に近づき岩場が続き、渋滞を余儀なくされる。コロナの影響か、各神社や山頂では、参拝者が（間隔をとり）規則正しく（マスクをつけ？）行列待ちの状況であった。御幸ヶ原で昼食休憩をとり、デザートにお汁粉をつくり、皆で味わう。

これまで見かけなかったバーナーエリアがあり、各グループいろいろな調理を楽しんでいた。山頂での皆で行う調理も山の楽しみの一つである。ゆっくり休憩後、御幸ヶ原コース（約 90 分）を下山する。安全登山を祈願したばかりなので、転倒等に十分気をつけながら下山する。

この 25 年間多くの会員が体力錬成と登山技術を磨くためこの山を訪れたことであろう。本当に 25 年の感謝を込めての筑波山山行であり、「25 周年を祝う」目的は、十分達せられたものと思う。

概　要

山 名	筑波山		
月 日	2021 年 11 月 6 日(土)		
山 域	茨城南部		
形 式	日帰り	グレード	1 A
目 的	① 25 周年記念山行 ② 日本百名山と紅葉を楽しむ		
費 用	1,000 円	交通機関	自家用車
行 程	我孫子駅前 6:47→一般道（R6 他）→つくば市→つくば道（６丁目鳥居～）7:51/8:05⇒筑波山神社 8:40/55⇒（白雲橋コース）⇒弁慶茶屋跡 10:25⇒女体山 11:15⇒御幸ケ原 11:27/12:35⇒（御幸ケ原コース）男女川 13:07⇒筑波山神社 14:00→駐車場 14:40→我孫子駅 16:40 〈歩行時間 4 時間 30 分〉		
ルート状況	・（登り：白雲橋コース）よく整備されたハイキングコースである。岩や木の根が多数あり注意が必要。 ・（下り：御幸ケ原コース）危険箇所もないよく整備されたハイキングコース。ケーブルカーと並走、途中休憩ベンチあり。		
参加者	L 郷田 小山 室崎 室崎育美（ゲスト） （男２名　女２名　計４名）		



25 周年を祝う 御幸ヶ原にて



つくば道を歩く



登山道は大変な賑わい
（山頂や神社は渋滞の状況）

概　念　図



＜１１８９＞ 25周年記念山行

竪破山～土岳

（658m）（599m）

大平　太計夫

秋晴れの竪破（たつわれ）山～土岳

岳人あびこの２５周年記念山行実行委員会で茨城県の山々を手分けして登ろうと決まり、私は登山経験がある茨城県自然百選でもある竪破山と土岳を担当しました。

竪破山（たつわれやま）は関東百名山で土岳は麓の花貫渓谷が有名ですが、参加者には殆ど登られていない山でした。定例集会の募集で１７名の申込があり、その後追加で３名。更に１名から申込がありましたが、レンタカーの定員超過で断念してもらいました。

JR の割安切符で週末のみ利用できる「ときわ路パス」（茨城県下フリー1670 円）を全員が購入し、レンタカーを借用しての山行でしたので経費は少なく済みました。

日立駅前のニッポンレンタカーで５人乗り４台を借用し、５名ずつ乗車しました。

秋晴れの下、交代で運転して竪破山に向かいます。日立市内は車が多かったですが県道６０号線に入ると行逢う車はまばらで、人家も無くゴルフ場が２か所の寂しい道でした。「竪破山入口」の標識を右折して黒坂林道に入ると途中からダートになりました。登山口の二の鳥居に先着者は１台のみでトイレもあります。身支度を整えて緩やかな道を歩き出すと、随所に巨岩がありそれぞれに名前が付いています。源義家が名刀で切断したとの太刀割石は山名の由来でもあり、ひときわ大きくこの前で記念写真を撮りました。古めかしい黒前神社を経由して頂上です。展望塔に登ると山また山のパノラマ風景が見えました。ゆっくり下山すると家族連れ等、何人かとすれ違いました。

下山後の花貫渓谷への米平林道はあまり通行されていなくて雑草をかき分ける狭い道で何か所か車底がこすれる悪路でした。

花貫渓谷の駐車場は今日から始まった紅葉まつりでほぼ満車状態。

花貫川沿いを色付き始めた紅葉を愛でながら小滝沢登山口へ歩き、昼食にしました。

土岳へはかなり急な一本道をジグサグに登り、

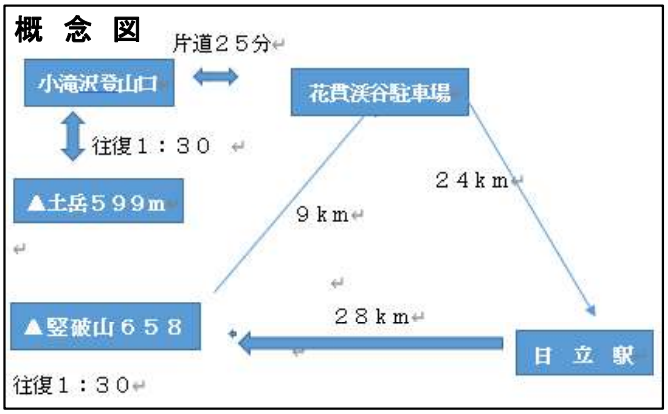
露岩帯もあり歩き辛く結構きつかったです。
山頂は広く芝生が敷いてあり中央に立派な展望台があり、四囲が見渡せました。
下山後、ガソリンスタンド経由で日立駅前に戻り、レンタカーを返却してからコロナ禍が落ち着いているので久し振りに反省会を蕎麦店で開催しました。

概　要

山　名	堅破山～土岳		
月　日	2021 年 11 月 6 日(土)		
山　域	阿武隈山地		
形　式	日帰り	グレード	２Ｂ
目　的	山岳霊場の堅破山と好展望の土岳に登り、紅葉の花貫渓谷を散策する		
費　用	4,000 円	交通機関	ＪＲ　ﾚﾝﾀｶｰ
行　程	我孫子 5:43→水戸 6:58/7:03→日立 7:34（レンタカー借用）8:10→二の鳥居 8:55/9:05⇒太刀割石 9:55/10:05⇒堅破山 10:20/30 ⇒二の鳥居 11:05/11:10→花貫駐車場 11:40/50⇒花貫渓谷⇒小滝沢登山口 12:15（昼食）12:40⇒土岳 13:45/14:00⇒小滝沢登山口 15:00/10 ⇒花貫駐車場 15:30/35→日立駅 16:20（反省会）17:54→勝田駅 18:24/32→我孫子 20:05 〈歩行時間 4 時間 5 分〉		

ルート状況	・二山共バスが通わない奥深い山域ですが、茨城県自然百選で豊かな自然が残っています。 ・堅破山（たつわれやま）は県道６０号線からの黒坂林道が途中からダート。特に下山後花貫渓谷への道は雑草をかき分ける狭い道で車底を擦る程の悪路でした。 ・堅破山の登山道は傾斜平易で脚力弱い子供連れでも歩けます。 ・花貫渓谷は６日から紅葉まつりで駐車場は満席状態で多くの行楽客で賑わっていました。 ・土岳の登山道は一本道で迷う心配はありませんが傾斜がきつい登りです。
参加者	L 大平　SL 森岡　SL 本田　SL 外崎 SL 矢野貞　秋山　佐藤清　小島徹 大賀　石塚　中村育　高橋芳　飯塚 吉川　田嶋 川村　新谷　桐生 高橋富(会友)　渡辺清(会友) （男５名 女15名　計20名）

概　念　図



太刀割石の前で



見事な太刀割石



＜１１９０＞ 25 周年記念山行

男体山～白木山～高崎山
（653m） （616m） （594m）

高橋　英雄
大山　冬臣

我孫子駅北口に 5 時 30 分集合、45 分頃出発した。常磐道を那珂インターで降り、349 号から 33 号線に入り、くねくねとした山道を登り持方駐車場に到着。リーダーの挨拶、各割当て分担の説明後登山開始した。山道は落葉が一杯、前の日雨が降ったせいで濡れている。沢を渡り、綺麗な紅葉の岩場を登り始めて中間程で２名が蜂に刺された。簡易手当後、再び登り始めると 20 分程で頂上に到着、頂上には２組登山者がいた。

集合写真を撮り 5、6 分滞在して下山開始。

今度は急斜の下り、足場が濡れている。みごとな紅葉を見ながら下り、中程辺りで小生のナップザックの肩掛けが木にひっかかり ２～３ｍ位転落したが、落ち葉が沢山あった為に何事もなくほっとした。リーダーには心配をかけて申し訳なく思っています。綺麗な紅葉に見送られてきつい下りを無事に下山。ほっとした。暖かい日差しのなか、昼ご飯はとても美味しかった。食後に登った白木山は登り、下りとも小生にとって地獄であった。　（高橋 英雄）

前日まで雨模様であったが当日の天気予報は「晴！」。私は大畠 SL の車に乗せて戴くことになり、漸く明るくなり始めた我孫子駅北口を出発した。茨城県が地元の大畠 SL は周辺の地理に詳しいだけでなく道路事情にも明るく、平日なのに今日は渋滞気味と案じていた。晩秋は日が短いので少しでも行動時間を長く確保したい思いが良く理解できた。

この奥久慈男体山は、数年前に村越さんがＬで男体山だけに絞った大型バスチャーター山行に参加したがかなりキツかった想い出があったので、半年ほど体調不良で病院通いが続き漸く登れそうな按配に回復してきたがそれでも心配だった。

貞子Ｌからコースの説明を聞き、最悪の場合は男体山だけ登って駐車場で待機できることを告げられて安心して参加出来た。

Net の地図を拡大して何度も標高差をチェックしたが想像していたよりもアップダウンが厳しかったが素晴らしい晩秋の紅葉に助けられて奥久慈男体山を登り切ることが出来、ホッとした。男体山は殆どが雑木林に覆われているので楓類が多く、紅葉が絶妙のタイミングで素晴らしかった！！

林道に降りて臨時駐車場スペースになりそうな広場で昼食。確り腹拵えをして次の白木山 616.2m に備える。登山道入口は広場から 50ｍほど左手に行った所から始まった。林道で切られると別の山を登る感覚になってしまうが縦走と云っても良い感覚だ。トップを歩く貞子Ｌが抑えて呉れているのが判るペース配分で辛うじて私もついて行けているのが有難い。

登り始めてビックリ！急坂の連続！ガンガン急坂を登るのみ。樹林越しに後に見えている奥久慈男体山にあれよあれよと云う間に高さが並びそうな勢いだ！時々呼吸を整えて必死に先行の皆さんについて行く。時々大畠 SL が振り返って「大丈夫？」と声をかけて呉れる。このひと声が有難い。元気を取り戻す。岩場とロープが現れ、慎重に一歩一歩登った。

漸く急登が終わった。直ぐに狭い山頂だった。地図をマジマジと眺め、急坂の連続が理解できた。

記念写真を撮って下山開始。これ又、急坂の連続でガンガン降りる。それでも登りと違っていくらか余裕があって素晴らしい雑木林の紅葉を楽しむことが出来た。苦手なアップダウンがいくつか私達を歓迎してくれて再び急坂になり其の儘、林道に飛び出した。英さんが急な下り坂で滑って一回転してしまったが直ぐに立ち上がって笑っていた。念の為に大畠 SL が付き添って駐車場へ下山した。



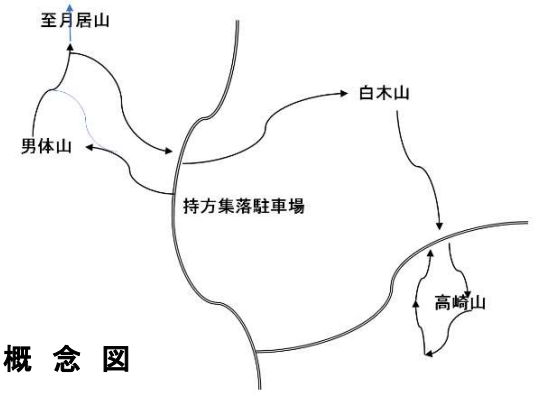
本日最後の関門・高崎山 594.3m へ林道を左手に行く。100m ほど行くと高崎山登山口が現れた。これが又、急坂の連続だった！登山道の左斜面は伐採林で開け、展望が良い。右手は見事な雑木林だ。急坂が一段落して尾根沿いに展望を愉しみながら高度を稼ぐ。振り返ると男体山、白木山が離

れてはいるが背比べしているように並んでいた。アッという間に山頂だった。高崎山は白木山と標高差で 22m 位しか違わないのに随分と低い感じがした。登山口の標高が高いのかな？下りは最初の内は急坂が続いたが直ぐに尾根を巻く感じの緩やかな径になって呉れた。日本の里百選持方集落が樹幹越しに見え始めると直ぐに林道に出た。

（大山　冬臣）

概　要

山　名	男体山～白木山～高崎山		
月　日	2021 年 11 月 10 日(水)		
山　域	茨城県		
形　式	日帰り	**グレード**	2B
目　的	25 周年を祝い記念山行を楽しむ		
費　用	3,000 円	**交通機関**	自家用車 2 台
行　程	我孫子 5:40→常陸太田道の駅→持方集落駐車場 8:15/30⇒蜂に刺される 9:00/15⇒男体山 9:30/45⇒分岐 11:05⇒白木山登山口 11:50/12:10（昼食）⇒白木山 12:45⇒恋人峠 13:00⇒高崎山 13:53/14:05⇒駐車場 14:40→那珂インター→我孫子 18:00 〈歩行時間 5 時間 15 分〉		
ルート状　況	・持方駐車場にはトイレがある。 ・男体山、白木山への標識はあるが、高崎山からの下山には標識は無い。 ・男体山へのルートで沢を渡り5分程登ったあたりでスズメバチがいた。2人刺された。 ・白木山へは一旦道路に下山。登山口から30m ほど急登、杉林を少し行くと急登で太ロープが頂上まで張られている。頂上付近は岩場。 ・高崎山は道路を横切り、はっきりしない登山道を登る		
参加者	L 矢野貞　SL 大畠　千葉　高橋英 田村　大山　本田　中村育　佐藤健 石塚　秋山　大賀 （男４名　女８名　計12名）		



概　念　図

＜１１９１＞ 25 周年記念山行

花園山奥の院峰・栄蔵室（693m）　（882m）～花園山・和尚山（798m）（804m）

外崎　蓮

七ツ滝～花園神社奥の院峰

２５周年記念山行の企画の中で唯一のテント山行に 11 人が参加した。我孫子駅から電車組とマイカー組に分かれて出発し、北茨城市の花園神社下の駐車場で合流する。花園の命名の由来は、県の天然記念物に指定されているアズマシャクナゲによるものとか。本日の行程は、花園山の南麓に鎮座する花園神社を起点に 693m の奥の院峰まで登り、ぐるりと一巡りする。

神社を右手に見ながら林道を進み、石の鳥居をくぐる。七ツ滝から流れ落ちてくる小さな沢を渡ると、いきなり古びた急な石段が出てきた。右手が切れ落ちていて底を沢が流れている。

登り終えてホッとする間もなく、今度は縦横に張り出した根っこに足をのせ、根っこをつかんでは一歩一歩身体を持ち上げていく。登り詰めた奥の院峰は猫の額ほどしかなく、小さな石の祠・奥之宮が祀られてあった。日の当たるわずかな草むらに腰を下ろして昼食にした。

下りは奥の院峰の横から笹をかき分け、月山社、男体社、女体社の祠の前を進む。坂道を下って行くと沢が現れた。沢沿いの滑りやすい急斜面にはロープが張られてあって慎重に下る。あっという間に林道に出て、わずかの距離でスタート地点に戻った。1 時間 40 分で一周したことになる。

スリル満点の楽しいひと時を過ごし、今晩のテント場である花園オートキャンプ場に向かった。コロナの関係でテントは一人一張りと決められ、メンバーは割り当てられた場所に自分用のテントを設営した。そこに各自のザックを収納し、車で花園渓谷の紅葉を見に行く。もう終わったのだろうか、全くの期待外れであった。ついでに明日の登山口と車を置く場所を確認してテント場に戻った。

芝生のテント場では直に焚火が禁じられている。そこで白崎さん所有の焚火セットをお借りすることにした。近くの林から焚き付けにする小枝を拾ってきて盛大に薪をくべる。さらに鉄製の三脚を組み立てて、焚火の上に大鍋を吊るした。そこへ牛肉と里芋をふんだんに入れ、熱々の芋煮が完成。皆はアルコールを口にしながら何杯もお



栄蔵室山頂にて

▼芋煮



代わりし、寒空の下で 25 周年を祝った。

栄蔵室～花園山～和尚山

朝の挨拶の第一声「昨夜は超寒かったねー」。やはりテントはくっついて寝るのがいいようである。朝食後テントをたたみ、ゴミの後始末をして早めに登山口へ向かった。空き地一番乗りである。

標識に沿って湿地帯に分け入り、栄蔵室を目指す。昔、栄蔵という漁師が小屋（室）がけをして獲物を追っていたことからつけられた名だという。2 万 5 千図に登山道の記載はないが、細々とした道がしっかりとついていた。

小川を何度も渡り返し、湿地帯を抜け出すと作業小屋が現れた。栄蔵さんの小屋にしては立派だ。間もなく左に折れ、藪をかき分けて栄蔵室の登山口にたどり着く。半分ほど登ると、小さな展望台が出てきて、ここで一休みする。空の色に同化したような富士山をやっと見つけることが出来た。そこから僅かな登りで栄蔵室に到着。山頂は木々に覆われていてただでさえ寒い。25 周年記念のＴシャツ姿で写真に納まるのも勇気がいる。

早々に退散し、東側に向かって坂道を下るとＴ字路に出た。花園山は右手へ。笹の刈り払いはここまでで、花園山方面は細々とした道に変わった。沢沿いになだらかに下っていく。やがて眼前に山が立ちはだかってきて、笹や木の枝を払いよけながら一登りで稜線へ。左手に僅かに進んで 798m の花園山に着いた。こちらは良く日が当たり、ぽかぽかとして気持ちがいい。

だが、あと一山が残っている。いったん分岐に戻り、今度は直進して南登山口に出た。車道を少し歩き、再び車で 20 分ほど移動して和尚山に向かう。三山とも福島県との県境付近にあり、交通が不便でマイカーが頼りの山だ。和尚山の大きな看板の前で車を降りて、本日三つ目の山に登る。この山は極めて短時間で登れるので、リーダーはおまけとして楽しい山を用意してくれたのかも知れない。頂上直下の 50mの急登を頑張ると、もう和尚山である。よく日の当たる平坦な草むらでゆっくりと昼食を食べ、集合写真を撮って下山する。看板の前でリーダーが解散を宣言。マイカー組と電車組はまた別れて帰路に就いた。

概　念　図



概　要

山 名	花園山奥の院峰・栄蔵室～花園山・和尚山
月 日	2021 年 11 月 12 日(金)～13 日（土）
山 域	北茨城

形 式	テント泊	グレード	1B
目 的	茨城県の山を歩く　　紅葉観賞		
費 用	10,000 円	交通機関	・ＪＲ レンタカー ・自家用車
日 程	**1 日目** （レンタカー）　我孫子 6:26→日立 8:31（レンタカー借入）→日立北 IC→北茨城 IC→花園神社駐車場 10:15 （自家用車）　我孫子駅 7:30→北茨城 IC→花園神社駐車場 10:00/10:15（レンタカー組と合流） 花園神社駐車場 10:40⇒七ツ滝入り口 11:00⇒奥の院峰 11:25/50⇒柳沢林道 12:30⇒七ツ滝入り口⇒花園神社駐車場 12:55⇒花園オートキャンプ場 13:00（受付・テント設営）/14:20→花園渓谷紅葉観賞→花園オートキャンプ場 15:10 〈歩行時間（奥の院峰）2 時間 15 分〉 **2 日目** 花園オートキャンプ場 7:20→北登山口 7:40⇒作業小屋 8:15/20⇒栄蔵室展望台 8:50/9:00⇒栄蔵室 9:05⇒花園山分岐 9:35⇒花園山 10:05/25⇒花園山分岐 10:55/11:00⇒南登山口 11:20⇒北登山口 11:22→和尚山登山口 11:40⇒和尚山 12:05/30⇒和尚山登山口 12:50　（解散） （レンタカー）　和尚山登山口→日立北 IC→日立駅（レンタカー返却・反省会）/16：11→勝田（乗換）16:48→我孫子 18:34 （自家用車）和尚山登山口→北茨城 IC→我孫子 16:20 〈歩行時間（栄蔵室～花園山） 3 時間 40 分（和尚山）1 時間 10 分〉		
ルート 状 況	・花園山奥の院峰は短いながらも急登。むき出しの木の根が良い手がかりとなり登りやすい。 ・栄蔵室、花園山へは小川の流れを何度となく横切る。丸太の橋は朽ちかけている物も多く石伝いの徒渉も多いが川は浅く危険はない。 ・和尚山の登山路は快適だが頂上直下の急登にあえぐ。		
参加者	L 武内 SL 白崎 大平 北田 郷田 細谷 矢野朝 外崎 新谷 小林安 布能　　（男７名 女４名 計11名）		

＜１１９２＞25 周年記念山行

加波山～足尾山～きのこ山
（709m）　（628m）　（528m）

北角　順子

紅葉が青空に映え

雲一つない秋晴れの中、初めて登る加波山（加波山信仰の山）からきのこ山への縦走。加波山３合目の駐車場から一班・二班に別れ、二班から先に出発する。20 分程コンクリートの道を歩くと、5 合目の加波山登山口の標識が見えてくる。歩きやすい樹林帯の道を行くと、稜線近くなったのか、薄暗い杉林から日が差し込み気持ちいい。少し歩くと加波山神社に着き、休憩がてら、煌びやかな装飾の作りと、天狗のお面に見入っていました。次は加波山に向かって出発。石碑が立ち並ぶ横を通り、たばこ神社、中宮本殿、左に燕山を見て本宮御本殿到着、ここが頂上です。巨石が祀ってあるようなので調べてみると、ご神体ではないかと書いてありました。下っていくと、旗立石の石碑が大きな岩の上に鎮座している。1884 年明治政府の転覆を図り失敗した事件の話を聞き、沢山の人と登っていると、色々な話が聞けると思いながら下っている途中、誰かの声で上を見ると、青空にもみじの緑、黄色、赤のグラデーション、綺麗でした。下り終えると林道に出る。又、ここにも自由と魁の碑、ここで一班を待ちながら休憩をする。

10 時 7 分電力風車の横から丸山を迂回し、足尾山に向かって出発。一本杉峠を横切り登山道に入って行くのだが落ち葉が登山道を覆い、道が判別しにくいなか、先頭リーダーは黙々と歩いていく。素晴らしい、よく道がわかるものだと感心しながらついて行くと、迷うことなく足尾山頂上へ。石垣を左から回り込むと裏筑波山、その横に薄っすらと雪を被った富士山も見える。富士山が見えると、ちょっと得した気分になるのは私だけだろうか？

11 時 5 分山頂の足尾神社奥の院到着。こちらで昼食。コロナの為にきのこ汁がフリーズドライの汁に変わりましたが、筑波山を見ながらの食事は最高でした。記念撮影も終わり 11 時 50 分に出発する。参道を下ると足尾神社があり（足の病を治す神様です）、少し下ると林道に出る。30 分ほど林道を歩く途中に、パラグライダーの出発場が数か所あり、ライダーの方は風が強いなか、順番に飛び出し、気持ち良さそうに大空を飛んでいる。

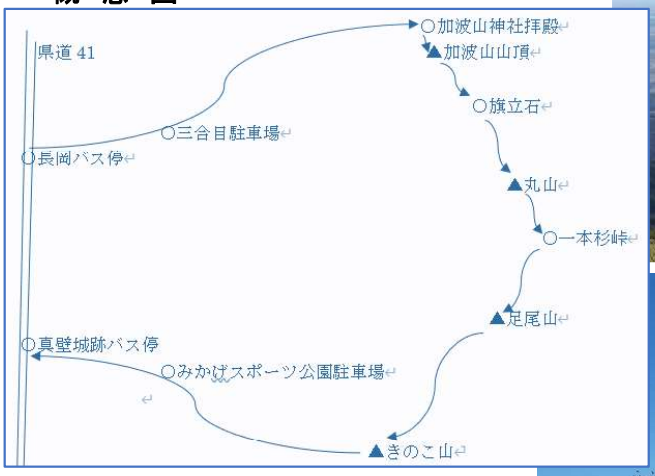
きのこ山は林道から 5m 上がった所、え！ここが山頂？と思わず聞き返す。ここが山頂だろうと返事が返ってきた。
下山の途中につぼろ台に寄り、最後に加波山を堪能し、全員無事下山し、楽しい山行でした。

概　要

山　名	加波山～足尾山～きのこ山		
月　日	2021 年 11 月 13 日(土)		
山　域	筑波		
形　式	日帰り	グレード	２Ａ
目　的	25 周年を祝い記念山行を楽しむ		
費　用	2,000 円	交通機関	マイカー４台
行　程	我孫子駅（北口公園前）5:40→加波山３合目駐車場 7:15/30⇒5 合目 8:00⇒7 合目山椒魚谷 8:20⇒加波山神社 8:45⇒加波山 9:10⇒旗立石 9:25⇒「自由の櫂」碑 9:50⇒風車 10:05⇒一本杉峠 10:25⇒足尾山山頂 11:15/45⇒きのこ山 12:40⇒パラグライダー離陸場 12:45⇒つぼろ台展望台 13:20⇒みかげスポーツ公園駐車場 14:00/45(解散) 〈歩行時間 5 時間 20 分〉		

ルート 状　況	・加波山３合目駐車場に 5，6 台駐車できる。下山口のみかげスポーツ公園駐車場は広い。 ・3 合目からの親宮路は急登の舗装路、5 合目で登山道に入る。 ・加波山神社親宮から先は社や祠が次々に現れる禅定道。全国的に珍しいきせる神社がある。 ・加波山から足尾山までの登山道は舗装路の北筑波稜線林道に何度も寸断されている。寸断された林道から登山道に入る標識はあまりない。事前調べが必要。 ・足尾神社下からきのこ山までは約 40 分の林道歩き。 ・林道からきのこ山への標識は「休憩所」になっている。
参加者	CL 大畠　SL 田村　矢野貞　本田 中村育　村越　石塚　田嶋　蟹江 松下　深草　一氏　吉川　小島洋　北角 大賀　（女14名　男2名　計16名）

概　念　図





きのこ山の下、パラグライダー飛び立つ（写真上）



足尾山山頂にて

＜１１９３＞ 25 周年記念山行

上山湯沢峡～篭岩山～篭岩
(501m)

佐藤　健一

筑波山や宝篋山を除けば、茨城県の山に登るのは前週の白木山に続いて十数年ぶり。下調べも不十分なまま、上山湯沢峡～篭岩山～篭岩の山行について行った。しかもメンバーが当会きっての強者揃いとは知らなかった。「1C」だけを頼りにしたのは迂闊すぎると言わざるを得ない。
時期ならぬ赤いつつじが咲き乱れる駐車場には先着の車が 2､3 台停まっていた。身支度を整え、今来たばかりの舗装道路を下って、一軒の民家の右脇から山道に入った。10 分も歩かず立派な鳥居の建つ不動滝に出る。高さは 20 メートル位か、水もそれなりに流れていて立派な滝である。
しかし湯沢沿いに遡行せず、右岸を巻き始めた。高度差 200 メートル以上、急峻な崖をかなりの時間をかけて登った。所々に目を見張らせるもみじ主体の紅葉があったが、余りの急登で味わう余裕もない。漸く開けた台地上に出て、茨城の山を舐めていた自分を叱る。
釜沢越えに向かって登山道を示す破線の無い道を Leader の後を追って行った。そこでこの山行で初めてメンバー以外の Stranger に出会う。年のころは 60 過ぎ、いかにも茨城県人風の山人(やまや)で、親切且つこの辺の山の事情にとても詳しい。コース情報はもとより、花の場所、旬の時期等々、おそらく私達の 7 つ位の質問に対し１０以上の回答があり、自然と一緒に進むことになった。おかげで紅葉スポット情報も飽きるほど教えてもらう。
篭岩山の手前、茨城の大キレット(と呼ばれているらしい)が 2 カ所続いた。ようやく 1 つが終わって息を付いていたら、次はほゞ垂直に立ち上がる 10 メートルを超える断崖で、太い藤ヅルの根が、鎖やロープと共に垂れて下がっていた。自分の全体重をそれらに預けてしまう危険をなるべく避けながら登ったが、Leader 曰く、かの茨城の案内人は苦しそうだったと評していた。
やがてゴツゴツした岩の露出した展望が効く場所で案内人は煙草を吸い始め、私たちは休まず篭岩の展望台に出、アルミの梯子が掛かった、篭岩の洞窟を下から見上げた。T さん一人だけ身軽に梯子を上って行ったが、16 羅漢像を見れたかどうかは確認していない。
水戸市在住 66 歳の朴訥として逞しいやまやさん（ヤマレコで haretara さんで参照）は MAZDA の青の ROADSTER でオープンカーにして帰ると言っていた。出会いも良かったが、茨城県大子町湯沢峡の紅葉に感嘆させられ、大キレットにも驚かされ、低山ながらその山波の見事さに圧倒された一日だった。Leader に深く謝意を捧げる。

概　要

山 名	上山湯沢峡～篭岩山～篭岩		
月 日	2021 年 11 月 23 日(火)		
山 域	茨城県		
形 式	日帰り	グレード	１C
目 的	25 周年を祝い記念山行を楽しむ		



←篭岩山山頂

▼篭岩キレット

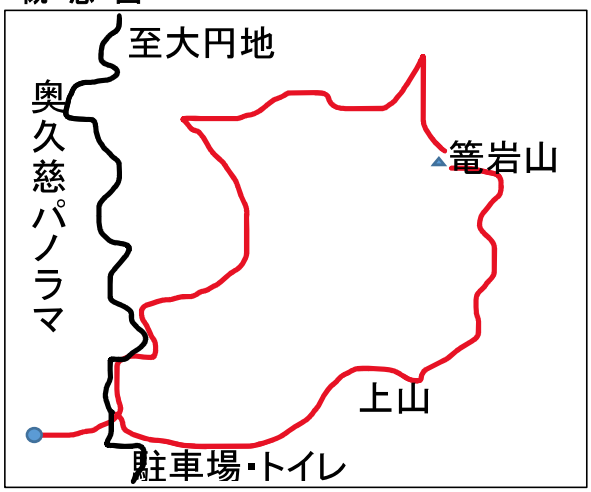


費　用	2,500 円	交通機関	自家用車１台
行　程	我孫子 5:30→常陸大宮道の駅→つつじが丘駐車場 7:45/52⇒佐中登山口 8:15⇒不動の滝⇒国体コース⇒釜沢越 9:52⇒篭岩 10:17/33⇒篭岩展望台 11:35⇒篭岩 11:40/50⇒展望台東屋 11:50/12:10⇒駐車場 12:47/13:15→常陸大宮道の駅→我孫子 16:40 〈歩行時間 3 時間 55 分〉		
ルート状　況	・つつじが丘駐車場にはトイレがある。 ・国体コースは急登である。 ・釜沢越からは沢沿い。沢を上り、篭岩山の取りつきに着く。 ・篭岩山から展望台へは鎖、ロープを頼りにしなければ歩けないほど急俊である。 ・茨城のキレットは15M ほどの直立した岩場、真ん中にある木をどうまたぐのかがポイント。		
参加者	L 矢野貞　SL 千葉　小林安　田村 佐藤健（男１名　女４名　計５名）		

→奇岩篭岩



概　念　図



＜１１９４＞ 25 周年記念山行

仏頂山 ～ 高峯
（431m）　（520m）

佐藤　清宏

紅葉の里山、文化財

取手駅で、集合場所とした取手発 6 時 43 分水戸行き２号車内に乗り込んだ。が、参加メンバーがそろっていない。やがて、T さんがやってきて「皆さん、前から２両目だと思っていますよ」

普段、奥多摩や丹沢に行く時は上り電車なので前から２両目が２号車。今回は下り電車。乗換の友部駅で全員が合流した。

笠間駅前から、関東ふれあいの道の起点の片庭へタクシーで移動する。コロナ禍でタクシーは一度に２台しか利用できず、ピストン輸送になった。信号待ちなどで１台毎の料金が違った。（2000～2180 円）

下車後は楞厳（りょうごん）寺山門へ。鎌倉時代に造られた茅葺の山門で、国重要文化財に指定されている。お寺からはだいぶ離れて立っている。楞厳寺境内には苔むした階段を上がる。７月には本堂の裏山でヒメハルゼミが鳴くという。ここが生息の北限だ。

いよいよ仏頂山へ。A・B・C 班の順で進む。下見の時は「自然林を歩くみち」でうす暗かったが晩秋の落葉で隙間ができて明るい。上を見上げるとコナラの黄葉の間から青空が見えた。ウリハダカエデの紅葉とミヤマシキミの緑葉と赤い実も目を楽しませてくれる。急勾配 54%（約 28°）の標識をみて、頂上直下の階段に挑む。230 段、上れば上るほど急になる。各自のペースで登り、息が上がったところで頂上。細い木に小さい標識が括り付けられていて多くの人は見失った。

ベンチのあるところで、集合写真１枚目を撮る。下りも長い階段。アップダウンをくり返し、桃太郎石をみて、奈良駄峠に到着。また、急な階段を上る。

高峯に向かう途中で、急に黒雲が頭上を覆い、突然雨が降り出した。白いものが混じっている。霙か？3～4 分で降りやんだ。前を歩いていた班は、虹を見たという。冬型気圧配置で北風による天候の急変だった。高峯手前の急な階段を上り終えて、先頭をリーダーに譲っていただいた。高峯頂上で皆さんと肘タッチ。集合写真２枚目を撮る。

12 時をとっくに過ぎていたが、「あと３分」とみんなをパラグライダー離陸場に導いた。南面に開かれた草地で、目の前に雨引山・加波山・筑波



楞厳寺山門

山、吾国山・難台山、遠くにスカイツリー、さらに右手奥に富士山が一望だった。ここでゆっくりと昼食とする。

高峯頂上の手前に戻り、小さい下山口の標識から、ピンクテープを頼りに下山を始める。国土地理院の地図にはなく、『分県登山ガイド茨城県の山』には載っている。落葉の積もった急坂を恐る恐る慎重に下った。カサコソと落葉を踏む音が心地いい。

五大力堂からは班ごとではなく、フリーでおしゃべりしながら舗装路を歩いた。時々後ろを振り返り、高峯の紅葉を愛でる。春はヤマザクラできれいだろうな。

月山寺到着。ここで解散とする。ここの美術館に五大力堂にあった木造五大力菩薩像が県有形文化財に指定されて展示されている。お庭もきれいにしてあり、自由に見学した。

月山寺から羽黒駅に向かう。途中の地元野菜売り場で、みかん・柚・こんにゃく・野菜などを買い込む人々も。朝のザックより帰りのザックが重くなったのでは……。

晩秋のときわ路にて紅葉の里山と文化財を巡る印象深い山行となった。

概　要

山　名	仏頂山～高峯		
月　日	2021 年 11 月 27 日(土)		
山　域	茨城西部		
形　式	日帰り	**グレード**	2A
目　的	関東ふれあいの道を歩く		
費　用	2,660 円	**交通機関**	JR タクシー
行　程	柏 6：32→我孫子 6：36→取手 6：43→友部 7:43/52→笠間 8:00 笠間駅前より片庭へ、タクシーでピストン輸送→楞厳寺山門 9:05⇒楞厳寺 9:15/25⇒仏頂山 10:20/35⇒奈良駄峠 11:25/30⇒高峯 12:20⇒パラグライダー離陸場 12:30/55⇒五大力堂 13:45/50⇒月山寺 14:45⇒羽黒 15:49→友部 16:14/20→我孫子 17:31　〈歩行時間　4時間 50 分〉		
ルート状況	・関東ふれあいの道「自然林を歩くみち」で、案内の標識が随所にあり迷うことはない。 ・アップダウンが多く、急勾配 54%(約 20°)という階段もあった。 ・下山ルートは国土地理院地図に記載はなく、『分県登山ガイド・茨城県の山』にあったルートをとった。 ・下山口の標識は小さく、急坂で、落葉で分かりにくく、ピンクテープをたよりに下山した。		
参加者	L 佐藤清　SL 高橋芳　新谷　大平 小野　小林安　矢野朝　矢野貞 大賀　北田　石塚　田嶋　秋山 蟹江　飯合（会友） （男５名、女10名　計15名）		



仏頂山山頂

＜１１９５＞ 25 周年記念山行

御嶽山～雨引山～燕山～加波山
（230m）（408m）（701m）（708m）

本田　愛子

茨城県の山 15 コースをコロナ感染自粛が 9 月末で解除になったので、10 月からのスタート。
殆どが天候に恵まれ無事に終わり、12 月に入り残り 2 コースになった。
12 月 4 日土曜日　早朝 5 時 47 分我孫子駅から常磐線に参加者 20 名がそれぞれ乗り込んだ。
土曜日で下り線のため混んでいなかったのが良かった。友部駅で水戸線に乗り換えて岩瀬駅に 7:15 に着いた。岩瀬駅は茨城の北西部辺りで早朝は寒く霜が降りていた。
各 6～7 名で 3 班に分かれて列になって歩き始めた。駅から 15 分ほどで御嶽山登山口に来た。オフシーズンで他の登山者がいなかった。登山口に真っ赤なもみじが見えた。今年はもう紅葉は終わっていると予想していたが、御嶽山から最後の加波山まで紅葉を楽しめた。
林の中を緩やかに登っていくと 30 分で御嶽山に着いた。小さい古い神社のお社があって、すぐ横の展望の良い場所から岩瀬の町や向かいの仏頂山から高峰の山々が良く見えた。
先に進んで歩いていると地元らしい人が手ぶらで下りてくる。一人のおばさんに挨拶してお話しを聞くとこの近くの人は毎日散歩に雨引山まで登っているそうだ。
近道を教えてもらい石置き場のひらけた場所に出た。登山道と合流する。少し登って行くと 300 段の長い階段を登り切って雨引山に着いた。裏筑波山と稜線が眺める展望の良い頂上で桜川の市街地や田んぼが見下ろせた。
一休みして燕山へ 2 時間半のロングコース。緩く登山道を下りていくと雨引観音へ下る分岐を通り越し、真っ直ぐに稜線をしばらく下りて行く。かなり下りて登り返し。一本道の樹林帯の中、最後の紅葉が赤と黄色に日差しを浴びて輝いていた。
小さいアップダウンを繰り返し木の長い階段を登ると東側のひらけた展望の良い場所があり、すぐ前に燕山が迫っていた。一休みをして少し行くと燕山への急登の階段が始まりその先には 10m くらい急坂をロープに捕まり登る。最後の階段を登り切ったら燕山の狭い山頂だった。20 名で集合写真を撮って少し下った所で丁度昼食することにした。
時間も順調にきているので、ひと安心して林道を 15 分歩くと加波山神社に着いた。
バスの時間もあるので山頂には寄らず神社から少し戻り、登山道に入り 5 合目まで下った。
5 合目からは急坂の舗装道路を下るのは疲れた足には辛いため、少し下った場所に昔の登山道を下見の時に見つけていた。最近はあまり歩かれていないが、緩い坂で歩きやすく道筋は確りあった。
小さい渡渉を終えると 2 合目辺りの舗装道路に出た。麓の派手な加波山神社を通り越して長岡のバス停に向かった。予定より 30 分も早くバス停に着いた。岳人会員の藤家さんが待っていてくれた。



裏筑波連山からの筑波山



燕山山頂に 20 名

近くに実家があってこの時期、柚子がたくさんなったのを袋に 20 人分を車に積んできてくれた。何よりの嬉しいお土産に感謝。
帰りのヤマザクラＧＯバスからさっきまで歩いてきた山の稜線が夕陽に染まって美しかった。
今回はオフシーズンだったが、桜やツツジの時期は大勢がハイキングに訪れるので、長いロングコースにトイレが無いのが困るので帰宅してから桜川市観光課に要望をお願いした。

概　要

山 名	御嶽山～雨引山～燕山～加波山		
月 日	2022 年 12 月 4 日(土)		
山 域	裏筑波連山		
形 式	日帰り	**グレード**	２Ａ
目 的	25 周年記念山行　茨城の山を登る		
費 用	2,500 円	**交通機関**	JR　バス
行 程	我孫子 5:43(常磐線)→友部→6:43/48(水戸線)→岩瀬駅 7:13/30⇒登山口 7:44/52⇒御嶽山 8:16/25⇒雨引山 9:16/30⇒燕山 12:02/55⇒加波山神社 13:20⇒桜坊 14:33⇒長岡バス停 15:00/29→バス(ヤマザクラＧＯ)→岩瀬駅 16:07/15→友部→我孫子 18:01　〈歩行時間 6 時間半〉		
ルート状 況	・登山口から分岐があり合流するが、右ルートに行くと不動滝を通る。 ・雨引山から燕山まで長い一本道で分岐はあるが、合流するので迷うことはない。燕山への登りが、長い階段と急登（ロープあり）の坂がある。 ・加波山神社からの下山で5合目から長いアスファルトの急坂を下りるが、5合目から少し下った所に山道を見つけた。旧道であまり歩かれていないが道筋は確りあって、歩きやすい。 ・登山口から御嶽山～雨引山～燕山～加波山と長い行程の中で何処もトイレが設置されてない。		
参加者	L 本田　SL 高橋芳　SL 大畠 SL 矢野貞　箕輪完　外崎　桐生 村越　石塚　千葉　小野　小林安 田嶋　一氏　小島徹　蟹江　深草 飯塚　箕輪カ(会友)　高橋富(会友) （男３名　女17名　計20名）		

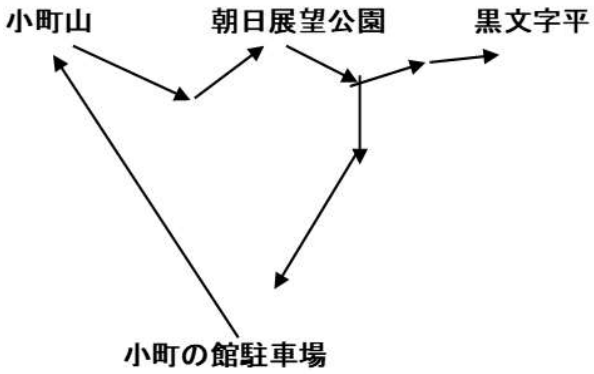
＜１１９６＞ 25 周年記念山行

小町山～朝日展望公園～黒文字平
（361m）　（302m）

富井　容

25 周年記念山行の最後を締めくくる楽しい山行となりました。
晴天に恵まれ、爽やかな朝の日差しを浴びて.小町の館駐車場より 20 名と大人数なので３班に分けてスタート。
小町の館駐車場より沢を横目で見ながら小町山を登る。木漏れ日の中、鳥や風の声、木々の囁きを聞きながら小町山頂に到着。
アップダウンの尾根コースを進み、朝日展望公園展望台に到着して、パラグライダーの羽ばたく姿を見ながら、早い昼食をとりました。
まだまだ紅葉が楽しめる景色を堪能しながら、尾根づたいに剣が峰、雪入山頂に行き、黒文字平に到着して、美しき筑波山を望む。
会話もはずみ、今までの山行の思い出や世間話など大人数ならではの楽しい時間を過ごせました。紅葉の赤い絨毯に導かれて小町の館に戻りました。

概 念 図



概　要

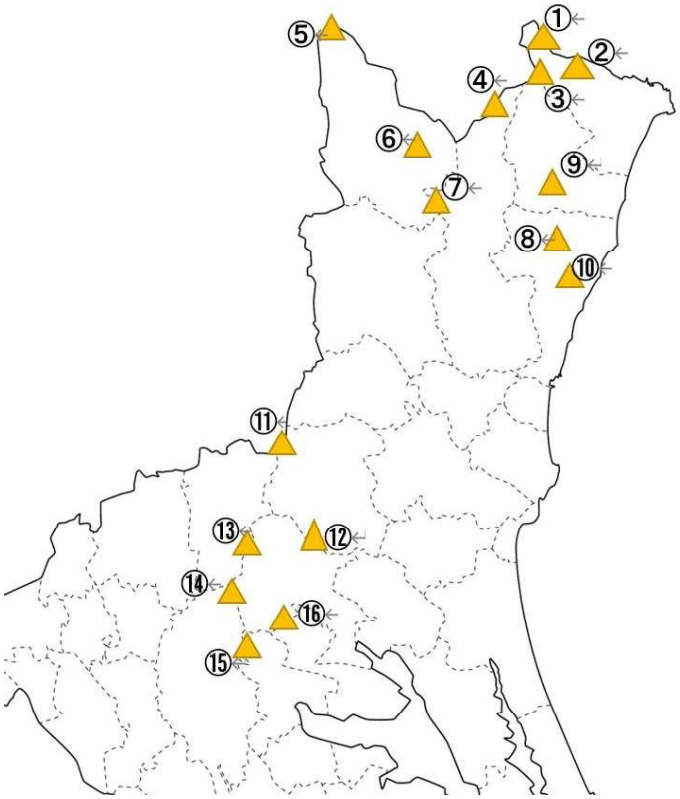
山 名	小町山～朝日展望公園～黒文字平		
月 日	2021 年 12 月 11 日(土)		
山 域	東筑波		
形 式	日帰り	**グレード**	２A
目 的	25 周年記念山行		
費 用	800 円	**交通機関**	自家用車 5 台

行　程	我孫子駅北口公園前 6:15/30→小町の館駐車場 7:30/8:00⇒小町山 9:05/20⇒朝日展望公園展望台 10:15/11:00 昼食休憩⇒雪入山 12:00⇒黒文字平 12:20/35⇒もみじ谷入口 14:00⇒小町の館 15:00 〈歩行時間 5 時間 15 分〉
ルート状　況	・土曜日我孫子駅北口公園前を30分早くスタートしたせいか、道路渋滞なく45分早く小町山駐車場について、30分早く登山をスタートできた。 ・もみじ谷ルートが工事で迂回しなければならなかったが、事前の情報で確認できていた。
参加者	1班　CL 土田　SL 本田　大畠　田嶋　秋山　飯塚　大賀 2班　L 新谷　SL 石塚　桐生　箕輪完　川村　富井　田村 3班　L 高橋芳　SL 蟹江　小島徹　小山　布能　北角 （男 5 名　女15名　計20名）





小町山にて

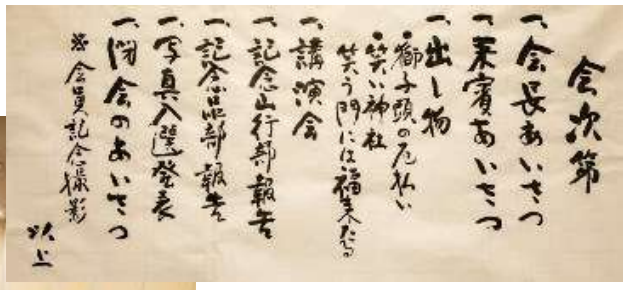


25 周年記念山行　主な山

①和尚山（1191）
②花園山（1191）
③栄蔵室（1191）
④三鈷室山（1186）
⑤八溝山（1182）
⑥生瀬富士（1183）
⑦奥久慈男体山・篭岩山
（1190・1193））
⑧神峰山（1180）
⑨土岳・竪破山（1189）
⑩助川山（1180）
⑪仏頂山（1194）
⑫愛宕山・難台山（1184）
⑬加波山（1192・1195））
⑭筑波山（1188）
⑮宝篋山（1181）
⑯雪入山（1196）

岳人あびこ 25 周年祝賀会　2022/1/10 我孫子市民プラザホールにて

Ⅰ部　会長挨拶　来賓挨拶　祝辞披露





挨拶する高橋会長

出し物　**「笑い神社『笑う門には福来る』」**
「獅子頭の厄払い」

今年の安全と幸福を祈願して
邪気を払ってもらう





「笑い神社」の巫女さんから山行の無事を占い、寿いでもらう新入会員の方たち

Ⅱ部　講演会

演題「日本の山から南極へ」

Ⅲ部
「山行部報告」
「記念品部報告」
「カレンダー入選写真発表」

記念品Ｔシャツマーク



GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN

GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN ABIKO GAKUJIN

資　　料

2021年3月～2023年2月

山行実績

活動の記録

山行実績（2021－2022年度）

No.	山　名	山 域	月日	形 態	グレード	リーダー	参 加 者	会員	一般
2021年度									
1165	棚横手山～甲州高尾山	中央線沿線	3/27	日帰り	1A	郷田進	郷田 中村育 矢野貞 深草 新谷 蟹江 小林安 石塚 秋山 小島徹 土田 矢野朝 小野 佐藤清	14	
1166	神峰山～羽黒山～鞍掛山	常陸	4/4	日帰り	1A	藤家一仁	藤家 大平 外崎 桐生 村越 郷田 小林安 森岡 布能 吉川	10	
1167	筑波山（新リーダー研修）	筑波	4/4	日帰り	1A	矢野貞子	A班 高橋芳 石塚 千葉 矢野朝 B班 大畠 北田 秋山 田嶋 蟹江 C班 矢野貞 本田 土田 小野 小島徹	14	
1168	愛宕山（岩間山）（新人卒業山行）	常陸（八溝山地・筑波山塊）	4/10	日帰り	1A	細谷秀次	細谷 千葉 吉川 外崎 大平	5	
1169	宝篋山～小町山～千代田アルプス	東筑波	4/11	日帰り	2A	大畠清江	A班 大畠 矢野裕 新谷 深草 小島徹 吉川 箕輪力(会友) B班 高橋芳 中村育 北田 田嶋 矢野朝 大賀 飯合(会友) C班 本田 田村 村越 郷田 土田 小野 秋山 D班 矢野貞 齊田 小林安 箕輪完 森岡 蟹江 白崎	26	2
1170	筑波山	筑波	4/15	日帰り	1A	秋山稔	秋山 大畠 大山 田村 高橋芳 大河原 中村育 外崎 土田 石塚 桐生 一氏	12	
1171	地蔵岳～切合小屋	飯豊連峰	5/7-9	避難小屋泊	5D	白崎哲史	白崎 土田 布能	3	
1172	戦場ヶ原	日光	6/2	日帰り	1A	小野泰子	小野 中村育 石塚 蟹江 川村 大河原 成島	7	
1173	白毛門	上信越	6/5	日帰り	2A	小島徹	小島徹 秋山 土田	3	
1174	平標山～仙ノ倉山	谷川岳周辺	6/22	日帰り	2B	高橋芳恵	高橋芳 北田 佐藤清 外崎 深草 小林安 石塚 田村 土田 秋山 新谷 矢野貞 吉川 小島洋 本田 小野	16	
1175	トムラウシ山・後方羊蹄山（蝦夷富士）	北海道	7/8-12	山麓泊	4B	佐藤清宏	佐藤清 小島洋 布能 土田 小林安 北田	6	
1176	焼石岳	焼石神室連峰	7/16-17	山麓泊	2A	北田仁則	北田 桐生 矢野朝 小島徹 石塚 吉川 大河原 北角	8	
1177	苗場山	上信越	7/16-17	小屋泊	2A	村越百々代	村越 田嶋 秋山	3	
1178	蝶ヶ岳～常念岳～槍ヶ岳	北アルプス	7/29-8/1	小屋泊	3C	矢野貞子	矢野貞 田村 大畠	3	
1179	燧ヶ岳	尾瀬	10/6-7	小屋泊	2B	秋山稔	秋山 小林安 小島洋 土田 布能 北角	6	
1185	横尾山・瑞牆山	奥秩父	10/29-31	テント泊	2B	室崎宏治	室崎 郷田 中村育 矢野朝 土田	5	
1187	八十里越え	越後山脈	11/3-5	テント泊・山麓泊	3C	白崎哲史	白崎 北田 小林安 土田 布能 細谷 千葉	7	
1197	岩茸石山～棒ノ折山	奥多摩・奥武蔵	12/18	日帰り	2A	小島徹	小島徹 佐藤清 土田 細谷 布能 吉川 小山 北角 大賀	9	
1198	大仏ハイキングコース 源氏山	湘南、鎌倉	12/18	日帰り	1A	高橋芳恵	高橋芳 飯塚 箕輪完 蟹江	4	
2022年度									
1199	高麗山(新人卒業山行)	神奈川県南部	3/28	日帰り	1A	大賀晶子	大賀 北角 大平 外崎	4	
1200	桜山（新人歓迎山行）	西上州	4/3	日帰り	1A	深草茂美	深草 1班 蟹江 高橋芳 桐生 北田 細谷 福山智 2班 土田 高橋英 大平 本田 大賀 3班 秋山 外崎 矢野裕 小島洋 白崎 佐藤健 小林健 4班 富井 武内 中村育 田嶋 北角 佐藤明 5班 小島徹 箕輪完 森岡 村越 福山幸 6班 小林安 千葉 石塚 小野 矢野朝 中村弘	36	
1201	高松山	丹沢	4/9	日帰り	1A	田嶋まり	田嶋 森岡 高橋芳 矢野裕 佐藤清 土田 飯塚 蟹江 小野 大賀 北田 郷田	12	
1202	高峯山	茨城西部	4/11	日帰り	1A	秋山稔	秋山 矢野貞 本田 齊田 新谷 田嶋 土田 大賀 大山 渡辺清(会友)	9	1
1203	碓氷峠	浅間　軽井沢	4/13	日帰り	1A	矢野朝水	矢野朝 北田 佐藤清 中村育 村越 外崎 室崎 北角 石塚 桐生 蟹江 大賀 室崎育美（ゲスト）	12	1
1204	筑波山（新リーダー研修）	筑波山系	4/27	日帰り	1A	矢野貞子	矢野貞 桐生 本田 田村 石塚 松下 小山 一氏 土田	9	
1205	滝子山（新リーダー研修）	大菩薩山系	5/7	日帰り	2B	矢野貞子	矢野貞 小島徹 田村 土田 小山 細谷	6	
1206	別子銅山東平・奥祖谷	四国	5/11-13	山麓泊	2B	千葉有子	千葉 北田 佐藤清 高橋芳 田村 矢野貞 中村育 本田 村越 小林安	10	
1207	西沢渓谷	奥秩父	5/19	日帰り	1B	小山三恵	小山 小島徹 田村 大賀 村越 吉川 田嶋 秋山 外崎 高橋芳 矢野貞	11	
1208	雁ヶ腹摺山～櫛ノ木尾根	大菩薩連嶺	5/22	日帰り	2B	千葉有子	千葉 矢野貞 田村 秋山 土田 小島徹 佐藤健	7	
1209	アポイ岳・伊達紋別岳	北海道南部	5/23-26	山麓泊	2B	大平太計夫	大平 小野 外崎 桐生 石塚 小島洋 矢野朝 蟹江 田嶋	9	
1210	丹沢山	丹沢	5/24-25	小屋泊	2B	高橋芳恵	高橋芳 本田 佐藤清 一氏	4	
1211	三ツ峠山～清八山～本社ヶ丸	御坂山塊	5/28-29	テント泊	2B	郷田進	郷田 武内 土田 中村育 小山 小林安 藤家 秋山	8	
1212	光徳～戦場ヶ原・日光男体山	日光	6/3-4	日帰り・山麓泊	1A/2B	高橋芳恵	高橋芳 深草 村越 外崎 北田 森岡 一氏 田嶋 吉川　/（日帰り）大山 箕輪完 小野	12	
1213	三原山	伊豆大島	6/5	日帰り	1A	小島洋子	小島洋 石塚 飯塚 中村弘 飯合(会友)	4	1
1214	天狗角力取山	朝日連峰	6/15-17	山麓泊・避難小屋泊	2B	武内勇二	武内 佐藤清 外崎 田村 矢野貞 本田 石塚 小島洋 小林安 小野 吉川 大賀	12	

No.	山　名	山 域	月日	形 態	グレード	リーダー	参 加 者	会員	一般
1215	下権現堂山・守門岳	越後山脈	6/23-24	山麓泊	2B	北田仁則	北田 森岡 佐藤清 郷田 土田 矢野朝 田嶋 秋山 大賀	9	
1216	高麗山(ゆるゆる山行)	相模丘陵	6/26	日帰り	1A	外崎蓮	外崎 高橋芳 中村八 箕輪完 齊田 石塚 蟹江 飯塚	8	
1217	布沢川大滝沢・浅草岳	上越	7/2-3	山麓泊	2B	小林隆	小林隆 小島徹 外崎 小山 吉川 土田 矢野貞 高橋芳 藤家 細谷 田村 村越 佐藤清 秋山 千葉 大賀	16	
1218	飯豊山～大日岳	飯豊連峰	7/25-29	山麓泊・避難小屋泊	3B	佐藤清宏	佐藤清 土田 中村育 鈴木	4	
1219	白山(御前峰～大汝峰)	白山	7/25-27	小屋泊	2B	小林安代	小林安 小野 森岡 本田 田嶋 大賀	6	
1220	丸山～荒川三山～赤石岳	南アルプス南部	7/27-30	小屋泊	4C	矢野貞子	矢野貞 千葉	2	
1221	横尾山(ゆるゆる山行)	山梨・長野の県境	8/28	日帰り	1A	外崎蓮	外崎 石塚 高橋英 高橋芳 桐生 齊田 箕輪完 蟹江 矢野朝	9	
1222	坂田ヶ池総合公園～房総風土記の丘～房総のむら(ゆるゆる山行)	成田線沿線	9/17	日帰り	1A	高橋芳恵	高橋芳 小林健 外崎 中村八 箕輪完 本田 矢野裕 村越 小林安 小島洋 矢野朝 齊田 小島徹 富井 北田　森岡 田嶋 石塚 藤家 箕輪カ(会友) 飯合(会友) 渡辺清(会友)	19	3
1223	栗駒山	東北(奥羽山脈)	9/25-26	山麓泊	2A	土田義二	土田 外崎 大平 田嶋 村越 小林安 蟹江 矢野朝 吉川　飯合(会友)	9	1
1224	雨飾山	頸城山塊	10/1-2	山麓泊	2B	藤家一仁	藤家 森岡 矢野貞 北田 佐藤清 秋山 土田 小島徹 吉川 佐藤健 佐藤明	11	
1225	縞枯山～茶臼岳～丸山～高見石～白駒池	北八ヶ岳	10/1-2	小屋泊	1A	高橋芳恵	高橋芳 外崎 中村八 新谷 齊田 大賀 中村弘	7	
1226	越後駒ヶ岳・荒沢岳	越後	10/5-7	山麓泊	3B	佐藤清宏	佐藤清 矢野貞 土田 千葉 鈴木 小林安 北角 吉川 田村	9	
1227	黒斑山～蛇骨岳	浅間山	10/8	日帰り	1A	矢野裕子	矢野裕 高橋芳 蟹江 福山智 福山幸	5	
1228	大山	丹沢	10/10	日帰り	1A	一氏照美	一氏 武内 藤家 石塚 飯塚 飯合(会友)	5	1
1229	足尾山～御嶽山～雨巻山～三登谷山	八溝山地	10/15	日帰り	2A	細谷秀次	細谷 白崎 外崎 高橋芳 大平 蟹江 中村育 郷田 小林安 田嶋 小林健	11	
1230	信越トレイル(セクション5,6天水山)	信越	10/15-16	山麓泊	2B	矢野貞子	矢野貞 秋山 田村 本田 矢野裕 小島洋 土田 一氏 吉川 佐藤健 佐藤明	11	
1231	鋸山・浅草岳	越後山脈	10/21-22	山麓泊	2B	北田仁則	北田 秋山 石塚 田嶋 大賀 森岡 土田 小島洋 吉川 佐藤明 藤家 佐藤健 本田 小林安 北角	15	
1232	赤城山(駒ヶ岳～黒檜山)	上毛三山	10/22	日帰り	1A	松下寿男	松下 矢野貞 高橋芳 渡邉 一氏 飯塚 小山 蟹江 村越	9	
1233	妙法ヶ岳～霧藻ヶ峰	奥秩父	10/27	日帰り	1A	新谷直恵	新谷 千葉 高橋芳 外崎 矢野朝	5	
1234	立山(雄山～浄土山)	北アルプス北部	11/17-19	小屋泊	2C	白崎哲史	白崎 細谷	2	
1235	笹尾根	奥多摩	11/26	日帰り	2A	本田愛子	本田 矢野貞 北田 齊田 森岡 外崎 矢野裕 石塚 佐藤健 一氏 小山 大賀 小林健	13	
1236	古賀志山(忘年山行)	前日光	12/4	日帰り	1A/1B	佐藤清宏	A班 小林安 本田 外崎 矢野朝 富井 高橋芳 飯塚 大平 B班 蟹江 郷田 小野 新谷 齊田 小山 石塚 高橋英 林(会友) C班 田嶋 北田 秋山 大畠 一氏 吉川 藤家 福山智 D班 佐藤清 村越 森岡 中村育 大賀 小林健 武内 飯合(会友) 東陵班 細谷 千葉 土田 田村 矢野貞 白崎 小島洋	38	2
1237	御岩山～高鈴山～助川山	阿武隈山地	12/10	日帰り	1A	石塚あさ子	石塚 外崎 高橋芳 小島洋 蟹江 飯塚 吉川 大賀 箕輪カ(会友)	8	1
1238	明神ヶ岳	箱根	12/17	日帰り	2A	土田義二	土田 佐藤清 高橋芳 小林安 小島徹 吉川 小山 佐藤健 佐藤明	9	
1239	木曽駒ヶ岳	中央アルプス	12/25-26	山麓泊	2C	小林隆	小林隆 土田 小林安 鈴木	4	
1240	クリーンハイク(自然保護活動)	柏市手賀の丘周辺	1/8	日帰り	1A	小野泰子	小野 A班 高橋芳 外崎 蟹江 石塚 佐藤明 小山 渡邉香 大平 深草 B班 矢野貞 矢野裕 小林安 千葉 田嶋 郷田 村越 佐藤清 吉川	19	
1241	三浦海岸～城ヶ島(ゆるゆる山行)	三浦半島	1/22	日帰り	1A	高橋芳恵	高橋芳 外崎 齊田 田嶋 小山 大畠 石塚 小野 新谷 矢野裕 矢野貞 大平 大賀 松下 吉川 飯塚 矢野朝 蟹江 本田 北田 森岡 箕輪カ(会友) 飯合(会友)	21	2
1242	第37回房総ロングハイキング(県連主催房総ロングハイク)	東金	1/28	日帰り	1A	小島洋子	小島洋 石塚 田嶋 外崎 高橋英 深草 蟹江	7	
1243	麦草峠～縞枯山・北横岳	北八ヶ岳	2/5-6	小屋泊	3C	藤家一仁	藤家 矢野貞 北田 外崎 本田 石塚 田嶋 秋山 吉川 田村 佐藤清 土田	12	
1244	乳頭山～仙元山(新人卒業山行)	三浦半島	2/11	日帰り	1A	鈴木忠浩	鈴木 小林健 福山智 福山幸 佐藤明 中村弘 大平 大畠	8	
1245	四阿山	菅平	2/11-12	テント泊	3C	細谷秀次	細谷 白崎 千葉 土田	4	
1246	長瀞アルプス 宝登山	秩父	2/18	日帰り	1A	本田愛子	本田 齊田 大畠 中村育 外崎 田村 高橋芳 矢野裕 新谷 石塚 小林安 蟹江 田嶋 小野 一氏 飯塚 秋山 松下 小山 吉川 北角	21	
岳人あぴこ25周年記念山行									
1180	神峰山～高鈴山～助川山	阿武隈山地(日立アルプス)	10/9	日帰り	2A	北田仁則	北田 藤家 石塚 新谷 深草 高橋芳 小林隆 秋山 蟹江 吉川 飯合(会友)	10	1
1181	宝篋山	筑波	10/16	日帰り	1A	高橋芳恵	高橋芳 川村 本田 室崎 蟹江 田嶋 小山 飯塚 渡辺清(会友) 箕輪力(会友) 高橋富(会友)	8	3

No.	山　名	山 域	月日	形 態	グレード	リーダー	参 加 者	会員	一般
1182	八溝山～池ノ平	阿武隈山地	10/16	日帰り	2A	小島徹	小島徹 北田 新谷 中村育 一氏 土田 秋山 吉川　大賀	9	
1183	生瀬富士～月居山	茨城	10/23	日帰り	2B	森岡正和	森岡 深草 高橋芳 石塚 小島徹 細谷 郷田 小林安 矢野裕 秋山 土田 吉川	12	
1184	愛宕山～難台山～吾国山	茨城	10/24	日帰り	2A	藤家一仁	藤家 小野 外崎 佐藤清 蟹江 北角 大賀 成島 一氏	9	
1186	三鈷室山～前室山～妙見山	茨城県北部	10/30	日帰り	2B	大畠清江	大畠 田村 高橋芳 千葉 矢野貞 本田 村越 北田 小林安 小島徹	10	
1188	筑波山	茨城県南部	11/6	日帰り	1A	郷田進	郷田 小山 室崎 室崎育美(ゲスト)	3	1
1189	竪破山～土岳	阿武隈山地	11/6	日帰り	2B	大平太計夫	大平 森岡 本田 外崎 矢野貞 秋山 佐藤清 小島徹 大賀 石塚 中村育 高橋芳 飯塚 吉川 田嶋 川村 新谷 桐生 高橋富(会友) 渡辺清(会友)	18	2
1190	男体山～白木山～高崎山	茨城県	11/10	日帰り	2B	矢野貞子	矢野貞 大畠 千葉 高橋英 田村 大山 本田 中村育 佐藤健 石塚 秋山 大賀	12	
1191	花園山奥の院峰・栄蔵室～花園山・和尚山	北茨城	11/12-13	テント泊	1B	武内勇二	武内 白崎 大平 北田 郷田 細谷 矢野朝 外崎 新谷 小林安 布能	11	
1192	加波山～足尾山～きのこ山	筑波	11/13	日帰り	2A	大畠清江	大畠 田村 矢野貞 本田 中村育 村越 石塚 田嶋 蟹江 松下 深草 一氏 吉川 小島洋 北角 大賀	16	
1193	上山湯沢峡～篭岩山～篭岩	茨城県	11/23	日帰り	1C	矢野貞子	矢野貞 千葉 小林安 田村 佐藤健	5	
1194	仏頂山～高峯	茨城西部	11/27	日帰り	2A	佐藤清宏	佐藤清 高橋芳 新谷 大平 小野 小林安 矢野朝 矢野貞 大賀 北田 石塚 田嶋 秋山 蟹江 飯合(会友)	14	1
1195	御嶽山～雨引山～燕山～加波山	裏筑波連山	12/4	日帰り	2A	本田愛子	本田 高橋芳 大畠 矢野貞 箕輪完 外崎 桐生 村越 石塚 千葉 小野 小林安 田嶋 一氏 小島徹 蟹江 深草 飯塚 箕輪力(会友) 高橋富(会友)	18	2
1196	小町山～朝日展望公園～黒文字平	東筑波	12/11	日帰り	2A	土田義二	1班 土田 本田 大畠 田嶋 秋山 飯塚 大賀 2班 新谷 石塚 桐生 箕輪完 川村 富井 田村 3班 高橋芳 蟹江 小島徹 小山 布能 北角	20	
2022年度 3つの試み	どんぐり散歩1		3/31	日帰り	1A	小野泰子	小野 高橋芳 大畠 箕輪完 千葉 桐生 本田 齊田 新谷 石塚 室崎 大平 小島洋 小林安 蟹江 田嶋 川村 箕輪力(会友)	18	
	どんぐり散歩2		4/28	日帰り	1A	小野泰子	小野 高橋芳 大畠 外崎 千葉 桐生 本田 齊田 新谷 石塚SL 小林安　蟹江　村越 大賀 中村育　渡辺清　高橋重(ゲスト)	16	1
	どんぐり散歩3		5/19	日帰り	1A	小野泰子	小野 中村八 千葉 桐生 本田 齊田 石塚 小林安　蟹江 中村育 室崎 渡辺清 高橋重(ゲスト)	12	1
	どんぐり散歩4		6/20	日帰り	1A	小野泰子	小野 石塚 中村八 千葉 桐生 齊田　小林安 吉川 佐藤明 中村育 外崎 新谷 田嶋 高橋重(ゲスト)	13	1
	どんぐり散歩5		中止						
	どんぐり散歩6		10/6	日帰り	1A	小野泰子	小野 高橋芳 蟹江 齊田 石塚 佐藤明 高橋重(ゲスト)	6	1
	どんぐり散歩7		11/10	日帰り	1A	小野泰子	小野 高橋芳 外崎 千葉 齊田 石塚 小林安 小山 田嶋 蟹江 大賀 中村育 佐藤明 高橋重(ゲスト)	13	1
	山食研究会 1日目		5/31	日帰り	1A	小山三恵	小山 齊田 中村育 郷田 武内 矢野朝 小林安 吉川 秋山	9	
	山食研究会 2日目		6/1	日帰り	1A	小山三恵	小山 北角 高橋芳 外崎 大賀 田嶋 北田 川村	8	
	ゆるゆる山行　第1回		4/19	日帰り	1A	外崎蓮	外崎 大山 箕輪完 齊田 高橋芳	5	

活動の記録

2021(令和 3)年度(第 26 期)

◇会　議

年	月	日	定例集会	日	運営委員会･山行部会議
2021	3	7	湖北台近隣センター	16	Zoom
	4	6	並木会館	20	Zoom
	5	12	Zoom	18	Zoom
	6	2	Zoom	15	Zoom
	7	6	並木会館	20	市民プラザ
	8	3	Zoom	17	Zoom
	9	7	Zoom	14	Zoom
	10	5	並木会館	19	市民プラザ
	11	2	並木会館	16	並木会館
	12	7	並木会館	14	並木会館
2022	1	5	アビスタ	18	市民プラザ
	2	1	並木会館	20	アビスタ

◇行　事

年	月	日	行　事	場　所	備考
2021	3	7	総会	湖北台近隣センター	
	6		「やまなみ第 18 号」発行		
	10 月～12 月		25 周年記念山行	茨城の山	
2022	1	10	25 周年記念祝賀会	市民プラザ	
	2	1	25 周年記念カレンダー配布		

◇教 育 研 修

月	机上研修	実技研修	
		山名	研修内容
3	新人の自己紹介、オリエンテーション	棚横手山	地図読み
4	事故事例から学ぶ山の安全対策(リモート)	宝篋山～小町山～千代田アルプス	長い距離を疲れないで歩く
		裏筑波	筑波山を知る
7	登山時にバテないために	焼石岳	日本二百名山に登る。花の山を楽しむ
8		蝶ヶ岳	テント泊、自炊の実践(個人山行に変更)
9	緊急時の対応（法的対応）	八甲田山・岩木山	錦秋の東北の山に登る（個人山行に変更)
11	コロナ対策について		

12	「 10 Tips for enjoying photography」-写真を楽しむための 10 のヒント	源氏山	大仏ハイキングコースを歩く
1	植物を楽しむ 3「植物の色素アントシアニン」		
2		新人卒業山行 高麗山	新人による山行計画と山行の実施（3月に実施）

2022(令和4)年度(第 27 期)

◇会　議

年	月	日	定例集会	日	運営委員会･山行部会議
2022	3	6	湖北台近隣センター	15	市民プラザ
	4	5	並木会館	19	市民プラザ
	5	10	並木会館	17	市民プラザ
	6	7	並木会館	21	市民プラザ
	7	5	並木会館	19	市民プラザ
	8	2	並木会館	16	Zoom
	9	6	並木会館	20	市民プラザ
	10	4	並木会館	18	市民プラザ
	11	1	並木会館	15	市民プラザ
	12	6	並木会館	20	市民プラザ
2023	1	10	並木会館	17	市民プラザ
	2	7	並木会館	19	市民プラザ

◇行　事

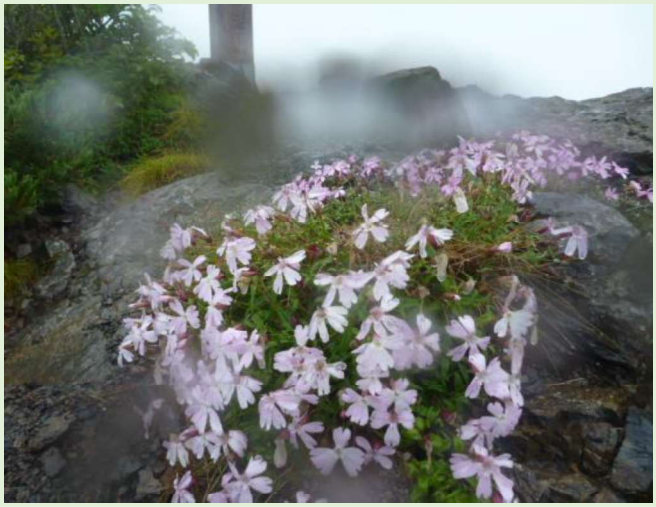
年	月	日	行　事	場　所	備考
2022	3	6	総会	湖北台近隣センター	
	4	3	新人歓迎山行	桜山	
	12	4	忘年山行	古賀志山	
2023	1	8	クリーンハイク	手賀の丘公園周辺	
	1	28	第 37 回房総ロングハイク	首都圏自然道　千葉県 8	県連主催

◇教 育 研 修

月	机上研修	実技研修	
		山名	研修内容
3	新人の自己紹介、オリエンテーション		
4	山に向けて地形図を知る	桜山	仲間の一員として歓迎 地図を持って
5	登山への備えー事前準備から道具選択	三ツ峠~本社ヶ丸	テント設営、撤収、合同調理等テント山行スキルの向上
		山食研究会	山で作る食事を考え工夫を話し合う

6	応急手当（5 グループに分かれて）	光徳、戦場ヶ原・ 日光男体山	日光の花・自然博物館の見学
7	百名山って何?	飯豊山	参加者と情報共有して計画書づくり
9	DVD から学ぶ(県連主催 2021 事故防止経験交流集会 参加報告)		
10	登山における注意義務とは?	雨飾山	安全登山の為の体作り
11	仲間たちと歩いた海外の山-アンデス編	笹尾根	山行中の時間配分と休憩の取り方
12	元消防士さん 山小屋でのエピソード	宝剣岳・木曽駒ケ岳	雪山登山
1	山筋ゴーゴー体操		
2	一年を振り返って(グループ討議)	北八ヶ岳	雪の八ヶ岳を歩く
		乳頭山~仙元山	新人による山行計画と山行の実施
2022 年 3 月～11 月		手賀の丘公園	自然保護活動 どんぐり散歩 1~7（5 は雨天中止）

25 周年応募写真より



「小雨の頂に咲くタカネビランジ
（南アルプス兎岳）」
大平 太計夫さん

編集後記

白黒写真では自然の美しさを伝えることは難しい。やまなみをカラーでお届けできないもどかしさは編集する際の悩みの種だった。ところが今回、千葉編集長がカラー印刷にするという。感動し、夢はかなうこともあるのだと思った。やまなみは読むだけでなく見ても魅力のある冊子になり、開く楽しみが膨らむだろうと思う。　　中村育子

ほんの少しのお手伝いでしたが、文章を丁寧に読ませていただき一緒に山行に行ったかのような気分になりました。いつの間にか入会して 15 年も経ち、その時々たくさん山行参加できた時とままならない年とありました。だけど、常にこんなに味わい深い記録があり、全員がパソコンに向かって役割を果たし、苦手なことも教わりながらこうして一冊のやまなみができ上がっていく。編集長、皆様、ありがとうございました。　　矢野裕子

新型コロナウイルスの影響で、今まで、振り向くことがあまりなかった低山に山行を計画し、登山道などの資料も少ないながらも調べ上げ、安全に山行を実行されたことは、「岳人あびこ」が永遠のパイオニアが集う会であると認識せざるを得ません。
「やまなみ」を読んでいただいた皆様が、年齢や体力を問わず、山行に参加できる多くの選択肢が実践されていることを感じていただければと思います。私は、「やまなみ」は世代を超えた「岳人あびこ」の宝箱だと思います。　　富井　容

前回の 18 集に引き続きやまなみ担当となった。多くの方の原稿を読ませてもらっているが、山行の感動が伝わってくる。山は人を元気に若々しくする。今回の 19 集はカラー印刷となり、色彩に富む山容や若々しい会員の姿をより鮮明に伝えられたのではないか。論語をもじって「校正畏るべし」と言われる。入念にチェックしたつもりだが、校正ミスはあるだろう。今年度やまなみ編集長を仰せつかったが、今から頭が痛い。　　矢野朝水

印刷所、紙質を前号までを踏襲せず変更しました。今までの「やまなみ」の重厚さになじまれていた方は不満を感じられたかもしれません。編集を担当して感じたこと。「この膨大な作業を、次期以降の担当者が続けていくのは、趣味の会としてあるべきことなのか……？」さらなる簡素化、合理化をみんなで考えていきましょう。　　千葉有子

千葉県勤労者山岳連盟　岳人あびこ
山行文集　やまなみ第 19 号
発行日　令和 5 年 6 月 11 日
発行者　岳人あびこ会長　村越 百々代
編集者　会報部　やまなみ編集係
中村 育子　矢野 朝水　矢野 裕子　富井 容　千葉 有子
印刷所　株式会社グラフィック
会員限り　非売品　©2023gakujin-abiko
岳人あびこ　ホームページ　gakujin-abiko.com